

教養・文化論集

第7巻 第1号 (通巻第12号)

講演

3D映像の将来について	岡田裕介
映画と地域振興	岡田裕介
東日本大震災と政治のあり方	橋本五郎
今こそ相撲史を	内館牧子
エッセーの書き方 ノースアジア大学文学賞に応募しよう	内館牧子
これならわかる「源氏物語」	内館牧子
危機の中の日本	福岡政行
どうなる日本の政治 そして東北の復興	福岡政行
野田新政権の方向性と可能性 超円高時代と日本の空洞化	福岡政行

論文

近世初期三教思想の一資料『勸善書』に関して(2)	花田富二夫
イメージトレーニングの基本的実施方法に関する研究	伊藤護朗
夏目漱石『硝子戸の中』を読む 死生観を視座として	橋元志保
湖沼の干拓によって成立した水田の植生保全上の意義：茨城県潮来市の例	村中孝司
大学における法学教育から法教育への示唆	中里真
除雪ボランティアを通じた互助・共助コミュニティの構築に関する研究(その3) ～地方紙に掲載された除雪ボランティア活動者、利用者等の感想の分析～	高橋和幸

研究ノート

第二次世界大戦後の東西ドイツ鉄鋼業(2)	白川欽哉
秋田の冬の気候特性	力石國男

2012年3月

ノースアジア大学総合研究センター教養・文化研究所

目 次

講 演

- 3D映像の将来について 岡田裕介 (1)
- 映画と地域振興 岡田裕介 (9)
- 東日本大震災と政治のあり方 橋本五郎 (19)
- 今こそ相撲史を 内館牧子 (37)
- エッセーの書き方
ノースアジア大学文学賞に応募しよう 内館牧子 (53)
- これならわかる「源氏物語」 内館牧子 (75)
- 危機の中の日本 福岡政行 (89)
- どうなる日本の政治 そして東北の復興 福岡政行 (101)
- 野田新政権の方向性と可能性
超円高時代と日本の空洞化 福岡政行 (111)

論 文

- 近世初期三教思想の一資料『勸善書』に関して (2) 花田富二夫 (123)
- イメージトレーニングの基本的実施方法に関する研究 伊藤護朗 (135)
- 夏目漱石『硝子戸の中』を読む
死生観を視座として 橋元志保 (145)
- 湖沼の干拓によって成立した水田の植生保全上の意義：茨城県潮来市の例 村中孝司 (159)
- 大学における法学教育から法教育への示唆 中里真 (173)
- 除雪ボランティアを通じた互助・共助コミュニティの構築に関する研究 (その3)
～ 地方紙に掲載された除雪ボランティア活動者、利用者等の感想の分析～ 高橋和幸 (183)

研究ノート

- 第二次世界大戦後の東西ドイツ鉄鋼業 (2) 白川欽哉 (195)
- 秋田の冬の気候特性 力石國男 (207)

[講演]

ノースアジア大学 総合研究センター主催 講演会

「3D映像の将来について」

講 師	東映株式会社代表取締役社長 ノースアジア大学教育諮問会議委員 本学総合研究センター客員教授	岡 田 裕 介
司 会	ノースアジア大学教養・文化研究所長 本学教養部准教授	橋 元 志 保
日 時	平成22年3月4日 午後1時00分～ (午後2時30分～4時30分まで 映画上映会)	
会 場	秋田市文化会館	

橋 元 本日は、岡田裕介氏のご講演会及び東映映画『手塚治虫のブッダ 赤い砂漠よ！美しく』の先行上映会にお越しいただきまして、誠にありがとうございます。

ノースアジア大学総合研究センター主催の公開講座《シテカレッジ》は、皆様のおかげを持ちまして、もうすぐ6周年を迎えます。開講当初の、平成17年6月に開催されました、東映映画『北の零年』の上映会より、毎年、東映株式会社代表取締役社長、岡田裕介氏をお招きしてのご講演会及び映画上映会を開催させていただいております。

『手塚治虫のブッダ 赤い砂漠よ！美しく』は、今回初めての上映となりますアニメーション映画ですが、美しい映像と深いテーマ性、そして登場人物たちのリアリティあふれる生と死の物語は、必ずや皆様の心を打つことでしょう。

どんな人間の生にも必ず訪れる四苦、「生病老死」を克服するための道を探して、シャカ国の王子シッダールタは、出家したと云われております。しかし、原作者の手塚治虫が述べていますように、この映画のテーマは、「シッダールタの有り難さとか、シッダールタの教えではなく、人間そのもの」であり、なぜあの時代に仏教が生まれたのか、人はなぜ仏教を、救いを求めて生きてきたのか、ということなのです。

日本が誇るアニメーション技術の粋と、手塚治虫の永遠のテーマである「いのちの尊さ」が貫かれた素晴らしい映画を、岡田裕介氏のご解説と共にご送りいたします。どうぞ最後まで、ごゆっくりお楽しみください。

それでは、東映株式会社代表取締役社長、本学総合研究センター客員教授の、岡田裕介先生にご登場いただきます。ご講演のテーマは、「3D映像の将来について」です。岡田先生、どうぞよろしく願いいたします。

岡 田 ただいまご紹介に預かりました、東映の岡田裕介でございます。今回、この映画の上映は、一般の人に向けては初めてです。世界で初めて皆様ご覧になります。見ていただいて、ご協力賜れば、たいへん嬉しく思っております。

私は、今回で講演会が6回目になり、あまり講演するネタがございませんので、今日は、皆様から予めいただいた御質問にお答えするという形で、お話ししたいと思います。今回、なぜこの『手塚治虫のブッダ 赤い砂漠よ！美しく』を、秋田まで持ってきたかといいますと、私が発案し、製作総指揮となり、実際に映画を製作したからであります。

話は変わりますが、明後日から公開されます、『わさお』という青森にいる秋田犬の映画も、東映株式会社で製作しております。『わさお』を連れてこようかと思いましたが、犬が来ても「ワンワン」としか言えませんし、『わさお』を連れてあちこちとキャンペーンをしていたら、『わさお』が体調を崩しまして、代行という形で私がやらせていただいております。

それでは、予めいただいたご質問に答えながら、進めていきたいと思っております。最初の質問は「SMAPの木村拓也さんは今、どうしているのでしょうか」という内容です。あまりこういう質問は、大学の講義には相応しくありませんが、お答えします。彼は今、網走の方で南極物語の撮影をしております。なぜ知っているのかといいますと、奥さんと今、接触があるからです。変な意味じゃありませんよ。後々工藤静香さんのお話は触れたいと思っております。

こういう質問ではなく、良い質問を読ませていただきたいと思います。「3Dの今後の発展はどうなるのでしょうか」。今日、ここにいらっしゃる方たちを見ますと、大変ご高齢の方々が多いように思いますので、3Dとは一体何だろうという話になると思います。「飛び出す映画」

でございます、この1年あたりに、映画界で非常に流行りだしております。皆さんの中には、昔お祭りにありました「覗きカラクリ」という玩具をご存知の方もいらっしゃると思います。その玩具を覗くと、赤と青の立体の空間がありまして、3Dとはこれが進化したものと考えればいいのです。3D映画は、眼鏡の上に特殊な眼鏡をかけるので、大変目が疲れる映画ではあるのですが、奥行きを感じられるということもありまして、今、非常に流行っている映画でございます。

この3Dを生かす方法は、サッカーで言いますと、普段どおり横に広がっている絵ではだめで、縦にしないと効果はないです。このために、3Dの映画を前面に押し出した映画は、谷底等をよく映します。谷の上やビルの上から、見下ろした映像です。そうすると、怖いのです。しかし、効果を出すために、物語が必ず谷底等へ追い込んでいくのがわかって、私たちはあまり面白くなってきています。今日、見ていただく映画は3Dではありません。2Dといわれる、今までの技法です。日本のアニメーションには、実は2Dの中にも3Dの効果がずっとありました。日本のアニメーションが、たぶん世界で一番優れているといわれる理由の一つだと思います。

それはなぜかといいますと、アニメーターというアニメを描く人たちが、遠近法を使えるからです。今日も見ていただければ、ベタツとした2Dの絵ではなくて、山や野原等がちゃんと3Dになっているのがわかると思います。日本の場合には、早くからこの技法が使われておりました。アニメーションというのは、全てが東映から始まっています。昭和23年頃に日本動画株式会社というアニメーション会社を設立しまして、漫画の世界を切り開いていきました。宮崎駿先生をはじめ、今活躍されているアニメーターは、ほとんど東映の出身であります。だから手法は、一緒なのです。今日もおそらく、宮崎アニメと絵が似ていますねと言われますが、実際には宮崎さんが東映から持っていった技術なのです。元祖は東映だったのです。そうやって色々な所で、アニメーターがアニメーションを作っているのですが、この技術は日本にしかありません。本当に素晴らしい技術です。私はこういう技術で、世界を目指していきたいと思っております。

3Dというのは去年頃から、アメリカでも盛んになってきております。なぜ3Dが盛んになったのかといいますと、3Dが良いからだけではないのです。日本ではありえないことですが、アメリカでは今、劇場内で映像を盗撮し、すぐ売買したりアップロードしたりする行為が横行しておりまして、非常に製作者たちを苦しめております。そういう中で、日本は全く盗撮等をする人がいない大変良い国です。実は日本だけ盗撮防止法案という法律があります。映画の開始前に、必ず予告で説明しております。映画を撮影しますと、10年以下の懲役か1,000万円以下の罰金、および刑法に触れますという内容です。予告で説明している、そのおかげもありまして、そういう人が全くいないので、私たちは救われております。

3D映画で特殊眼鏡を外して見ますと、二重になって見えます。普通に見ると全然見えないのです。ですから盗撮できないのです。常にボケてしまうから。そのために、3Dというものが盗撮の防止になるということで、アメリカでは一気に広まっているわけなのです。本当は3Dより2Dの絵のほうが見やすいのです。ですから今日はゆっくり、アニメーションの遠近法を使った映像を見ていただきたいと思います

では、今回なぜ、このアニメーションをやるようになったかといいますと、2001年、バーミヤン遺跡という文化遺産がタリバンの人たちに破壊されて、巨大石仏が見も蓋もない姿になっ

てしまいました。何処かで、戦争が起きるのかなと私は思いました。そのような事をされて、怒らないはずがないと思いましたが、何も起こりませんでした。キリスト教とイスラム教が激しく争っているというのに、なぜ仏教だと、全然争いが起こらないのかと、疑問に思い始めました。

それまで、私は全く、仏教をよくわからない人間だったのですが、この時に初めて仏教というものに大変興味を持ちまして、そこから色々調べました。仏教の直接的な話とは違うのですが、最初に興味を持った内容は、ラピスラズリという石です。青い宝石であり、お金持ちの方たちの中には持っていらっしゃる方が多いと思います。この石は柔らかいので、昔の人は潰して絵を書く時の青色にしました。敦煌や楼蘭は、全て砂の中に埋まりましたけれど、青色は絵の中に残っています。絵には赤や黄色、緑等の色はありません。青色だけが、その絵の中で残っています。お釈迦さんの絵も、青色だけが残っているのです。なぜなら、ラピスラズリという石を使って塗っていたからです。石ですから、色は落ちないわけです。ですから2千年近くたっても、青色だけは永遠に残っており、凄く綺麗な絵画として残っているのです。

その絵画を見ながら、これでお話の一つできないかなと考えたので、そこで修行されたお坊さんたちの話に色々聞いてみたのですが、最後に行き着いたのは、やっぱり手塚先生の書かれた『ブッダ』でした。私は、宗教映画を作りたいのではないです。仏陀という素晴らしい人間を、手塚先生が生前に、10年以上かけて物凄く調べてお書きになられており、すばらしい構成になっております。そのため、それに逆って作るより、天才の才能にそのまま従うほうが良いと思ひまして、手塚先生の原作をいただいて、そのまま製作したのが今日の作品でございます。

この映画は、パーミヤンの事から発生した仏教というものを、世界の人々にも知ってもらいたいし、先ほども言いましたように、私は仏教の信者ではございませんが、少しは日本人として仏教に親しんでいきたいと考えて、製作しております。多くの人々が、仏教は死んだ時に葬式等で関わるだけで、普段は忘れているでしょう。私は、この機会に、世の中のために何か行動したいと思ひました。4月8日がお釈迦さんの誕生の日で、花祭等を各地で行っておりますが、小さなお祭りです。クリスマスというより凄いです。あれはキリストが誕生した日です。お釈迦さんはみんなに無視されている。別に、釈迦を信じてほしいと言うわけではないけれど、日本にいてこんなに差がなくてもいいのではと思ひました。そこで4月8日に、ロータスデーという名をつけたいと思ひます。ロータスというのは蓮という意味です。汚い池の底から、本当に綺麗な華を咲かせる蓮のイメージが、お釈迦さんと結びついたと思うのですが、それを象徴する事として、今後4月8日を盛り上げていこうという企画を、色々な企業の人にお話しております。今度、東京タワーを蓮のイメージ、お釈迦さんのイメージに変えてもらって、皆でキャンペーンをしていきます。見た人は、何のキャンペーンかなと思われるかもしれません。

似たような事で、5年ほど前から周知されているものとして、恵方巻きのキャンペーンがありました。節分の日には、海苔巻きを恵方（その年によいと定められた方角）に向かって食べるのです。誰がこのような事を言い出して、誰が作ったのかわかりません。思うに、セブンイレブンさんとローソンさんの思惑の中で行い、今日に広まっているのでしょう。元々はそこに理由がないのです。キャンペーンをやっていくなれば、4月8日は、お釈迦さんの日だよと、言ってくれたらいい。そういうものは、すごく大事だと思ひます。

数日前は、バレンタインデーですので、女の人が男の人に、チョコレート等を渡した人が何人がいらっしゃると思ひます。これはアメリカ、ヨーロッパでは全くそのような風習はござい

ません。日本の、とあるチョコレートメーカーが仕掛けて、10年位経過しまして定着したものです。そのお返しとして、ホワイトデーという行事も3月14日にあります。チョコレート屋さんが仕掛けたこれも、何にも理由がないことです。こういう中で、人間は別にそれが悪い事ではなく、一つの風習としてそういうものを上手に利用して、人間関係を築いてきたと思います。このロータスデーというものも、同じように色々な形で盛り上げていきたいと思います。例えば、伊藤園さんが「ロータス」といったお茶を出してくれます。お茶くらいは飲んでいただいて結構ですから、一年目を祝っていただきたいです。そういうことを繰り返していきながら、皆さんが色々な所で色々な事を考えて、4月8日は、「今日はお釈迦さんの誕生日の日」ということくらいは、思っていたきたいのです。

仏教といいましても、色々な宗派に分かれております。でも、お釈迦さんについては宗教ではないのです。今回、キリスト教等色々なことを勉強しました。これだけ自然を愛し、戦うことを嫌った生き方ができたらいいなと思いました。シッダールタがどういう人生を歩まれたかは、今日見ていただくとわかると思いますが、今回は、仏陀になる相当前までの話で終わっております。これは今後続編を製作すると、今は言えないです。なぜかといいますと、この映画は製作に大変お金がかかっているのです、第一部が評価されないと第二部は作れないのです。なんとかシッダールタを仏陀にしてあげたいと思っています。少しでも見ていただいて、皆さんに広めていただいて、本当の仏陀になるところを作っていきたいと思っています。多分、順調に製作していきますと、第三部で終わる話だと思っています。今回は第一部でございまして、ご好評いただければと思っています。

話は戻りまして、ロータスデーに合わせて、他にも色々な事を行っております。今回のアニメーションで、若き日のお釈迦さんの顔が出てきます。本当にこんな顔をしていたのだろうか、どういう顔をしていたのだろうか、私たちは凄く悩みました。最初は実写を考えましたが、それは日本人でやるものなのか、インド人でやるものなのか、アジア系の人だということしかわからなかったのです。そこでアニメーションにしましたが、アニメーションの良さは無国籍なところなんです。アニメーションの顔には国籍が無いのです。ですから、非常に助かっていますが、全てにおいてアニメーションが優れているのではないです。やっぱり、人の表情等、色々見ますと、普通の俳優さんが演じるほうがいいのかと思うこともあります。アニメーションと実写は、一長一短だと思っています。では、お釈迦さんの顔は、どういうものかなということに関して、今回私の友人であり、我が業界の大変な画家でいらっしゃる、石坂浩二、片岡鶴太郎、工藤静香、八代亜紀という4人に、仏陀の素顔の絵というものを描く依頼をして、今制作していただいています。3月末には出来まして、東京タワーで発表をしたいと思います。そして、全国を回りたいと思いますので、どこかでお目に触れれば、ぜひ見てください。

それぞれが描いたお釈迦さんの顔の中に、大変良いのがあれば、次の第二部で使用していきたいと思っています。顔を創るのはなかなか難しいのです。そこが、今後の大きなテーマでもあります。

次の質問に移りますが、その前に上野の東京国立博物館で、4月末から5月のゴールデンウィークの間に、「手塚治虫のブッダ展」という展覧会が開かれます。これは、権威と歴史ある東京国立博物館で、初めてアニメーションが展示されるという、大変意義のあることだと思っています。アニメーションは、昔でいうと漫画です。昔は社会に認められなかったのですが、手塚先生は大変な功績を残されたので、今回博物館での展示を認められたと思っています。

それでは、次の質問に移ります。「最近、中国桂林に行かれたそうですが、岡田さんは、どうして行かれたんですか」よくご存知ですね。この間、中国の南のほうにある桂林という所に行ってきましたが、水墨画で有名な凄く尖った山があります。ここへ何のために行ったのかといいますが、川を塞ぎ止めて行く、大変なショーがありまして、尖った山を物凄い色に描いて、大パノラマを築くという、張芸謀（チャン・イーモウ）監督がオリンピックで演出した、「印象・劉三姐」のショーを見に行ってきたのです。

これは本当に凄いです。漓江という大きな川を埋め尽くし、何百という筏が動くショーなのです。そこに行くまでが大変で、車で2時間以上かかる山奥で行われています。着くまでは、こんな山奥に人が集まるのだろうかと不安になりました。道中一人もいないのです。しかし、会場へ着きますと、物凄い人々が集まっております、どうしてこんなにいるのか、中国という所は本当に果てしないところだなと思いました。住民がほとんどいないところに6千人もの人々がいて、本当に満杯でした。それに驚かされたばかりではなく、そのショーのスケールの大きさも凄かったです。

その帰りに、近くの村で最高のご飯だと食事を出され、「日本から来たのなら、ぜひ食べてください」と言われました。何かちょっと変な味ばかりするのです。肉が出てきました。その肉が何かかなと思って周りの友人に食べさせると、食べたことがない肉で、何か小骨があるようです。小骨があるから、「じゃあ、鳥か！」と言うと店員は「鳥の肉じゃない」と言うんです。「じゃあ、いったい何か」と、聞いたら怪しいんです。コックを呼びまして「これは、いったい何の肉ですか」と言ったら、「これは、日本の人は聞かないほうがいいのか、食べて美味しいと思ってくれるだけでいい」と答えました。ますます怪しいなと思って悩んだ末に、私は食べずにもう一回聞きました。「この肉は何ですか」と。コックは「普通は教えませんが、特別に教えましょう。鼠の肉です」。私はビックリして「こんなの、食べるという方がおかしいんじゃないか、こんなの食べたくない。犬、猫が食べているのを嫌ですよ。それ以上に、人が鼠を食べるのは嫌です」と話したら、コックは「この村では犬、猫はもう10年以上見たことない」と言うんです。皆食べてしまうようです。飼い主が少し置いておくと、皆持っていかれて食べられてしまうのです。なんだか殺人村に来たみたいなきもちになりました。また、その場所には鳥がいないです。なぜかという地面に鳥の餌がないのです。野生もそうです。皆食べてしまっています。こういう国と戦争はしちゃいけません。中国の人たちというのは、やっぱり生きる力というのが全然違います。

次の質問に移ります。「この間、相撲の琴欧州さんと会われて食事をしたようですが、どうでしたか」。よくご存知ですね。先場所は、琴欧州さんが大変活躍し、最後まで優勝争いをしていました。そんな琴欧州さんとたまたま会う機会がありまして、色々話をしながら食事をしていました。相撲の話は後で話すことにしますが、琴欧州さんに食事の場で「あなたの場合には、左の押しが弱いから、もっと下から押さなきゃ駄目だよ、腰を入れなきゃ駄目だよ」と、熱心に講義をしたら、彼は良い性格の男なので「はい、こうですか」と真似をしてくれたのです。これで、今場所は優勝するぞと思っておりまして、次の日から連敗に次ぐ連敗でした。私に習ったことが疫病神のように、連敗を繰り返して駄目でした。何が言いたいのかといいますが、お相撲さんを皆さんも少しは応援してください、ということです。八百長は仕方ないと思います。彼らは、100人なら100人の一座を組んで歩いている、旅の一座なのです。本当に真剣に試合をしたら、仲良くなどできないです。毎日毎日一緒にいて仲が悪いわけない

です。彼らの凄いところは、沢山食べることです。私達が考えられないくらい食べます。つまり、エネルギーがあるのです。このような人間は他にいないのですから、お金のことは少々目を瞑り、応援してください。

会食の話に戻りまして、その時、琴欧州さんが食べた肉については言いませんが、お肉だけで15人前以上食べております。私はカードを持っていたからよかったです、現金のみだと払えない金額です。とにかく異常なほど食べます。あれだけ食べるのだから食費が困るのです。だから色々稼がせてあげなければいけないし、やはり伝統文化を守るためにも、あまり堅いことを言わないで、今は相撲界を見守ってあげていただきたいと思っております。

次の質問は、「日本の今後はどうでしょうか」という内容ですが、日本の経済をよくよく考えますと、人口が増えていかない状況なので、経済が成長していくというのは、やっぱりありえないわけです。成長しなければいけない、成長しなければいけないと言いますが、別に成長しなくてもいいのです。今のままでいいのではないのでしょうか。アフリカ等のことを考えたら、我々は本当に幸せです。ここで、このまま死ぬわけではないですから。世界各地では、多くの内戦が起こって、敵味方がよくわからない戦争が起こっております。何のために戦争をしているのかも、よくわからないのです。日本というのは、中国へ行っている時に感じましたけども、やはり平和です。まず平和であることを感じていくことが必要で、無理に成長していこうと考えなくてもいいと思います。

今度、テレビがアナログからデジタルになります。しかし、それほどアナログのテレビに困っていたのではないです。デジタルのテレビで見ると、綺麗になったなと思いますが、別段それほど人々の要求が凄かったわけではないのです。

中国と比較しますと、まだまだテレビが日本のように良い状態ではないですし、冷蔵庫がある家も多いわけではない。その点、皆さんの中で冷蔵庫が無い家はないと思います。そういう我々の、ある種どこか、最低限の生活は出来ていると認識しながら、今後やっていけば、あまり「成長、成長」と言わなくてもいいと思うのです。

ちょっと面白い話があるのですが、今、世界のトップレベルといわれているボストン大学のニュースによると、とうとう今年のボストン大学では日本人の入学者、在校生は0人になりました。今までは何がなんでも外国語と考え、アメリカへ行って留学したいという人がおりました。現在、韓国人が40人ボストン大学に在籍しています。比較して、中国人はだいたい何人いると思いますか。だいたい4千人。もう中国人だらけになっています。日本人がとうとう0人。つまり、これだけ日本人の出て行く力というものは弱まっているのです。経済もそういう具合に実は弱まっているのです。弱っているけれども、それで今、物凄く困窮しているのかというと、そうでもないのです。

日本語も、新しくなったのと同時によくわからなくなってきました。講演前、話題にしておりましたが、入学試験をカンニングした山形の学生がいました。そんな事を単独ではなかなか出来ないから、協力者が外にいて全部やったのだと考える人がいるようです。でも、それはご高齢者の考える事で、今の若い人たちというのは平気です。だから私は単独犯だと考えます。色々な技術を持っているのでスピードが早いです。若者文化が今までと変わっているのです。そういう状況の中で、皆さんはあまり若者の事は考えない、若者は若者でやっていくと思います。今回のカンニングについても、今度はもっと精密なものも現れます。あんなに簡単な事でカンニングができるのはどうなの、カンニング発見がよかったのかどうかという是非論はさて

置き、そのような事を、考える事は凄いとします。映画においてもあのような事を考えないといけませんけども、現在は映画のほうが見劣りしています。

昔は、黒澤明さんが『天国と地獄』という映画で考えたことを真似て、現実に犯罪が起きたり、いろんな事があったのです。映画をモデルにして行われていたのです。今は逆です。実際にあることを、映画は後から追いかけている。このような状況では、映画の発展はないかもしれないと思っています。

おかげさまで去年の日本映画と、外国映画を合わせまして、売上高が歴代第一位を記録させていただきました。最高記録です。世の中が悪いせいなのか、映画鑑賞されるお客さんの数は、圧倒的にナンバーワンです。多くの大ヒット作がありました。皆さんは聞いたことがあると思うのですが「アバター」という映画です。洋画でも凄くいい映画が沢山ありました。そのために歴代第一位になったのでありますが、今年もそういうのが続くのでしょうか。

歴代第一位になりました理由の一つは、皆さんの中で「たまには映画でも見てみよう、安らぐ映画ならばいいじゃない」という、余暇として映画を考えていただけの今日になったせいだと思います。私たちは、東映のみならず、東宝さん、松竹さんをはじめとする日本映画として、現実を先取りする映画を作り、皆さんに満足できる映画を見ていただきたいと思っています。最近、よくわからない自殺や人殺しをする人が多くいます。どこかに論理が欲しいと思いますが、全く論理が無いです。まず論理が無いので、映画にならない人が多いので困っております。でも、世相を含めて現すのと、世相から離脱して見ていただく映画がございます。

この映画はアニメーションですが、声優に吉永小百合さんをはじめ、皆さんご存知のとおり堺雅人さん、それから吉岡秀隆さん、大物の観世先生にも声を入れていただいております。今回は、本職の声優さんを採用していないので少し違います。途中からだんだんと実写を見ているような雰囲気になっていただけの狙いとした映画なので、少しはそうのように感じていただければいいなと思います。

最後の主題歌は、ロックの大御所であるXジャパンの新曲「Scarlet Love Song」を採用しております。この曲をどこで初めて弾いてもらうか、まだわかりません。録音というのは少しずつやりますので、まだ最後まで歌えるかどうかわかっていないのです。そこを何とかお願いして、今やって下さいとお願いしている状況です。彼らたちも凄く乗り気になってくれていますので、3月6日に演奏してくれるかもしれないと、期待して待っている状況です。このような映画なので、まだ出来たてのほやほやですが、見ていただいてご好評願えれば、大変ありがたいと思います。

どうも長い間、ご清聴ありがとうございました。(拍手)

橋 元 世界的な視野を持つ岡田裕介先生に、大変豊富なご経験から、映画にまつわる貴重なエピソードをお話しいただきました。

それでは、約15分のご休憩の後、いよいよ『手塚治虫のブッダ 赤い砂漠よ！美しく』の上映となります。どうぞ最後まで、ごゆっくりお楽しみください。

[講演]

ノースアジア大学 総合研究センター主催 講演会

「映画と地域振興」

講 師	東映株式会社代表取締役社長 ノースアジア大学教育諮問会議委員 本学総合研究センター客員教授	岡 田 裕 介
司 会	ノースアジア大学教養・文化研究所長 本学教養部准教授	橋 元 志 保
日 時	平成23年2月1日 午後1時00分～ (午後2時15分～4時30分まで 映画上映会)	
会 場	秋田市文化会館	

橋 元 本日は、岡田裕介氏のご講演会及び東映映画『はやぶさ 遙かなる帰還』の先行上映会にお越しいただきまして、誠にありがとうございます。

ノースアジア大学総合研究センター主催の公開講座《シティカレッジ》は、皆様のおかげを持ちまして、もうすぐ7周年を迎えます。2005年の開講当初より、本学総合研究センター客員教授にご就任いただきました、岡田裕介氏のご好意により、『北の零年』、『バルトの楽園』、『俺は、君のためにこそ死ににいく』、『まぼろしの邪馬台国』、『劔岳 点の記』などの素晴らしい映画を、毎年ここ秋田で、全国に先駆けて上映させていただきました。その中でも、今年上映させていただきます『はやぶさ 遙かなる帰還』は、日本の映画史にその名を残す傑作との呼び声も高い、大変素晴らしい映画です。

人類初の宇宙計画であるサンプルリターン。小惑星「イトカワ」への7年間、60億キロにも及ぶ壮大な旅。2010年6月13日、小惑星探査機「はやぶさ」は岩石サンプルの入ったカプセルを地球へと届け、自らは大気圏の中で燃え尽きて行きます。

アメリカのNASAにさえ先駆けた、この日本のJAXA、宇宙航空研究開発機構による偉業を、文字通り最高のキャスト、スタッフ、そして音楽による映画化がなされました。

主演およびプロジェクトマネージャーを務めた渡辺謙は次のように述べています。

「この映画は人間が困難にどう向き合い、打ち勝ち、前進していくかを描いた作品です。『はやぶさ』に関わった全ての人々の思いが一つになったとき、『はやぶさ』が地球に持ち帰った微量の砂粒は、未来に繋がる希望の光になったのだと思います」

勇気と責任をもって困難に挑むこと、決して諦めないこと、そして自分達の力を信じて前進すること。今を生きる、全ての日本人に対しての力強いメッセージに満ちた映画を、岡田裕介氏のご解説と共にお送りいたします。

それでは、東映株式会社代表取締役社長、本学総合研究センター客員教授の、岡田裕介先生にご登場いただきます。ご講演のテーマは、「映画と地域振興」についてです。岡田先生、どうぞよろしく願いいたします。

岡 田 ただいまご紹介いただきました、岡田裕介でございます。昨日、こちらに来ましたら大雪でした。このような大雪の中、大勢のお客様に今から『はやぶさ 遙かなる帰還』を見ていただけるので、大変に嬉しく思っております。この『はやぶさ 遙かなる帰還』という映画につきましては、また後程色々話させていただきますが、今日、今知ったのは地域振興について話さなければいけないということ。実は今はじめて聞きまして、そういう題名だったかなと驚いているんですけども。

急遽、思いついた地域振興について、ちょっとお話しして、色んな漫談、雑談に移りたいと思います。昨日で冬の部分を撮り終わったんですが、『北のカナリアたち』という吉永小百合さん主演の映画があります。来年秋に公開予定の、東映の60周年記念作品です。実はこの『はやぶさ 遙かなる帰還』も60周年記念作品です。昨年上映しました『手塚治虫のブッタ 赤い砂漠よ！美しく』という映画も60周年記念作品です。つまり、我が東映は60周年記念として3本の映画を製作しております。ここへ持って来る、ということは、ある程度良い作品で、私が自信を持っているんだと思って下さい。あまり酷い映画だと持ってきてなんだと、言われると酷く辛く、ノースアジア大学に後で怒られそうなので、自信のある作品を持ってきています。今度の『北のカナリアたち』という映画は、北海道の利尻島、礼文島でこの2ヶ月間撮影をし

ました。本当に地元の人たちが応援してくれて、元々知らなかったんですが、冬になると島から、内地へ、北海道へ引き上げてしまうんですね。あまりにも過酷な気象条件で観光客がいなくなるので、皆引き上げてきてしまう場所なんです。しかし、今回撮影するという事で、かなりの人達はその町に残ってくれまして、炊き出しをやってくれたり、色んなことを手伝ってくれました。でも、島民の皆さんが、凄く思っていたのは、利尻島、礼文島の特色が昆布だけじゃなくて、こんな素晴らしい所なんだということを知ってほしいということです。今回の撮影によって、観光の名所として皆さんに認知していただけるんだからと、大変に協力してくれました。我々は、予期せぬ歓迎の中に、人間それぞれ知らない人同士でも、一回会うと心が触れ合い、大変良い環境が出来ていくんだなというのを、つくづく感じた2ヶ月でありました。これはこの間、不幸にも大震災がありました。震災の後、皆様そういうことを言われま。やっぱり日本人の中に残っている、そういう和の心といいますか、お互いがお互いを思いやり、協力し合っていくというのは、大事なことだと思います。映画を通じて、皆さんと触れ合っていくということ、またその気持ちを大事にしてやっていくということが重要なんだと思うんですね。

私もノースアジア大学で、こうやって教壇に立たせていただいて、6年くらいになるんですが、そのような思いが半分以上あります。小泉先生との友情関係とか色々ありますけれど、少しでも秋田の地域が発展していくためには、我々に出来ることなんてたかが知れているわけですが、やはり続けていきたいと思っています。ここまでが「映画と地域振興」についてです。今後は全然話題がそれていくと思いますが、よろしくお願ひします。

今年になりましてから、日本航空の社長に植木義晴さんという人が就任されました。この人は一体誰なのかというと、昔の映画俳優の息子さんなんですが、実は東映で大活躍していただきました。片岡千恵蔵さんという時代劇全盛時代の大スターであり、大御所の息子さんなんです。しかし、新聞で片岡千恵蔵の息子とは書かなくなっている。やはり片岡千恵蔵さんという名前を知っている人は、ほとんどいないということだと思っんですね。新聞記者達の間で、有名だったらしいというだけで、実際に映画は見たことがないということだと思っんですね。この人が頂点に立って、東映は大変な隆盛を極めた時代があります。隆盛を極めたのは、時代劇が大変に盛り上がったからで、この人の色んな作品があります。

長い間、『水戸黄門』を我が社で作っていたのでありますが、『水戸黄門』が終了したということで、時代劇が終焉を迎えたともいえます。私ども撮影所にとりまして、時代劇を作る必要はないというところまで追い込まれてきたんですね。全部現代劇に変わってきている。時代劇をあまり皆さんが望まなくなってきたということだと思っんですね。『水戸黄門』に関してはパナソニックという、ちょっと前だとナショナルといった方が良くおわかりだと思っんですが、一社提供のスポンサーというのが、何十年も続いていた。この『水戸黄門』というのは全て、ナショナルさんがお作りになっていたとお考えになってもいいぐらいです。我々も勿論作っているんですが、イメージというのがあるんですね。元々『水戸黄門』というのは全国を廻っていくんですね。勿論よくご存知、見られた方はよくお分かりでしょうけど、日本全国をあっちこっちから、どんどん廻っていく。何で廻っていくのかといいますと、ナショナルの販売店がずっと地方にあったんですね。全国のナショナルであることを潜在的に出すためには、『水戸黄門』が漫遊してもらわないと困るんですね。今日はうちを取り上げてくれた、次はこっちを取り上げてくれた。でも、撮影のお金がないために、その場所に行って撮る事はなかったん

ですね。全部京都付近で撮っていました。どうしたかといいますと、最初に、八兵衛が出てきてその都市の名産物を言うんですね。ここは団子が美味しいとか、ここはお粥が美味しいとか、町を宣伝するための一言が必ずあります。そして必ず食べに行きたいというのがある。これから始まるのが定石になっているんですね。それから15分頃になると由美かおるさんが必ずお風呂に入るんですよ。それから番組が進んで42分ぐらいになると必ず印籠が出てくるんですよ。これは決っていたんですよ。そういう法則の中でずっと長年作ってきていたんですね。先ほど言いましたけれども、パナソニックさんの支援が何で終わったのかといいますと、今日もここから見えますとご年配の方もかなりいらっしゃいますが、パナソニック製品を買うのにお年寄りに決定権がなく、孫の意見を聞いたり子どもの意見を聞いたりして、結局決めているのは、子ども達であって、いくら『水戸黄門』のスポンサーをしても、パナソニックの冷蔵庫がいいとかパナソニックのテレビがいいという具合にならなくなってきているんです。だから、テレビ番組自体が若者向けの番組になっていくんだというんですね。そうなのかなと思いながら、パナソニックの意向により『水戸黄門』は終焉を迎えたのであります。

作り手の側にもかなり反省しなければいけないことが多々あったと、今振り返っております。それは何かといいますと、先ほど申し上げたとおり情性になっているんですね。偉大なるマンネリズムを、皆さんが安心して見てられるということにかまけて、あんまり挑戦していない。同じ作り方を毎週していた。やっぱりこれで飽きるというのが凄くあったように思うんです。先ほど申し上げた、片岡千恵蔵みたいな人たちが出た時代劇を、もう一回我々は検討しましたら、昔は月形龍之介さんという人が『水戸黄門』をおやりになっていたんですけども、先ほどの千恵蔵先生は『いれずみ判官』という、『遠山の金さん』の前身とかをやっていたんですね。やっぱり面白い。いかに今がつまらなくなっていたか、時代劇がつまらなくなかったんじゃないかと、いかに最初の方のストーリーは面白くて、皆が見たくて人気が出ていたのかなと思いました。

水戸黄門というのは面白いんですよ。天下の副将軍なんですよ。彼は、将軍ではなかったんですね。だから副将軍として隠居したんですね。でも設定として、将軍に直にお目通りが出来るという立場にあったんです。だから映画の『水戸黄門』というのは、全て最後に将軍の所に会いに行っているんですよ。どのような出来事があったか報告しております。だから、非常に大きな事件が多いんですよ。倒幕の動きがあると、それを察知してこれを直すべきだとか言いに行くのが、『水戸黄門』さんだったんですね。やっぱり昔の話はスケールが大きいんですね。私は感心して、びっくりしたんです。最近の『水戸黄門』の場合には越後屋が出てきて、代官が女性に悪戯するしか、悪がないというか、ストーリーが小さくなっているんです。これは我々が作っていく中で、大きく反省しなければいけない点だと思うんですね。

この千恵蔵先生の『いれずみ判官』なんかをよく見ますと、凄い長い袴を押しだしてこうやるんですね。それで、なぜ刺青を入れていたのかは長くなるのでやめますけど、なるほど遠山の金四郎という人はこういう人だったんだ、というのは映画の方が良く分かるんですね。全然作り手が進歩していないのが、時代劇を潰した大きな原因だと思って、自ら凄く恥じて反省している次第であります。この『いれずみ判官』なんかも、なぜあれ程長い袴を履いているかという、会場内の何人かがご存知だとは思いますが、片岡千恵蔵さんというのは、もの凄く顔が大きくて足が短いんですね。どうして、こういう人がスターになったのかというのは、私は子どもの頃から納得がいかなかったんですが、とにかく芝居が上手い。改めて見た

時は非常にびっくりしたんですが、とにかく時代劇が上手なんです。遠山の金四郎がお白洲で長袴を履いているのは、千恵蔵さんが始めてなんです。色々調べてみますと、千恵蔵さんは、芝居の見せ場で、足が短いのをいかに長く見せるかというときに、あの長袴を振り上げるんですね。これが凄く上手いんですよ。こればかり、研究していたんだと思うんです。それで、格好良く見える。こういうことによって、今の時代劇というのは成り立ってきていたんですが、時代劇が終焉を迎えるということになりました。里見浩太郎さんに最後の『水戸黄門』をやっていたんですが、礼文島に行って非常に感動したのは、島の人たちが皆、黄門さんが我が礼文島に視察に来てくださったというので、皆昼ごはんを全部上納してくれたんです。それで里見さんが、ありがとうと言うと、虚実一緒になっているので、皆とても喜んでいました。誰よりもありがたがられて、テレビの効果、そして『水戸黄門』を長くやっていたことは、皆さんの記憶に残っている、皆さんの中に受け入れられてよかったね、と里見さんと話をしました。

時代劇を残していくためにどうしたらいいかと、私は考えたんですね。テレビでは全然扱ってくれない。一体どうやって残せばいいんだ。でも時代劇をもう一度作る時に、作り手が誰もいなくなったということになったら、残すも残さないも、やるもやらないもなくなってしまいます。ですから、時代劇を作る技術を残していく最低限の義務というのは、東映に課せられた課題ではないかと思ったんですね。時代劇の何を残せばいいのかと皆さん考えるし、私も考えた。何を残せばいいのかと、社員と話し合ったところ「全部残す」という意見が出ました。全部残せるわけではないんです。これで食べていったり、生活していったり、それから別のものも作ったりしなければいけないんだから、全部残すというのは無理なので、最低限残すのは何かと聞いたときに衣装、小道具、刀などが挙がりました。これは物を残していても古くなっていった10年前の物を残しても錆びたりと、駄目になるんですね。だから基本的には技術を残すんですね。その人の持っている技術を、どう残していくかというのを考えるんですね。それと鬘。鬘をどうしても残しましょう、という話になったんです。でも、鬘は今フィルムからビデオになり、ビデオから今デジタルに変わりましたね。映像が鮮明になって、鬘のはぶたいが全部写るんですね。だから新しい技術を導入しないと鬘もたない。昔の鬘の技術では、駄目になったんです。あなたの技術ではもう10年前まではよかったかもしれないが、今では駄目なんです。新しい物を勉強してもらわないと、同じ残すにしても時代が違うんです、と私は京都に行って説得し、新たな勉強してくれよと、そうでないときはもうしょうがないから、辞めてもらわなければならなくなります。この辞めたことも、どこかで生きるかもしれないし、技術として変えていかなければならないんだというものがあるんですね。

それともう一つ面白いのは、時代劇で一番東映が残していかなければならないのは、皆さん何だと思いませんか？と質問してもなかなか正解に辿り着かないと思いますが、実は斬られ役なんです。面白いのは、殺陣というのは斬る人が上手いのではないんですね。斬る人は主役ですから、そのとき人気のある人でどんどん代わってくる。けれど斬られる人はいつも代わっていないんですよ。時代劇がたくさんあると、毎回斬られる人は凄く忙しいんですよ。毎シーンどこかで必ず、御用だ、御用だに変わる場合もありますし、浪人に変わる場合もありますけれども。時代劇で一番残さなきゃいけないのは、主役が斬ったときに死んでいく人たちです。これは一人でもいいのなりたいけど、十人二十人死ぬシーンがいっぱいあるわけですから、これを残すのが大事なんですね。これを残すといっても、まずはこういうことをやってもらわないと困

る。好きでないと困る。皆さんは見たことがないと思いますが、『蒲田行進曲』という映画がありました。これは東映の斬られ役の人をモデルにしています。これをどうやって残していくのかという問題もあるんですね。この斬られ役の役者さんに、福本清三という人がいます。皆さんは名前も聞いたことがないかもしれませんが、我々業界では凄く有名になった方です。東映で何十年と斬られ続けて、60歳を過ぎるまで斬られ役を続けてくれました。『ラストサムライ』の映画で渡辺謙さんが、大抜擢をされましたが、一緒に出演しています。福本さんは、もともとは斬られ役を志望していたわけではありません。セリフに難点がありまして、斬られ役にまわったんです。セリフを言うと何を話しているのかわかりづらいんです。でも役者をやりたくてずっとやってきたんです。この人が考えた技術で凄いのは、斬られ役というのは、いつも後ろ向きで切られるんですが、主役を中心に撮っていますので、相手はいつも後ろ向きになっているわけです。この人は、斬られたときに体を反って顔が映るように、カメラに一瞬でも顔が残るように考えたわけです。

でも、あまりにもうだつが上がらない状況で、辞める決意をしたわけです。そんな時、ある少女から手紙が来たんです。「誰もあまり見ていないかも知れないけど、私はまだ子供ですが、毎回見ている」と。「福本さんが毎回一生懸命演じられているのを見えています。どの時代劇を見てもあなたが映っていらっしゃる。それを見ると嬉しく思う」という手紙をもらったそうです。福本さんは泣いて、1人でも見ていてくれる人がいれば、やはりこの仕事を続けていってよかったと思ったようです。彼が定年を迎えてから、『ラストサムライ』のオーディションを受けたらどうだという話があって、主役のトム・クルーズの見張り役で、最初から最後まで出演する役に大抜擢されました。その時に、キャスティングの担当をしていた日本人がおりまして、その日本人が昔、福本さんに手紙を出した少女だったんです。大人になってアメリカで福本さんに再会して、すごく感動しまして、一回とにかく監督の前で演技して欲しいということをお願いして、出演する経緯となったわけです。また、監督も非常に優れておりまして、福本さんはずっと出演しておりますが、セリフは全くありませんでした。監督は福本さんの何が欠点かはよくわかっているようでした。最後に馬に乗って、鉄砲で撃たれるんですが、その死に方は非常にすばらしいです。こんな上手い死に方はないと絶賛したらしいです。でも、こういう人を育てて残していかないと、日本の時代劇は続かないです。

そこで、京都に映画村があるんですが、私は去年から拡大させて、もっと大きくして、多くの人々に訪れていただきたいと思ひまして、リニューアルしました。今度京都に行かれましたら、是非お寄りください。今映画村で、撮影風景は、見られない状況です。現在時代劇を撮影しておりませんから。時代劇の撮影風景を売り物としていたテーマパークでしたので、ではどのように変えていくのかと考えた時に、みなさんが時代劇の格好をして町を歩いてくれて、それを撮影したりする。つまり、今度は自分たちが、時代劇のいろいろな役をやれるという能動的なものに変えたんです。そうしたところ、多くの人々が来てくれるようになりました。俳優さん、女優さんと同じように、衣装を着せてあげて、メイクをして、小道具を準備して、一般の人々に喜んでもらって一生懸命やることによって、日々の経験を積み重ねていけるわけです。また時代劇の人气が戻ってきた時に、お店を休業してもお客様は納得してくれると思います。今は、どちらかというとお客様のための営業であり、今の自分達の技術を残して引き継いでいくことが大事だと思います。これは映画に限らず、秋田にもいろいろなものがあると思いますが、全部残すのではなく、最小限のものを残して、技術が変わるところは変えていながら、

残していくのが大事ではないのかと思います。自分はその点では、この映画村を残していったのは良かったのかなぁとっております。私1人が提案して、他の人はみんな反対していましたが、もし不成功でしたら、今頃この壇上には上がってなかったかも知れません。

話を戻します。東映が時代劇をつくってきたんですが、当時映画スターといいますが、片岡千恵蔵さん、市川右太衛門さん等がいました。市川右太衛門さんは北大路欣也さんのお父さんです。もう知っている人もいないんでしょうか。中村錦之助さんや大川橋蔵さんになれば少しは知っていると思います。里見浩太朗さんはそのお弟子さんですので、ちょっと時代が経っているんですが、当時は大スターでした。大スターというのは面白いんですが、昔の大スターさんはお山を1つ丸ごと買ったんですね。山を全部自分の家にして、玄関から頂上へ登っていくんですよ。大スターに会うために。それぐらいスターに逢うのは大変なんだということの、1つのポーズだったのだと思います。当時、私は撮影所に入出入りしていた子供だったので、片岡御大に会いに行くということになりますと、玄関を入りまして、階段を登って行って大変でした。今のお寺の階段を登る感じです。そこまでして、ある種守りたかった。なぜこのようなことがあったのかなと思ったんですが、最近分かってきたのは、これは天皇を真似ていたんですね。日本でいえば昔の贅沢、今でもそうなんですけど、最後に残ったスターというのは天皇かもしれない。あの皇居の中で、あの広い土地で、会うのは大変です。それを時代劇スターが全部目指したんだと思います。実はその中で一番有名なのが小倉山と言って、嵐山にありますが、大河内傳次郎先生の敷地内だったんですが、彼が没落すると同時に、今では全部分けて売られてしまっております。そういう昔のスターの華麗なる生活があって、みんなスターになろうとしたわけです。今現在は、そのような人がいなくなって、最後に残ったのが、北島三郎さんですね。北島三郎さん、今八王子に大きな邸宅を構えておりまして、大変大きなお家です。今でも現役で紅白歌合戦にも出場されていて、北島さんは現在もお元気ですが、彼に何か起きてしまった時には、あの邸宅もなくなってしまうのではないかと思います。維持していくことも大変な事です。何十の部屋があっても、結局、北島さんも部屋は1部屋でいいとお考えだと思います。

そういう時代を経て、高倉健さんから私も映画というものがどういうものなのか、いろいろ教わりました。吉永小百合さんや渥美清さんからも教わりましたが、次の世代の俳優さんというのは、哲学者ようになってきておりまして、だんだん人間とはどうあるべきなのかとか、いろいろな事を考えていまして、私のように安易に人前で講演したり、人前で話ししたりは全くしないんです。人に意見できるような人間ではないと非常に謙虚な姿勢でおられます。私としては彼らがどんな人間なのか、伝えるのが役目だと考えております。

高倉健さんがいつも言っているのが、「一日一感動」ということです。一日、一回感動して、よかったなぁと思えることが、必ず一つあるというのは大変な贅沢です。お金にもまさる贅沢だと思います。このご飯おいしかったなぁ、というぐらいの感動でもいいんです。感動することが、人間を幸せにすることでありまして。それは哲学のようですが、凄くよく分かります。彼は「映画というのは、その日その時感動してもらえなければ、なんの意味もない。一日しか感動する時間はありません。その人にとっての365分の1にしか過ぎないですよ、映画なんて言うのは」と言われて、映画が提供できる感動は本当にささやかなものなんだよと教わって、そういうものなんだとつくづく思って守っております。決して、威張ったり出しゃばったりしたらいけないんですよ。吉永小百合さんはいつも言います。「一生生徒」。常に人から習うことは

したいけれども、自分が先生になることは一切ないということでした。今度、『北のカナリアたち』という映画では、先生の役をやらせてもらっていますが、その中でも、お説教のようなくだりはいっさいお断りされてしまいました。

それはさておいて、今日の映画の事について少しお話ししますと、主役の渡辺謙さんは、東映の50周年記念作品『千年の恋 ひかる源氏物語』の時に、藤原道長役を彼にお願いしたのが、彼との最初の仕事でした。もう10年前になりますが、それまでは渡辺謙さんは大変なスターでありましたが、途中で白血病になられて、『天と地と』という映画を降板されて、カナダで入院されたんですね。突然、白血病になられて、彼はそれ以降、何年もテレビからも、スクリーンからも消えて、闘病生活を繰り返しておりました。大変な思いをしながら、大変なスターになったわけですが、一時期復帰しても、いい仕事がなく、悪役をやっていたんです。俳優さんとして力があるのはわかっておりましたので、『千年の恋 ひかる源氏物語』の出演を依頼したところ、快く引き受けて頂きました。その後、彼に『ラストサムライ』の出演が急遽舞い込みまして、あちらのオーディションで、日本人の中では、何をやっても群を抜いているし、英語力も十分あると言うことで、ハリウッドで認められました。

彼は英語を一生懸命やりました。それはなぜかというと、死ぬかもしれなかったからでした。お医者さんと話すときに、自分の病気がどんな風になっていて、どうなっていくのかを本当に必死の思いで、英語で話したり、聞いたりしていました。人間は、映画のために英語を勉強しようとしてもできません。でも命がかかっている時は、全く別です。一生懸命勉強したんだろうと思います。彼は、今こんなにハリウッドで活躍できるのは、病気したおかげなんだということをよく言っております。大変なスターになって、彼が『ラストサムライ』に出演した時に、主役に抜擢されたというのに、トム・クルーズだけがでてきていて、全然彼が出てこない。しばらくして森の中から彼がスクリーンに映し出されたときに、私はよかったなあ、よかったなあという気持ちと一緒に、涙があふれてきました。一友人として、一日本人として、病気の克服等も含めて、ハリウッドで活躍している彼を見て、涙があふれてきました。京都の二条城でワーナーの映画の試写会が行われたのを見に行っただんですが、彼から来てくれて、一緒に抱き合いました。何が抱き合うきっかけになったのか分かりませんが、彼が大変な苦勞をしたこと等いろんな思いがあって、抱き合って涙を流したのだと思います。この時にはじめて、舞台挨拶に福本清三さんを出してくれということで、初めて舞台挨拶に斬られ役の福本さんが立ち、撮影所のみんなから祝福の声があがったんですが、残念ながら、彼は一言も挨拶をしないで終わってしまいました。

あの作品は、アメリカが作った時代劇でありまして、日本が残していかなければいけない文化だと思えます。今年の暮れになると思いますが、またワーナーが時代劇映画、『忠臣蔵』を作っております。大石内蔵助役を真田広之さんがやっております。彼は『ラストサムライ』にも出演しておりました。今の日本で、彼の殺陣は、一番上手いです。彼は殺陣のプロとして、『ラストサムライ』に出演しておりました。彼は踊りの先生でもあります。本当の意味での、日本映画の技術の継承者と思っております。

そういうことを踏まえながら、私達は時代劇を少しずつでも残して行って、みなさんに支えていただき、いろんな形で応援していただき、みなさんと共に作っていきたくて考えております。今日は、時代劇中心のお話になってしまいましたが、先程、渡辺謙さんのお話をしましたが、私達の時代の「健さん」と言えば高倉健さんなんですが、最近になりますと、松平健さん

も出てきまして、「健さん」だらけになっております。今この業界では、「健」とつけていれば大スターになるというような、変な迷信が生まれました。この松平健さんも非常に面白くて、『暴れん坊将軍』の時代劇をやるにあたって、『仮面ライダー対暴れん坊将軍』が夏に公開されたんです。松平健さんも去年は奥さんを亡くされて、苦労なされたんです。若い社員に「何を考えてるんだ。愚弄してるんじゃないか」と言ったんですが、松平健さんはどうしても出演したいということで、この作品でいいんですかと思いつつながら、仮面ライダーが敵にやられているところに、馬に乗って暴れん坊将軍がやってくるんです。話がよくわからない感じなんです、いいんですかと再度念を押したんですが、子供が仮面ライダーのファンで、現場に行きたいということで、彼は出演するということになりました。去年公開しましたが、これは時代劇ではないだろうと言ったことがあります。

話を戻しますが、渡辺謙さんから『明日の記憶』を制作してくれないかと言われまして、最初、どうしてこの作品をやりたいのか分からなかったんですが、彼は今まで主役の映画が一本もなかったんです。その話を聞いて、内容は全くわかりませんでした、承諾しまして、その代わり最後まできちんとやってくださいと提案しました。若年性アルツハイマーの話で大変にヒットしまして、多くの方に見てもらいました。この作品も彼の執念だったと思います。その時も、若年性アルツハイマーと白血病は違いますが、その思いというのはもの凄く出ていたと思います。病気をした人間の苦しみ、もの凄く映像にでていると思います。

とても健康的で偏屈なモデルなんです、その人を演じたいということで、持ってきたのが『はやぶさ 遙かなる帰還』です。この作品は、ほとんど事実でございます。非常に鉄面皮なモデルがいるんですが、鬘をつけずにそのままいいじゃないと思ったんですが、謙さんは、モデルの人と同じ髪型で出てきております。これから見ていただくんですが、この知識だけは押さえていただきたいと思つています。「はやぶさ」というのは、木星や金星にいったのではなくて、日本人が見つけた、小さいイトカワという小惑星に行って、砂を持ち帰ってきたんです。どんな惑星かというと長細い楕円形で、約3千500万トンです。3千500万トンと言いますと、日本の新日鉄が1年間に生産する鉄の量ぐらいです。本当に小さい惑星で、それが太陽の周りを楕円形に公転しておりまして、それが地球が公転するのと重なる、一番近い距離を計算してそこに行ったということです。あまり難しいことについては私もわかりませんが、技術者として夢をかけた。中小企業の山崎努さんが演じた方も一生懸命やった。これが意味があったかどうかについては、良くわかりませんが、みんな大変に一生懸命にやって「はやぶさ」を送り出した。この映画をご覧になって、「はやぶさ」を、だんだん自分の子供のように感じていただくと大変ありがたいと思つています。

またこの映画の音楽は、辻井伸行さんという盲目のピアニストが、作曲してくれております。スタッフが依頼にいったんですが、眼は、昔から全く見えておりません。それでも会った瞬間に、「岡田と申します」と挨拶したところ、彼は「どうも、はじめまして。よろしくお願ひいたします」と挨拶を返してくれました。2度目にお会いしたときには、私の「あの」という言葉を聞いただけで、「岡田さん、どうも」と答えてくれました。それを聞いて、私は敬服しました。頭がいいとかのレベルではなくて、どうなっているんだろうなあと思つました。現実の社会も見えないのに、まして宇宙がどのようになっているのかはわからないと思つています、自分の想像だけで宇宙を描いているわけです。彼は「自分は宇宙に対してこういうイメージを持っている」という話をしておりました。

東映では、映画製作だけでなく絵画などのヴェネツィア展等も主催しておりますが、辻井さんにこちらについても作曲して下さいとお願いしたところ、快諾をいただきました。彼から「その代わりに、一度ヴェネツィアに行かせて下さい」と言われまして、「行ってどうされるんですか」と尋ねたところ、「空気の味と、空気のあたっている雰囲気と騒音とで、ヴェネツィアという町を作り上げていくんです。行かせてくれないと、私は書けない」というので喜んで、行っていただきました。素晴らしいですね。彼はやはり天才ですね。今日の映画では、特に音楽に注意して聴いて頂きたいと思います。音楽だけ聴いていても、宇宙が現れてきます。辻井さんは、本当に凄いと思います。

いろいろございましたが、映画は去年一年間、一昨年に比べて、2割減の8割になりました。非常に悪く、言い訳としては、震災の影響でここまで悪くなりました。でも実際には、震災の影響はひとつも受けておりません。震災の間は、皆さん映画をよく見てくれています。仙台でも、岩手でも、福島でもよく見てくれております。映画は有事の時でも、辛い事を忘れてたりするにはお役に立てるわけです。去年は、夏以降が悪かったです。おもしろい作品がありませんでした。ただ、東映は前年比120パーセント位で良い状況でした。今日は『HOME 愛しの座敷わらし』発表しましたけど、映画人が集まったときには、同じように頭を下げていないといけないんですが、実際は東映は成績がいいです。今年もすごいラインナップを一昨日発表しました。この後もたくさん揃っております。岩手で撮影されました、水谷豊さん主演の『HOME 愛しの座敷わらし』等があります。来年の秋には、『北のカナリアたち』を最初に秋田で試写させていただいて、皆さんのご意見を伺いたいと思います。

いつも思うんですが、いやしくも大学の講義なんですから、少しはためになる話や、真面目な話をしたいと考えているんです。しかしながら、いつもこのような漫談になってしまうんですが、意味のない話をお許し頂きたいと思います。

一つだけ付け加えさせて頂きたいんですが、映画から見たアメリカというのがありますが、今年から『タイタニック』や『スターウォーズ』等の作品がリバイバルされます。総て3Dになって昔の物をやるんですが、「日本人はそんなものをあまり見ませんよ」と言った事に対して、「もう日本は相手にしていません」という答えが返ってきました。中国、ロシアなどでは、このような映画をまだ見たことがないんです。アメリカはこれから、中国、ロシアを相手に商売するようです。この話から、日本は経済的にもそのようなところに置かれているんだなあと思って、われわれは成長するばかりではなくて、今地道に生きていくことを考えていきたいと思います。成長、成長だけでなく、高倉健さんが言うように、「一日一感動」は幸せなんだということを信じて、次回お会いできることを楽しみにして生きていきたいと思います。今日は、本当にありがとうございました。

橋元 岡田裕介先生、素晴らしいご講演を誠にありがとうございました。東映映画『はやぶさ 遙かなる帰還』の上映時刻は、午後2時15分となっております。それまでどうぞごゆっくりご休憩下さい。

[講 演]

ノースアジア大学 総合研究センター主催 講演会

「東日本大震災と政治のあり方」

講 師 読売新聞特別編集委員
ノースアジア大学教育諮問会議委員・客員教授 橋 本 五 郎

司 会 ノースアジア大学理事長総室長・国際センター長 佐々木 香

日 時 平成23年7月3日 午後2時～3時30分

会 場 ノースアジア大学 40周年記念館 271教場

佐々木 本日は、ノースアジア大学主催のご講演会にお越しいただきまして、誠にありがとうございます。今年も昨年に引き続きまして、橋本五郎先生をお招きして、ご講演会を開催する事が出来ました。

橋本先生については、改めてご紹介するまでもありませんが、秋田県三種町のご出身で、現在は読売新聞特別編集委員、本学教育諮問会議委員、そして客員教授をしていらっしゃいます。

ここでちょっと宣伝をしたいと思いますけれども、今年4月、三種町の旧鯉川小学校に橋本五郎文庫がオープンいたしました。約20,000冊の書籍があるようでございます。ほとんど地域の奥様方のボランティアで運営されているという事で、とても温もりのある空間であると聞いております。ぜひ、皆様も足をお運び下さいませ。それから、先生は様々なエッセイをお書きになっています。本日は、『歴史通』という雑誌の7月号に掲載されましたエッセイを、皆様のお手元にお配りしております。どうぞ、後でご覧下さいませ。

さて、東日本が大地震に見舞われてから、3ヶ月半が過ぎました。被災地では、未だ瓦礫処理の問題、2,500億を超える義援金分配の問題、そして原発被害の問題等、様々な問題が解決されておられません。先月やっと、復興基本法が成立いたしました。その中で定められた復興庁なるものが、国の縦割り行政、縄張りの中でどれだけ権限を速やかに執行出来るか、注目するところでもございます。

本日のテーマは「東日本大震災と政治のあり方」でございます。橋本先生は東日本大震災復興構想会議の委員でもいらっしゃいます。今回の震災が、私達に何を考えさせ、東日本の復興に留まらず、日本が再生するために政治はどうあるべきか、様々な切り口でお話をいただけたと思います。

それでは、橋本五郎先生、どうぞよろしく願いいたします。

橋本 橋本です、よろしく願いいたします。この大震災が起きまして、4月の初め頃に、総理大臣から「復興構想会議の委員になってもらいたい」という話がありました。私は後程、今の政治のありようを厳しく批判する事になるんですけども、政府の対応には相当問題がありました。しかし、それと復興構想会議の委員になるという事は別と考えまして、少しでもお役に立てばという思いで、お引き受け致しました。第1回会合が、4月14日に開かれましたけども、議事録を公表していますが、全部名前を出さないです。しかし、誰が話したのか大体分かるように、ホームページに公開されています。その中で、私が最初に言った事がありまして、その1つは今度の震災、いったいこの大災害が私達に突きつけている問題は、何なのかという事を深く考えなければいけないということです。

16年前の阪神・淡路大震災の時に色んな提言が出ています。この復興委員会は、下河辺淳さんが委員長になりまして、後藤田正晴さんが特別顧問の形でお目付け役になり、極少数5、6人の委員会ですが、色んな具体的提言を次々と出しているんです。しかし今度の提言は、阪神・淡路大震災のような提言であってはならないと、最初の会議でお話ししました。

日本の歴史の中で、日本人の価値観が大きく変わった、歴史を画するような出来事が幾つありました。1つは応仁の乱です。東と西に分かれて、徹底的に戦うんですね。大変な焼け野原になっていく。あの時に日本の歴史はすっかり変わったと言う人もいます。それから、バブル経済とその崩壊。バブルとは何だったのか。金、金、物、物、そういうのが蔓延していた。しかし、バブル経済が崩壊して、大事な物は何なのかという事に人々が気づき始めた。

今度の大地震が起きて、私は3月中には被災地に行けませんでした。1つは瓦礫があって、なかなか進めないという事もありました。もう1つはテレビの「ズームイン!!SUPER」をやっていたので、仕事の関係でなかなか行けませんでした。

私は4月2日、3日に車で移動しました。東京から直接、盛岡に行けないので、青森まで飛行機で行って、新幹線で盛岡に入りました。山田、大槌、宮古、釜石、大船渡、陸前高田、気仙沼と2日間にわたって南下しました。一面瓦礫の平原ですね。形ある物は全て破壊されている。その翌々日に今度は、ジェット機で仙台を北上しました。500メートル位の高さまで降りてもらって見ました。そうするとはっきりしているんですね。自然は残っているんです。松島は残ったんですね。ところが、リアス式の所は入り江になっていて、山と山の間の狭い所に、平野と川がある。この川を遡って津波は8キロメートルの所まで行っている。そうすると緑は残り、その間にある人工的なものは悉く破壊されているんですね。いったいどういう事なんだろう。宮古の田老地区は、10メートルの堤防を築いた。けども今回は、その堤防が易々と津波に越えられてしまった。だったら15メートルの堤防を築くのかという事なんです。

今度の復興構想会議の復興への提言は、「悲惨のなかの希望」という副題です。これについて色々な評価があります。でも私はかなりの部分で満足しています。読んでいただければよく分かる。我々は、大自然と徹底的に戦っても、敵わないんですよ。そうすると、今までは防ぐ「防災」だったんですが、ここで逃げる「減災」という考えが出ます。防災は、基本的には災害と徹底的に闘うという事です。だけれども、もうそれは無理です。今回の災害は数百年に1度、千年に1度と言われている。例えば、三陸は2回も明治、昭和で襲われているんですよ。そこに人間の力で防げるという過信があったのかもしれない。だからこれからは「防災」から「減災」というのを考えて、どんどん減らせれば0になるかもしれない。ですから、今度の提言に具体案が無いという批判がありますね。今度私はそれに対して反論をするつもりです。具体案はあるんです。

まず、今災害にあった所に、また家を建てるのかという事です。そうすると15メートルの堤防を築かなければいけないという事です。それは無理な話。その15メートルだって保障出来ません。だったらどういう考え方が成り立つのか。1つは、ある程度5メートル位の堤防を築かなければいけないかもしれない。それとは別に瓦礫が一杯出てますから、その瓦礫を砕いて積んで防風林、防災林を造ると、自然と解け合ってくる。それだけではなく、次はそこを乗り越えてきたらどうするか。道路や鉄道を盛り土して、高くする。さらに、漁業の加工工場等の防災のビルは、少し高い建物にする。そうすれば、津波が来た時は屋上に逃げれば大丈夫。人の住む所は高台にしなければいけない。しかし、高台がそうあるわけではないんですね。そうすると、森や林を切り開かなければいけないという所が、あるかもしれない。だから一律に皆やれという風にはいかない。方法として、こういう考えがあるので、参考にしてやって下さい。どうするかは、そこに住んでいる人が決める。その場合、大変お金がかかるわけですから、お金の手当てを国が出来るようにしましょうという考え方なんです。ですから、この地区はこれをやれ、あの地区はそれをやれという話ではなくて、それぞれが選ぶ事が大切です。三陸の大津波、明治の時で散々懲りたわけですよ。一時的には高台に行くんです。行くけどやっぱり自分の住んだ所に戻るんです。そして昭和の大津波でまた襲われるのです。そういう事を2度としてはならないという事なんです。そういう具合に、少しでも減らすようにしましょうという考えが、1つの大きな基本になっているんです。今度の震災を考える時に、非常に大事だ

と思ったのは、被災地復興というのは、災害にあった所の復興だけではなくて、日本全体の事を考えなければいけない。例えば今の総理大臣はエコタウンを造ると言うんですね。エコタウンというのは、町がエネルギー、電気をあまり使わないようにしようとか、そういう所を造ろうという事です。そんな事を言われたって、東北は今まさにエコタウンで、冷房は使えず団扇で過ごしています。東京の考えで、エコタウンという洒落た事を言っても、全然実用性や現実性がないです。

田舎はどこも大変です。まず高齢化。私の出身地の秋田県山本郡三種町も、65歳以上の高齢者が半分で、限界集落です。高齢化社会は大変と言いますが、これも誤解があるんです。年寄り一杯いるのが何でいけないのでしょうか。皆長生きしているという事ではないですか。高齢化社会というのはいい社会ですよ。大事なのは、元気に長生きするという事であって、何も悪い事ではない。けれども、そこには若い人も来なければいけない。世代間の行き来がなければいけない。しかし、高齢化はずっと進んでいる。少子化で子供がなかなか生まれないのも進んでいる。それから過疎化に伴って、どんどん寂れていく一方である。これは被災地だけでなく、何処でも一緒です。

そうした中で、農業に携わる人も平均年齢が65歳以上になって、10年後には75歳以上になるのは何処も一緒なんです。そうすると単なる復旧、元に戻すのではなくて、復興なんだと。新たに発展するように、元気が出るような所にしましょうと考える時に、被災地だけを見るのではなく、やはり日本全体の参考になるようなものにしなければいけない。常に頭はそこになければいけないと、私は復興構想会議の1回目から強調しているんです。同情する気持ちや義援金については、半年たてば自分達の生活もあるわけですから、人の気持ちは離れていくんですよ。しかし大変ではあるけども、被災地は長い期間もっと大変であるという視点が、これからの被災地を復興する上で大事な事です。だから、あまり復興構想会議の委員に、東北出身者ばかりを集めては駄目なんです。私はそれを厳しく言った。

菅総理から声をかけられた時、「どういう人達ですか」と聞いたら「まだ半分位しか決まっていない」と言われたけど、東北出身が多いですよ。15人の内3人は知事で、残りの12人は阪神・淡路大震災の経験者。議長は五百旗頭真さんと、議長代理の安藤忠雄さん。河田さんは京都大学を卒業して、今は関西大学の津波の専門家の人。後は東北出身者。私は、マスコミの代表として選ばれました。それから内館牧子さんは、3歳まで秋田の土崎に居た。その後は東京にいたけれども、自分の故郷は秋田だと思っているんです。それで東北大学大学院に行って、相撲を研究し相撲部の監督をやって、指導しています。結構東北大学の相撲部も強くなったらいいですね。それから高成田亨さんは、朝日新聞の石巻支局で働いていた人。それから玄侑宗久さんはお坊さんで、福島の上春町の人。それから赤坂憲雄さんは、福島の官庁勤務を経験後、今は学習院で東北学の権威の先生です。それから中鉢良治はソニーの副会長で宮城出身。私は日本全国から集めないといけないと話したけども、「それは既に決まった話」と言われました。

提言を読んでもいただければ分かるんですけども、「日本海側と太平洋側が連携しなければいけない」と最後に言いました。東北にLPガスは無いので、新潟の方から運んでいたんですよ。そのためには、奥羽山脈があるから道路を整備する等して、協力しなければいけない事が沢山あるんですよ。だから「連携するようにしましょう」と言いました。

昔は東京で稼いで田舎で使っていると言われた。私は怒りを覚えましたけども、そうではないんです。電気は福島から貰っているんですよ。福島の野菜や魚、部品工場。部品工場が駄

目になったので、アメリカの自動車会社GMも困ってる。韓国のサムスンも困って、「東北という電気の供給が不安定な地域に居ないで韓国に来たら、いくらでも便宜を図る」と言っている。抜けたら空洞化で大変ですよ。そう考えると提言にあるように、被災地の復興は、日本の復興でなければいけないのです。

1回目から問題になったのは、原発問題です。総理大臣は復興構想会議が検討する項目から、原発問題を除いていました。議長が「原発は別でやっていただく」と言うと、皆反論した。M9.0という観測史上最大の巨大な地震と、15メートルの津波がある。更に原発の問題があったから、これ程深刻な問題になっている。風評被害で物を買わない、あっても物凄く安くなっている。こういう状況が何かからたらされたかといえば、津波によってもたらされた原発なんです。それを抜きにして議論しても皆が賛成しません。福島知事も「原発を抜きにして議論したら、福島人は捨てられたと思う」と言っていました。そのとおりです。残念ながら15人の中に原発の専門家はいないんですよ。これも問題なんです。後で追加すればよかったんだけど。我々は、原発を具体的にどうするかというのは専門家に委ねるとして、この問題が突きつけたものは考えなくてはいけないだろう。

昔は原子力を平和的に利用しようというのは、禁じられていたんですね。日本が戦争で敗れる前に、原爆を広島と長崎に落とされています。敗戦になったが故に、研究する事さえ禁じられたわけです。また何をするか分からないと思われていた。ところが1953年に、アイゼンハワーというアメリカ大統領が、国連で演説した中に「これからは原子力の平和利用については研究しましょう」と言うんですよ。そういう時に日本の専門家、湯川秀樹さん等多くの人がいたんですね。そういう人達が努力して1957年、4年後に初めて原子力の火が灯るんです。しかし4年も経っていますから、最初に色々研究する人達は物凄く緊張していたんです。核、原子力と聞いただけで、アレルギーや拒絶反応を起こすわけですよ。そういう中で日本は資源が無い国。石油も中東から依存しなければいけない。そういう国を支えるには、原子力しかないと思ったんですね。だから一生懸命研究したんです。国内で原子力が理解されるために、安全を示さなければいけなかった。ところが今の技術者も研究者も、20年で1代と考えると3代目ですよ。3代目になると緊張感が緩むんですね。斑目春樹という原子力安全委員長が「危険性がある可能性はゼロではない」と言った。「ゼロじゃないという事はゼロなんだ」と言っている人もいましたけれども、明らかに緊張感が無くなっている。そもそも原発というのは、人間が造ったものですね。文明の最先端技術を使いながら、造った物ですよ。それが今度は自分達に牙を向いているんです。福島の人達は生まれ故郷を追いやられて、いわば流浪の民になっている。おそらく、放射能の入った廃棄物もありますので、福島の原発付近一帯に、校庭で出た土等を持って行って、封じ込めて閉じ込めざるを得ないでしょう。そこは立ち入り禁止。こう考えると、与える影響は凄まじいものですよ。一番怒りを感じるのは、開発してきた人達が、誰も自信を持ってこうすべきだと言えないことです。毎日のように問題が出てくる中、その度毎にどうしたらいいかと話し合っている。そんな事で今までやってきたのかという話ですよ。我々の文明がもたらした物が、逆に我々に向かってきているという事について、自分達が制御出来ない、コントロール出来ない事について、深く考えなければいけない。しかし、何でも分かっている先に進めないとなると、発明、発見は出来ないのかもしれない。そこは非常に難しい問題です。今は立ち止まって考えなければいけない。

その一方で、極端な議論になるのも困ります。再生可能な自然エネルギー、太陽光パネル、

風力の話になるんですが、総理大臣は世界の首脳がいる所で、「日本は2020年代の早い時点で、1,000万戸に太陽光パネルを付ける」と約束するんです。日本全体で1戸建ては2,700万戸。その中の設置可能な1,000万戸に、全部付けると言うんですよ。私はぞっとしています。これは復興構想会議でも議題になった。被災地方面の海岸を、太陽光パネルで敷き詰めると言うんです。太陽光パネルには2つの系統があるらしく、青色と黒い屋根の太陽光パネルがあるということですが、考えてみれば、海岸一帯に太陽光パネルがあるのを想像出来ますか。私は疑問を呈しました。

まず津波が来たらどうなりますか。太陽光パネルは駄目になります。守るために堤防を築かなければならない。日本の光景として変だし、まだ値段も高いですから。そうすると技術革新、イノベーションと言うんです、技術は進歩する物なんだと。そうは思うけど、極端な議論になってはいけません。風力発電は秋田にもありますね。宗谷岬にあるのは、見えないからそんなに違和感ないんです。しかし、秋田の海岸に全部設置するのは嫌ですよ。発する電波も体にも悪いです。

原発の安全性を確認しながら、電力の29%を補っているのを徐々に減らしていくのは、必要な事です。非常に悲しい事に原発、反原発と激しい争いをしてきたため、原発推進の方は原発批判に一切耳を貸さない形で、学者、経済界の人、マスコミの人も含めて「原子カムラ」をつくってきた。このように極端な話になってはいけないと思う。

大震災からもう3ヶ月以上たっている。しかし7,000人以上の人が、まだ行方不明なんですよ。考えてみれば日本は、大変な文明先進国ですね。経済力では中国が上回ってきた。しかし教育体制、治安状況等全てを総合したら第一級の国だと思いますよ。その第一級の国で3、4ヶ月近く経つのに、まだ7,000人の人々の行方が分からないんですよ。私が仙台に行った4月初めは、1万数千人だった。何で分からないのか不思議だった。しかし、行ってみればすぐに分かりますね。阪神・淡路大震災の時は家が潰れても、行方不明者は自分の屋敷の中にいたんです。けども、今回は流されているんです。おそらく遺体は海の瓦礫の下か、遠くアメリカの方まで流されているのかもしれない。我々は全く想像出来なかったですね。そうやって考えると、この大災害が突きつけるものに、何が出来るのかという事を、つくづく考えなければいけない。

そうした中で、悪い事だけではなくて、義援金がまだ何処に行くかわからない中、皆何か少しは助けになりたいとやってるわけですよ。私も避難所を回りましたが、肉親を失いながら、「自分よりももっと大変な人がいる。助けてあげて」と言うんですよ。これは外国では考えられない。ミシシッピ州が、5月に起きた大変な竜巻で破壊された時、略奪等が凄かった。日本の場合も泥棒等あるんですよ。一杯あるけど報道しないという事もあるんですが、略奪、暴動は少なくとも起きていないです。違う見方をする人もいます。あるドイツの人が「これ程酷い政治なのに、怒らない日本国民は何だ」と言っていました。なるほど、そういう見方もあるんだなとは思いました。

こういう状況で、政治は一体どういう対応をしたのだろう。落第点ですね。問題は想定外の事態に、ちゃんと対応出来るような事をしたのかという事なんですよ。最初にこれだけの事が起きた時に、まず何をするか。自分達の政権では経験が無いんですよ。これだけの災害は数百年なかったですし、近い事も経験ないんですよ。私だったら経験者に最初に聞きます。当然じゃないですか。そうすると16年前の阪神・淡路大震災の経験者です。全体の指揮を執ったのは、

官房副長官の石原信雄さんです。首相官邸には総理大臣、官房長官、そして官房副長官が3人いるんですね。衆議院議員と参議院議員と官僚出身。この官僚出身の石原信雄さんが、その時指揮を執ったんですよ。私だったらまず、石原さんに首相官邸に来てもらって聞きますね。実はその時の経験者は、どうしたらいいかと、自分に聞きに来るんじゃないかと待っていました。待っていたんだけど全然来なかった。例えば佐々淳行、初代内閣安全保障室長。彼は連絡が来そうな人と連絡を取っていました。彼らは待っていたんですよ。こういう時どうするべきか、経験者に聞かなきゃ駄目なんです。経験者は分かっている。佐々さんは使命感があるから、80歳以上で老人決死隊を作ろうとしていた。福島原発の放射能が大変で建物に入れない。放射能を若い人が浴びると、生殖能力が落ちて子供が作れなくなってしまう。80歳以降は子供を作る心配はないし、後何年生きられるか分からないんだから、少々放射能を浴びたって問題ないという事で、決死隊を作ろうとしました。ところが水素爆発等で瓦礫が沢山あるのに、80歳以上の方には瓦礫を取り除く力が無いので、断念したというんです。皆そのような気持ちでいるんです。経験者に聞くという、謙虚な気持ちがなければいけなかったと思います。

その次に、現にある組織を上手く利用するという事ですね。新しい組織を作っても動かない。現にある組織とは役人、省庁、官僚です。彼らはつばを心得ているわけですよ。例えば、3月11日に東日本大震災が起きた直後には、TOTOというトイレ等を扱う会社に、経済産業省から仮設住宅の要請をしています。国土交通省から建設会社に要請しています。役所は自分の責任にされては困るので、早くやるんです。ところが国として一本になってないんです。組織が何で使えなかったのかというと、民主党の政権交代がありました。その時の旗印というのが「コンクリートから人へ」。ダム等はあまり作らないで、緑を残して上手くダムのような機能を別に考える。「官僚主導から政治主導へ」。日本の場合は、明治以来ずっと官僚が日本を動かしてきた。しかし、そうであってはいけない。国民から選ばれた政治家が日本の政治を動かさなければいけない。ここまではいいんです。じゃあ政治主導とは何か。政治主導とは官僚に触らせないという事なんです。代わりにやるのは大臣、副大臣、政務官なんです。これは政務三役と言うんです。ここだけで物事を決める。先程官房副長官の話をしましたね。この官房副長官は3人いる。1人は事務次官出身の瀧野欣彌さん。この人は3月中は全然震災に関わってなかったんですよ。この何百年に一度という危機的状況の時に、4月1日付けの中央省庁の人事をやっていたというんです。私に言わせると誤った政治主導ですよ。30万人以上いる中央省庁の役人を使わないで、どうするのかという話ですよ。真の政治主導というのは、官僚を使い込んで最終的に自分達で決めるという事なんです。1つの会社でも会長、社長、副社長だけで物事を決める事は出来ません。

典型的な例をあげますと、海水を入れたりしましたね。その水は当然ながら放射性物質を含んで、溢れかえった。それを海に流しましたね。海は繋がっているから、国際的な問題になった。これは放射性物質が少ないという事だったけども、組織として連絡がいてないんですよ。これで菅さんは頭にくるわけです。説明が出来ないという話になる。今まではそうじゃなかった。決める所に必ず官僚がいたわけです。農林水産省、外務省、経済産業省、総務省等がいて、決った事は直ちに、外務省だったら東京にいる外国の大使館に、連絡がいくわけですよ。農林水産省だったら農協、漁協に連絡がいく。総務省だったら知事に連絡がいくのが、官僚組織なんです。ところが、一切入れないで決った後、官僚を呼んで動く。その時にはもう既に、官房長官の枝野さんが、記者会見で発表しているんです。そうすると、皆そこで初めて知ります。

こういうのがいたる所にある。そうすると総理大臣は自分の思い通りにならない。そこで「東京電力は言う事を聞かない。お前行ってこい」と、細野さんを乗り込ませるんです。「細野豪志だけでは足りない、馬淵も行って来い」と行かせる。行かされた方は、最初どうやって行けばいいかわからない。原子力の専門家でもないし、どういう具合に組織がなっているのかわからない。これも複雑なんです。東京電力本社、福島営業所、経済産業省、保安院、原子力委員会、原子力安全委員会の関係が一体どうなっているのか。後で馬淵澄夫さんに聞くと、理解するのに3週間かかったと言うんです。そうすると菅さんは、思い通りにならないから、色んな本部を作るんです。しかし、その本部長もよくわからないんです。福島では説明するのに悪戦苦闘で、対策が出来なくなります。本部作って組織作っても空回りしているから、今度は人を連れてくる。首相補佐官とか、内閣参与とか、役職を一杯作るんです。しかし、来た人間は一体自分は何をするのかよくわからない。しかも組織がない。一例をあげると、すっかり後光が消えちゃった蓮舂さんは、以前は食の担当だった。買占めをするから、防止するためにテレビに自身を映させる事を考える。そしてコンビニに行くんです。「こんなに物が無いのはけしからん」と話すんです。しかしテレビを観た人は「本当にないんだ、大変だ」と思って更に買いに走るんです。だから買占めの防止ではなくて、拍車をかけた結果になるんです。

こういう事を考えると、もっと組織を上手く使わなければいけないと思います。それが基本なんです。それと同時に、考えれば当たり前ですが、大災害が起きて最初に考える事は、助けを求めている人を救出するという事が1番。それと同時に助けられた人達の事を考えて、直ぐに仮設住宅を作らなくてはいけない。次に考えるのは食べ物はどうするのか。それだけではなく、復興のために今から準備しなければいけません。このように、いくつもの事を同時に行わなければいけない。原発問題は、今までに経験した事のない原発という目に見えない、耳に聞こえない、臭いがしないというものだから、一層恐怖を感じてしまうという事はあるんだけど、指導者ならば同時に考えるのが、当たり前だと思うんですよ。

例えば1923年9月1日に関東大震災が起きます。死者行方不明者は10万人にのぼりました。いつも大災害というのは政治が弱い時にやってくるんですよ。阪神・淡路大震災の時は、自民党と社会党とさきがけの自社さ連立政権。これは細川内閣、羽田内閣という2つの内閣が10ヶ月続き、自民党も痺れを切らして、何でもいいから政権に就きたいと、政策は地球の裏側ぐらい違う社会党と一緒にするわけですよ。それで村山さんという大変な人格者、人物でこれ以上の人はいないという人が選ばれます。この人は社会党の国会対策委員長になる時に、私は国会対策委員長になる程の人間じゃないと思っていたんです。それが自分が選ばれた。今度は社会党の書記長になる。私はとてもそんな人間じゃないと言う。委員長になる。とてもそういう人間じゃないと言う。そしてとうとう総理大臣にまでなるんです。だからどうなるかわからない。それだけでなく、今ほど技術が発達してなかった。例えば大変な被害が出て、わからない。自衛隊が飛行機で写真を撮っても、今は飛行機から写真を送ってくるけど、当時は出来なかった。そうするとテレビでNHKを観ているしかない。そんな事で対策が出来るわけがない。村山さんは人物がいいから、絶望的になっていました。自分は早く辞めて、巡礼姿で死者の冥福を祈ろうと、本当に思っていたんです。ただ巡礼に行く前にやる事があるんです。

ここは大事な事で、阪神・淡路大震災時の村山さんの初動は酷いものでした。途中からはよくなる。それは自分が何にも出来ない、無力だという事が分かった。そこで、防災担当である国土庁長官の小沢潔さんと呼ぶんです。しかし小沢潔さんが何処にいるかわからない。これだ

けの事が起きているのに連絡が取れないというので、直ぐに交代し、沖縄担当だった鹿児島出身の元気がいい、小里貞利という人を震災担当にしたんです。小里貞利を官邸に呼んで「小里さん、あなたは現地へ行って下さい。あなたに全ての権限を委ねる。自分で全てを決めていい。責任は全部私がとる。後で報告だけはしてくれ。」と言うんです。「責任は全部私がとる」と聞いた官房長官、官房副長官は感激したらしいですね。小里さんは兵庫県に行って、兵庫県知事貝原俊民さんと2人で始めるんです。2人だから作業が早いんです。このように、「あなたに全ての権限を委ねる、責任は全部私がとる」と今回も言っていたら、完全に違うんですよ。今の総理大臣から、「責任は全部私がとる」なんて一度も聞いた事がない。「私にも責任がある」とは一度も聞いた事がない。これは本当に「自分には責任がない」と思っているんです。東京電力の責任だと思っているんです。最初はそうかもしれない。しかし、途中からは違う。

話は戻りまして、1923年9月1日に関東大震災が起きるんですが、8月24日に加藤友三郎という、総理大臣が亡くなるんですね。当時は政友会と憲政会の政権争いが激しくて、政友会が圧倒的に人数が多かったけど、人数が多いと今の民主党と同じで仲間割れするんです。時は大正。元老が松方正義、西園寺公望の頃、元老の助言に基づいて山本権兵衛という人に、大命が降りるんですね。ところがなかなか内閣が出来ない。山本権兵衛は薩摩の人です。薩長は勝てば官軍ではあるが、国民的評判が悪いです。そこで、国民的評判のいい人が政権を一緒に作ればいいと考え、白羽の矢が立ったのが後藤新平です。ところが、山本権兵衛は薩摩の出身という事だけではなくて、海軍大将だったんです。海軍には将校出身の人がつくっている水交社というクラブがある。そこの本部に陣どって内閣を作ろうとするんです。皆海軍の内閣かと頭にきますね。後藤新平もそうだった。それと同時に、後藤新平は外務大臣をやりたいかった。ロシア革命で、1917年にロマノフ王朝というのが倒されて、新しいロシアの国が出来る。その後6年位経って、ロシアと日本が新しい関係を結ぼうと、後藤新平は力を入れていたんです。だから外務大臣になって、日露関係を良くしようと思っていた。ところが山本権兵衛が言ってきたのは、内務大臣というポストだったので、内閣に入らないと思っていた。しかし9月1日に大震災になり、後藤新平は今までの経緯全てを投げ捨て、内閣に入ろうと決心する。そして9月2日に、第二次山本権兵衛内閣が出来ると。そして新任式、今は認証式といって天皇の前で認められる。その後閣議をして、夕方家に戻ってきた後藤新平は、2階奥の書斎で復興の基本方針を一晩で書き上げる。それを更に1日詰めて、4日にきちんとした物にする。そして6日に政府として閣議決定するんです。

例えば、その中には、東京市内の土地を全部政府が買い上げるという案があった。慎重論が出て駄目になったけれども、阿鼻叫喚、10万人の人達が助けを求めている中で、後藤新平は「復興ノ議」を書くんです。この復興の基本方針に基づいて復興案が作られ、それが88年後の今の東京の姿なんです。例えば近代的な大きな道路。昭和通りというのがあるんですね。後藤新平は100メートルにしようとしたんだけど縮められた。それから銀座にある晴海通り、靖国神社前の靖国通り。こういう道路はその時の計画なんです。他に東京を円を描くように回る、環状線と言いますが、8本計画する。それまで道路は放射線状として、一点を中心にして延ばすか、碁盤の目のようにするかという考え方だったんです。それから、隅田川に架かる橋を、日本の歴史と伝統の重んずる橋にしなければならないという事で、絵描きに書いてもらった。そして展示するんです。それを美術家、思想家、建築家等の色々な人々に見てもらおう。そして、どうしたらいいか考えて今の橋になるんです。日本で最初の川縁の隅田公園。隅田川に行きま

すと川縁がずっと公園になっているんです。日本で最初の海辺の公園は、横浜の山下公園。これもこの時つくられました。都内117箇所の小学校を、全部鉄筋にして燃えないようにする。当時の予算で40億円とも言われている。それは後に7分の1に削られる。当時の40億を今のお金にすると百数十兆円です。

その時、後藤はこの東京を帝国の都、世界の模範になるようにしようとしたんです。私は菅さんが少しでも歴史を知っていたら、全然違っていたと思います。少なくとも誰かに聞いたっていいですよ。私に聞いたらその位の事は言いますよ。同時にいくつもの事をスタートさせなければいけません。私は指導者とはどうあるべきかと考えた時、今菅さんは一生懸命やっている。不信任と言う人もいる。しかし、一体何が悪かったのかと考えた時に、具体的には言えないものなんですね。菅さんは「福島に行って手を割かれて対応できなかった」と言います。実際そうじゃないんですよ。あの時は福島の皆が大変だった。だから菅さんを対応したのは、2人位しかいないんですよ。だから大変な支障になったわけではないんですよ。ただ問題が1つあるんです。何のために行くのか。これは激励に行かなきゃ駄目でした。怒りに行っているんです。だから皆やる気を無くしちゃう。せっかく行ったならば、一生懸命やっている人に感謝して、激励しなければ。怒られただけでは、たまったものではないという話。

そうやってみると、直ちに総理大臣を辞めるべきだという、決定的な理由ではないでしょう。私が順々に話してきた事を考えれば、指導者はどうあるべきかと考えた時に、落第点ですよ。しかし、本人は全くそう思っていない。自分は悪くないと思っている。だから、あれだけ強気でいられるんですよ。村山さんは自分が駄目だと思った。その時から完全に変わるんです。これは、この政権の持つ問題点でもあったんです。今度の政権交代は、平成維新だと言いました。50数年間本格的な政権交代がなかったんだから、明治維新に匹敵すると言います。しかし、あんまり自分に対して過大評価してはいけません。考えてみれば、明治維新とは似ても似つかない事が分かる。明治維新というのは、1192年鎌倉幕府が出来て武家政権になり、1868年明治維新が起こるまでの676年間、武家政権が続いたんですよ。そして、天皇を中心とした、中央集権国家にまるっきり変わったんです。生活の隅々まで変わるんです。丁髷切って、洋服に着替えて、牛鍋食べて、鉄道を敷設し、教育を広め、産業を興したんです。日本が植民地にならないため、近代化するんです。隣の中国では欧米列強に植民地にされていっている。そうならないため強くしなければいけない。このように生活の根本まで変わるんですよ。今回の政権交代は、政府の一部が変わっただけですよ。思い上がっている所がある。

謙虚なら人に聞き、歴史に学びます。学ぶ事が一杯あるんですよ。よく想定外と言います。想定外というのは色々な法律が整備されていないという事なんです。阪神・淡路大震災の時は大変だった。日本には有事法制がなかった。有事とは戦争、大災害、テロの3つです。例えば戦車が家まで屋敷まで入り込むと、それに対して後で保障するという法律がなければ、泣き寝入りになってしまうんです。仮に人権を侵したら、問題になるという事で作られましたが、阪神・淡路大震災の時にはなかった。例えば広島から自衛隊が救出に向かうわけですよ。早く行くために高速道路を通ろうとするんですね。ところが高速道路の料金所のおじさんは料金を取ろうとするんですよ。取るなと指示を受けていないから。ところが、朝早く、自衛隊はそんなにお金を持っていないんです。それで通れない。これは総理大臣の手を煩わせるまでもなく、建設大臣が道路公団総裁に「後でまとめて取る、今は付けておけ」とか「自衛隊は取らなくていい」と言えばいい。何も難しい話ではない。そして現地に着ても瓦礫が一杯で、処理しない

と先に進めない。しかし、道路上の瓦礫というのは勝手に動かしては駄目だったんですよ。警察官の立会いがなければいけなかったんです。道路上で猫の死骸があっても、勝手に動かしては駄目だったんです。道路交通法違反だったんです。しかし、警察官は人の救出に向かうから、瓦礫の所に来て立ち会っている余裕はないんです。それだけでなく、火災が起きて、消防車を呼ぶにも瓦礫があって行けない。進んだとしても断水しているから放水出来ない。ヘリで上から消火するしかない。ヘリで、薬品を撒こうとしました。ところが、被災者は家に閉じ込められるから、窒息死するかもしれないというんで、使うのは駄目になったんです。やっぱり水ということになりました。瀬戸内海にいっぱい水がある。しかし、問題になった。瀬戸内海の水は塩水なんです。塩水を上からかけるとどうなるか。電線にかかって錆びてショートする恐れがある。これは電気事業法違反なんです。電気事業法違反になるので、どこかに淡水、塩水じゃない水はないかと考えて、琵琶湖から汲もうという話になったんです。これは漁業法違反なんです。これは魚に影響が出るというんで、地元漁業の許可がいるんです。20数箇所漁業組合があるらしいです。全部に許可をもらっていたら、間に合わない。そして、とうとう出来なかったという話。馬鹿みたいな話でしょ。

そういう時に政治はどうしたらいいのか。法律が無い時は、それを越える事をしなきゃ、駄目なんです。実際に中曽根内閣の時に、伊豆の大島の三原山が噴火しました。溶岩が流れ落ちてくるので、大変。国土庁に災害対策本部が出来るんですが、役所同士でなかなか意見が合わない。そういう時は、内閣官房で調整すると内閣法にあります。その法律を盾にとって後藤田官房長官の下、内閣が指揮を執りました。一番大切なのは、人の命。溶岩だから逃げるしかない。逃げるとしても海があるから、走るわけにはいかない。船で救出するしかない。北海道や秋田から向かって間にも合わない。そこで大島の近くにある船を行かせるんです。例えば、南極観測に向かう「しらせ」がいました。管轄は学術研究だから、文部省。文部大臣を通じて行くように指示を出すんです。白瀬は南極に行くのが仕事だから、断る事が出来ます。しかし、断わろうものなら「死者が出たら、お前のせいだ」と脅されます。東海汽船という大きな船会社。ここに未就航船という、まだ航海へ出た事のない船があったらしい。そこは運輸省管轄で、運輸大臣を通じて東海汽船に行くよう指示を出します。東海汽船も行かなければいけない義務はないです。だけど「死者がでたら、お前のせいだ」と脅されます。そして船という船全部を大島に向かわせる。そして明け方、島民を全員脱出させる事に成功させるんです。考えてみれば法律違反ですよ。法律に基づかなければ、出来ないような事を人に強いるわけだから問題。問題だけれど、大切な事は人の命を救う事なんです。そのまま真似したのが、石原慎太郎東京都知事。三宅島噴火の時に、自衛隊に出動要請するんです。自衛隊を軍隊じゃないと言う憲法学者もいるんですけど、軍隊ですよ。軍隊を簡単に動かされたら大変ですよ。そのため手続きには時間がかかるんですよ。そこで石原慎太郎さんはまず自衛隊に頼む。それから手続きに入る。手続きが終わった時には、自衛隊が三宅島の傍まで行っているんですよ。そうしないと間に合わない。政治というのはそういうものだと思う。

今回、法律が無い時に、それを越える行動があるかという事なんです。見えない。それは国家を背負った事がないとか、市民運動出身者とかではないです。そんな事で罪を免れる話ではないんですよ。ここは仕切りなおししなければいけないんですよ。ただ内閣不信任案を出している人たちも問題です。私は第1回目の復興構想会議の時から、「仙台で国会を開くべきだ」と言ってきました。仙台で国会を開いていたら、被災地の現場でやってみると言いたい。1890

年に第1回帝国議会が開かれるんです。それから121年間東京以外で国会が開かれたのは、ただ1回しかない。それは1894年、明治27年の日清戦争の時。日清戦争は1894年8月に、日本と清国が宣戦布告をするんですね。そして9月に戦闘を交える。その時に、大本営という軍隊の総元締めが、東京では遠すぎるので広島に移るんです。そうすると明治天皇も行くわけですよ。そして「10月15日から広島で国会を開くべし」と詔勅を出すんです。そこで1回開かれただけ。どこにも東京で開かなければいけないとは書いていない。だけど、ずっとそうしてきた。なぜ仙台でやるべきなのか、1つ目に被災地の皆さんに対して、私達は復興のための予算の審議を、被災地の皆さんの所でやっているんですよと、その意思を示すことがあります。夜な夜な東京の料理屋で、こいつを潰すにはどうしたらいいかなんて話を被災地ではやれません。2つ目に節電対策になる。国会議員が行けば秘書も皆、行かなければいけない。新聞記者も行かなければいけない。そうすると節電対策になる。3つ目に観光対策。キャンセルが相次いで、修学旅行は9割減っている。そうした中で、国会が仙台でやっているの見に行く人もいるかもしれない。4つ目に何でも東京に集まればいいというものではない。「首都機能の一部を、非常時のために分散しておく事が必要ではないかという、議論をするきっかけになるだろう」と言いました。1回目の復興構想会議で大賛成。何度も言っているから「しつこいようですよけれども」と言うと、内館牧子さんが「しつこくありません」と応援演説をやってくれた。民主党の岡田克也幹事長も「それは橋本さん、いいアイデアですね」と言ってくれた。自民党もそうでした。ところが官邸は駄目。非常時の機械設備があるんです。それを移すのも、新しい物を作るのも大変だと言うんです。それから大臣と副大臣が、交互に東京を離れないように色々やっています、と言うんです。私はそれに対して、仙台まで1時間半ちょっとじゃないですか。私は今、八王子市から通って1時間15分かかっているんですよ。仙台でやれば全然違ってきますよ。政治は、真面目にやろうとしているんだなと、国民は感じますよ。福島知事が「橋本さん、ちょっと福島を素通りして行かないで下さい。」と言われたんですけど、仙台でないと、これだけの人数を収容出来ないから。ぜひ、この話はやったほうがいいと思うんですよ。こういう具合に、色々やらなければいけない。今度は政治の場に移った。これを具体化するためにしなければならぬ。

私が復興構想会議で不満に思ったのは、もっと色んな事が出来たのではないかという事。最初から最後まで言ったのは、6月の下旬に提言を出すというのは既定方針だけど、その間絶えず緊急の提言をしなければいけない。例えば、いったい瓦礫の処理はどうなっているか。そういう事を後押ししてあげるような事を、どんどんやらなくてはいけなかった。私は新しい内閣が出来るときなど、読売新聞に書かなくてはいけないのですが、予定していた講演会のキャンセルは普通出来ません。しかし復興構想会議が理由であれば、人を代える事が出来る程この会議には期待がありました。期待がある内に、色んな事をやらなければいけなかったが出来なかった。私はそれに対して強い不満を言った。しかし、金が伴っていないといけないう等、財政当局はすぐに許可を出さないわけですよ。それに合わせようとするから出来なかったのだと思います。

被災地の復興は、日本全体の復興に繋がらなければいけないと思います。これから日本全体の経済が落ちていき、それから日本から出て行く企業がどんどん出てくるかもしれません。そうすると地方はもっと大変になるんです。地方が良くなならない事には、日本全体が良くなならないんですよ。

先程ご紹介いただいた、図書館をなぜ作ろうと思ったのかを話します。1つは、私のお袋が自分の持っている里山に、16年前桜の木を植えた。そして桜の季節には、皆が弁当を持ってそこで花見が出来るように、ベンチも置きました。私はお袋の気持ちを引き継ぐ形で、図書館を作った。私の出身の三種町は、5年前に3つの町が合併しましたがけれども、人口19,000人、6,900戸で、空き家が3年前に300戸もありました。そして私の通った小学校、鯉川小学校が一昨年、19人しかいなくなりました。そこで鹿渡小学校という所と合わせて琴丘小学校となりました。学校が無くなるというのは大変な事なんです。まず子供の声が聞こえなくなるんです。寂れる一方なんです。それから子供にとっても良くないんです。車で移動して歩かなくなるんです。今までは2、3キロメートル歩いてきた。歩くと1つは上級生が下級生の面倒を見るんです。そして路傍に咲く花が綺麗だなと思うんです。飛んでいる蜻蛉にも命があると思うんです。朝から縁側開けて、夫婦喧嘩している家もあります。嫌だなと思うんですね。こういう家にはなりたくないと思うのも、大切なことなんです。歩かないから子供の体力がなくなるんです。今、東京の子の方が体力があるんです。なぜなら、一番新しく出来た大江戸線という地下鉄は深いんです。そうすると、登ったり降りたりするだけで、相当体力を使います。今完全に逆転しているんです。ここは、よく考えなければいけません。以前、鯉川小学校を統合しないでほしいと、町長に言ってきました。統合しそうになったら、テレビで話して阻止すると言いました。ところが駄目だった。学校は頑丈に出来ているんです。壊すのも大変です。数千万円かかるという話もあります。また、維持するのも光熱費がかかるんです。

去年の10月29日に、町長さんに図書館を作りたいと話し、大震災が起きるまでに6回に分けて2万冊を運んでもらいました。申し出に対して、町の予算もないので、梱包代も発送代も私が払う事にして、本棚も60個近くあったのを持っていってもらいました。小学校の後輩が便利屋をやっているから、夜通し走ってもらいました。一番喜んでくれたのは家族です。これでゴミがなくなる。母屋の応接間、廊下、離れや居間、そして2DKのマンションに書籍を置いていましたので、清々したと言っていました。鯉川小学校の校区には、7つの集落があるんですけども、その代表が集まって委員会を作って、ボランティアを募集しました。40人の人が手を挙げました。9割が家庭の主婦だったそうです。県立図書館に行って分類の勉強を1からし、ラベルを貼らなければいけない。女の人達だからやる事が温かいんですね。親子で読書出来る場所や、飲み食いが出来る場所に、女性達が持ち寄ったソファがあるのですが、手作りのカバーがかけてある。椅子には手作りの座布団が敷いてあって、温かさが全然違うんですね。そして色々な人が来ます。今度、慶応義塾大学の塾長も来ます。図書館をつくることには反対論もありました。「金がかかるのでもらった方が迷惑する。第一、そんな難しい本があっても、誰も読まない」と反対されました。私は読まなくてもいいと思った。そこに行けば、人がいるというだけでいいと。姑達が集まって、お茶を飲みながら嫁の悪口を言い合う。よく聞いていると自分の家の嫁の方がよっぽどましだと思って、家に帰って嫁に優しくなるという事もあるかもしれない。

とにかく私は人に来てもらいたいと思った。私は政治記者をやっていたから、一番尊敬出来る政治家に、看板を書いてもらおうと思って、家内に相談すると「それは中曽根さんでしょ」と言う。夫婦の中で初めて意見が一致しました。中曽根さんをお願いに行きました。「光栄です」と言って、5月27日で93歳になる中曽根さんは何枚も書いてくれました。ところがどういう行き違いがあったのか、私は「橋本五郎文庫」とお願いしたんですが、中曽根さんが書いた

のは「橋本五郎記念文庫」なんです。記念というのは死んでから出来るものなんです。困りましたね。しかし、看板というのは書いてもらった文字を拡大して、看板屋が作るんですね。櫛で作った物を、吹雪に耐えられるように彫ってもらった。彫るので、その時記念は取れるんです。やれやれと思ったら、今度は「秋田なのに、なぜ秋田杉を使わないのか」と、文句が出ました。秋田杉には色々種類があるらしくて、天然秋田杉の赤身という、樺の何十倍もする高い物にしました。それを探してきた人がいて、今日、その息子さんの結婚式に12時まで出ていました。

今、橋本五郎文庫に色んな人が来てくれるだけでなく、これを機に、色んな事をやろうとしている。教養講座、体力教室。数日前には、第1回橋本五郎杯グランドゴルフ大会がありました。私は優勝カップを贈りました。そうすると、どんどん色んな事が広がるんですよ。慶応義塾大学の塾長、清家篤さんという人が無料で来ますよ。キャスターの辛坊治郎さんも来る予定です。この前は創価大学の学長が来て、長寿の水という美味しい水で入れた、コーヒーを飲んで、その味が忘れられないと言うんです。だから素材は色々あるんですよ。そういう形で元気になってほしいなと思います。

去年話したかもしれませんが、『範は歴史にあり』という本を出しました。今度は『「二回半」読む』という本を最近出しました。読売新聞で本の書評を書いて13年になります。その書評をまとめたものを本にしました。本を書評する時には、まず1回目に赤線を引きながら読みます。それを抜き書きしたり自分の感想を書いたりして、もう1回読むんです。そのメモが20数枚になるんです。最後に本を読まないで、そのメモを見ながら書評を書く事にしているんです。大切な事は何なのか。まずこの人は何を言おうとしているのかを、虚心に理解するところから入らなければいけない。そのためには、2回読まなければいけない。ですから2回半読む。橋本五郎文庫へ行けば、私が書評した本、読売新聞紙上で170冊書評しましたがけれども、その殆どが置いてあります。そしてどういうメモを取ったのかを、全部出しています。著者からの礼状等も、了解を貰わずに置いてあります。綺麗に展示してあります。皆、家庭の主婦だから、考えてくれているんですね。中にはエッチな本もあるんですよ。私が心配になって電話したら、子供に影響がないようにちゃんと避けてくれていましたね。

『範は歴史にあり』という本のあとがきの中に、私がお袋から大学を卒業する時に言われた3つの事が書いてあるんです。1つ目は「何事にも手を抜いてはならない、常に全力で当たれ」。2つ目は「傲慢になってはいけません」。仕事に慣れてくると生意気になる。常に謙虚であれ。私は、今の民主党政権に、それを言いたいと思っているんですよ。皆、能力的には相当高いんですよ。中堅若手は自民党よりいいくらいですよ。だけど謙虚さが足りないと思います。傲慢になってはいけません。3つ目は「どんな人でも嫌いになる事はない。嫌だなと思ったら、その人の中に自分より優れているものがあるかどうか見よ」。この3つですね。言われてから41年経ち、お袋が亡くなって16年経ちますけども、私は1日として忘れた事はありません。出来る事なら、叶うことなら、あの世へ行った時にお袋に会って「母さんに言われた事は、ちゃんと守ってきたよ」と言いたいと思っています。「お天道様が見ている」という言葉があります。何処にいても、何をしても、自分は見られている。私にとって、お袋はお天道様です。恥ずかしい事は出来ない。政治家にとってそれは何だろうか。私は「私を捨てて公の為に尽くしている」その事だと思います。それさえあれば何も怖いものはないと思う。それが今見えるのかという事なんですよ。皆、自分の為にやっているようにしか見えない。ここが、1番の問題

だと思えますね。政治に対する信頼は、そこからしか生まれません。自分の事は棚に上げて、人の事ばかり言っている私も、反省しなければいけない事が一杯あるんです。昨日もそうでした。酔って家に帰ります。車を降りて玄関を開けますと、家内が出てきます。そして言われます。「お母さんが生きていたら、何と申すのでしょうか」。私は一気に酔いが醒めます。この前は晩酌も終わった後、私は書かなければいけない原稿もあった。そこでウイスキーの水割りを1人で作ろうとした。そういう時、人の足音がするとビクッとするんですね。娘は言うんです。「お父さん、ビクッとしないでいいよ。堂々としていい。」習性になっちゃったんです。その時に家内に言われました。私の母親はヤエと言うんですが「私名前を変えようかしら。橋本ヤエに」。人の事ばかり言ってる場合じゃないかと、私も反省しなければいけないなと思いました。

今日はこんなに多くの人に来ていただいて、本当にありがとうございました。

佐々木 ありがとうございました。今日はいつも穏やかな雰囲気の中、橋本先生から、秋田弁の迫力あるお話をいただきました。日本の将来について、色々考えさせられるものがございました。ここで2、3質問をお受けいたします。質問のある方は、挙手をお願い致します。

質問者1 秋田市の小林です。とても面白いお話をありがとうございました。質問と言うほどではないのですが、個人的には菅直人首相はわりと好きで、今時珍しいと言われます。橋本さんに1つ伺えるとすれば、菅さんに最近直接話をされて、傲慢だという感じを持たれておられますか。

橋本 はい、分かりました。これは1つ目に、反省が足りないという事がありますね。それから菅さんが総理大臣になる前ですが、小沢さんが辞めて、鳩山さんと岡田さんと争ったときがあります。その後選挙で鳩山さんが勝って、鳩山総理大臣が誕生するんです。その時菅さんに「なぜあなたは出なかったのか」と、食事の席で聞きました。彼はこう言っていた。「自分には支えてくれる人がいない。1人じゃ出来ない」。私は随分進歩したなと思いましたね。そのとおりで、総理大臣というのは1人じゃ出来ないんです。支えてくれる人がいないと駄目なんです。支える人がいるかどうかは本人がつくるものでもある。だけれども、菅直人総理大臣のために親身になって、支えてくれている人がいるのか。それは彼にとっても不幸な事。私は先程の話で、傲慢というよりも反省が足りないという言い方をしたのは、例えば大平正芳という人。私はリーダーとしては中曽根を一番尊敬していますが、人間としては大平正芳を1番尊敬しています。大平さんは1970年に「権力というのは奉仕する目的があって、初めて行使されるものである。」と書いています。総理大臣というのは大変な権力を使う。その前に誰の為にやるのかという、大義が先にきちんとなければいけない。今度の場合も、菅さんが早く辞める事がいい事かどうかは、疑問があるんです。今のままでやるべきだと思うんです。ただしその前に自分1人では出来ない。ただ今回の場合にこういうことがあるんです。亀井さんという人を、首相補佐官にして閣僚に原発担当を作ろうとした。それは辞任表明してから時間がたって、民主党の中に支持する人が少なくなった。そこで何処に求めたかという、支持してくれる亀井さんを求めたというわけです。すると、ますます民主党の中は駄目になっていくんですよ。

話が拡散するんですけども、私はこれまでにいろんな指導者を見ています。例えば中曽根康弘

さんの周りには、50数年間築いてきている色んな人がいる。あえてそのためには自殺も辞さないという、秘書がいるんですよ。その周りには色んな政治家がいるんですよ。その周りにはマスコミがいるんですよ。その周りには学者もいるんですよ。他に竹下登という人は、後ろを振り返ると「人間ピラミッド」と言っているほどの人脈があった。竹下登が死んでから何年も経ちますけども、誕生日と亡くなった日には、今でも皆集まるんですよ。それだけでなく、1年の間に記念日が一杯あるんです。なぜなら消費税を通すのは大変だった。その時に協力した人達が一杯いるんです。それで記念日を作り、集まって懐かしむんです。そうやって後ろを振り返ると、一杯人間ピラミッドがあるんですよ。これは大変な資産ですよ。いざ鎌倉、という時に来るとですよ。これを逆に言えば、小沢さんを私は「人間砂漠」と言っているんですけども、後ろに何も無い。今まで側近だった人達を皆切っていくんですよ。菅さんというのは何型だろうと考えると、どちらでもない。ただ少なくとも、彼を守るための人間のピラミッドは、見つかりませんね。指導者の条件というのは、その人間が長く政権を続けるかではなくて、国の為、国民の為になるかという事であり、最高指導者の周りに、色んな人間のピラミッドがないといけませんよ。先程話した村山さんは政治家としての技量は全くなかった。しかし人間として補っていたんですね。自分の事を棚に上げて、あんまり言えないけれど、そう思います。福田赳夫さんは「政治とは最高の道徳である」と言ったんですね。これに対して異論があるんですよ。人間が悪くたって、女遊びしたって、指導者としていい人間はいるんだと言えるかもしれない。しかし究極のところ、この人に付いていくということがなければなりません。それは「人徳」とでも呼ぶべきものです。こういう一番困難な時に、どうやって人を付いてこさせるかですよ。大義はあるんだから、今この被災地をどうやって早く復興させるかですよ。これ程の大義はありませんよ。だけどその中で辞めろという声が出ている。辞めろという人間もおかしいとは思いますが、そういう状況を作っていることは本人の問題でもあります。

佐々木 ありがとうございます。実は本日、行政のリーダーでもいらっしゃる、男鹿市の渡部市長さんがお見えになっていらっしゃいます。突然ですけども、ご質問いかがでしょうか。

渡部 東日本大震災の影響による日本の復興という事で、私はエネルギーが大きなポイントだと思うのです。復興会議の中で、あまり原発のお話が出なかったとか、太陽光発電も1千万戸は難しいという話でしたが、私が専門家にお聞きすると太陽光発電も風力発電もいけるという案が出ました。先生の思う、東北で出来そうな最新のエネルギー関係の話があったら、教えて下さい。

橋本 はい。風力発電は東北では有利だと言われているんですね。それから被災地の場合は塩水で3年間は使えないです。私が先程言ったのは極端であってはいけないという事であって、ただある程度は太陽光発電をやらなければいけない。今は駄目になった土地があるので、被災地を復興させる為にやりやすいんです。専門家ではトップランナーと言いますが、最初に誰かここをやって、上手くいけば次々やろうという事に、十分なりえると思います。原発の問題も、きちんと復興構想会議の中では意識してやっています。それからエネルギーの問題も、かなり書き込んであります。そのための研究拠点を、東北に作って研究していく必要があります。東北大学等があり、実績は毎年あるんです。かなり進んだ形で出てくると思います。また、東北一

体で考えないといけないと思います。知事達の中で協議して、分担しながらやっていくというのが、凄く大事だと思いますよ。秋田は、よく風力発電の事を言われているんですね。私が先程言ったのは極端な話で、海岸全部、風力発電になったらどうするという話ですけども、ある程度やらなければいけないと思います。それから新潟だったらLPガスです。東京に目を向けるばかりではなく、今秋田とのラインが切れているので、太平洋側と日本海側を結ぶ必要があると思う。そのためには道路も綺麗に整備しなければいけない。お金はかかるけれども高速道路も、山形では沢山切れているのを結ばなくてははいけない。大きな災害が起きた時には、早急に高速道路や新幹線を復興させる必要がある。こういう軸にあるものを早くやらなければいけない。そういう話が日本海側から出てきていないと駄目なんです。置いていかれるという話ばかりではなくて、東北の中で秋田、山形、新潟を含めてどうするか、日本の中でそういう役割を果たすかという話を、大震災というのを機にして考え直していかなくてはなりません。今まで田舎に道路をつくるのは無駄という意識だったんです。しかし、この機会に全体をどうするかという事を考え、自分達で何が出来るかを考えなければいけないと思います。

佐々木 ありがとうございます。それでは質問の受付を終了したいと思います。本日は正に今、様々な問題を抱えている日本の未来について、橋本五郎先生からお話をいただきました。私達は今、自分達で出来る身近な備えを、1人1人しっかりとしていかなければならないという事を、改めて考えさせられました。橋本先生、本日は誠にありがとうございました。これを持ちまして、橋本五郎先生のご講演会を終了させていただきます。ご静聴、誠にありがとうございました。

[講演]

ノースアジア大学 総合研究センター主催 講演会

「今こそ相撲史を」

講師	脚本家・ノースアジア大学教育諮問会議委員 本学総合研究センター客員教授	内館 牧子
司会	ノースアジア大学総合研究センター長 本学経済学部教授	海老川 寿美夫
日時	平成23年4月25日 午後1時～2時30分	
会場	ノースアジア大学40周年記念館 271教場	

海老川 本日は平成23年度ノースアジア大学総合研究センター主催・シティカレッジの第1回目の講演会に内館牧子先生をお招きする事が出来ました。私は今年4月からノースアジア大学総合研究センター長を拝命しました、海老川と申します。心も浮き立つ春の桜の季節、連翹が黄色の花を付ける時期に、第一回目の講演会を内館先生にお引き受けいただきましたこと、私にとってこれ以上の喜びはございません。

さて、先生はノースアジア大学の客員教授であり、本学の教育諮問会議の委員でもございます。そして先生は秋田ご出身のご高名な脚本家でもいらっしゃいます。内館先生をこの時期にお迎えしまして講演会を開ける事を、大変嬉しく思います。僭越ではございますが、ご略歴をご紹介します。

内館先生は武蔵野美術大学を卒業後、三菱重工業に奉職されまして、1987年には華々しく脚本家としてデビューされました。1993年には皆様もご存知のように、NHKの連続テレビ小説「ひらり」で、第一回橋田壽賀子賞を受賞しております。このように、煌星のごとく並ぶ内館先生のご経歴を、私共は非常に敬愛の念を持って眺めているところでございます。

また内館先生には次回8月に「エッセーの書き方」で、再び秋田にお越しいただく予定となっております。今回は「今こそ相撲史を」というテーマで、昨年を引き続きまして、お話を伺うこととなります。相撲のヒストリーに関して学術的な研究も含めまして、先生の最終的な結論が聞けるものと、非常に期待をしております。今回のテーマに関しまして内館先生をご紹介しますと、2000年に女性で初めて、日本相撲協会の横綱審議委員会の委員に就任されました。内館先生の素晴らしいところは、2003年に再度ご自分の専攻される学問の真偽の追究のため、東北大学大学院文学研究科人間科学専攻に入学されましたところですが、そして大学院での研究生活を続けられる傍ら、東北大学の相撲部の監督にも就任されております。

今、相撲界が揺れに揺れております。内館先生が日本の相撲史をどのように評価されて、どのような位置付けをされるのか、私も非常に興味深々でございます。前置きが長くなりましたが、内館先生、ご講演をどうぞよろしくお願い致します。

内 館 内館牧子でございます。こんなに褒められたのは初めてで、緊張しました。おっしゃるとおり、三菱重工業にいた後、脚本家になって辞めたんですけども、華々しい脚本家デビューどころか、当時の年収は2万円しかありませんでした。小さい頃から大相撲が大好きでしたが、まさか横綱審議委員になるとは思いませんでしたし、東北大学に入り直して、相撲の勉強をするとも思っていなかったです。そういった意味では好き放題やっている人生だという気がします。

ちょっとお伺いしますが、今日聴講にいらした方で、前回の「今こそ相撲史を」を聞かれた方はどれ位いますか。結構いますね。前回話した内容を後で復習します。そうしないと、今日の話が分かりにくいものですから。

私は横綱審議委員を10年間務める中、東北大学を受験したのは、大相撲における宗教学的な観点から、もう一回大相撲のバックボーンを知っておこうという理由でした。東北大学で学び修士論文を書いて、役に立ったのは朝青龍と喧嘩した時です。朝青龍も私も相当頭に血が上ってましたけども、私はきっちり大学院で学んでいますから「さあ、何でも言ってちょうだい」という気持ちで、大変良かったです。良くなかったのは、私が秋田出身だという事を多くの方がご存知で、タクシーに乗ると運転手に「いや～秋田の女性は凄いですね」と言われます。そのたびに秋田の女性に迷惑かけちゃったなと思ひまして、「藤あや子さんのように大人しい方

もいます」と言っています。

私と朝青龍の話題が余程インパクトがあったのか、菅総理から「ハッキリとものを言う人を選びたい」と電話を頂き、東日本大震災の復興構想会議メンバーになりました。この会議には同じ秋田出身で、ノースアジア大学客員教授である、読売新聞の橋本五郎さんもメンバーです。菅総理からは、復興会議というのは東北を今後どういう風に復興させていくか、構想を探る会であると説明を受けました。私の母は秋田、父は盛岡出身で、私も秋田で生まれましたから、完全な東北の人間です。でも、現実には秋田で学校を出ていないので、総理に「もうちょっと私より相応しい方がいるような気がします」と申し上げたら、総理が「女の人ではっきりと言う人はなかなかいないんです」と返答され、やっぱり朝青龍の一件かと。出来る限り頑張っていこうと思っています。

今日のテーマ、は震災が起こる前に決めていたテーマだったんです。ですから今時相撲かよと思う人もいるかもしれませんが、雨の中これだけお集まり下さったように、相撲というのはインパクトを与えているものなんだなという気がします。

今回八百長の問題が起きました。疑わしきは罰して、力士が20名程クビになったという状態で、再生を誓っているところです。大相撲が何よりも難しいのは、4つの性格を持っていることです。これがオリンピック型の純粋スポーツであれば、楽なんです。しかし、大相撲の場合はまず1つ目に「スポーツ」という側面を持っています。それから、2つ目に神様を祭る「神事」です。3つ目に「伝統文化」という側面を持っています。これは最低でも1300年続いていて、埴輪等でチェックすると1500～1600年続いているのではないかと言われてます。この3つだけでも大変なのに、もう1つ「ビジネス、興行」が加わります。そうすると神事であり興行でありスポーツであり伝統文化である。この4つはいくら考えても相容れないものです。

例えば、スポーツであればとにかく勝たなければいけない。ですから、朝青龍が「勝てばいいだろ、勝ちゃ文句無いだろ」と言ったのは間違いではないんですね。だから、勝つという側面は非常に大事です。

それから興行ですね。興行というものに徹すれば、面白いストーリーを作ること出来るし、八百長みたいな事もあって然るべきだろうと思います。私の好きなプロレスも「ハッスル」という団体がありました。それから「FMW」という団体が過去あったんです。これは全部ストーリーが決まっていて、それに沿って鍛え上げた肉体の男女が、肉体オペラを演じるようなものです。今はやってませんが、興行としてある時期一世を風靡したものです。内容は色っぽい女優さんや伝統文化の俳優さん等を連れてきて、レスラーとして試合に出してもらうわけです。彼らが本物のレスラーに勝ったりするわけです。誰が考えても和泉元彌が川田利明に勝つわけないけれど、川田利明に勝つんです。このようにストーリーがきちっと出来ていて、興行としてはとても上手くいっていたと思います。

大相撲には、この他に神事があります。神事に徹するということになると、これは勝ち負けやストーリーという事より心の充実。人間としての大きさや恥ずかしくない勝ち方をする事、それから土俵に上がる時には心身を清めて潔斎をします。それは神事であるからする事なんです。そうするとここに、「勝ちゃ、文句無いだろ」という考えは絶対に成立しないです。例えば、過去にある有名力士が12勝3敗をあげた。12勝3敗は素晴らしい成績です。相撲には3賞（技能、殊勲、敢闘）という3つの賞があるんですが、成績の上ではこの中の1つを当然あげてもよかった。だけでも選考会では名も上がらなかった。それに対し、週刊誌等を書いて

反論する人もいるんですが、選考会側の言い分ははっきりしているんです。勝ち方がよくなかった。つまり彼は立合いと同時に右や左に体勢を変化したり、はたき込んだりしていたんです。自分よりも体の小さい者と対戦する時に、変化したり飛んだりというのはよくない。それから自分よりも番付が下の者に対して、正面から受け止めないで飛んではたいたりもよくないということで、12勝しても何の賞もあげなかったわけです。これは神事として神の御前でやるスポーツとしては、あまりにも恥ずかしいだろうという事なんです。

更に伝統文化の問題があります。例えば丁髷です。そして力士は今でも和服を着ます。それから浴衣、泥着と言うんですが、力士は稽古の後でジャージ等は羽織りません。四股踏みをした後に泥着を羽織りますと、帯をしなくても纏まるんですね。それから数々の仕来たりというものもあるんです。今回色々な問題で、番付が十両までしか給料が出なくて、幕下以下は給料がないという事に、文句をいう力士もいましたけども、そういう伝統でやってきています。悔しかったら強くなりなさい、という非常に分かりやすいものです。例えば今、髷を相応しくないので切るとします。それから有識者によっては重量別にせよと言う人もいました。私はボクシングも好きなんですけども、ミニマムからヘビーまで体重によってクラスが分かれています。力士で言うと舞の海はミニマムです。曙はヘビーです。ミニマムとヘビーがボクシングで戦うというのは有り得ないんです。しかし、相撲の場合は舞の海と曙が戦う。そこに100キロ以上の体重差があるわけなんですね。そういった事も止めるという声もありました。ところが、相撲史を紐解いていくと、体重に関係なくやってきたというのは、1つの伝統文化としてあるわけです。ですからどこか1つを崩すと、相撲ではなくなるんですね。そしてそれを許した段階で、力士がボクシングやプロレスと同じように、花道を自分の好きな音楽を流してトランクスを穿いて入ってきたり、土俵は丸いリングになるという事に成りかねない。そうなった時に、これが1300年以上続いてきた相撲だと考えていいのかという問題があります。今話しただけでもこの4つは全然相容れないわけなんですね。

伝統の中でもう1つ問題になるのが、茶屋という制度があります。これは本場所に行かれるとよく分かりますが、国技館入り口の所に相撲茶屋というのが並んでいまして、暖簾をかけて綺麗な女将さんがいます。そして、たっつけ袴を履いた出方さんが席まで案内してくれるわけです。この茶屋制度は江戸期から続いているものなんです。今はチケットもぴあやローソンでも買えるようになりましたけども、本来は全部茶屋が仕切っていました。つまり茶屋が予めチケットを買い取るわけです。そして茶屋が窓口になって一般客にチケットを売る。茶屋はチケットと国技館内で食べるお弁当等食べ物と飲み物を売り、ビジネスにします。茶屋が買い占めてよくないという事で、何度も問題になったんですが、実は茶屋があったから興行大相撲が250年も、生き残ってきたという一面があるんです。なぜなら茶屋が全部チケットを買い取りますから、売れないという事が無いわけですね。ブームの若乃花、貴乃花兄弟の時には法外な値段が付いても客に売れたそうです。1つの例ですが4人で10万円の席が、4人で50万円でも売れるわけです。尚且つその上に弁当等のお金もある。どんどんグッズが売れる。だから茶屋はおいしいわけなんですね。茶屋廃止派はその部分だけを攻めてくんです。ところが、あらゆる仕事がそうだと思いますが、大相撲も冬の時代と春の時代は交互にきているんです。今は冬底の冬ですけども、過去にも冬の時代があって、お客さんが入らなかった時でも茶屋はチケットを全部買って、長い間やってきました。ある意味では互助組織ですね。

私がプロレスラーで有名な武藤敬司さんと対談した時に、武藤さんが面白い事を言ったんで

すね。「内館さん、力士はチケットを手売りに行かないの」と言うんです。手売りって何だろうと思ったら、レスリングやボクシング等の興行では、選手はチケットを渡されて自分でも売るそうです。私はビックリして「力士は手売りなんてしませんよ」と答えたら、武藤さんに「下っ端の子でもですが」と聞かれたので、「下っ端の子でも手売りはしないわ」と答えると「空席だと困るだろう」と言われました。その時期はちょうど不人気だったんです。私は「15日間空席でもチケットは売れてるのよ」と言うと、武藤さんは凄く驚いて「相撲界って体力あるんだな」とポツンともらした一言が印象的でした。この体力ある状況というものは、茶屋制度のおかげであるとも言えます。茶屋制度は、伝統文化として長い間相撲をここまで残す、1つの方法だったわけです。

この茶屋というのは国会でも問題になりまして、昭和30年代には、当時の社会党の代議士が「茶屋は酷い、利益を貪っておる、潰せ」という話で追求したんです。それで当時の理事長、常ノ花という横綱が国会へ答弁に行きまして、物凄く追い詰められました。今までお世話になってきているから、茶屋を簡単に潰す事は出来ない。けれども国会では全てクリーンに、平等にという考えなので言い分も分かる。そして追い詰められた彼は、理事長室で割腹したんです。一命は取り留めました。その翌日にはもう、新しい理事長がちゃんと立っていたんですね。それが双葉山の時津風政権です。双葉山は勿論人格者だし、角聖と呼ばれる人ですから皆が付いていき、すぐに新しいシステムができたわけです。そういう意味でも角界は大変ビジネス感覚にも長けたところがあるんですね。だから相容れない4つを、何とかここまで誤魔化してきたわけです。時代もそこを追求するという事はなかったわけです。暴力やクスリに手を出す外国人力士もいませんでしたし、国技は素晴らしいという事で、この4つが上手く共存しているかのように協会は見せていたし、国民も思っていた。

しかし、今ここにきて不祥事が山のように起きました。1つのきっかけは、横綱朝青龍があれだけ狼藉を働いたという事があると思います。彼は強いし、魅力的、チャーミングな青年です。だけれども横綱としては神事に関係する部分、伝統文化に関係するところには問題があった。朝青龍の壘行の数々と八百長の前に麻薬がありましたね。大麻を吸った人達。そこから相撲界の今まで闇の部分であった部分が晒されて、上手いかなくなってきたという事があります。

今回は八百長の問題があった。この時も世間からは「人情相撲っていうのがあるでしょう」という声はありました。例えば1人が7勝7敗で千秋楽をむかえ、相手が9勝5敗で勝ち越していた。そういう二人が取り組む時に9勝5敗の方が負けてあげて7勝7敗に1つ勝たせてやろうという事で、過去にそれらしきものがあったとは言われています。だけれども、協会は昨今、7勝7敗と勝ち越した力士が当たる事を避けるように組んできたんですね。だからそういう意味でも、協会は情が入るという事を嫌がっていたと思います。ところが今回はお金まで加わってという事で、大変な状態になっています。

相撲の歴史をきちんと学んでいれば、なぜ朝青龍が良くないか分かります。多くの人は「白鵬つまない、優等生過ぎる」と言うわけです。ところがよく聞いてみると、そういう人達の圧倒的多数が自分でお金を出して相撲を見に行っていないんですね。そういう人達に言われたくないですね。やっぱり白鵬は横綱としては見事だと思います。私は白鵬を相当きっちり見てますけども彼は素晴らしいと思います。前回62連勝でストップしました。「69勝いけば双葉山に並ぶ、70勝いけば双葉山を越す」と言われるたびに、白鵬は「双葉山ではなく、まずは62連勝

の谷風関を越えたい」と言っていたんです。谷風というのは仙台出身で第4代横綱です。第1代から3代までは、実は伝説の人物で本当にいなかったんじゃないとも言われてます。ですから谷風が実は初代横綱だったとされてます。白鵬は「双葉山ではなく、まずは谷風関を越えたい」と言い続けましたが、日本人力士の中に、谷風が62連勝した事を知らない人の方が多いわけなんです。それだけやっぱり彼はよく勉強もしていた。そして57、58、59連勝と勝ち進んでく時に、白鵬に畏れみたいなものが見えるんです。賢い人だなと思いました。そして、たぶん白鵬は谷風、その向こうの双葉山の記録に対して、俺が近づいていいんだろうか、これを破っていいんだろうかという畏れの念を持っていたと思います。そのまま70、80連勝しそうだったですから。私の個人的な考えですけども、白鵬は対戦相手に勝つより以前に、まず自分の中にある畏れと戦わなきゃいけなかったんです。畏れは頭の悪い人には絶対にありません。持ちようが無いと思います。

これは別の雑誌で読んだんですけれども、白鵬の事をずっと世話してくれていたタニマチに、白鵬が電話をしたんだそうです。その電話内容は白鵬が負けた後で、タニマチが雑誌に語るんですが「俺、勝たなきゃ駄目ですかねえ」と言ったそうです。聞いたタニマチは「そりゃお前、勝たなきゃ駄目だろう、頑張れよ。69を超えて70も超えて頑張れよ」と答えたと「そうですかねえ」と言ったそうです。それについてタニマチが「ねえ」がいつもより長かったとコメントしています。この「ねえ」の長さに彼が何かを考えていたと言うのです。そして彼は力一杯やったと思いますけども結果的に62連勝で止まった。恐らくそれは、双葉山の69連勝というのは、日本人にとって不可侵の聖域であり、そこを自分が侵すということについて、畏怖心があったんじゃないかって気がします。白鵬は62連勝だったわけですけども、それは結果的に彼のためになったと私は考えます。62連勝を達成した後で再び挑戦して、69連勝し、そして69連勝を超えた時には、日本人の国民的感情も白鵬の畏怖も随分薄れる気がします。

また、仮に白鵬が69連勝していたとしても、日本人が双葉山と同列には考えない理由があります。その大きな理由としては、双葉山が69連勝を成し遂げた昭和11年の頃というのは、1場所11日間だったんです。更に1年に2場所しかなかったので、全勝しても年間22勝なんです。昭和13年からは1場所が13日間になったんですが、それでも全勝して26勝です。つまり、双葉山は約4年間以上かけて、69連勝したわけですね。白鵬の場合は15日間の6場所ですから、全勝すると90勝なんです。だから1年で90勝出来てしまう時代の力士と、22勝しか出来ない時代の力士が69連勝した時に、これを同じに考えていいのかどうかというのが、国民感情としてありました。そう考えてみても、白鵬はもう1回勝ち上がって69連勝を超えたならば、その時は二回の挑戦によって計130勝近くなるわけですから、国民感情もよくなると思います。

相撲は元々神事でした。それは五穀豊穰をお願いする取り組みで、神に向かって何とか今年も沢山いい米を与えてくださいと、お願いをしたんです。その時に今もよくある言葉ですが、「1人相撲」というのがあります。大昔の1000年以上前は、豊作にして下さいと神をお願いする時に、ふんどしを禪（とうさぎ）と言いますが、禪一本になった男が、神と相撲を取るわけです。でも、神の姿は見えません。姿が見えないから、禪一本の彼が神の禪を取る真似をしたり、ぶん投げようとしてぶん投げられたり、張り手をもらう真似をしたりという事で、1人で演じてたわけなんです。1人相撲ですね。それで神に勝たせるんです。神に勝たせることによって、豊作にしようという事があったと言われています。ここの神事の部分というのは変えてはいけない部分なんです。

私が東北大学で論文を書いた時は、土俵を結界として考えました。結界というのは何かによってある場所を区切り、聖域を作る事です。そして、その場所には邪悪なものや障害物が入らないようにする。区切った中を聖域、区切った外を俗域とします。元々は仏教や修験道、山岳宗教等のやり方であり、修行をする時にある一画をきちっと区切って、その中で男達が激しい修行に耐えました。私は東北大学で論文を書く時に、土俵というのは20俵の俵で結界された、聖域ではないだろうかという仮説を立てたんです。その時に色々過去の学者の論文を調べたら、面白い事に結界には2通りあるということが分かりました。

垂水稔という、結界や境界の事を研究している有名な先生の分類方なんですが、建築的結界と装置的結界があるとしています。建築的結界の1番分かりやすい物は万里の長城です。あれは月から見えるというくらいガッチリと結界してあります。あの万里の長城を越えて、向こう側に障害物が入るといのは難しいわけです。他には西洋にあるガッチリした城壁も、簡単には突き破れない結界なんです。このように建築的結界は一目見て、簡単に入ってはいけないんだと分かるんです。この建築的結界が日本には非常に少ないです。建築的結界と言ってもいいかなと思うのが、土居。土の塊、城壁ですね。他には皇居の周りにお堀も加えていいかというぐらいで、殆ど無いんです。ところが、もう1つの装置的結界は、外国には少ないのに、日本には溢れるほどあります。これは装置ですから、すぐに乗り越えられるし、取り払う事も出来るんですね。例えば盛り塩があります。聖なる場所の手前にお塩が三角に盛ってあります。これはこのお塩を盛ったところから向こうは聖域ですと示している。ところが、これは飛び越えるのが簡単です。他に扇子があります。芸者がお座敷でお辞儀をする時に、目の前に扇子を一本置いてお客さんに礼をします。それは扇子から手前は私達玄人、扇子から向こうはあなた達素人の世界という事を、示していると言われます。それからもっと私達の身近な所でいくと、箸があります。中国で中華料理を食べるとお箸は縦に置かれます。それから西洋のお料理はイタリアンでもフレンチでも、全部ナイフとスプーンは縦に置かれています。ところが日本のお箸だけ横に置かれているんですね。これは食べ物を頂く側と与える側を、きちんと分けていると言われます。箸が装置的結界です。

もっと分かり易いのものに、結界石があります。1階が喫茶室で2階にオーナー夫婦が住んでたりする場合には、階段に結界石を置いてある事があります。倉敷の「エルグレコ」という、有名な喫茶店には置いてあります。握りこぶしの半分位の石を、紐で結わえて階段にポンと置いてある。これだけで万里の長城に匹敵する位、入ってはいけないという印なんですね。一般の家庭にもありますが、神社にも結界石が色々立っています。例えば葎酒結界という結界石は、四角い形をしていて葎酒結界と彫ってあります。これは精力の付く野菜、ニラや大蒜、お酒を飲んだ人は入ってはいけませんという印なんです。でも小さな柱が立っているだけですから、実は酔っ払いでも簡単に越えられます。しかし、これは万里の頂上に匹敵する位の力を持つ物なんです。他には女人結界、女の人はいれませんというのがあります。それから牛馬結界、昔は馬方さんがお参りする際に、牛馬結界の外に牛や馬を繋いで、馬方さんは手拭を取って、手を洗って口を漱いで、1人でお参りに行って帰ってきました。過去の日本人は皆、禁忌を示している事がちゃんと分かっていたわけです。それが伝えなかったこともあり、今や日本人は理解できなくなってきたという事があります。

これは、角界の親方が私に言った実話です。ある高名な女性政治家がその親方に「私、土俵という所に一度上ってみたいのよ、今誰も見てないからいいでしょ、上らせてよ」と言ったん

だそうです。それを聞いた私は驚いて親方に「どうなさったんですか、その時」と言ったら、親方は冗談じゃないと思い、若い衆に「塩を持って来い、ぶっかける」と言ってぶっかけさせたと言っていました。やっぱり、「誰も見てないからいいでしょ」という考えは、こういう政治家を筆頭に、昨今の日本人にはあります。過去には、数字も平仮名も満足に書けなかったような人達が、これはいけない事、禁忌であるとしっかり分かっていました。

相撲で考えますと、土俵の周りは結界していて、ここは聖域ですと示すものが沢山あります。その殆どが装置的結界です。建築的結界と言えるのは、国技館そのものかもしれません。なぜならば国技館の土俵は15尺あり、その中心から上に伸ばしていくと、国技館の中心に当たるんです。つまり、設計する段階で国技館の中心は、土俵の中心になるように出来ているんです。後は沢山の装置的結界があります。それを分かっているのが日本人の1番凄いところだと思うのですが、装置的結界は簡単に破ることが出来ますから、例えば朝早い時間に、女の人が国技館へ行けば、その気になれば土俵破りができるでしょう。それ位簡単な結界なんです。土俵の周りで聖域だと分かる1つには、土俵を20俵の俵で円形に結界しているという事があります。土俵はよく見ると4箇所出っ張りがあります。ただ丸い円ではないんですね。この出っ張りを徳俵と言います。徳俵というのは出っ張ってて、ここに足がかかっても負けにならないので、得だから徳俵という説があります。それもあるかもしれませんが、実はあれは雨水用なんですね。大昔に外で相撲を取っていた頃に、雨が降ると水が溜まって土俵が使えないので、徳俵を栓として4箇所抜くんです。そうすると雨水が外に流れていくという物です。それから違い垣です。昔は修験道の山伏達が修行をする道場に、壇を作り、そこに樁の枝を鋭角に切ったものを挿します。これによって魔物が入らないようにしていたのです。その名残が、この違い垣にあるという説もあります。それから、土俵の周りで聖域だとよく分かるのは四本柱。これは知らない人は「よんほんばしら」と読むんですが、読み方は「しほんばしら」です。これはいつぐらいから出来たのかは不明なんですが、1600年代後半ではないかと言われています。テレビで、四本柱がわかります。

四本柱というのは昭和27年までは土俵の上に立っていて、その上に屋根が付いていたんです。4本の柱に青、赤、白、黒の布を巻いていました。ところが相撲協会は先ほども申し上げたように、非常にビジネス感覚がいいですから、テレビ放送に邪魔だということと、観客が観にくいだろうということで、昭和27年に柱を切っちゃったんですよ。けれども日本の宗教観として、柱を4本立てて上を縄で結ぶと、そこに神が降りてくるというものがあります。例えば神楽を演じる場所というのは、必ず細い竹が4本立ててあって上を結んでいる。それから地鎮祭。これは世界の何処で行っても同じく、地鎮祭をやる時は必ず笹のような物を4本立てて結ぶんですね。そこに神が降りてくるわけです。そういう宗教観が日本人にはあるにも関わらず、四本柱を切ったわけなんです。これは凄い決断ですよ。普通は切らないです。神事の基本ですから。でも、協会は切って、柱に巻いていた4色の布の代わりに同じ4色の房を付けたんですね。これは春夏秋冬と東西南北を表します。ここに写真がありますが、青房ですと、春を結界してるんです。このように春夏秋冬と東西南北を4色の房が結界してるんです。この房には御幣が付いていて、本場所初日の前日に、神を乗り移らせる儀式があります。協会は大切な柱を切ってしまったので、代わりに房を上から吊るした。その房がある限り、あそこは結界された場所なのです。尚且つ下の土俵は、俵で結界されている。こうやって大胆に変化しました。

先程、修験道の山岳宗教の影響も受けていると言いましたが、山岳宗教の色は青、赤、白、

黒の他に黄色を加えた5色なんです。相撲の場合も房の4色以外に黄色があるんです。この黄色が何処にあるか気づかないと思うんですが、土俵の砂の色です。これは日本の「見立て」という文化です。見立てとは、あるものを何かに見立てるという事なんです。例えば簡単なことで言いますと、凄く素敵なグラスを貰ったから、これでビールを飲むだけでは勿体ないので、花瓶にしてお花を生ける。何かを包むのが本来の目的の風呂敷を、素敵だからスカーフに使う等です。日本人は見立てが物凄く得意で、外国の人達が驚く程です。

相撲の場合は、房を柱に見立ててます。尚且つ柱が4本立っているのではなく、周りがかっちりと壁で覆われているものと見立てているんです。柱の上には屋根もあります。この屋根も、最初は法隆寺と同じような作りの屋根だったんです。それが今は伊勢神宮と同じ作りになっています。仏教でも神社でも融通無碍ですね。それから水引幕というのがあります。テレビでもわかりますが、相撲協会の紋を入れて、紫色の幕が四本柱を巻いています。これも単なる飾りではないんです。北から巻いて北に納めていて、熱気や妖気というものを沈めている役割だとされています。それと、先ほど申し上げた御幣ですが、御幣に神を乗り移らせる儀式は、誰でも無料で見る事が出来ますので、よかったら国技館へ足を運んで下さい。日時は本場所前日の土曜日朝9時で、国技館に行きますと土俵の前に御幣が7本置いてあり、神官の衣装を着た立行司が土俵の上で神を降ろします。祝詞を唱えて御幣に、神が乗り移るんですね。この7本の内4本を、呼び出しさんが後で房の裏に全部付けます。残りの3本は行事部屋に持っていきます。ですから、ジャッジメントをする人たちは、常に神と共にいるわけです。そして日本の神というものは、用事が終わったら帰ってもらうんですね。だから、苦しい時の神頼みは凄く分かるんです。例えば地鎮祭等は柱を4本立てて来てもらう、お願いする、お酒を振舞う、そして終わると帰ってもらうわけなんです。相撲界は神に15日間国技館にいていただき、土俵をずっと見守ってもらった後、15日目が終わると帰ってもらいます。帰ってもらう儀式というのも観る事が出来ます。これは相撲を見る入場券が必要ですが、当日券で構いません。国技館で儀式があるのを皆知らないで、表彰式が終わると帰ります。しかしそのまま残っていると、やがてその年入門したざん切り頭の新弟子達全員と、一番下っ端のニッカーボッカーみたいなズボンを履いた裸足の行司が、行事部屋にあった御幣の1本を持って一緒に入ってきます。そしてお神酒を廻した後、一番下っ端の行司がこの神様が憑いている御幣を持って、土俵の真ん中に立ちます。そうすると新弟子達はその行事を取り囲んで、土俵の上で凄く高い胴上げをします。力士を胴上げするならともかく、行司は軽いですから、天まで行く位高く上がります。行司は怖いと言えずに御幣を持ったまま胴上げされるんです。これによって神は帰ったという見立てなんです。神がいなくなると同時に、国技館の土俵は聖域ではなくなって、普通の俗域になります。

とりあえず、これで復習を終えて新しい話をします。相撲は江戸時代から色んな事を意味づけしてきました。今申し上げた聖なる部分、神との接点、それから国技であるという権威付け。これらは相撲が今日まで残っている1つの理由であり、大変素晴らしいと思います。意味づけを始めたのは、江戸期の勤進相撲あたりからでしょうか。お客さんをお金で頂いて、そのお金で神社の仏閣を建てるというものです。その前までは聖域や宗教的裏づけはなかったんです。五穀豊穡の祈願はありましたが。

私は個人的には女性が土俵に上がるのは大反対なので、東北大学で説明出来るようになるために勉強しました。男女共同参画派は「絶対土俵には女も上がるべきだ」と言います。そう言

う理由が「一番最初に相撲をとったのは女なんだから、女を上げて下さい」という事を、多くの女性が言うんですね。ところが、私はそれを聞く度にお腹の中で笑っているんです。おそらく彼女たちは何かで聞いただけで、実際に自分では調べずに言っていますね。確かに相撲をとったのは女の事が、日本書紀に書かれています。西暦469年、言い換えると雄略天皇の13年頃に、猪名部真根という凄く腕のいい木工・大工職人がいたんです。彼は態度が大きくて腕が良い事を自慢していました。それを聞いた天皇は、彼を呼び、自分の前で仕事をしてみせよと言った。自信満々に猪名部真根が天皇の前で仕事をしようとした時に、天皇の合図で、まわし一本で上半身裸の女達が入ってきます。それで猪名部真根の前で相撲をとるのです。すると猪名部真根は、ついそっちを見て手元が狂うんです。そこで天皇は凄く怒り、猪名部真根に「いいか、謙虚になるんだ」と諭すんです。普通は首を斬られるんですけども、腕が見込まれてそのまま生かされて、ずっといい仕事をしたという言い伝えがあるんです。それを「初めて相撲をとったのは女性だ」と、男女共同参画論者が言うわけなんです。男の前で裸にさせられて相撲を取られるなんて、今で言うセクハラですから、彼女達は日本書紀を調べることもなく、言っていると思います。

相撲の権威付けで凄いのは、1757年に相撲協会が出来ているんですが、当時は相撲会所と呼ばれていました。親方達が集まって、組織を作ったんです。相撲協会の組織というのは、健康保険や国民年金等が磐石なんです。スポーツによっては怪我をしても、そのこの団体がお金を出せないというのが一杯あるんです。だけど相撲協会の場合は、1757年から続いているので組織力は磐石です。また、これは大きな差別なんですけど、1758年には穢多・非人の見物を禁止しているんです。当時は日本でもカースト制みたいな事があったんですね。穢多・非人という最低カーストの人たちが見る事が出来ない事によって、相撲そのものの格が上がり、由緒正しいものなんだと思わせたわけです。さらに、吉田司家と手を組んで、横綱を作る事にしました。当時は横綱というものが無くて、大関が一番上でした。ところが、吉田司家と共に横綱を作った。横綱は神の依り代である締め縄を付けて、綱を張らせて土俵入りをさせたんです。横綱の免許は吉田司家が出す事で、更に権威が付いてきたのです。また、権威で最たるものは、国技という位置づけになっていることだと思います。大相撲が昔から国技だと思っているコメンテーター達も、テレビで一杯いたんですが、全然そんなことはないんです。最近の1909年、明治42年に国技になったのです。それも誰かが国技だと言ったのではなく、自分達で言い始めたんです。明治42年相撲の常設場が出来まして、その時に相撲の常設場の名前について、話し合いがあったそうです。その際に板垣退助が尚武館という名前を言ったんです。それで決まる予定でしたが、江見水蔭という作家が、その尚武館落成のパンフレットに文章を載せた文章に、「相撲は日本の国技にして」という一行が書いた。それを見た親方衆が感心して国技館に決まったんです。そして、堂々と国技にしたんです。そうやってどんどん箔を付けていきました。相撲は凄いという事を見せていくと同時に、神との聖域の問題等も沢山付けていきました。更に今でもですが、女性は土俵に上ることが出来ません。ただし、これは国技館と本場所の土俵、そして靖国神社の相撲場等で、上っていい土俵も一杯あるんです。例えば東北大学の相撲部の土俵は誰でも上れます。なぜなら聖域ではなくスポーツ施設なんです。スポーツ施設の場合は勿論上っていいわけです。私は、東北大学の相撲部の土俵も聖域だと思っているんで、私自身は上らないんですが、ちびっこ相撲のイベント等や高校生位の女の子達が来て、上る事が出来るんです。

どうして土俵に女の人の上ってはいけないのかという問題ですが、簡単に言われるのが血の

穢れという事なんです。生理があって血で穢れているから女の人は上れないという事が、根拠が無いのに伝わってきたわけです。過去に朝日新聞はそれに怒り、同様に怒るフェミニズムの人達も沢山います。ではどうして血は穢れているのかというと、日本には穢れが3つありまして、とても嫌われた。3つとは、赤穢、白穢、黒穢です。赤不浄と言った方が一般的かもしれませんがね。赤不浄というのは生理における出血です。白不浄というのは出産です。黒不浄というのは死ぬ事です。例えば源氏物語を読むと分かる通り、病気で余命が短いと分かった妻は実家へ帰すのです。それは色々な理由がありますが、1つには黒不浄が宮中内で起こる事を特に嫌がったといわれています。桐壺帝が愛した桐壺更衣という女性も瀕死の時に実家に帰されます。女性の場合はこの不浄が3つ共あったわけです。

ここに、「血盆経」という女性達の血が不浄だと言われる、ベースになっている研究資料があります。これは恐ろしい内容ですが、昭和56年まで受容されていました。ここには女性が女として生まれただけで不浄だとあり、血盆経を唱える事によって、女達は救いを求めていたっというんです。現代語にしますと、

月に七日間の月経血と出産の悪血が神仏を汚すため、女は無条件に罰を受けるのである。女が流した悪血は地面に触れて、深さ八十万キロメートル、広さ八十万キロメートルの池になる。その血の池は女が自分でつくった地獄であるから、女として生まれた以上、身分が高かろうが低かろうがみんなこの地獄に落ちるのだ。

恐ろしいけども昔から伝えられてきたのです。これを女達が皆で集まって唱えてたら絶対にトランス状態になります。この後も怖いのです。同じく現代語にしますと、

血の池地獄に落ちると、髪は浮かび、体は沈む。沈むと大きなくちばしの虫どもが体にくいつき、肉を食う。何とか岸辺に逃げると鬼たちがまた血の池に突きおとす。向こうの岸辺に逃げようかと見ると、鬼どもがそろって待っている。生きていた時は化粧して美しかった黒髪も色が変わり、やせ衰えて血に染まった女たちは、食事がわりに丸めた血を食わされ、水がわりに血を飲まされる。女に生まれて血を流し、自分で悪業を作ったのだから当然だと言われ、女たちは泣く。その泣き声は千万個の雷の音より恐ろしい。悪業を作った女の身が悲しい。穢れた身として生まれた女たちは、だから血盆経を信じて唱えよ。そうすれば先に死んだ母親や姉妹も共々、この恐ろしい血の池地獄から逃れられるのだ。地藏菩薩が極楽浄土に連れていってくれるのだ。さあ、女人の成仏経である血盆経を唱えよう。

これを1981年まで唱えていたんですよ。今、受講者の皆が笑っているように、現代では変だと分かりますが、当時はこういう事が沢山あったんです。昔は白不浄であるお産をしても、麻酔薬ありませんし、酷い激痛と出血で女の人は死んでしまう事が多かったんです。そうすると産女という死霊になると言われる酷い世の中だったんですね。その差別の名残が今の相撲界にあると、土俵解放論者たちは言います。

この血の不浄という事について、実は男達は非常に血を恐れていたとする学者たちもいます。神から与えられた体が定期的に血を流すという事を、男は非常に恐れていた。だから、女達を血盆経等で排除したという事を書いている学者もいます。現実に昔の字では、霊という字を古

語で、「ち」と読んだそうです。また、他の学者は生理の時の血が、実は神とSEXした印であると言います。だから男達は女達を敵わない人種だと思い、差別したというわけです。そのため結界を作って、自分達の心をかき乱す女達を入れないようにしたと言われていました。

私が凄く面白かったのは、東北大学で研究論文を書くための発表会を、毎週行っていたんですが、先程話した血の問題を言ったら、クラスメイトの1人に質問されました。「男の力士が戦って血が流れても、それは不浄じゃないのですか」と。鋭いところを突いてくるなと思ったんです。相撲はプロレスと違って頻繁に血は流しませんが、力士同士が立ち合うと同時に、血が流れたりする場合があります。面白いと思って一杯調べたんですが、男の血に関する文献というのは少ないんです。その中に1つ、面白い文献を見つけました。メアリー・ダグラスという人が1985年に出した『汚穢と禁忌』という本です。一部を紹介すると、

肉体の開口部は、特に傷つきやすい部分を象徴している。そういった開口部から出てくる物質というのは、この上なく明白に周辺部の特徴を持った物である。例えば口。口から出てくるものは唾である。それからおっぱいと乳。それから尿、大便、涎、涙等。そういった開口部から出てきた物というのは、肉体の限界を超えたから出てくる。つまり、体から剥がれ落ちた物というのは、穢れとみられる。

と書いています。私はこれを読んだ時に、凄く分かると思ったんです。だから男の人の血というのは、開口部から出てきた物ではないので、穢れではないという事になるのだと思いました。血の問題を含め、女人禁制の理由ははっきりしていないですが、今も女性を土俵に上げていません。私は、男達だけで守ってきた芸能・文化・伝統、また女達だけで守ってきたそれらを、現代の尺度に合わせて男女共同参画、男女平等、グローバルスタンダードで、平らにならしてしまう必要はないだろうと思っています。沖縄には女達だけが参加する祭りがあります。そこに男達は入れません。そういう事を考えた時に男達だけ、女達だけと分けて守ってきた伝統文化は、侵すべきではないと考えています。

他にも相撲というのは色々な問題を抱えています。八百長問題をきっかけに、多くの委員会が出来て、相撲を改革する話が出ています。私は改革するのは賛成ですが、何を改革して何を保守すべきかをしっかり分かってないと、別のものになるので非常に怖いと思っています。

最初に申し上げた復興構想会議ですけども、梅原猛先生や安藤忠雄先生等の凄い専門家達がいて、皆で東北をどうやって守るか、復興させるかを考えているんですけども、私が考えるのは東北の何を守って何を変えればいいのかです。しっかり考えておかないと、ただ便利で綺麗なガラスと鉄の街になってしまったら、東北ではない。避難している人達が「また東北に住みたい」と言うのは、やっぱり故郷であり、何かの匂いというものがきっちりあったわけで、それが全部変わってしまったならば、東北ではなくなるでしょう。

今回は「エッセーの書き方」ですが、機会があったら相撲の闇の部分みたいな事もお話したいと思っています。簡単に闇と言って切り捨てると、相撲ではなくなってしまう恐れがあります。もし7月に本場所が行われて、テレビで放送されたら、ぜひ観て下さい。その時に、これが内館さんが言った御幣で、神様が宿っているんだとか、これは房だけでも万里の長城と同じ見立てだな、と思って観ると面白いと思います。

今私は、『源氏物語』を主題にした小説を年内に書き上げようとしております。『源氏物語』

を調べてみると面白いんですよ。高校生達が驚く位、光源氏は女にはやり手です。こういう部分というのは、高校でなかなか教えてくれないんです。いつか、『源氏物語』についてもお話できればと考えています。『源氏物語』はすごい研究者が一杯いるので、あくまでも私の『源氏物語』でお話しする事になります。相撲も合わせてご希望があれば致します。今日は長い時間ありがとうございました。(拍手)

海老川 内館先生、ありがとうございました。先生の碩学としての講演テーマの内容には、とても感心して耳を傾けておりました。では今からフロアの皆様よりご質問を頂きたいと思えます。どうぞご質問のある方はお手をあげてください。私共の職員がマイクをもって参りますので、お名前を教えて頂きまして、ご質問をなさってくださいませようお願いします。どうぞ。

質問者1 秋田市の石橋です。日本で一番早く相撲を許可してもらったのは、野見宿禰と當麻蹶速と聞いておりますが、お話に出た女の人と、どちらの時代が早いんですか。

内 館 今の質問は、先に相撲を取ったのは、當麻蹶速と野見宿禰なのか、先程の女の人なのかという話ですけども、當麻蹶速と野見宿禰の方が早いです。八代垂仁天皇の時で4世紀とされています。女たちの相撲は5世紀ですから。當麻蹶速と野見宿禰は2人で相撲を取って野見宿禰が勝つんですが、その時は、現在のように立会いの時に手を突いてなかったと古い書物には書いてます。どうしたかということ、K-1のように手と手を組んでました。相撲協会が相撲として一番最初に認めているのは、642年なんです。中国からお客さんが来た時に、男の子を集めて歓待のために相撲をとらせたのが、一番最初としています。

海老川 よろしいでしょうか。ではもうお1人。はい、そちらの方どうぞ。

質問者2 奥山と申します。2つ教えてもらいたいと思えます。1つは10年位前になるんですけども、秋田県鹿角郡の小坂町から、青森県碓ヶ関の方に通る道筋にある河上地区で、看板に谷風の生誕地とあったんです。2005年読売新聞に、「郷土見守る大横綱」という内館先生のエッセーが掲載されてまして、そこには谷風の出身地が仙台と載ってます。生誕地と出身地は違うと思えますが、詳しい話をお聞かせ下さい。もう1つは、「相撲」の他に「角力」と書くすもうもあります。この2つの相撲が、今日の話にどう関係があるのかなと思ひまして、質問させて頂きました。

内 館 谷風は第4代横綱ですが、3代までの横綱は実在しないという説があり、実は初代ではないかと言われます。そして江戸一番の人気力士で、浮世絵にも描かれました。秋田出身ではないかとの質問ですが、秋田で生まれたという説は根強くあります。過去に小坂の人から私のところに分厚い資料が送られてきて、谷風の出身は仙台ではない、秋田だという事を書いた書物が、届いた事もありました。正確には分からないんですが、調べた限りでは、1750年に生まれ、1769年に初土俵を踏んでいます。生まれたのは秋田ということもあるかもしれませんが、19歳の入門時にはすでに仙台出身になっているわけですから、育ちは仙台だと思います。また、当時の有名な武将は力士をお抱えしてたんです。織田信長は一時期、1,500人の力士を抱えてた

と言われており、谷風は間違いなく伊達藩のお抱えで、白石の片倉家の知遇を得たということからも宮城ゆかりだと思えます。谷風は小野川と対戦したんですけども、それは代理戦争なんです。つまり谷風と小野川の対戦は伊達と雲州の戦いです。負けたら自分で腹を斬る位の思いで戦ったといえます。

これと似たような話では、私がわらび座で小野小町のミュージカルを書いたんですけども、調べてみると小野小町の生まれた場所が50～60箇所あるんです。皆美人は自分の所から生まれてほしいものだから、主張が凄いです。小町は間違いなく、秋田の雄勝町出身というのはきちっと文献が残っていますし、研究者もそう言っています。しかし、小野小町は820年代の人ですから、死んだ場所をはっきりしません。特に主張が凄いのが京都なんですね。美人は京都でないと許せないという思いもあるんでしょう。京都で死んだというのと、秋田で死んだという2つの有力説があるんです。秋田死亡説の方が小野小町を見る目が温かいんです。「小町は94歳まで生きた。大きな洞穴に1人で住んで、畑でお米を育てたり、魚を釣ったりご近所の人から優しくされながら、幸せな晩年を過ごしました」というのが秋田説の見方なんですね。

京都は違うんです。「穴目のススキ」という言い伝えが残っているんです。「穴目のススキ」は何かというと、小野小町は美人を鼻にかけて、若い時に男を男とも思わずに傲慢だった。そういう悪い女は、年齢と共に美貌も衰えて、酷い目にあって死んだ。あるお寺のお坊さんが墓地を通った時に、痛い痛いと言った声がかげられた。誰が泣いているのか探したけど、何処で泣いているか分からない。痛い痛いと言った。見たらススキが1本生えていて、その下あたりから泣き声がかげられる。おかしいなと思って掘ると、小野小町の骨がなくて、目の穴からススキが生えていた。だから、「穴目のススキ」と言います。そのススキを抜いてあげると「ありがとう、楽になりました」と言って、成仏したというんです。自分の所の自慢の美人を、こういう風にはとらえないでしょう。だから、秋田で生まれて秋田で死んだな、と思ってわらび座の時には幸せな一生を送ったと書いたんです。

もう1つ「すもう」という字ですが、確かに2つあります。一般には相打つ意味で、「相撲」を使っています。ところが1757年に協会の前身である会所が出来た時には「角力」なんですよ。角力会所と書いていたんです。この違いというのははっきりしませんが、ある時から相まみえる、殴りあう、向かい打つという事で「相撲」になったと聞いています。私は「角力」という字を好きなんですけども、今は「相撲」が一般的でしょう。

海老川 お話はなかなか尽きませんが、時間を大幅に越えております。先生にはまた8月に「エッセーの書き方」のテーマでご講演会をお願いしております。内館先生には、東日本大震災の影響でまだ新幹線が繋がっていない状況の中、飛行機で来秋されました。飛行機の旅を、私共大変心配致しましたが、万全を期して来て頂く事が出来ました。有難うございました。改めて先生に盛大な拍手をお願い致します。

内 館 ありがとうございます。もうご存知でしょうけども、ノースアジア大学文学賞というのがあって、私は選考委員の1人なんです。エッセーと短編小説の部門があって、短編小説より最初はエッセーの方が書きやすいと思いますので、応募して頂きたいと思います。厳正に審査をいたします。8月に原稿用紙の使い方や書き方、テーマの探し方等を丁寧に、1時間半、お話ししたいと思いますので、ぜひいらして下さい。今日受講にきた高校生の人達もまたぜひ来て下さい。

本当にありがとうございました。(拍手)

海老川 内館先生有難うございました。それでは内館先生のご講演会「今こそ相撲史を」の本日の全日程が終了致しました。この後ノースアジア大学総合研究センターでは橋本先生のご講演会を初夏に、テレビタックルでお馴染みの福岡先生の御講演会を5月と7月に、多くの著名な方々のご講演会を予定しておりますので、ぜひ私共ノースアジア大学公開講座に足を運んでいただきたいと思います。今日はあいにく天候の悪い中を、御来場頂きましてありがとうございました。ご来場の皆様、どうぞお気をつけてお帰りくださいませ。(拍手)

[講演]

ノースアジア大学 総合研究センター主催 講演会

「エッセーの書き方

ノースアジア大学文学賞に応募しよう」

講 師	脚本家・ノースアジア大学教育諮問会議委員 本学総合研究センター客員教授	内 館 牧 子
司 会	ノースアジア大学教養・文化研究所長 本学教養部准教授	橋 元 志 保
日 時	平成23年 8 月 5 日 午後 1 時 ~ 2 時30分	
会 場	ノースアジア大学40周年記念館 271教場	

橋元 本日は、ノースアジア大学総合研究センター主催の公開講座、シティカレッジにお越しいただきまして、誠にありがとうございます。秋田県の誇る名脚本家で、本学総合研究センター客員教授の、内館牧子先生をお招きしてのご講演会を、開催させていただきます。

本日、司会を務めさせていただきます、教養部准教授、総合研究センター参与の橋元と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

内館牧子先生は『毛利元就』、『白虎隊』、『塀の中の中学校』など、大変素晴らしい数々のドラマを手がけられました、名脚本家でいらっしゃいますが、東京都の教育委員会委員や、横綱審議委員会委員など、様々な社会貢献活動も行っています。東日本大震災復興構想会議委員にも就任され、被災地だけでなく、東北全体の未来も視野に入れた、地域の復興を目指して、日夜ご尽力されています。秋田の夜空に輝く、あの竿燈のように、内館牧子先生がいつまでも元気で、地域の活性化を願う方々の旗頭として、ご活躍されますことを心から願っております。

さて本日は、「エッセーの書き方 ノースアジア大学文学賞に応募しよう」と題されてご講演いただきます。平成20年に創設されました、ノースアジア大学文学賞も、おかげさまで第4回目をむかえることができました。内館牧子先生は、文字通りこの文学賞の中心として、第1回目の開催からご協力下さっております。また併せてエッセーの書き方に関するご講演を毎年行っていただいております。文章の書き方の基本から始まって、プロならではの文章作法や鋭い文芸批評まで、大変内容の充実した一流の文章講座です。ぜひとも皆様、このご講義をきっかけに、書くことの楽しみ、自分自身を表現することの喜びを知っていただけたらと思います。どうぞ最後までご静聴ください。それでは、内館牧子先生、どうぞよろしくお願いいたします。

内館 内館牧子でございます。「今日は竿燈祭のために、きっと聴講する人が少ないですよ」と言われたのですが、これだけ集まっていたので、とびっきりの話をしようと思っています。昨日、私も竿燈を30年ぶりぐらいに観てまいりました。竿燈を観ながら「また、これで1本エッセーが書ける」と思ったんです。

竿燈をどのように書くつもりなのかは、ゆっくりとお話をしていこうと思います。ぜひ皆さんにはですね、ノースアジア大学の文学賞のコンクールに応募して欲しいんです。文章は、書けば書くほど間違いなく上手になりますし、慣れてきます。まとめ方が分かんないとか、書きたいことはあるんだけど、書けないとかそういうことはないんです。必ず書けます。これで直木賞やノーベル賞を取ろうとか、そういう話ではありませんので、まず自分で書いてみるということです。エッセーも小説も基本的には書き方の厳密なルールはありません。でも、最低限のルールは覚えておいたほうがいいので、その最低限のルールをお話ししながら、ぜひ9月の締め切りまでに1本。1本だけ書けばいいんですから。推敲と言って、いらぬところを削ったり、何かを付け足したりすることを、丁寧にやりながら1本書いてみて下さい。書くことは、間違いなく面白いものです。これから順を追って説明しますけども、大事なことは、「誰かに読んでもらう原稿である」という意識です。これが、手紙や日記というものならば、何を書いても構いませんし、例えばブログをなさっている方も多いと思いますけども、ブログではネット専門の言葉で、好き放題垂れ流すようなものの中には見受けられますよね。自分の満足感のためにではなくて、必ず誰かに読んでもらう作品である、ということ意識して書いていただ

きたいと思います。作品は1度きちんと書きますと、その後で崩すのは楽なんです。けれども、ずっと崩して垂れ流してた人が、その後で作品としてきちっとしたものを書くということは難しいでしょうね。ですから、私はまず作品として、きちっとしたものを書くルールというのを覚えていただきたいという思います。

私は美術大学出身なんですけども、そこではデッサンを必ずやります。デッサンは、例えばこの花だったらこの花を正確に写し取る、絵に描くわけですね。石膏デッサンなんかもあります。そういった正確に書くことができると、その後から抽象画を描こうが構わないんですが、最初から分かる人にだけ分かれば良いとって、基本ができていないのに崩してしまうと、やっぱりだらしなくなると教わりました。文章にもそれはあてはまると思いますので、まず最低限のルールを覚えていただきたいという思います。

それで、ご説明する前に、エッセーを書く上での注意という [資料] というのを配布したんですが、今回全く初心者からというのを考えておりますし、この中で原稿用紙の書き方があんまりよく分からないという方は、どのくらいいらっしゃいますか。わからなくても全然恥ずかしくないです。では原稿用紙の書き方からちょっと説明しますね。原稿用紙の書き方は、パソコンを使おうと、手書きであろうと一緒にです。それで、原稿用紙の書き方を学んでおく理由は、例えば皆さんがノースアジア大学の文学賞に応募するとか、あるいは魁新報とか、色んな新聞社の「声の欄」みたいなものに出すときであっても、原稿用紙の使い方をきちんと覚えていれば、見る側もかなり違います。

[資料 1]、「あなたもピアノを弾いてみませんか」出羽国子。これは私が作った悪い例文なんです。悪い例の全部をぶち込みましたから、これをやってはいけない例として、原稿用紙の使い方をご説明しようと思います。

[資料 1]

		あ	な	た	も	ピ	ア	ノ	を	引	い	て	み	ま	せ	ん	か		
													出	羽		国	子		
	わ	た	し	は	楽	器	と	い	う	も	の	に	さ	わ	っ	た	こ	と	が
な	く	て	六	〇	歳	の	こ	の	歳	ま	で	音	楽	は	ま	る	で	で	き
ま	せ	ん	(笑)	妹	は	バ	イ	オ	リ	ン	を	習	い	上	の	弟	は	ト	ラ
ン	ペ	ット	が	吹	け	て	ま	ん	中	の	弟	は	ギ	タ	ー	が	引	け	
て	下	の	弟	は	す	ご	く	ピ	ア	ノ	が	上	手	で	す	こ	れ	は	わ
た	し	が	子	供	の	時	は	家	が	貧	し	く	て	何	も	習	わ	せ	て
も	ら	え	な	か	っ	た	せ	い	で	す	(怒)	だ	ん	だ	ん	お	父	さん	
の	仕	事	が	う	ま	く	い	き	、	下	の	子	た	ち	に	は	楽	器	を
習	わ	せ	る	こ	と	が	で	き	る	よ	う	に	な	り	ま	し	た	。	う
ち	の	お	父	さん	の	仕	事	は	会	社	員	だ	っ	た	。	で	も	小	
さ	い	会	社	で	注	文	の	方	と	か	あ	ま	り	取	れ	な	く	て	つ
ぶ	れ	て	し	ま	っ	た	の	だ	(泣)	だ	か	ら	お	母	さん	が	お	手	
伝	い	さん	と	か	や	っ	て	育	て	て	く	れ	ま	し	た	。	私	は	
自	分	だ	け	が	習	い	ご	と	を	さ	せ	て	も	ら	え	な	く	て	上
の	学	校	に	も	や	っ	て	も	ら	え	な	い	こ	と	で	暗	い	人	生

を	送	っ	た	。	は	っ	き	り	言	っ	て	、	リ	コ	ン	も	三	回	し	
て	い	ま	す	。	ど	う	し	て	リ	コ	ン	の	方	と	か	し	た	か	と	
い	う	と	、	オ	ット	が	浮	気	を	し	た	か	ら	。	「あ	っ	ち	の		
女	の	ほ	う	が	い	い	か	ら	」	と	い	う	の	で	リ	コ	ン	し	ま	
て	、	そ	の	あ	と	で	オ	ット	は	病	死	し	て	、	い	い	き	み		
だ	と	笑	う	私	は	悪	い	女	で	す	か	も	う	二	回	の	リ	コ	ン	
は	暴	力	と	ギ	ャ	ン	ブ	ル	で	わ	た	し	は	す	ご	く	男	運	の	
悪	い	女	で	す	。	で	も	友	達	の	ヨ	シ	子	は	も	っ	と	男	運	
が	悪	く	て	オ	ット	は	人	殺	し	を	し	て	刑	務	所	に	い	て		
オ	ット	の	弟	は	麻	薬	に	手	を	出	し	て	つ	か	ま	り	ま	し		
た	。	あ	っ	そ	う	い	え	ば	芸	能	人	で	も	多	い	で	す	よ	ね	
麻	薬	患	者	は	多	い	で	す	。	体	に	悪	い	の	で	や	っ	て	は	
い	け	な	い	と	思	い	ま	す	。	下	の	弟	が	ピ	ア	ノ	を	教	え	
て	く	れ	る	と	い	う	の	で	習	う	こ	と	に	し	ま	し	て	、	今	
で	は	「	赤	花	の	ト	ナ	カ	イ	」	と	か	引	け	ま	し	て	み	ん	
な	に	「	す	ご	い	」	と	か	言	わ	れ	る	と	す	ご	く	嬉	し	い	
で	す	。	死	ん	だ	お	父	さ	ん	と	か	お	母	さ	ん	も	私	に	あ	
や	ま	っ	て	い	る	か	も	わ	か	ら	な	い	で	す	(苦	笑)	私	も	二	
人	に	あ	や	ま	り	た	い	で	す	今	は	妹	や	弟	と	み	ん	な	仲	
良	く	し	て	い	て	、	や	っ	ぱ	家	族	は	仲	よ	く	す	る	の	が	
大	切	だ	と	わ	た	し	は	い	つ	ま	で	も	思	っ	て	い	ま	し	た	。
あ	な	た	も	ピ	ア	ノ	を	引	い	て	み	ま	せ	ん	か	。	楽	し	い	
で	す	よ	。																	

まずタイトルです。タイトルは、自分で付けます。「あなたもピアノを引いてみませんか」というタイトルですが、この「引く」は引きずる方のひくですね。ピアノは引きずりません。それでも変換を間違ったり、それから自分で書いたりして間違える可能性はありますが、タイトル自体、「あなたもピアノを引いてみませんか」はよくないですね。

「わたしは楽器というものにさわったことがなくて六〇歳のこの歳まで音楽はまるでできません(笑)」。まず頭を1マス空けています。これは正しいです。書き始めと、段落が変わったところは、頭を1文字空けて書くんです。

「楽器というものにさわったことがなくて六〇歳のこの歳まで音楽はまるでできません(笑)」これ句読点(。)が無いんですね。

必ず文章の終わりには丸(。)を付けます。丸(。)は1文字使います。丸(。)、点(、)、かぎ括弧「」(?)(!)等は1文字使います。例文のように、文字とカギカッコをひとますに入れるのはダメです。行の最初は1文字空けます。

例文の後から三行目は、欄外に(。)を打っています。行の最後になった時にだけ、ここ(欄外)に打つことが多いんです。「ぶら下がり」といって、この時だけは、行の頭に打たず、欄外に打つことが多い。

ですから、「400字詰め何枚書いた」なんてよく言いますが、それはあくまでも1つのマ

スに文字もかぎ括弧「」も点(,)も丸(。)も全て、1つのマスに一つ入れます。二つ入ることはありません。

数字の場合はですね、これは新聞社や雑誌社によって違うんですけども、数字の場合は好きなようで構いませんが、例えば、二十八歳と書くときに、(板書しながら)1文字の中に「28」と横に入れる新聞社が増えてます。他に、「二八歳」と入れる人もいます。それから「二十八歳」とする人もいます。いずれにしても、1マスの中に入る数字は2つくらいですね。1925年と書くときに、1925を横並びにして、1文字に入れることはありません。数字は、算用数字でも漢数字でも構いません。基本的には、1マスに1文字から2文字入れると覚えていただければいいと思います。

「音楽はまるでできません(笑)」これは丸(。)がないですね。困るのは、この(笑)なんですよ。(笑)、(怒)、(泣)、(苦笑)を入れる人は多いですが、これは下品ですね。元々は、座談会なんかで笑いがおきたというときに、(笑)としていたんです。それが徐々に、手紙や文章にも入れるようになってきました。これは文章を発表しているような人たちの、手紙や原稿にもあります。例えば、テレビのレポーターたちが書いた文章は、結構(笑)とか(泣)とか入っています。これは、どういうところに使われるかという、ストレートに言うのは、ちょっと恥ずかしい。ストレートで言うと、ちょっと角が立つ。でも言いたいというときに(笑)で誤魔化すことが、結構あります。つまり態度が曖昧で、ずるいわけなんですよ。「音楽はまるでできません。」だったらいいのに、「音楽はまるでできません(笑)」ここに(笑)が入ると、できないということが、少し婉曲になって甘くなるわけです。これをわりとやるんですね。「私は6人兄弟で1番の美人と言われています(笑)」。1番の美人と言われているということを書きたいのに、(笑)でちょっと逃げるんですね。ちょっと逃げるというのは、私は個人的には下品だと思います。

私は絶対に使いませんが、やっぱり作品としてはまずいです。友達に出すお手紙は、百歩譲って(笑)や(怒)は構いませんけども、作品としてエッセーを書く、あるいは小説を書くときは、やめるべきです。例えば、「うちの娘は一流大学にストレートで合格して、私は本当に楽な母親です(笑)」。一流の大学に入って、自分は凄く楽だったということを書きたいのに、(笑)で逃げているんです。そういう計算だと思います。基本的には、エッセーを応募するときや新聞社に投稿するときは、(笑)、(泣)はやめたほうがいいです。

例文の「妹はバイオリンを習い」これもおかしいです。今度は妹の話になりますから、ここで行を変えるか段落を変える。あるいは、音楽の話であれば、続けて構いませんが、「まるでできません。妹はバイオリンを習い」本来ここは点(,)が入りますね。

「上の弟はトランペットが吹けて(,)まん中の弟はギターが引けて」これも正しくは弾くという漢字です。「まん中の弟はギターが弾けて、下の弟はすごくピアノが上手です。」「す」と丸(。)が一緒のマスに入っている。「す」も丸(。)も1文字使います。

どこで行変えをしたらいいかというのに、基本的なルールはないのですが、皆さんが書いていて、ここからはちょっと違う話になるというなら、行を変えた方がいい。そのとき、頭は1文字あけます。ですから「ギターが弾けて、下の弟はすごくピアノが上手です。」ここで行を変えて頭を1字空けて、次の文章です。「私が子供の時は、家が貧しくて何も習わせてもらえなかったせいです(怒)」。この(怒)も書く人は多い。週刊誌などにも、名前のある人が結構(怒)などと書いていますが、「家が貧しくて何も習わせてもらえなかったせいです」と普通に

書けばいいんです。怒っているんだということを書きたいのであれば、いかに怒っているかということ、文章にしなければいけないわけですが、これも（怒）ということで非常に上手く、少し婉曲に逃げているわけです。

「何も習わせてもらえなかったせいです（。）だんだんお父さんの仕事がうまく行き、下の子達には楽器を習わせることができるようになりました」ここでおかしいのは、「お父さん」ですね。これは「父」です。「お父さん」は、結構テレビでもいい歳のタレント、うちのお母さんがなんて言っている。私はそれだけでこの人のCDは買わないと思います。「お母さんが」とか、「私のお祖母さんの頃は」とか、それだけで頭の中見えちゃいますよね。やっぱりこれは父であり母なんです。祖母なんです。小学校1年生や2年生が、僕のママと書くのは許せません。だけどいい歳の人が、うちのお父さんと言うのはありえないです。

「だんだんお父さんの仕事がうまくいき、」これは点（、）が入ってますね。「下の子達には楽器を習わせることができるようになりました。うちのお父さんの仕事は会社員だった。」これも普通は、行が変わります。なぜなら、下の子達には楽器を習わせるという流れできていますが、次はお父さんの仕事のことですから、ここは行が変わって頭一字空けます。

「うちのお父さんの仕事は会社員だった。」突然「である調」になっています。

[資料]にも載っていますが、「ですます調」、「である調」、「体言止め」というのがあります。「である調」と「ですます調」というのは、基本的には1つの文章の中には、一緒にはさせません。効果を狙って、一緒にする場合はありますけども、基本的には「である調」は「何々である」、「何々であった」、という書き方で最後まで通します。「ですます調」は「何々です」、「何々でした」ということで最後まで通します。例文だと「音楽はまるでできません」は「ですます調」ですね。「下の弟はすごくピアノが上手です。」これも「ですます調」です。「習わせてもらえなかったせいです。」も「できるようになりました」も「ですます調」です。ずっと「ですます調」で統一するべきなんです。ところが、突然「うちのお父さんの仕事は会社員だった」ここで「である調」になっているんです。「でも小さい会社で注文の方とかあまり取れなくてつぶれてしまったのだ（泣）」これも「である調」になっています。途中で変えずに「である調」なら「である調」で、「ですます調」なら「ですます調」でずっと続けるのが基本的なルールです。

普通は「でも」や「しかし」、「だからこそ」等の接続詞の後には、点（、）を入れます。その方が分かりやすく、読みやすいからです。もちろん、人によっては入れないですし、厳密なルールではありません。「でも（、）小さい会社だったため注文の方とか」とありますが、「方とか」は凄く変でしょう。ここは「小さい会社であったため、注文があまり取れなくてつぶれてしまいました。」と書けばいいのです。

話し言葉で最近多いのが「方」ですね。「秋田に行く」と言えばいいのを、「秋田の方に新幹線の方に乗って行きます」、「飛行機の方に乗って行きます」と言う。お手洗いの場所を、ある劇場で聞いたとき、「そこにある階段の方を上っていただいて、左の方に曲がっていただいて、突き当りの方がお手洗子の方になっております」と言うんです。文章にも、そういう言葉が出るんですね。例文でも、「方」はいらないです。それから「とか」も物凄く多いです。話し言葉で「とか」が乱用されていますから。

例えば、医師はきちっと断言しないと、信用できなくなるところがあります。お医者さんが「あなたの病気は手術の方とか、やった方がいいのかな」などと言うと、こんな危ない病院は

ダメだと思います。これは医師であれば、「これはこういう病状なので、手術をした方がいいと思います。どうしますか。最終的に決めるのはあなたですが、医者としては手術をした方がいいと思います」と言えば、患者も考えられるんですけども、「手術の方とかした方がいいのかなみたいな感じ?」と言われたら、こんな病院すぐにやめた方がいいですね。それと同じで、特にエッセーの原稿も、自分の考えていることをしっかりと出すことになるわけです。ですからそこに(泣)だとか(笑)だとかで誤魔化すわけにはいかないし、話し言葉で乱用される「方」、「みたい」、「とか」、「かんじ」というのは、文章として普通は書きません。

例文の「つぶれてしまったのだ」ここは丸(。)が必要ですね。「だからお母さんがお手伝いさんとかやって育ててくれました。」ここで突然また「ですます調」に戻っています。ここは「だから(,)母が」ですね。「お母さん」ではなく「母」。「だから、母がお手伝いさんをやって育ててくれました。」の「とか」は何なのか?お手伝いさんの他にもアルバイトをしていたのか、針仕事をしていたのか、この「とか」には複数のものが予測できます。話し言葉で乱用しているということになる。お手伝いさんならば、「お手伝いさんをやって私たちを育ててくれました。」と書けばいいわけです。

「私は自分だけが習いごとをさせてもらえなくて上の学校にもやってもらえないことで暗い人生を送った。」話が貧しさから、自分の状況に移っています。ですから、「私は」で行変えした方がいいかもしれませんね。この「私」ですけども、1行目は「わたし」と平仮名になっていて、ここは「私」と漢字になっています。これはどちらかに統一した方がいいと思います。「私」なのか、「わたし」なのか、「あたし」なのか。統一して「私は自分だけが習いごとをさせてもらえなくて」ここに点(,)ですね「上の学校にもやってもらえないことで暗い人生を送りました」となります。「ですます調」ですから、「ました。」です。

「はっきり言って、リコンも三回しています。」これもよくあるんですが、「リコン」がカタカナになっていますね。これもやっぱりちょっと逃げです。ちょっとジョークめかして言っておきたい心理なんでしょうね。「離婚」と漢字で書くと、あまりにもストレート過ぎると思ったり、ちょっと笑いに誤魔化したいという時に、カタカナを使って書くことが結構あるんです。例えば、「姑」と書く時に、カタカナで「シュートメ」と書いたり。「シュートメ」と書くと、少し(笑)と同じような逃げ方ができる。これはやっぱり潔くないと、私は思いますね。例えば、「私は姑をシュートメのシューちゃんと、陰では呼んでいます」と文章を書くのであれば、シュートメでも構わないんです。「シュートメのシューちゃん」をくっきりとさせるわけですから。

例文で変なのは、「リコン」も変ですけども「はっきり言って」は必要がないですよ。別にはっきり言う必要がないので、「はっきり言って」ははっきり言っていません。「暗い人生を送りました。離婚も三回しています。」と書けばいいわけです。「どうしてリコンの方とかしたか」というとこれも変でしょう。「どうして離婚をしたか」というと書けばいいわけです。大体おかしな話し言葉、書き言葉というのは、全部物事を婉曲に、ストレートで言わずに済ませようというものが多いです。「どうしてリコンの方とかしたか」というとオットが浮気をしたから。」はい、また出ました。「オット」がカタカナです。これここに「夫」という字を書くと、浮気、夫というのが自分の中でちょっと重いんですね。「オット」と軽く書くことで、今私はそんなこと、たいしたもんじゃないという意味で、少し逃げてるんです。大体逃げる時は、こういうつまらないテクニックを使うんです。これは選考委員にはみえみえですから、理由があっ

てのテクニックならばいいんですが、そうじゃない場合はとてもみっともないです。だから「どうして離婚をしたか」というと、夫が浮気をしたからです。」と書けばいいわけです。

次は夫のセリフですね。これも行は変えた方が分かりいいでしょう。会話やセリフというのは、勿論本文に入れて書いてもいいし、そう書く人もたくさんいます。還暦の赤いトナカイという [資料 1] の2枚目をみると「姉ちゃん、ピアノ弾いてみない?」「何よ、急に。できっこないでしょ」「できる。俺が教えるよ。姉ちゃん、今年還暦だろ。ちょうどいい節目だ。決まり!」と書いてあります。私自身はセリフは、本文の中に入れて、全部1マス空けて、会話として独立させて書いてます。このやり方でも勿論OKです。あるいは、どうしても本文の中に入れてほしいと思う人は、本文に入れても構いません。「オットが浮気をしたから。『あっちの女のほうがいいから』と言うんですが」。

「というのでリコンしまして、そのあとでオットは病死して、いいきみだと笑う私は悪い女ですか。」これは、自己陶醉も甚だしいですね。こんな陶醉は、普通書きませんが、どうしても書くというなら、「あっちの女のほうがいいからというので離婚しました。そのあとで夫は病死して、いい気味だと笑う私は悪い女ですか。」とすれば、一応形にはなります。「もう2回のリコンは暴力とギャンブルで」この次に点 (、) ですね。「もう2回のリコンは暴力とギャンブルで (、) わたしはすごく男運の悪い女です。」結構こういう自己陶醉型の女はいるんですね。話を聞くと、たいしたことなかったりします。

「すごく男運の悪い女です。」ここの次も行変えですね。なぜなら、次は友達のヨシ子の話ですから。

その次は「あっそういえば芸能人でも多いですよね麻薬患者は多いです。体に悪いのでやってはいけないと思います。」と続いている。皆さん笑いましたけども、こういう文章は本当に多いです。ヨシ子の話しも唐突ですが、さらに芸能人の話に広がっている。「あっそういえば芸能人でも多いですよね麻薬患者は多いです。」というこれは、話し言葉なんです。話し言葉をそのまま書きたいといのであれば、「あっ」の後点 (、) です。

この場合、まずいのは自分のピアノの話がどこかに消えて、ヨシ子や芸能人の話になっていることです。

そして突然、「下の弟がピアノを教えてくれるというので習うことにしまして、今では『赤花のトナカイ』とか引けましてみんなに『すごい』とか言われるとすごくうれしいです。」「赤花のトナカイ」は鼻が赤いんであって、フラワーじゃないんですね。「下の弟がピアノを教えてくれる」というのは、別の話ですから、行を変えます。段落を変えた時は、必ず頭は1文字空けます。「下の弟がピアノを教えてくれるというので (、) 習うことにしました (。) 今では『赤鼻のトナカイ』とか。」「とか」というので、他に多分弾けるんだらうと思うんです。その時は「とか」よりも、「等」の方がいいでしょうね。「『赤鼻のトナカイ』等が弾けるようになり、みんなに『すごい』とほめられるとすごく嬉しいです。」ということがギリギリでしょう。

「死んだお父さんとかお母さんもわたしにあやまっているかもわかんないです (苦笑)」。ここでお父さんやお母さんと言うのも変です。「わたしにあやまっているかもわかんないです」「わかんない」というのは、話し言葉です。どうしても「わかんない」ということが書きたいのであれば、「死んだ父や母も私に謝っているかもしれませぬ」と書けばいいわけです。「私も二人にあやまりたいです」ここにも丸 (。) が入りますね。「私も二人にあやまりたいです (。)」「今は妹や弟とみんな仲良くして、やっぱ家族は仲よくするのが大切だとわたしはいつも

でも思っていました。」これまず「やっぱ」が変です。「やっぱ」は話し言葉で、話し言葉としても相当汚い言葉です。この場合どうしても「やっぱ」のニュアンスを書きたいのであれば、「やはり」でしょうね。また、よく書きたがるのは、「いつまでもいつまでも思っていました」、「いつまでもいつまでも余韻に浸っていました。」という表現で、これは常套句なんです。常套句、つまりはありきたりな言葉です。「やはり家族は仲良くすることが大切だとわたしは思わされました。」と書けばいいと思います。

次がタイトルにもなっているんですけども、どうしても書きたくなっちゃうのが、「あなたも をしてみませんか。」これは駅等で旅行案内のチラシにもよくありますね。この夏はあなたも秋田に行ってみませんか、被災地に行ってみませんか。この行ってみませんかは、あまりにありきたりで、避ける方がいいと、私は思います。「あなたもピアノを引いてみませんか、楽しいですよ。」という様な文章が胸に響くことはあまりないと思います。私は初めてやってみて、ピアノというものがどんなに弾けたら楽しいものか分かった。だから、皆にも勧めたいというようなことを書けばいいんです。そうすると、タイトルも「あなたもピアノを引いてみませんか」というのはあまりにも短絡的で、イージーなタイトルだなと分かります。

これと同じ内容でいくつか書き方があるんですが、一つの例として作ってきたのが [資料] です。「還暦の赤いトナカイ」というタイトルにすると、あなたもピアノを引いてみませんかよりは、かなりインパクトがあると思います。この「赤い」は、当然ながら還暦の赤と赤鼻をかけています。

「私には妹が一人、弟が三人いて、その長女である。私が育ち盛りの頃は家が貧しかったのだが、妹や弟が中学生や高校生になると、父の仕事がうまくいき始め、信じられないほど豊かになった。」

これで自分の過去を語っています。ここまでは1ブロックです。だから行変えしないで、このまま続けています。そして次に行変えします。

「その結果、妹も弟もバイオリンなどの楽器を習い、特に一番下の弟のピアノはプロ級である。大卒の妹や弟たちと違い、私はやっと中学を出してもらっただけで、もちろん楽器など何ひとつ触ったこともない。」

これで楽器と自分の、ある種のコンプレックスのブロックが1つできてます。そして突然話が変わりますから、また段落を変えて頭を一文字空けます。

「実は私は三度離婚を経験している。夫の浮気や暴力など、理由は相手にもあったが、私自身のあり方も問題だったと思う。妹や弟に比べ、あまりにもひどい育てられ方をしたことに對し、深いコンプレックスを持っていたし、ひがみっぽくて暗かった。」

これが彼女がピアノを習う前までの状況ですね。だからここで1ブロックです。そしてまた話が変わるので、行を変えて会話になります。

三度目の離れをした直後、下の弟が、突然言った。

「姉ちゃん、ピアノ弾いてみない？」

「何よ、急に。できっこないでしょ」

「できる。俺が教えるよ。姉ちゃん、今年還暦だろ。ちょうどいい節目だ。決まり！」

ここで姉弟2人のピアノに至るやり取りがあるわけです。次の行は、そのやり取りと別の日の動きで、話が違いますから段落を変えます。頭一字空けます。

そして翌々日、古いオルガンが届いた。弟が昔使っており、実家の物置きに突っ込まれていたものだ。六畳二間と台所の、私の狭いアパートにとにかく入れたものの、三度の食事はオルガンがテーブルというしまつ。

「あなたもピアノを引いてみませんか」の人もこの状況にあるわけですね。ところが、1番肝心なエッセーになりやすい面白いところを書かないで、ヨシ子の務所帰りの話になってるわけです。ここから弟の話に移っています。

弟は会計事務所を開いているので、

「二月から忙しいからさ、年末までにクリスマスソングくらい弾けよな」

と厳命。私もやるしかない。それに「ピアノを弾く自分」を思うだけで嬉しく、励みになっていた。

彼女の気持ちが少し変わってくると思います。それからまた話が変わります。頭1字空けて行変えします。

あれから九ヶ月、とうとう「赤鼻のトナカイ」も「ホワイトクリスマス」も弾けるようになった。そして、弟の家のグランドピアノで弾いてみるようになった。

行変えします。同じ日ではないわけですから。

黒光りするグランドピアノを弾くなんて、私の人生にはありえないと思った。大きく息を吸い、鍵盤に手をのせた瞬間、ドアが開いた。そして、三人の弟一家、妹一家がみんな楽器を持って、歓声をあげながら私を取り囲んだではないか。私は大泣きしながら、「赤鼻のトナカイ」を弾いた。総勢十五人がギターやタンバリンやバイオリンを合わせ、外国の映画のようだったと思う。

行変えをして

私は天国の両親に語りかけた。みんなが還暦のお祝いに、赤いトナカイをプレゼントしてくれたよ。私、幸せだよ。元気だよ！と。

この方が、先ほどと同じことを書いていても、ピアノを引っ張る人に比べると、かなり状況が分かるんです。今日は原稿用紙の使い方の説明ですけども、原稿用紙は、今の良い例と悪い例で見てください、書いてください。もし分からないことがあったら、後で質問をいただきます。それから [資料] の中に、 テーマの絞り方というのがありますが、これはちょっと長くなるので後にします。 言葉の選び方、先ほどお話ししましたが、常套句は避けた方が、文章に力が出る気がします。常套句というのは、紋切り型であり陳腐な表現なんです。たとえば「きらきら」を別の言い方で言い換えられないかということ、ちょっと考えてみるとかですね。これは決して面倒なことじゃなくて、こういうことができると、書くことが面白くなってきます。

例えば、最近読んだ読売新聞の中にあっただんですけども、「子供俳句」といって、子供が俳句を作るコーナーがあるんですね。子供は俳句を作ったときに、全然常套句を使ってないわけです。例えば「入学式一年生が唾を飲む」という俳句を、5年生が作っているんですけども、「入学式一年生が唾を飲む」というと、体育館でピッカピカのランドセルを背負う1年生が、緊張して初めての学校で、ごくっとなど唾を飲んでいるというだけで、ドキドキなどという、ありきたりな言葉を使わなくても、ずっと分かる。エッセーを書く上では、自分の中で注意しておくというのは必要なんです。

読売新聞の平成11年6月の「編集手帳」に、同じようなことが書いてありました。新聞記者が駆け出しの頃、陳腐な表現は使うなと先輩記者から教えられた。宿舍の甲子園球児を、例えば「底抜けの笑顔」と書きたくなります。先輩記者から「底抜けの笑顔」なんて書くなよと言われたそうです。それから甲子園の甲子園球児は、自分達の宿で食事を「ペロリと平らげ」、これも書くなよと言われた。それから景気がいいと、商店のオーナーは「恵比須顔で嬉しい悲鳴」と、これも書きたくなります。だけれど、「恵比須顔で嬉しい悲鳴」というのは、やっぱりあまりにもありきたりである。この記者はさすがに、もうそのような失敗はしなくなったけども、それでも例えば、「歯の根も合わぬ寒さ」等は書いてしまうことがあり、「眩暈がする程の空腹」、これも書いてしまうことがあると書いてます。「歯の根も合わぬ寒さ」はよく分かるんですけども、もうちょっと別の言い方ができないかなと考えると、エッセーが本当に1行のことで、すごく深くなるんですね。

その読売のコラムには、子供のことが出ています。被災地の小学校4年生の男の子が書いた文章に、「夜は画用紙1枚で寝ました」と書いてあったそうです。これはすごい文章ですよ。画用紙をかけたのでしょ。布団も毛布も何もなくて、夜は画用紙1枚で寝ました。それから今度は6年生の男の子が「貰った1個のおにぎりを、10分くらいかけて食べました」と書いています。おにぎりが1個しか貰えなくて、お腹が「ペコペコ」でとか、「お腹の皮と背中のお腹の皮がくっつきそうで」とか常套句を書かなくても、10分くらいかけて食べたと書けば、その方が切なさというのが伝わってきます。おそらくこの子たちは計算してないと思います。してないとは思いますが、ここに書いている記者さんは、紋切り型とは無縁の寒さや、空腹というのを、今の言葉から感じるということを書いています。そして、言葉の数や技巧を超えた1語1語が、読む者の目を立ち止まらせてやまない。言葉の力とは何だろうということを書いています。

今申し上げているのは、非常に高級なことではありますが、これを覚えておかれると、ずいぶん書く上で違ってくる感じがいたします。

紋切り型の話に戻しますね。例として [資料] のところに6人の方の文章を載せましたけ

ど、紋切り型の言葉はできるだけやめたほうがいいということです。

もう1つ言葉の力ということで、言葉ということで考えてみた時に、最近よく目に付くのは外来語に「さ」を付けるケース。外来語に「さ」を付けて名詞にするんですね。例えば、今日さきがけの朝刊を読んで、ビックリしました。「クリーミーさ」という言葉が出ているんですよ。ある秋田のお菓子屋さんで、新しい新製品を出した。とても美味しく、クリーミーさが非常にいいと書いてある。すごい言葉ですよ。記者さんが書いたと思うんですけども、私は以前からちょっと気になっていたんですけども、例えば「ビッグさ」。これはわりとよく使われます。例えば僕達の発表会を東京ドームでやろうという、とんでもない話がある。あのビッグさを考えると、僕達にはまだそこまでのビッグさはない。ビッグに「さ」を付けて、大きさということにしている。それから皆さんもよく目にすると思います。「ヘルシーさ」。これはとてもヘルシーだというヘルシーさ。それから「ナチュラルさ」。これも言いますね。よく通販の物をコマーシャルする時に、ナチュラルさというのがよく出てきています。それからよく耳にするのが「フレッシュさ」。こういう言葉が、はたしていいのかどうか、別の言い方ができるんじゃないかということも、ちょっと考えてみるといいと思います。「ビッグさ」や「フレッシュさ」より、「クリーミーさ」に私は驚きました。どうしてもクリーミーという言葉を使いたいのであれば、クリームのようなということですから、使うのであればクリーミーな触感だ、クリーミーなまろやかさだ、という風に使えばいいと思うんです。ですから常套句の他に気を付けるという意味では、外来語に「さ」を付ける時に、別の言い方がないかなとちょっと思うだけで、格が違ってくる気がします。

今までお話した中で、物凄く難しいと思われた方もいると思うんですが、実はこれは大して難しい話ではないんです。6人の方の例を挙げましたけども、この6人の例は非常に上手い例です。私は秋田魁新報を、いつも丁寧に読んでいるんですが、面白く、特に上手いなと思うものを6例出してます。また、7月29日の魁新報に、非常に素直でいい文章がありましたので紹介します。これは、工藤カネヨさんとおっしゃる、秋田市新屋の91歳の女の方が書いたものです。「優しかった母の思い出」という文章なんですけども、ちょっと読んでみますね。

私の母は、19歳のとき、私を産んだ。その後、2男3女が誕生、私たちは6人きょうだいとして育った。

幼いころ、父はしつげに厳しかった。そんな父は近所で「男前で、頭もいい」と評判だったことを覚えている。子ども心にうれしかった。

ただ残念なことに、私たちきょうだいは皆母親似で、誰一人父に似ていないと思っている。

母は、いつも元気で優しかった。背も高く、友達もたくさんいた。地域の誰とでも仲が良く、読み書き、そろばんも得意だった。お産で休んでいたとき、うれしそうに本を読んでいたことが印象に残っている。

父の留守中、いろいろを囲んで、私たちきょうだいに童謡を歌ってくれたり、いろいろな話をしてくれた。

父に叱られるようなことがあれば、長女の私が叱られ役。母は必ず助け舟を出してくれた。優しかった母に、どんなにか心安らいたことか、今でも鮮明に思い出す。

家の近くに、山菜採り名人のおばあさんがいて、地域の人たちは皆、誘ってもらいたがっていた。ある夜、母をこっそり誘いに来た。母のことがお気に入りだったようだ。

翌日、朝早く出掛けた母たちは夕方になって、リヤカーいっぱい山菜を積んで帰って来た。6人の子どもを、育て上げ、どんなに苦勞しても愚痴一つ言ったことのない母。頑固で気難しい父を助けた母。時折、懐かしく思い出す。「ありがとう」。

こういう文章なんです。これをお聞きになると、思いを素直に書けばいいんだなと、お分かりになると思います。この工藤カネヨさんは91歳ですけども、非常に素直に書いてるんですね。それも母のことをストレートに自慢してないんですよ。上手いなと思うのは、例えば「母はいつも元気で優しかった」これは普通ですね。その後で「背も高く、友達もたくさんいた。」工藤さんは「背も高く」と書いています。「背が高く」ではなく、「背も高く」なんです。「背も高く」というと、たくさん自慢することが備わっている中のひとつだと感じられる。すらっとしたお母さんが、凄く自慢だったんだろうなというのが、この「も」で分かるんですね。「母はいつも元気で優しかった。背が高く、友達もたくさんいた。」では普通なんです。「母はいつも元気で優しかった。背も高く、友達もたくさんいた。」という、背が高いということが娘にとって、その当時ですから、お母さんは今生きてたら、100歳をうんと超えてるわけですし、きっと自慢だったんだろうということが分かるんですね。それから「家の近くに山菜取り名人のおばあさんがいて、地域の人は皆、誘ってもらいたがっていた。ある夜、母をこっそり誘いに来た。母のことがお気に入りだったようだ。」これしか書いていないんですよ。だけど、地域の皆さんを誘わずに、こっそりお母さんを誘いに来てくれたという。これだけで、お母さんがどんなに彼女にとって自慢だったのか分かるんです。

工藤さんと違って、気をつけなければいけないのは、お母さんのことや夫のこと、特に孫のことになると垂れ流す人がいます。本当に家の孫は、可愛くて可愛くて、ばあちゃんのことをあーちゃんと呼ぶなどと、ずっと言うんです。他人にとっては勝手に言ってるという感じですよ。工藤さんの場合でも、お母さんのことを、もっとストレートに自慢の文章を書いてもよかったわけですね。うちの母はあの当時としては珍しく、スラッと背が高く友達から凄く好かれていた。何でもできた。その証拠に近所の人々が皆誘ってもらいたがっているが、山菜取りの名人は誰のことも誘わない。しかしある夜、うちの母を誘いに来た。うちの母を誘いに来たとき、皆がすごくビックリしてどうだこうだと、ずっと書いていいわけです。全然書いてないんです。だからこそ「ある夜、母をこっそり誘いに来た。母のことがお気に入りだったようだ。」この1行がすごく効くわけですね。非常に素直に書いているんだけど、抑えるところはきちっと抑えてるわけです。「翌日、朝早く出掛けた母たちは夕方になって、リヤカーいっぱい山菜を積んで帰って来た。」これだけしか書いていないんですが、自慢が分かるわけです。どうしても書きたくなるのは、近所の人々がどんな悔しい目でみたとか、なんでお宅のお母さんだけ誘われるのと隣のおばさんに言われて、気の毒だから山菜を分けてやったなど、そっこのほうに話しがいつちゃうんです。「どんなに苦勞しても愚痴一つ言ったことのない母。」こういったことは、皆さんも色んなところで目にしている文章だと思いますけども「時折、懐かしく思い出す。『ありがとう。』」というの、とっても素直で、やはりテクニックが全くありませんが、いい文章だと思います。素直にお書きになるというのは1つ、とても大事だと思います。

もう1つですが [資料] の テーマの絞り方と 構成が、ノースアジア大学の文学賞を取れるかどうかの、1番のポイントなんです。というのは私も石川好先生も今まで毎年沢山の応募作を勿論、拝読しているわけですけども、とにかく1番下手なのが、文章や今私が言ったこ

とではなくて、テーマの絞り方と構成なんです。物凄く面白いお話を書いているのに、あまりにも構成が下手で、何が言いたいのか全然分からない。何回も読んでみると、言いたいことが分かってきます。例えば、お母さんが秋田美人で有名だった、これが言いたかったのねっていうことです。ずっと余計なことを書いているのは、構成が下手なんです。構成というのはすごく大事です。

もう1つはテーマの絞り方です。さっきのことで言うと、ピアノを引きずる人の方は、ヨシ子さんの話など出てますよね。でもヨシ子の話はいらないわけです。エッセーの場合、また魁新報に投稿するときや、ノースアジア大学に応募するのも、エッセーの場合はテーマは1つでいいと思います。1つあればそれで十分ですね。例えば、「ピアノが弾けなかった私が、ピアノを弾けるようになった話」と、書きたいことを1行にして口に出してみるんです。それを書きたいんだと、自分の中で整理ができれば、ヨシ子の話はいらない、芸能人にも麻薬患者は多いですねという話はいらない、体に悪いからやめたほうがいいと思うというのはいらない、となります。自分がピアノをなぜ、今まで弾けなかったかという話は必要ですよ。そうやっていないものといえるものが区別できてきます。まず、一言で言うことをやってみたほうがいいと思います。

例えば昨日私は竿燈を観ていて、竿燈の話で1本書けるなって思ったんです。例えば、竿燈は横になって入場してきて、一斉に立ち上がるわけですよ。ゆらゆら揺れて秋田の稲穂のようだという、その話というのは勿論書けるわけですけども、それは色んな人たちが書いていて、全国の人はよく知っていることだということもあると思います。昨日1番感激したのは、子ども達が物凄く誇らしげなんです。ちっちゃくて細い体で、入場する子ども達が、俺達は秋田の男だというような感じで、胸を張って入ってくるんですね。私達は前のほうにいたので、私たちにハイタッチしてくるんです。その時の誇らしげな顔、そう考えると祭りというのは、凄いものだなと思いました。秋田市の穂積市長がご挨拶なさってたんですけども、その中で、私が本当にそうだなと思ったのは「竿燈というのは私達の魂です」とおっしゃったんですね。これと同じことを、福島県の南相馬市の桜井市長も以前にお会いした時におっしゃっています。「相馬野馬追は、被災の四ヵ月後ですが、今年はできませんよね」って私達も凄く心配して聞いたら、市長は「いいえ、何としてもやります。なぜならば相馬野馬追は、私達にとって尊厳に関わるものなのです」と答えられたんですね。尊厳ですよ。本当にそうだなと思いました。他の地域の方は分からないかもしれないけども、その地域で生まれて、長い歴史を歩んできた祭りというのは、その人達の魂であり、尊厳に関わるものなんだということ、昨日竿燈を観ていて思ったんです。それが子ども達に伝わっているわけですね。「どっこいしょ、どっこいしょ」という掛け声と、お囃子の中に身を置いた子ども達が、「もう俺達は秋田の男、米で育て、酒で磨く男になるのさ」というのが、まだ酒で磨けない体の細い子たちから、もう匂ってくるわけですよ。いいもんだなとすごく思ったんです。この子達にああやって尊厳、魂というのが受け継がれていく。中学生や高校生位のお兄ちゃん達は、その子たちが持っている竿燈がふらふらすると、さっとカバーしてくれてる。すると、やっぱりお兄ちゃん達に憧れるだろうし、「秋田市竿燈まつり実行委員会」と書かれた提灯を持ったおじいさんが歩いていけば、脈々と繋がっていくものだなと思ひ知った気がします。

そうして考えていくと、これは1つの切り口なんですけども、被災地の人達が祭りを復活させたいのが、非常によく分かるんですね。祭りというものが、その地域の人たちにとって、ど

れほど大きいものであるかということが見えてくる。それは昨日、私が竿燈を観てつくづく思いました。江戸期から形を変えながらも伝わって、子どもたちに伝わっていく。尚且つ、竿燈を一所懸命持って自慢げな子ども達というのは、日本で1番の学力を持つ子ですからね。その上、秋田は体力テストの結果も凄くいいんです。私は東京都の教育委員会委員なんですけども、東京都は順位が下の方で、石原都知事がかんかんに怒って、東京の先生達が、秋田に視察に来たというのがありました。竿燈を見ていると、秋田で育った優秀なこの子たちを絶対他の都県に流出させちゃならん、というところまで思いはいくんですよ。1回竿燈を観ただけで5本ぐらい書けるんですよ。本当にプロは、転んでもただでは起きないんです。

だから皆さんも、例えば竿燈なら竿燈の話を書くときに、何を切り口にするか。小さい時と今とでは、竿燈のあり方が変わったというのであれば、それも切り口になります。それから亡くなった父親が、おでこの上に竿燈を乗せて、物凄く自慢だったという話があれば、それも書ける。

昨日、ふれあい竿燈の時に寺町四区が目の前にいたんで、ちょっと観せてもらっていて「提灯の中は蠟燭？」と聞いたら、凄く綺麗なイケメンの小学生が、「蠟燭です」と言って、消えてた蠟燭を取って、「これあげます」と言う。私は驚いて、「えっ、ありがとう、蠟燭貰っちゃっていいの？」と言ったら「いいんです。これお守りになるんです」と言うんですね。貰ってきたんですが、そういう話も書けるんですね。特に安産には非常にいいお守りなんだそうです。横にいた男の方が言ってましたけども、「これがお守りになることを知らない人多いんですよ。でもお守りなんですよ。」って。それだけで秋田の人だったら1本書けるし、何とかあのお守りを手に入れて、娘に渡したいという話しを書けるし、孫が生まれた時に、孫が可愛い何なのと、ぐちゃぐちゃ書くよりも、竿燈の蠟燭1本を、やっとじいちゃんが貰ってきた。蠟燭を生まれたばかりの孫に握らせて、お前はこれのおかげでちゃんと安産で生まれてきたんだぞ、大きくなったら竿燈担げよと言った、という話だったら物凄く面白いんですよ。切り口というのは、こういうことなんです。だから自分が感動したものや、書きたいものを何処から切っていくかということです。それで非常に面白くなるわけ。孫のことや夫のことで、ただ単に自慢で可愛い可愛いと垂れ流すのは、人前に出す文章ではありません。

例えば健康という話を、書きたい人もいると思うんですけども、健康のためにジョギングをやっている。やっぱりジョギングをやると軽やかで、家に帰ってからの朝飯が旨いというだけの内容だと、全然面白くないんですよ。ただジョギングをやって、ご飯を食べるまでの時間経過を書いているだけです。千秋公園をジョギングでいつも走っている。その時に何か気がついたことはなかったのか。ジョギングから離れても構わないわけです。そこに不思議な犬がいた。この犬は、何があっても動かない。団体が来てもピクリとも動かない。何をしているのだろう。何か待っているのか。今日は雨が降っているが、犬はいるだろうか。俺は傘をさして千秋公園に行く。「あんた、何しに行くの？」と女房に言われた時に、「俺は雨なんかに負けないんだ」と宮沢賢治のように言って、あの犬に会いに行ったら書けば、これはこれで1つ面白い話になる。だからどう切り口があるかということです。それを、9月まで時間はたっぷりありますから、丁寧に考えてほしいと思います。

例えば最近ちょっと読んだ文章に、「最近はおばあさんっぽい人がいなくなった」ということが載っていたんですね。70代から80代でも皆おしゃれで、髪の毛染めてエステに行ったりして、凄くおばあさんっぽい人がいなくなった。これは安らぎではないということを知っている人が

書いていたんです。もっと昔は、おばあちゃんらしい人が多かった。そういうおばあちゃんらしさは、とても大事ではないかという内容でした。これを読んだときに、それも大事かもしれないけど、私は綺麗で若々しくて、格好いいおばあちゃんというの、いいじゃないかという気もしたわけです。そうすると、この話で1本切り口としては書けるんです。

最近、街を歩いていると、昔秋田でよくいた、おばあちゃんらしいおばあちゃんはいなくなったと思う、ということを書き行目を書く。女房に頼まれたパンを買って家に帰ったら、ドアを開けた女房は、私が言うのも何だが、非常に若くて美しかった。実は90歳である。90歳でも俺に用を言いつける。尚且つエステに行って、凄いおしゃれな服を着ている。これに対してとやかく俺は言う気は全くない。やっぱり女房は若くてこういう方がいいという話でも、書けるわけです。だから切り口を何処から切るかということは、非常に大事です。ありきたりのことを書いても全く構わないんです。例えば、先ほど紹介した91歳の工藤カネヨさんのように、お母さんが凄く優しかった、今でも懐かしく思い出す。このこと自体はすごくありきたりなことですから、これを書いてもちっとも構わないですね。でも彼女がすごかったのは、お母さんの自慢がストレートじゃないわけです。非常に上手く抑えて書いている。

ペットボトル1本でも書けるんです。いつからペットボトルは、こんなに人々の中に入ってきたらどうか、ティッシュペーパーもそうです。昔は布巾で拭いていた。今はティッシュペーパーです。都会では、ペットボトルじゃないと水が怖くて飲めないような、気になっているケースがあるわけです。はたして、ペットボトルは必要なかという話でも、書けるわけです。ですから、切り口をどこから書いたらいいかなというのを、よく考えていただきたいというのがあります。

それから問題は構成なんですね。何を書きたいのかというのを、1本きちんと決めてみてください。これで大きく違います。例えば、ペットボトルは本当に必要かというテーマでもいいですし、あるいはペットボトルの水は必要ない、水道で十分だということを書きたいと思ったら、それを縦に1本通します。そこから派生したことは、いくら書いてもいいんです。

「起承転結」という方法もあります。これにとらわれる必要はないんですけども、ひとつの方法として文章を4つに割る構成です。「起」はどんな話しか、その立ち上がりですね。「承」はそれを受ける。そして「転」で全然別の話になる。そしてまた「結」で結論がある。

例えば、「起」はペットボトルで飲む子どもが多い。本当にペットボトルは必要だろうか。「承」で俺は1度もペットボトルの水を飲んだことがない。もう60歳だが、いつも水道水を飲んでいる。「転」で全然違う話になる。「転」というのはひっくり返ることですから、全然違う話になって、大相撲では塩を撒いて水で体を清める。ここで突然違う話になるんですね。あの水はどこの水なんだろうかと、テレビで観ていたら不思議になった、というのが「転」ですね。調べてみれば、あれは水道水だと分かった。どうだ大相撲だって水道水を使っているんだぞ。そして結論。だから、やっぱり水はペットボトルにお金を出す必要はない。これが起承転結という分け方なんです。1番分かりやすいかもしれませんね。

時間がなくなりましたが、上手いのを読みます。例えば [資料 2] ですね。

資料 2 「ダンベル」

進藤 誠治 (72) 秋田市榎山

遅い朝食の後片付けが済むと、妻はテレビの前の指定席に座る。そして昼まで私と2人の

時間を過ごす。こんな一日がもう何年も続いている。

2週間ほど前のこと、指定席が昼近くになっても空席のままだった。何をしているのかと考えると、あるじ不在の息子の部屋から物音が聞こえてきた。行ってみると、息子が高校の時、体を鍛えるために使っていたダンベルを探しているという。

「ダンベルなど今ごろどうするつもりなのか。その年になってダイエットでもあるまいに」などと思っていた。やがて妻が「見つけた」と言って、重さ1^{*}のダンベル2個をちゃぶ台の上に置いた。「これで左腕を鍛えてください。この間買ってきた茶わん、あなたは重いようで、テーブルの上に置いたまま、ラーメンを食べる時のような格好で食べていました」

私が長年愛用していた食事用の茶わんを割ってしまった妻は、落としても割れない物を探して何軒もの店を見て歩いた。ようやく買い求めた茶わんは、差し渡し15^{センチ}もある分厚い作り。軽く飯を盛って重さを量ってみたら90^{グラム}もあった。片手ではとても持って食べられない。

毎日これとやってやることもないので、テレビを見ながらダンベルをもてあそんでいる。このごろは私が食事をする姿を見ても、妻は「みっともない」と言わなくなった。そういえば、心持ち力こぶが硬くなったような気がする。

すごく上手いエッセーです。これはやっぱり構成がすごく上手いんですね。「遅い朝食の後片付けが済むと」。これで読み手は、居間のテレビの前でずっと過ごしている70代のご夫婦の姿というのを思い浮かぶわけです。これは起承転結の「起」です。

「2週間ほど前のこと、」ここから承になりますね。「起」を少し膨らましてつなげてくるわけです。2週間ほど前のこと、昼近くになっても妻が席にいない。そしたらダンベルを探していた。ダンベルなんか、今頃どうするのかと旦那は思っていた。妻は、見つけたダンベルをちゃぶ台の上に置いた。ここまでが「承」ですよね。そこから「転」になっているんです。

これまでずっとダンベルの話できているのに、突然夫の筋肉がないという話に変わるわけです。ここで夫が90^{グラム}もある物をテーブルに置いて、犬食いのように食べていたんでしょね。「転」になっています。そして、片手ではとても持って食べられないというところで、「起承転」がきてます。

そして最後に結論。再び、構成としてテレビのある部屋に戻っているわけです。それで毎日これとやってやることもないから、テレビを観ながら、ダンベルをもてあそんでいると。一番最初の起と同じシーンに戻っている。これ上手いなと思うのは、「そういえば、心持ち力こぶが硬くなったような気がする」というラスト。これ悪くない終わり方ですよ。

これが構成がまずいと、例えばある時妻が最初っから「あんた何よ、その食べ方」って言われた。俺の食べ方に文句を付けられるようだって、ああだこうだってずっと書いてきて、「この茶わんは重くて持ち上げられない」と言ったら妻が怒ったとかどうだ、こうだっていうのがずっとあって、運動をやれ、運動はやりたくない。定年になってから何にもやってないからこういうことになるんだって、そういう話がずっと続いて、最後に妻が探してくれたダンベルを今持って、ちょっともてあそんでるっていう風に書くと、そこまで読むのにいい加減飽きちゃうわけです。だから飽きさせないための何かストレートな方法を考えたいということです。

[資料 2]「夫と見たホタルの瞬き」というのがあります。これは読売新聞に出ていました。

資料 2 「夫と見たホタルの瞬き」

榎田 富子 (66) 茨城県つくば市

先月の夏至の日、夫と2人で自宅近くの田んぼへホタルを見に出掛けた。夕食を済ませて夜8時頃に行くと、草むらに1匹、点滅しているのを見つけた。間もなくしてふわりと飛んでいった。子どもの頃もよく見たホタルなのに、今見るホタルは何とも幻想的で深い趣を感じた。

夫ががんの手術を受け3年が過ぎた。病気を受け入れて、一日一日を大切に生きている。一緒に暮らす私も、何気ない日々の出来事や風景が、かけがえのないもののように感じられるようになった。

これまでは夫婦とは言え、同じものを見てもそれぞれの受け止め方をしていたかもしれない。それが今は、ごく自然に重なり合っていると思えるのだ。来年1月には8人目の孫が誕生することもあり、命について何かと感じることの多いこの頃である。

帰り道、流れ星が見えた。これまでに見たこともないほど明るく鮮明だった。「あーっ」と上げた2人の声が夜空に吸い込まれた。

最初は夫と二人で近くの田んぼへホタルを見に行き、幻想的で深い趣を感じたわけですね。そして夫は癌の手術を受けて3年が過ぎた。ここまでで、「起承」ですね。次は「転」になっています。

これまでは、夫婦といっても同じものを見てもそれぞれの受け止め方があったけれども、癌を乗り越えた時に、これまでのことがちょっと違う目で見えてきた。

「結」は非常にどちらかというところ、起承転結の「転」のような終わり方をしていますけども、突然全く違う話に持ってきて、帰り道流れ星が見えた。これまでに見たこともないほど明るく鮮明だった。「あーっ」と上げた2人の声が夜空に吸い込まれた。という終わり方になっています。これが奇異に感じないのは、結局ここまでいくまでの「起承」がずっと命のことについて書いてるからです。だから最後にこういう終わり方、流れ星で終わっても、さっきのダンベルの人みたいに、リビングに始まってリビングに行かなくても上手く終われてるということなんです。

本当は少し例を詳しく出して、構成のことをみっちりやってあげばよかったんですけども、今の例でもお分かりになると思いますから、ぜひ書いて応募してください。楽しみにしております。

何か質問があれば。

橋 元 大変素晴らしいお話を、誠にありがとうございました。それでは続きまして、質疑応答に入らせていただきたいと思います。ご質問がある方、ぜひ手を高く挙げていただきますよう、よろしく願いいたします。

質問者1 手形山の谷間と申します。先生から本当に詳しく説明いただいたんですけども、原稿の書き方が分からないところがありまして、資料の 1 の4行目のところですけども「信じられないほど豊かになった。」そして、次の行で1マスを空けて「その結果」と入っています。私は「その結果」も次の行に移らなくて「豊かになった。その結果」と続けた方がいいのかなと思っ

たんですけどもどうなのでしょう。

内 館 それでも全然構いません。今おっしゃったのはですね、「うまくいき始め、信じられないほど豊かになった。」ここで行を変えないで「その結果」というのを続けようということですね。それは全然構いません。というのは今のご質問の場合だと「信じられないほど豊かになった。その結果」というのを全部1ブロックにして、貧しかった話とか気にさわったことがない話を1つのテーマとして、そこで扱うということですね。それで大丈夫です。今おっしゃったような方法もありますし、貧しかったということと、楽器の話をも2つに分けると今みたいな例のような分け方になります。何の問題もなく、それで大丈夫です。

質問者1 次の行に移るとき、すごく迷っていたこともありましたが、勉強になりました。本当にありがとうございました。

内 館 本当に次の行に移るときに迷うことってすごく多いと思います。私達が原稿を書いてても、ちょっとどうしようと思うときはあるんですね。だから自分の頭の中で、今書いているのは1つの話としてまとめられるのか、全然違う話なのかということを考えるのが一番わかりやすいと思います。今おっしゃったみたいに貧しさや楽器の話をも1つのブロックにまとめても、分けても、そこは個人の感覚ですから、神経質になる必要はありません。ぜひ応募してください。他にありますか。

質問者2 字が下手なのでパソコンで書こうと思うんですけども、応募の規定には40字×30行ってありましたので、パソコンで書く場合の行あけとかを教えてください。行とか点とかです。お願いします。

内 館 ちょっと聞き取りにくかったんですが、あれですか。原稿用紙が20字×20字じゃないって時ですか。

質問者2 はい、そうです。パソコンの場合40字×30行となっていましたので、字が下手なのでパソコンで打とうかなと思ひました。

内 館 はい。例えばですね、400字詰めで3枚とか、400字詰めで5枚というルールがあったときはパソコンでやるときも普通は20×20、1枚で400字が入るようにするのが普通です。1,500字以内とか1,800字以内とかってなったときはどんな字詰めでも、はっきり量が分かればそれでも構わないと思います。ただ普通は何行×何行と書いてなくても大体400字詰め20×20というのをいうのが普通になっています。20×20じゃなくても40×30でも、基本的にはルールは全て一緒です。一マスに一文字。そしてかぎ括弧も全ての記号も全部一マス。行変えは頭一字あけるってというのは、何文字詰めであっても全部一緒です。大丈夫ですか。他に何か。

質問者3 秋田市の伊藤と申します。質問させていただきます。今、質問された内容にちょっと似通ったことなんですけども、色々な場合で、そこがやはり問題になってくることが多いんですけど

も、こちらの応募規定の中に、原稿用紙である場合400字詰め5～10枚で、ワープロ原稿の場合は40字×30行と書かれているんですけども、具体的に申しますと、ワードの原稿用紙設定を使った場合は400字詰め原稿用紙という形式の方を利用してよろしいのでしょうか。

内 館 すみません。実は私全くパソコン使ったことがなく、家にコンピュータないんですよ。それで6Bの鉛筆と名前入りの原稿用紙を印刷して、それで書いているものですから、ワードというのがあまりよく分からないので、橋元先生をお願いします。

橋 元 失礼いたします。応募規定につきましてはですね、細かい点についてはご講演後、私に聞いていただければと思うんですが、一応今のお2人のご質問にだけお答えさせていただきます。ワープロ原稿で応募される場合は規定通りになります。ただですね、さきほどから先生が何度も言われていらっしゃることは正確なこととして、どんな形式でも原稿用紙の使い方に準じてください。つまり改行する場合1字下げますし、句読点ですとか、かぎ括弧は一文字分とっていただくという形式です。ただワープロ原稿の場合はですね、原稿用紙と違まして1枚は400字にならない、規定どおりに40字×30行で1枚は1,200字になるということです。字数が多くなるというだけで、書き方は全く変わりません。先生がご講義くださったように、改行ですとか句読点、かぎ括弧など使ってください。お願いいたします。細かいことはぜひ、後で私に個人的に聞いてください。

質問者3 わかりました。ありがとうございます。

内 館 応募規定を見て、今始めて分かったんですが、40字×30字で印字って書いてありますね。私のさっきの答えは全然答えになっていませんね。いまだに私6Bの鉛筆で書いていまして、原稿用紙に全部手書きなんです。大河ドラマなんか1万枚それで書いて風呂敷に包んで原稿を渡していたものですから、皆からなんてアナログな女なんだって言われたんですが。そんなわけで分からなかったんですけども、選考の上では手書きであれ、パソコンであれ全く差別はありませんから、ご心配しないで下さい。もし分からないことがあったらもう1回ぜひ聞いてください。原稿用紙の書き方は一緒です。全く一緒です。他には大丈夫ですか。大丈夫そうかな。

橋 元 本当にありがとうございます。エッセーをはじめとする文章の書き方につきまして、大変具体的で実践的なお話をいただきました。ただテーマに関するポイントで触れられました、秋田の竿燈のことですとか、相馬野馬追のお話は文章を書くためだけではなく、皆さんの心にある、とても大事なものを呼び覚ますようなお話であったかと思います。本日は大変素晴らしいご講演を、誠にありがとうございました。

内 館 もう1つだけPRなんですけども、秋田ってTBS入らなかったでしょうか、もし入る人がいれば8月27日の土曜日に、以前私が書いた「塀の中の中学校」というドラマの再放送があります。これは殺人だとか色んなことをやった受刑者が、実は字も読めなかったり、本も読めない、数字も書けない九九もできないという人がだいたい全国に1,600人位いるんですけども、義務教育の中学も行けないで、親と一緒に転々と逃げるよう

な生活があったり、親に捨てられたりとか色々な事情があって、読み書きそろばんが全くできない受刑者が1,600人位いる。そのため長野の松本にある少年刑務所に、公立の中学校を造ったんです。受刑者を集めて教えるんです。読み書きそろばんですね。例えば受刑者は「 2×2 が15」とか言ったりするわけですよ。「 3×5 は83」って言っちゃう。字も読めない。それを1年間かけて中学3年分の勉強を叩き込むわけです。その結果、彼らは字が読めるようになって、数字が分かるようになって、年齢には関係なく出所したときに再犯率が非常に低くなるそうなんです。教育の大事さと、いくつになっても学び直すことの大事さをうたったドラマで、男の人しか出ないドラマを書きまして、それが去年の秋に放送されたんです。こっちだとケーブルテレビで岩手放送で見られると思うんですけども。それが今年、モンテカルロ・テレビ祭という国際コンクールでグランプリ「最優秀作品賞」を貰いまして、それからモナコ国際赤十字賞、渡辺謙さんが最優秀男優賞というのを貰ってトリプルで受賞できたんです。(主演はオダギリジョーさん)。それが8月27日に再放送があるものですから、ぜひ見ていただきたいなと思ったんですけども。やっぱり学び直すっていうことが、どれくらい大事なことかということがすごく良く分かります。1番年齢が高い中学生を大滝秀治さんが、演じておられます。ご本人は84か85歳なんですけども、75歳という設定で学生服を着て出ています。取材に行っても、受刑者達と直接話をするということではできないんですけども、教えている先生とお話をしました。やっぱりとにかく死ぬまで学ぶことによって、どれくらい人間を広く大きくするか分からないということを教師が皆口をそろえて言っておられました。ドラマの中で1つ使った、実際に受刑者が言ったセリフがあります。彼は 2×2 が85とか 3×5 が75とか言ってた人で、1mと10cmとどっちが長いのかというのが、ぱっと言えないっていうくらいだそうですけども、その人が卒業する時に先生に言ったそうです。「1つ知らないことを知ると、1つ世界が広がります。2つ知らないことを知ると、2つ世界が広がります。」と言って、卒業していったっていうんですね。卒業しても家には帰れないんです。元の刑務所に帰るってことなんですけども、そのセリフをそのままドラマの中では書いています。

とても地味な作品でしたが、賞を国際的なところで貰えたということで大変に喜んでおります。私もできる限り、故郷秋田のお役に立ちたいし、ノースアジア大学でまたこれからも、色々なテーマで頑張ってお話ししていこうと思いますので、ぜひまたいらしてください。ありがとうございました。

橋 元 ありがとうございます。それでは、これもちまして本日のご講演会を終了させていただきます。ご清聴、誠にありがとうございました。

[講演]

ノースアジア大学 総合研究センター主催

「これならわかる 『源氏物語』 」

講師	脚本家・ノースアジア大学教育諮問会議委員 本学総合研究センター客員教授	内館 牧子
司会	ノースアジア大学教養・文化研究所長 本学教養部准教授	橋元 志保
日時	平成23年11月28日 午後1時～2時30分	
会場	ノースアジア大学40周年記念館 271教場	

橋元 本日はノースアジア大学総合研究センター主催の公開講座、シティカレッジにお越しいただきまして、誠にありがとうございます。

秋田県が誇る名脚本家、本学総合研究センター客員教授の内館牧子先生をお招きしてのご講演を開催させていただきます。ご講演の演題は、「これならわかる『源氏物語』」です。

本日、司会を務めさせてさせていただきます、ノースアジア大学教養部准教授、総合研究センター参与の橋元と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

2007年にわらび座で上演されました、内館牧子先生脚本のミュージカル「小野小町」は、大変なヒットとなりました。本日、お越しいただきました皆様の中にも、ご覧になった方がいらっしゃるかと思います。私も拝見させていただきましたが、伝説的な美女である小野小町を、ただ美しく華やかに描くのではなく、強大な権力を持つ藤原氏を相手に一步も引かない、強さと気概を持った魅力的な女性として造型されていたことが、大変印象的でした。

本日ご講義いただきます、『源氏物語』は、その藤原氏が栄耀栄華を誇っていた時代、平安時代中期に書かれました物語です。帝の御子であり、その美しさと才知から光源氏と称され、太政大臣にまで登り詰めた人物の生涯を中心に描いた長編物語です。全巻で五十四帖、登場人物は五百名にも及ぶという、正に「古典の中の古典」とでもいうべき作品であります。

「いづれの御時にか、女御、更衣あまたさぶらひたまひける中に、いとやむごとなき際にはあらぬが、すぐれて時めきたまふありけり」という文章から始まる「桐壺」の巻では、帝に愛されながらも儚く亡くなっていく、桐壺更衣と光源氏の誕生、表面的な華やかさとは裏腹に嫉妬や憎悪、いじめの渦巻く内裏の生活が、優れた心理描写と共に語られていきます。右大臣家の姫君であり、第一の皇子の生母として時めく、弘徽殿女御。先帝の四の宮で桐壺更衣に生き写しの藤壺女御。源氏の正妻となる左大臣家の姫君、葵の上など、物語の始発から美しく魅力的な女君たちが次々と登場します。

千年の昔から語り継がれ、読み継がれてきた『源氏物語』は、今なお私達を魅了してやみませんが、この長大な物語を読み解き、楽しむためには、優れた導き手が必要です。内館牧子先生の解釈による、新しい『源氏物語』の読み解き方は、私たちに多くの発見と喜びを与え、物語を読む面白さを存分に味あわせてくれるに違いありません。どうぞ、皆様、最後までじっくりとお楽しみください。

それでは、内館牧子先生、どうぞよろしくお願いいたします。

内館 内館でございます。雨が降って足元が悪い中、こんなにたくさんの方々がお集まりくださって、ありがとうございます。先ほど聞きましたら、申し込みがすぐに一杯になったそうで、やっぱり源氏はこれだけ皆さん読みたいし、分かりたいと思っていらっしゃる文学なんだなと思いました。

私は、国文学を専攻しておりませんし、『源氏物語』に関しては素人ですが、来年春3月までの間には、『源氏物語』をベースにした私の小説が幻冬舎から出ます。それを書くために、4年間かけて『源氏物語』を丁寧に勉強してみた結果、つくづく分かったことは、とてもちょっと習っただけではわからないということだったんです。皆さんのお手元にも資料をお配りしましたけども、全五十四帖ある内の十三帖、「明石」までくると、みんな疲れ果ててギブアップするっていうんです。だから明石源氏といわれると聞いていました。ところが他の方が、「内館さん、明石まで行かないんですよ。須磨で息絶えちゃうから『須磨源氏』と言うんです」っ

て。「須磨」は「明石」のひとつ前、十二帖なんです。ただ、このあたりが息絶える場所というのもよくわかるんです。「須磨」というのは光源氏が流人として、須磨、に飛ばされるお話なんです。その後の十三帖で明石に流れていく。流刑のこのあたりまでくると、読者は一区切りついてしまうんでしょうね。でも、実はそのもっと前からわかりにくくて、息絶え始めているんだろうと思います。『源氏物語』は学校でも習いますが、あまりにもペースが速いし、断片的に習うので、よく掴みきれないんだと思うんです。私みたいに国文学を専攻していない人間が一生懸命読んでわかったってことを考えますと、やっぱりこれはわかるまで丁寧にしつこくゆっくりやっていたら、おそらく「明石」まではたどりつけるはず。「明石」まで入ったら、しめたものです。「明石」の後人間はいっぱい出てくるんですけども、それは「明石」までの人間関係とストーリーがある程度わかっていたら、かなり、わかりやすくなるだろうと思うんです。

ですから、何回かかるかわかりませんが、丁寧にゆっくりしつこく『源氏物語』のお話をしようと思っています。わかるまで丁寧にやります。他の人に伺いましたら、4回やっただけで全五十四帖ある内の三十一帖の「真木柱」までいくと聞きました。真木柱までを4日間で進むというのは、相当無理がありますね。それからゆっくりな教室でも、3ヶ月間かけて二十二帖の「玉鬘」、二十三帖の「初音」。3ヶ月間、週に1回だとしたら12回ですね。12回で二十二帖までいくというのは、相当一生懸命聞いてもわからないのではないかなと思うんです。私は4年間かけて関係図を一生懸命書いて、やっとわかってきたという感じだったんです。ですから、そのあたりをきちんとご説明しようと思っています。

まず資料として、皆様のお手元に『源氏物語』全部、一帖から五十四帖までのタイトルを書いた紙が1枚あると思います。それから系図が一枚あります。中央には(実際にはもっともっと複雑だが、まずは前半の主要人物のみ)と書いています。系図は物凄く複雑なんです。兄弟も何人もいたりするんですけども、今やる必要はないと、私は考えています。例えば系図の一番右側に、「右大臣」という人があって「弘徽殿女御(大后)」という人がいます。その妹に「朧月夜」という人がいます。ここの間に兄弟が何人もいるんです。しかし、今は構わなくていいです。そこまで考えると須磨源氏になる前に息切れしますから。ですから、必要なところだけ書きました。それから、もう1枚の大きな紙が内裏の地図。この3枚が今回の資料です。

どうして『源氏物語』を読む人が途中で挫折するかというと、私もよくわかるんですが、登場人物のあまりの多さなんです。あまりに登場人物が多い上に、入り組んでいるんです。誰それが姪だったとか、誰それと夫婦だったとか、奥さんがたくさんいた時代ですから、その夫婦は誰々ともどうなっていたとか、そういうことがもの凄くありますが、とりあえず頭から外して頂く方がいいと、これは私の実体験です。『源氏物語』の研究者や好きな方は、これくらいはわかるだろうということで、どんどん話すスピードアップしていくんですが、普通の人はそこで疲れちゃうというのが挫折する理由の1つです。

それから、もう1つは時代背景が複雑です。最低限の平安時代の時代背景を知っていないと、『源氏物語』は解釈が非常に難しいですね。これは細かい歴史をしっかりと覚えるという意味ではないんです。私の友人でもある、井沢元彦さんという作家が、『源氏物語はなぜ書かれたのか』という本を出したんですけども、その中で「源氏物語は平安時代の政治状況、そしてその当時の思想的風潮が色濃く反映された作品であるため、これがわからないと理解できない」と書いています。例えば後宮こうきゅうというのがあります。後宮というのは、お后や女官など、女達がいっ

ぱい住んでいるところなんです、その後宮の状態がわからないと、何で光源氏がこうなのか、何で桐壺帝がこうなのかってわからないわけですね。そこがわからないと、途中でギブアップするということがあります。それでまず、時代背景も最低限のことがわかればいいですから、「明石」まで絶対たどり着きましょう。本当にね、たどり着くって感じなんです。大変な作業なんですね。

私がお配りした系図の中には、光源氏の愛人達のことを全然書いていませんけども、現実には途中で愛人達もいっぱい出てきます。例えば現在でも、1番人気は夕顔という女だと聞きますが、夕顔は光源氏と深い関係にあり、彼女は早く亡くなるんですね。生霊に呪い殺されるんです。夕顔と光源氏の間を高校で教えれば、男の子達も興味を持つんじゃないかと思うんですが、コスプレじゃないですけども、光源氏は顔をマスクで隠し、顔を見せずに夕顔と関係をもっていました。そういうことってというのは学校では教えない。ある日、あばら家に連れて行き、そのときに、初めてマスクを脱いで光源氏は夕顔を抱くわけです。2人が情事を終えて、並んで寝ていたときに、同じく光源氏と関係を持っていた、六条御息所（ろくじょうのみやすどころ）の生霊が夕顔に乗り移って、殺してしまった。けどそこは夕顔の内容になったらお話しします。複雑なんです。ここらあたりを最初からやってしまうと、わからなくなりますから、追々やっていきます。

この系図についても、後で少しずつ必要に応じて説明していきます。最初からこの系図を覚える必要はないです。というのも、例えば「左大臣」というのはしばらく出てきません。葵上の父親ですが、しばらく無視していいです。まずは光源氏と桐壺帝と桐壺更衣から入っていくことになるんですが、まずは初歩の初歩からちゃんとやりましょう。

源氏物語全五十四帖という紙を見てください。一帖が「桐壺」です。先ほど橋元先生がおっしゃったところ。『源氏物語』は「桐壺」から始まります。二帖が「篝火」（ははきぎ）。これは篝火のことなんですね。篝火というのは遠くから見ると、存在するように見えるんです。ところが近くまで寄っていくと、なかったという伝説の草なんですね。これは結局、情けがあるように見えて実は薄情とか、そういう意味からきてるんです。

三帖が「空蝉」（うつせみ）。これは蝉の抜け殻のことです。これは女の名前になっています。

四帖が「夕顔」（ゆうがお）。さきほど申し上げた呪い殺された女です。

五帖が「若紫」（わかむらさき）。

六帖が「末摘花」（すえつむはな）。何のことかといいますが、紅花のことなんです。紅花は染物をするときに使いますけども、末摘花とニックネームされた女が出てきまして、これももちろん光源氏の女になるんです。末摘花は非常に真っ赤な花で、彼女も鼻の先が真っ赤で物凄いブスだった、それで末摘花というニックネームでています。ところがこのブスな末摘花にも、光源氏は惜しみなく愛情を与えたとあるんですね。

七帖が「紅葉賀」（もみじが）、

八帖が「花宴」（はなのえん）、

九帖が「葵」（あおい）、光源氏の奥さんですね。

十帖が「賢木」（さかき）、神事に使う賢木のことなんです。後で出てきますが、六条御息所が娘と一緒にこもっている野々宮というところをさしているんです。

十一帖が「花散里」（はなちるさと）、

十二帖が「須磨」（すま）です。

そして十三帖が「明石」(あかし)。

十三帖までで第一段にしたのは、ここで大体息切れしますよということです。

ここでまた気合を入れ直し、進むと十四帖の「澪標」(みおつくし)。澪標はご存知だと思いますけども、船に水路を示すために立てた杭のことなんですね。「みおつくし」というのは「身を尽くし」という言葉とかけています。十五帖は「蓬生」(よもぎう)。これは、蓬が茂って荒れ果てたところという意味です。十六帖が「関屋」(せきや)。これは関所の番小屋のことです。十七帖は「絵合」(えあわせ)。十八帖は「松風」(まつかぜ)。十九帖は「薄雲」(うすぐも)。二十帖は「朝顔」(あさがお)。二十一帖は「少女」(おとめ)。これは「少女」と書いていますが、資料によっては乙女と書いたものもあるようです。二十二帖が「玉鬘」(たまかずら)。二十三帖が「初音」(はつね)。二十四帖が「胡蝶」(こちょう)。二十五帖が「蛩」(ほたる)。二十六帖が「常夏」(とこなつ)。二十七帖が「篝火」(かがりび)。二十八帖が「野分」(のわき)。これは清少納言の随想、随筆にも出てきますが、台風のことなんですね。二十九帖が「行幸」(みゆき)、帝の外出ですね。三十帖が「藤袴」(ふじばかま)。三十一帖が「真木柱」(まきばしら)。これは檜ですとか、杉等で作った柱のことです。これも物語の中では女の名前になっています。三十二帖が「梅枝」(うめがえ)。三十三帖が「藤裏葉」(ふじのうらば)。三十四帖が「若菜上」(わかなのじょう)。三十五帖が「若菜下」(わかなのげ)。三十六帖が「柏木」(かしわぎ)。三十七帖が「横笛」(よこぶえ)。三十八帖が「鈴虫」(すずむし)。三十九帖が「夕霧」(ゆうぎり)と続きます。この「夕霧」という男の出生の秘密というのも面白いんですが、後々出てきます。四十帖が「御法」(みのり)。「御法」というのは掟、法令、仏法等そういったものの尊敬語ですね。四十一帖が「幻」(まぼろし)。四十一帖と四十二帖の間に「雲隠」(くもがくれ)というのがあると言われていたんですが、何も残ってないんです。四十一帖までは残っているんですが、四十一帖と四十二帖の間にある「雲隠」というのは残ってなくて、「雲隠」というタイトルと、1枚の白紙が残っているだけだといわれています。

「雲隠」に関しては、たくさんの説があって、実は「雲隠」だけで6巻あったんだとか、色んな説がありますけども、どうも光源氏の死を書いたのではないかといわれています。ただ、現実には何も残ってないんですね。先ほど申し上げた井沢元彦さんの解釈ですと、「あれだけ大きな人間の死を書くには、かえって白紙1枚で表現したほうがよかったんだ」としています。ですから、配布した一覧表にも何帖というのはふっていないんですが、順番にいくと四十二帖が「雲隠」です。これは(しに)ということと語呂合わせではないか、という説もあるようです。

いずれにしても、『源氏物語』は一帖から四十一帖まで、ずっと光源氏のきらびやかな人生から悲しみの人生を書いておきながら、その死については一切触れていない。小説家が魅力的な主人公の死を描かないということは、普通はありえないででしょうが、描いていない。白紙1枚で終わっている。この白紙というのが、何万枚にも値する白紙という考え方もあるし、実は書いてあったんだけど残さなかったという説もある。また、池田弥三郎さんは、「あれだけ神に近いような、高貴な人の死はあえて書かなかったんだ」とも書いていらっしゃる。

四十二帖が「匂宮」(におうのみや)。これは、「におうのみや」と読む人と、「におうみや」と読む人とあります。四十三帖が「紅梅」(こうばい)。四十四帖が「竹河」(たけかわ)。これは、歌謡で催馬楽というのがあるんですけども、その曲名なんですね。

四十五帖から五十四帖までのこの十帖を宇治十帖といいます。この宇治十帖というのは、皆

さんも言葉だけは聞いたことあると思います。それまでの舞台は京都だったわけですけど、ここからは舞台が宇治に移るんです。

四十五帖は「橋姫」(はしひめ)。四十六帖が「椎本」(しいがもと)。四十七帖が「総角」(あげまき)。これは糸の結び方の一つです。しっかり結ばれて解けない。四十八帖が「早蕨」(さわらび)。四十九帖が「宿木」(やどりぎ)。これは寄生するという意味ではなく、旅の宿ということです。五十帖が「東屋」(あずまや)。これはひなびた東北風の作りの家、休憩所等のことをいいますが、ここでは浮舟という女の人の隠れ家ということです。そして、五十一帖がその「浮舟」(うきふね)。「浮舟」という女の人は後半主人公になる一人です。「浮舟」という言葉は、小さく儂く浮かんでいる船という意味ですから、この浮舟という女がどういう女かというのは想像がつくと思います。五十二帖が「蜻蛉」(かげろう)。五十三帖が「手習」(てならい)。これは浮舟が手習をするということからきています。そして最後の五十四帖が「夢浮橋」(ゆめのうきはし)。

ここまで進むのは凄く大変なことで、瀬戸内寂聴さんは翻訳するのに、6年もかかったとおっしゃっています。あれほどの作家でも、五十四帖まで訳すのは凄く大変なことだったんです。

さて、『源氏物語』というのは大きく分けますと、一般的には3つに分かれているとされます。

一帖の「桐壺」から三十三帖の「藤裏葉」までが第一ブロックです。このブロックはということが書いてあるかということ、簡単にいってしまえば光源氏の輝く日々です。もちろんその中で光源氏が愛する人に死なれたり、悲しい目にあったりはするんです。でも、光源氏の輝く日々というのが最初のブロックです。

第二のブロックは、三十四帖の「若菜上」から四十一帖の「幻」。これは光源氏の悲しみの晩年です。「幻」では、光源氏は死ぬことの準備を始めています。そろそろ、私も終わりだなんて。例えば、紫の上という奥さんの法事をきちっと行ったり、出家の決心をしたり、紫の上から貰った色んな手紙や歌等そういった物を、全部焼いたりという準備を行っています。また、本来ならばその後に「雲隠」の帖があったのだろうけれども、実際にはない。そして、四十一帖から四十二帖の間に8年の空白があって、第三ブロックに入るんです。

四十二帖の「匂宮」からは、光源氏の死後の話ですから、光源氏は出てきません。そして、薫とか匂宮とか宇治大君(うじのおおいきみ)とか中君(なかのきみ)とか浮舟という、こういった人たちの恋物語で宇治十帖は進んでいきます。この光源氏亡き世界というのが第三ブロックです。

もっと細かく分ける人もいて、一帖の「桐壺」から十一帖の「花散里」までは、光源氏が本当に若くて青春をぐんぐん生きてた時代である。それから十二帖の「須磨」から二十一帖の「少女」までは、先ほどまで申し上げたとおり、明石や須磨へ流されるわけですから、光源氏の没落と復活なんです。そして、二十二帖の「玉鬘」から三十三帖の「藤裏葉」までは、光源氏のナイスミドルな日々である、という学者達もいますが、私は

第一ブロックが一帖の「桐壺」から三十三帖の「藤裏葉」までが光源氏の光り輝く時代。

第二ブロックが若菜の上から幻までの、光源氏の悲しみの晩年。

そして、非常に興味深い「雲隠」というのがあって、

第三ブロックが光源氏亡き、子ども達の時代ということで四十二帖の「匂宮」から五十四帖の「夢浮橋」までという学説を踏襲しました。

学者によっては、四十二帖の「匂宮」から四十四帖の「竹河」までの3つを、「匂宮三帖」という人もいます。でも、そこまで詳しく覚えることはありません。ともかく、これが『源氏物語』の内容なんですね。

『源氏物語』を、光源氏の女たらしな物語だと思っている人も多いんですけども、読み出すと、確かに光源氏は本当によくやるなというところはあるんですね。数え年齢が12歳で結婚して、その後、光源氏は遊びまわります。その自信や手練手管は凄いなと思うんですが、そこばかりだと飽きちゃいますね。だからバックグラウンドをしっかりと知っておくと大変面白いんです。

これは紫式部の名前にもちょっと関わっているんですけども、彼女の父親は藤原為時（ふじわらのためとき）といったんです。だから紫式部は藤原姓なんです。父親が藤原為時で、母親は藤原為信（ふじわらのためのぶ）の娘であったらうと。父親は越前の守とか越後の守という役職に就いていた人で、中流貴族です。越前の守というのはどういうのかというと、簡単に今の言葉でいってしまえば、福井県知事ですね。父親はその後移りますから、越後に行けば新潟県知事。決して国の中央ではなくて、地方官だった。だから紫式部は中流貴族の娘だったんです。

紫式部という名前について話しますと、当時は宮仕えの際には、父親とか夫の苗字や、官職から貰って名前を付けることが多かったというんです。父親は藤原という苗字で、式部丞という官職だった。それで、おそらく紫式部は最初、藤式部だったのではないかといわれています。そして紫の上という、光源氏の奥さんですけども、彼女に非常に魅力を感じて、そこから紫という名前をとったのではないかといわれているわけです。

紫式部は成人して、父親の越前の守と一緒に、福井県の武生というところに行くんですけども、先に戻ってきて結婚します。藤原宜孝（ふじわらののぶたか）という人と結婚し、娘を産むんですけども、夫は早くに死ぬんですね。夫が死んだときにどうしたかということ、中宮彰子（ちゅうぐうしょうし）という、時の大権力者である藤原道長の娘のところに、簡単にいえば働きに出るわけです。清少納言が自分の随想の中で、「やっぱり女は働きに行かなければならない、世の中が狭くなる」というようなことを書いているんですが、宮仕えをするわけですね。中宮は皇后です。紫式部には家庭教師役もあつたでしょうね。道長は物凄い力を持っていますから、当時なかなか手に入らなかった紙とか墨とか、執筆に必要なものを紫式部に渡していた。それによって紫式部は、思うがままに書けたと伝わっています。

それが千年たった今も愛読されていて、海外でもたくさん翻訳されています。日本人が読んでもこれだけわからないので、外国人もそう簡単にはわからないと思うんです。おそらく皆さんも、光源氏がどういう人がわからない人が多いんじゃないかと思うんです。私も小説を書くために、きちっと読んでみるまではわからないところだらけだったんです。ですから、源氏物語を読みたい、でもわからないというのは当たり前なこと、全然恥ずかしくないです。

身内の恥をさらすようですが、私の身内に「光源氏ってどういう人かわかる？」と聞くと「知ってる、知ってる、紫式部の恋人だろ」といった人がいて、これは珍説だ、こうきたかと思ったんです。それでも全く不思議がないくらいわからないでしょう。というのも、今この話をしたときの会場の笑いが、小さかった。よく知っていればドッカーンと笑いますよね。もしかしたら、会場の人の中に紫式部の恋人だったかな、紫式部の弟だったかなと思う人がいたのかもしれないね。光源氏は紫式部の恋人ではなくて、元々は皇族なんですね。天皇の次男な

んです。ただ、母親は皇后ではないし、長男とは腹違いです。

『源氏物語』は、沢山の作家が書いたんじゃないかという話もあるんですけども、一般的には紫式部が書いたということになっています。平安時代の物語というのは、『竹取物語』にしても『雨月物語』にしても、誰が書いたかということがはっきりしないんですね。ただ紫式部が『源氏物語』を書いたのだらうということは、『紫式部日記』を読むとそれらしきことが出ている、窺えるということで、今は紫式部が書いたということになっています。これも色々な説があって、謎です。誰がどこまで書いたかというのはわかりません。この部分は別人が書いたとか、こういうものの中に別人が書いて入れたとか、という説は現実にあるんですけども、まずは紫式部が書いたということになっています。今の状況でわかったと思いますが、紫式部は中宮彰子に仕えながら、『源氏物語』を書いた。当時は印刷もコピーもありませんから、貴重な墨と筆で書いた。みんなが廻し読みをして、凄く楽しみだったという話しも聞いたことがありますし、伝わっています。

この紫式部はどういう人だったのか、ということも簡単にわかっておくと『源氏物語』を解釈しやすいと思います。世の中には紫式部は美しく、清少納言は美しくなく、2人は仲が悪かったとか、清少納言が紫式部の悪口を言ったとか、そのあたりがワイドショー的に取り上げられるんですけども、確かに2人が生きていたのは同時代なわけですね。紫式部という人は、小野小町がそうであったように、生まれた年も死んだ年も不明です。私が小野小町をわらび座で書くときに、彼女の略歴がわからないので凄く大変でした。小野小町と同じで、紫式部も不明です。全くわかんないんです。資料でいわれているのは、970年頃から73年頃に生まれたのではないかということです。今が2011年ですから、約千年前です。

平安時代の貴族の生活なんですが、資料の内裏図をご覧くださいと思います。この大きな敷地の中に宮殿があって、そこに帝をはじめ多くの人々が住んでいました。帝は図の「清涼殿（せいりょうでん）」に常にいました。この後出てきますが、藤壺という帝の奥さんが「飛香舎（ひぎょうしゃ）」というところにおりました。この飛香舎は、別名「藤壺」と呼ばれておりました。「藤壺」の壺は庭という意味です。つまり、庭に藤の花が植えてあって、それで「藤壺」と呼ばれるようになります。その上にある凝華舎には梅壺、おそらく梅が植えられてあったのだと思われま。

これらの資料を見るとわかると思いますが、この敷地内に帝をはじめ、皇后やものすごい数の女たちが住んでいるわけです。帝は清涼殿で寝起きをしていて、気に入った女性を後宮から次々に呼んで、夜を一緒に過ごしておりました。そのような理由から、清涼殿に近いところに住んでいる女性は、ご寵愛を受けていることになるわけです。これだけ女性がたくさんひしめいている場所ですから、後宮を上手くまとめるのは帝の能力です。誰か特定の女性だけを呼ぶのではなくて、身分の高い順から呼ぶ細やかな配慮も必要でした。女たちには、男の子を産むという、目的もありますから、女どうして嫉妬や嫌がらせもあつたでしょうね。

帝のいる清涼殿のちょっと上のところに、「弘徽殿」と記されてありますが、この弘徽殿には、帝の正室が住んでいます。当時の結婚の形態について、後で細かく説明いたしますが、一夫多妻と書いたものもありますが、「一夫一妻多妾」と書いている資料もあります。とにかく奥さんがたくさんいたわけですね。たくさんの奥さんの中で、資料の右の奥「淑影舎」というところに光源氏の母の桐壺更衣がおりました。光源氏の母は、清涼殿からものすごい遠い位置にいます。後宮の中でも、ランクがありまして、光源氏を生んだ桐壺は「更衣」といって、

「女御」よりランクが下でした。ランクが下にも関わらず、帝の寵愛を独占し、世にも美しい信じられないくらいの男の子を出産しました。先ほども、後宮を管理できないのは、能力がない帝であると言いましたが、帝は、とにかく桐壺更衣が好きで好きで、近くに弘徽殿の正室がおりますし、他の女性を誰もいるのに、彼女たちを呼ばないで毎晩、桐壺更衣を寢所に呼んでおりました。

ところで、私のまわりにも、『源氏物語』を歴史伝記だと思っている人が、少なくありません。それは違います。『源氏物語』は作り物、小説です。実際の歴史上の人物は登場いたしません。紫式部が作家として書いた作品が、『源氏物語』で。歴史書ではなく、登場人物は作られたキャラクターです。

話を戻しますが、帝は、淑影舎にいる桐壺更衣を好きで、好きで毎晩呼んでいました。桐壺更衣は淑影舎から長い廊下をずっと歩いて、弘徽殿の前を通過して、清涼殿まで行くわけです。また、帝は朝になってもなかなか桐壺更衣を淑影舎に帰さず、御公務をさぼったとも書かれてもおります。この資料で、印をついたところに、全部女性がいるわけですから、これでは他の女性に、桐壺更衣は意地悪をされやすいです。なおかつ、彼女のランクが低いので余計です。「女御」というのは大臣の娘クラスの女性になります。「更衣」というのは、父親の地位が、大納言以下のことが多かったようです。そういう桐壺更衣がなぜか、とても桐壺帝に好かれたわけです。後宮の女性達は、昨夜も、今夜も、また明晩も桐壺更衣が呼ばれ、自分たちにはいくら待ってもお呼びがかからないことが不快でたまりません。本来は、帝としては交互に女性を呼べば後宮がまとまるんですが。毎晩、毎晩、桐壺更衣が清涼殿に呼ばれることに、後宮の他の女性は怒って、桐壺更衣に意地悪をします。それが、桐壺更衣にとって、ストレスをため込む原因になってしまったんでしょうね。私が小説を書くときに、従姉妹の医師に聞いたところ、一種の抑鬱ではないかという診断をしておりました。ストレスでものすごい抑鬱になって、食べることも出来なくなって、光源氏が3歳の時に亡くなってしまいます。

その意地悪の仕方というのを、源氏物語には書いてあります。それは、淑影舎から清涼殿まで行く間の長い廊下に、女御達が女官を使って、汚物を撒いておくんです。これは、当時はトイレがおまるだったので、その中身を廊下にぶちまけるんですね。また、服装も今と違ってジーンズではありませんでしたので、十二単衣を引きずりながら、帝のところに行かなければいけませんでした。そういう意地悪をされて、それが心に溜まってきて、亡くなったと言われております。

私自身はこの桐壺更衣は好きではない。彼女は一族の思いを背負ってきて帝のもとに入内してきているわけです。もし帝の男児を産めばその一族は外戚の地位を得る。つまり、もともと彼女にも野心があったということです。そのことについては、『源氏物語』の中で、娘を入内させる時に、母親はこれで一族の長年の夢が叶ったということが書かれております。父親の地位がそう高くないところから来ている女性が後宮にはたくさんいるわけです。そんな中で帝は秩序を破り、桐壺更衣ばかりを愛し、そこに光源氏が生まれました。光源氏に兄がいるんですが、光源氏は、はじめは二の宮と呼ばれておりました。なぜ光源氏という名前になったのかについては、後でご説明していきたいと思っております。

ここまで、おわかりになりますか？当初の私はここまで理解するのも大変でしたから。おさらいいたしますと、『源氏物語』は五十四帖あって、1ブロック目は光源氏の文字通り光の時代です。2ブロック目が光源氏の悲しみの晩年です。「雲隠」は中身はなく、巻名だけで白紙

で表現されています。「四二」を「しに」と語呂合わせしたような面白い話も伝わっております。

それから、「匂宮」から「夢浮橋」までが3ブロック目になります。これは光源氏が亡くなった後のお話です。その中でも、「橋姫」から「夢浮橋」を宇治十帖といいます。これだけでも結構、『源氏物語』を知っていますねと言われますよ。宇治十帖からは京都から宇治に移ってからの大恋愛物語です。

『源氏物語』がおもしろいのは、男達の思惑やずるさがきちんと書かれているところもひとつです。そして紫式部は、今でいう福井県知事の娘でした。父親は途中で新潟県知事にもなりました。それは受領階級と言って、中流貴族であったということです。決してすごい家柄の娘ではありませんでした。当時は、はじめに藤式部と名乗っていて、紫の上に心酔し、紫という名前をつけたのではないかとされています。紫式部は、藤原道長の娘で皇后になった中宮彰子に宮仕えし、時の大権力者である藤原道長から、紙や墨を贈られて、源氏物語を書いています。作者は別人説というのも根強くありますが、わかりません。作者は紫式部ということだと思います。

平安時代の女性貴族は「後宮」と呼ばれる宮殿に住んでいました。資料の内裏図の のマークがついているところが、皇后やお后達に住んでいる宮殿です。一番の中心は帝が住んでいる清涼殿です。そして女御や更衣、仕えるたくさんの女官がおりましたから、後宮にはものすごい数の女達がひしめいていました。非常に後宮が活発だったのが平安期でした。この時代、一族が上に行く野望を叶えるのに、何が一番簡単かと言えば、娘を帝に差し出し、帝の男児を産むことが野望への一番の近道でした。その子が次の帝になる可能性もあるわけですから、一気に身分が上がるわけです。

男性にもランクがあります。父親がどのランクにいるかは、女性にとっては非常に大事なことでした。それによって、女性本人のランクが決まったりするわけですから。けれども、桐壺更衣のように、父親の役職がそう高くないと、帝の居室から遠くにやられたり、いじめられたり、ご寵愛がなかったりするわけです。

父親のランクについてですが、一番偉いのが太政大臣でそれから左大臣、右大臣と続きます。もし父親が大納言とかもっと下のランクであっても、娘が帝に愛されて、帝の男の子を産むとどうなるかといいますと、「外祖父^{がいそふ}」という形態があります。外祖父になるということは大変なことなんです。というのは、娘が男児を産んで、外祖父になると、実質的ランクが、太政大臣の上になってしまうんです。天皇の子供のおじいちゃんになるわけです。当時は、摂政とか関白という地位がありました。摂政、関白は、みなさんお聞きになっていると思いますが、帝が幼少の時、摂政が後見人になって、帝が成年すると、今度は関白が後見します。特に摂政については、帝とほぼ同じ権力をもっていて、太政大臣だの左大臣だのというラインから抜けて、偉さを得るんですね。

藤原道長が権勢を誇ったというのは、次から次と娘を天皇に差し出して、そして天皇の子供を産ませて、外祖父になったわけです。外祖父がなぜこんなに権勢を誇ったのかと言えば、当時はどんな高貴な身分でも子供を産む時は、里に下がって出産しました。里に下がって出産して、出産した子供が男の子であれ女の子であれ、母親の祖父母が育てます。だから、帝の子供であっても、祖父母が育てるため後々、後見人になって、権力を得ることになります。ここを押さえていただければ、源氏物語を理解する上で後からだいぶ楽になれます。

資料の系図を見て頂くとわかりますが、「桐壺帝」が真ん中にありまして、ずっと右の横に行きますと、「弘徽殿女御」がいます。帝と結婚して一番最初に入内した正妃です。皇后なのかといいますと、それはまた違いまして、中宮、つまり皇后は藤壺になんですね。

まず覚えておくことは、桐壺帝と弘徽殿女御が夫婦であったことです。そして、桐壺帝と弘徽殿女御の間には、一宮、資料には朱雀帝と書いてありますが、長男がいます。桐壺帝が桐壺更衣との間に生まれた男の子、いうなれば次男が光源氏です。ですから朱雀帝は長男、腹違いの次男が光源氏です。朱雀帝は、一宮から皇太子になり帝になりました。

光源氏はそうはいかなかったのです。弘徽殿女御の父親は右大臣です。先ほどのランクと照らし合わせるといいランクの人だとわかります。この右大臣が朱雀帝の外祖父です。娘が帝の長男を産んだわけですから。この資料の中では桐壺帝には三人の奥さんが表記されています。実際にはもっとたくさんの奥さんがいますが、まずは三人を頭に入れておく方がいいと思います。弘徽殿女御が第一の正妻、桐壺更衣が光源氏を産んだ妻です。

桐壺更衣が亡くなったとき、桐壺帝は大騒ぎをいたしました。出家するとか、桐壺更衣の幻を探してきてくれ等々、御公務が出来ない状態になるまで、嘆き悲しんでいました。あまりに嘆き悲しみ方が酷いので、周りの人々が気を遣って、「藤壺」という桐壺更衣に良く似た女性を入内させました。そしたら、帝はそちらにころっと気持ちが行ってしまい、もう藤壺なしでは生きられないほどのご寵愛です。

藤壺と桐壺帝の間には、後に冷泉帝に即位した男の子がいます。実はこの冷泉帝は、桐壺帝の子供ではなく、何と光源氏の子供です。この辺から人間関係が難しくなっていきます。光源氏は、桐壺帝の後妻、つまり藤壺に憧れを抱くんです。いわば継母ですが、好きでたまらなくなってしまいます。光源氏が藤壺を慕って、ついに関係をもち、冷泉帝が生まれました。藤壺は理想の女性として描かれておりますが、最後まで冷泉帝を帝の子供と言いつつ、私個人は藤壺も好きではありません。この辺りというのは、国語の教科書にはあまり出てきませんが、抜群に面白いところです。

桐壺帝と、正妃の弘徽殿女御の間には長男がいたものの帝は弘徽殿女御より、ひたすら桐壺更衣に入れ込んでいました。そして光源氏が産まれました。次回桐壺のお話を詳しくいたしますが、この弘徽殿女御というのは非常に出来る女性です。源氏物語では、弘徽殿女御は意地悪で、とげとげしく、ヒステリックな女に描かれています。桐壺帝の愛情が全く注がれず、桐壺更衣が亡くなったと思って喜んでいた矢先、今度は帝は藤壺に惹かれていって、そういう中で、非常に意地の悪い女性として書かれております。

私は『源氏物語』の登場人物の中で、弘徽殿女御が一番好きです。それで弘徽殿女御を中心とした小説を書き、三月に出る予定です。これは『源氏物語』の、弘徽殿女御バージョンという感じです。夫が自分の方に向いてくれないことに加えて、みなさんの中でも、姉妹のなかで、姉か妹だけが抜きんでて優れているケースがあると思います。男の兄弟の中にもあると思います。源氏物語でもそういうケースがあるんです。弘徽殿女御というのは今でいうならば、政治力もあるし頭も切れるキャリアウーマンだったと思います。桐壺帝との間に生まれた朱雀帝は、他と比べれば決して悪くはなかったんですが、光源氏に比べたら、すごく見劣りしたんですね。

『源氏物語』では兄の朱雀帝自身もそれをわかっているんです。光源氏をすばらしいと認め、いいお兄さんなんですけど、本人は非常に辛かった。それよりも辛かったのが、母親の弘徽殿女御でした。彼女は、夫の気持ちが自分に向かない。朱雀帝は光源氏より見劣りしている。弘徽

殿女御はあせりを感じるわけです。彼女はおそらく光源氏の事は好きではないと思います。須磨に流したりするのは、すべて弘徽殿女御の策です。私は彼女の立場で『源氏物語』を再構築できないかを考えました。

弘徽殿女御については後でまた細かく説明しますが、桐壺更衣、つまり光源氏の母が亡くなった時、桐壺帝はあまりのショックで打ちひしがれて、食事も喉を通らない状況でした。その時、弘徽殿女御は何をしていたかという、夜に音楽会をやったんです。楽器をかき鳴らさせて管弦の遊びをしていました。さすがに周りの人が、喪に服している間は、酷いのではないかとという事を言いますが、そこでも、弘徽殿女御をヒステリックな悪者に紫式部は書いております。

弘徽殿女御はそういう憂き目にあってきたとして、確かに尖ったところがありました。それに、自分が産んだ長男ではなく、光源氏が天皇になるのではないかとという心配もありました。今は長男が必ず天皇の位を継ぐことになっていますが、当時は、帝の弟が継いだり、甥がなったり、長男を飛び越えて次男がなったりするケースもありましたので、弘徽殿女御は弟の光源氏が天皇になるのではないかとずっと心配だったのも無理はありません。

弘徽殿女御は右大臣の長女で、一番末の妹に「朧月夜」がいるんですが、無防備で非常にセクシーで魅力的な女性でした。私は、化粧と芸能界の話しかできないような一面があるとして書いています。この朧月夜と光源氏が恋におちてしまいます。弘徽殿女御にしてみると、光源氏は憎くて赦せない相手です。なのに、その光源氏と自分の妹が恋愛関係になってしまった。もっと困ったことに自分の息子の朱雀帝が、朧月夜にぞっこん惚れているんです。この辺は、一気に説明されてしまうとよく分からなくなってしまいますので、ゆっくりと後でやりますね。

とにかく、弘徽殿女御というのは非常にできた女性だったんですが、女の人としては恵まれないところもあったかもしれません。また、父親の右大臣が、左大臣に比べて紳士的ではありませんでした。イメージとしては、赤ら顔の昭和の街によくいたおやじというのを私は感じました。早口であったということは源氏物語の中で書かれております。光源氏と朧月夜の寝室の現場を暴くのも右大臣です。ちょっと紳士的ではない右大臣であり、父親です。

光源氏の名前についてですが、簡単にいいますと弘徽殿女御が産んだ長男が皇太子になって、後に朱雀帝になりました。本当は、父親である桐壺帝は、愛する桐壺更衣の息子で出来のよい光源氏を皇太子にして、天皇にしたいという思いがありました。けれども、それは非常に危険だということで、占いをしたところ光源氏は一般人に下ろした方がいいということと言われた。それで皇籍を離脱させたわけです。一般人になったので、光源氏という名前を与えられました。

だから光源氏はどんなに頑張っても帝にはなれないんです。一般人ですから。兄の臣下になるわけですね。12歳で元服しますと、光源氏は左大臣の娘で、4歳年上の「葵の上」と結婚しました。この葵の上は非常にプライドが高く、お嬢様育ちの女性で、気持ちを光源氏にさらけ出すタイプではありませんでした。当然、二人の仲は上手くいきません。光源氏はそこで、多くの女性と関係を持つわけです。例えば、六条御息所という7歳年上のすばらしい女性がいました。光源氏は彼女を散々遊びつくして、捨てるわけです。夕顔など同時進行でつきあっている女性もいました。六条御息所は生霊になって、夕顔に取り憑いて殺しました。さらに、また生霊になって、葵の上を殺すのです。林真里子さんは、六条御息所の目線で、『源氏物語』を翻訳して発表しております。

当時、生霊は信じられておりました。「夢の通り路」という言葉がありまして、ものすごく相手のことを思っていると、本人の体から魂だけが抜けて、その通り路を通して、相手のとこ

ろに行ってしまうという言い伝えがあったとされています。六条御息所は光源氏をものすごく愛しておりましたから、魂が抜けて「夢の通り路」を通って、葵の上に取り憑いたり、夕顔に取り憑いて殺してしまいました。これは『源氏物語』にはっきり書いているんですけど、葵の上が病気になるってすごく苦しんでいる時に、病気がよくなるように芥子を炊いてご祈祷をした。六条御息所は遠くにいるんですが、魂が「夢の通り路」を通って、葵の上に取り憑くわけです。魂が六条御息所に戻ってくるんですが、御息所本人は全く外に一步も出ていないのに、自分の体から芥子の香りがただよっていました。このような怖い面白い内容が一杯書いてあります。

次回については、橋元先生と相談して、みなさんに今お話ししましたことを忘れないうちに、早めに「桐壺」を行いたいと思います。『源氏物語』に関心を持って頂くのが私の狙いですが、どうでもいいところは飛ばします。「篝火」の第二帖では、「雨夜の品定め」といって、雨の夜に男達が集まって、女性の品定めをするところなども有名です。でもそういう枝葉の部分までを今、やりますと、皆様疲れ果てると思います。今日だけでも相当疲れたんじゃないでしょうか。

今回は、今日やったことを復習しながら、お配りした系図によって桐壺帝、弘徽殿女御、桐壺更衣、光源氏がどうなるのかをお話しようと思います。「明石」の巻までに来るまでには本当に疲れていると思います。でもやってみてこれほど面白い物語はありません。本当は、この後いろいろとご質問を受け付けたいところですが、ここでご質問にいい加減なお答えをしますといけないので、もしご質問がありましたら、橋元先生を通じてご連絡いただきたいと思います。わからないところは調べ、間違いなく正しい答えをしたいと思います。こういうところがわからなかった、というところがありましたら、そちらについても、次回もう一度丁寧にやっていきたいと思います。今回は、「桐壺」から「空蝉」ぐらいまでいければと思います。大相撲の講演会より疲れませぬ。ありがとうございました。(拍手)

橋元 活気あふれる、大変すばらしいご講演を、誠にありがとうございました。『源氏物語』を読み解くための、序章とでもいえますでしょうか、内裏の生活や全五十四帖の題名、当時の身分制度について大変分かりやすく、主要な登場人物の紹介と共にお話しいただきました。次回のご講演会が今から待ち遠しい気がいたします。

尚、通常ですと、ここで質疑応答に入らせていただきますが、内館先生からお話がありましたとおり、総合研究センターの方にFAXやE-mail、お手紙の郵送等で、ご感想やご質問をお寄せいただきますよう、よろしく願いいたします。

ここで今年度後期の本学総合研究センター主催の公開講座につきまして、お知らせがございます。次回12月20日と2月24日の福岡政行先生のご講演会、および2月1日の岡田裕介氏ご講演会・東映映画「はやぶさ 遙かなる帰還」上映会が、ほぼ満席となっております。大変申し訳ございませんが、今後のお申し込みはお断りする場合がございます。今後もシテカレッジにお申し込みいただく場合は、どうぞお早めをお願いいたします。

また、この講演会を開催しております建物の一階にて、本学の雪国民俗館が、「暮らしの中のあかり展」を開催しております。江戸から明治・大正・昭和のはじめ頃まで使用されておりました、明かりのための民具を多数展示しております。入場は無料で、温かいお飲物などもご用意しておりますので、どうぞお帰りの際にお立ち寄りください。

内 館 一つだけよろしいですか。前回ここでエッセーの書き方を講義しまして、是非ノースアジア大学文学賞に応募してくださいというお話を申し上げて、書き方をご説明しましたが、うれしいことに寺山さんという方が私の講義を聞いて、書いて応募して下さい、優秀賞に輝きました。また来年、第5回目の文学賞にみなさん応募していただけるように、『源氏物語』の講演の間に、『エッセーの書き方』を講義したいと思います。

橋 元 大変すばらしい講演をしていただきました内館牧子先生に、今一度盛大な拍手をお願いいたします。本日はご清聴、誠にありがとうございました。どうぞお気をつけて、お帰りくださいませ。

[講演]

ノースアジア大学 総合研究センター主催 講演会

危機の中の日本

講師 白鷗大学法学部教授・東北福祉大学客員教授
ノースアジア大学総合研究センター客員教授 福岡 政行

司会 ノースアジア大学総合研究センター長
本学経済学部教授 海老川 寿美夫

日時 平成23年5月27日 午後1時～2時30分

会場 ノースアジア大学 40周年記念館 271教場

海老川 本日は、ノースアジア大学総合研究センター主催の公開講座・シティカレッジにかくも沢山のお客様にお越しいただきまして、誠にありがとうございます。本年4月より総合研究センター長をつとめております海老川でございます。

先ず最初にご講演者であります福岡政行先生のご経歴を、僭越ながら私の方からご紹介させていただきます。先生はノースアジア大学総合研究センターの客員教授であります。東京都葛飾区のお生まれで、早稲田大学政経学部をご卒業後、同大の大学院に進学されまして、政治学研究科の博士課程を修了されております。その後、1992年には白鷗大学法学部教授、2002年に立命館大学の客員教授、2003年には東北福祉大学の客員教授を歴任されております。福岡先生のご研究の真髄は、机上の研究よりもフィールドワーク、現場重視でございます。何ごとも現場を観察するというサーチライト理論と実践を、研究姿勢の基本に据えております。全国各地を歴訪されまして、そこから得た生のデータを基軸に、今まに行われているリアルタイムでライブな政治学に携わられておられます。また、ボランティア活動についても、非常に熱心な取り組みをなさっております。阪神淡路大震災、三宅島の噴火、新潟中越地震、奄美大島豪雨災害、カンボジアの子供達の支援活動等々をゼミの学生達とともに行ってございまして、現在、アシストジャパンの会の事務局長も務められております。以上簡単ではありますが、福岡先生のご経歴をご紹介させていただきました。

大震災の未曾有の深いきずを受け、日本の政治の方向が定まっておらず、ただ右往左往して政治の機能不全が続いている状況ですが、福岡政行先生の本日のテーマ「危機の中の日本」のご講演会から、日本国と国民の希望ある未来を切り拓くための何かヒントを得られるのではないかと、非常に期待しております。どうぞ皆様、最後までご静聴下さいますよう、お願い申し上げます。

それでは、福岡政行先生、どうぞよろしくお願いいいたします。

福岡 連休明けに、陸前高田市の市長から呼ばれまして、陸前高田市に行きました。8千世帯、2万3千人の市ですが、町の真ん中の4千世帯が、津波に巻き込まれて、壊滅状態です。当時、NHKの報道の中で、本当に壊滅的な状況であると、3月11日の午後4時ぐらいの報道でありました。NHKが壊滅的という言葉を使うのは、よほどのことでもあります。陸前高田市は、2万3千人中、死者行方不明2千人、人口の1割、8千世帯のうち、4千世帯が被災されました。市の職員が約3百人、その内78人が犠牲者になっています。震災時、陸前高田市長は市役所の4階にいて、若い職員に引き上げてもらい、屋上で雪の中、一晩過ごしました。まだ2月に就任したばかりの市長です。

昨日、一昨日と私の教え子の市長達十数名とソフトバンク、三井不動産、和民等いろいろなバックアップの人達を囲んで、陸前高田市の復興のために何か出来ることはないかということで、「絆」の糸半分と、残りを「心」で繋ぐという「絆作戦」の1つという活動をしている関係で、3回ほど東北を訪れております。

本論に入る前に3点だけお話しをしますが、3月11日、私は秋田ビューホテルにいました。午後2時46分にチェックインをして、部屋に入ろうとした時に、掃除スタッフの方が悲鳴を上げて座り込みました。部屋のドアは、鍵がなかなか開きませんでした。やっとの思いで部屋に入り、ベッド傍で頭を枕で保護して地震が収まるのを待っていました。3、4分経った後、「エレベーターは使えないので階段で下りて下さい」とアナウンスがありまして、8階から、

杖をつかれた同年輩の女性観光客の腕を抱えて、一緒に階段を下りていきました。その後、友人と夕食を澄ませてからホテルに戻ったところ、ホテルのコンシェルジェからホテルの1階で宿泊することを説明され、毛布2枚で一晩過ごしました。被災地では、そのような不自由な状況で、76日間も避難所で暮らされている人達があります。また、秋田に避難されている方もおります。一言で言えば、政府の対応が遅すぎる。福島原発の事態については後程ご説明しますが、現場の対応状況は何も決めていない、何も進んでいません。私は、被災者の方に時給800円で1時間でも2時間でもいいので、キャッシュ・フォーワーク方式で、仕事を提供することを提唱しましたが、逆に本当に政府からお金が支給されるんですかと問われました。今、第1次補正予算で4兆数百億円ですが、この程度のお金で復興するのは無理です。先月の末、福島原発の10キロ圏内のところで、東京の警視庁の20代の警察官が警備しておりました。放射能の影響が出る可能性がある現場で多くの若い人達が対応しております。東京電力に電話で問い合わせをしても百万円で、計画避難といっても、避難場所の指示もしません。引っ越しすると敷金などの経費が5~60万円はかかってしまう。皆さんが義援金を送る場合、日本赤十字社に送ることをお勧めしません。58の市町村で義援金を支給されているのは20町村位です。今ちょっとしたものも買えないというのが現状です。そのような状況で、今度の日曜日に、気仙沼で炊き出しを行うので、その手伝いに行ってきます。

昨日大阪で関西の大学連合の講演会后、関西の人達とお話しをしました。阪神淡路大震災が起きたのは、1995年1月17日の午前5時46分だと思いますが、この日の午前10時の閣議の段階で、当時、村山富市首相は、「私はこれをどう対応するかわかりません。とにかく皆さんにお任せするので、各省庁で対応してもらいたい」このように言って、当時の自治大臣の野中広務さんが、「各省庁が全力をもってこの災害に対応しなければいけない」と述べて、村山富市首相は最後に一言だけ、「責任は私が取ります」と述べ、早急に救助の体制とバックアップ体制を整えるよう指示しました。当時、自由民主党の幹事長であった加藤紘一さんに特別交付金および補助金は、今後3年間阪神淡路大震災のバックアップ体制にすることで、他の自民党議員を説得の指示し、一気に復興計画が出来ました。2日後には、神戸の尻池小学校にヤマト運輸や佐川急便で運ばれた、お弁当を被災された皆さんに配るボランティア活動をしていました。まだ十分でない避難所が、陸前高田市や気仙沼市、南三陸町、志津川の地域にありますので、既に76日も経っているんですが、この状況に総理官邸に怒りを感じる思いです。

2点目は、まだこの大震災後の災害は進行形であります。つまり福島原発の終息しない限り、災害は終わりません。私があるテレビで、原発が終息するまで髭を剃らないと言ったところ、原子力の専門家の友人から、電話がありまして、2、3年そのままになりますよと忠告されました。福島原発については、一進一退という言葉がありますが一進二退です。一歩進んで二歩下がるというのが現状です。

震災直後のNHKの解説員の水野倫之さんが、かなり明晰に原発事故の解説をしていました。彼は2、3回NHKの番組の中で、ある大臣の原子炉注水のコメントを聞いて、驚愕しておりました。パーシャル・メルトダウンで放射能が出てきているのを見ると、専門家の視点ではメルトダウンがある程度進んでいるのではないかというコメントをしていました。水野さんが最近NHKに出演していないのは、官邸サイドからの圧力だと感じています。実を言いますと、私も2つ程テレビの仕事がなくなりました。4月11日の統一地方選挙の後の生番組で、最近、水野解説員が出ていないのは、おかしいという内容の発言をしております。もう1件が民主党

の仙谷さんについての発言です。彼は官房副長官のポストに戻っておりますが、私は彼に「東北地方に行っている自衛隊に土下座しろ」と発言いたしました。大変反響がありました。松下政経塾出身で国会議員の小野寺五典さんと昨日も電話で話をしましたが、今の段階でも、1日に十体ぐらいのご遺体が気仙沼の湾の中に浮かび上がってきています。本来なら遺体を医者が確認するんですが、現状では、自衛隊員は遺体を引き上げて、遺体確認のDNA、遺留品等の確認をする任務を行っております。本当に自衛員のご苦勞を考えたら、暴力装置と言った仙石さんは、まずは土下座して謝罪して欲しいと思います。今の民主党は本当にどうしようもないなという感じです。

原発事故処理の大原則は止めて、冷やして、閉じ込めるということです。止めることは止めましたが、冷やさないとそれは蒸気になって爆発をするということで、冷温停止は、水をかけるしかないというのが現状です。冷却するのに、真水でなくて、海水の注入をすれば、原子炉は使えなくなります。冷やさないと石棺で閉じ込めることは出来ませんので、まだ、冷やし切れる状態になっておりません。来年1月までのロードマップは出来ておりますが、東京電力の発表や原子力安全保安院の西山審議官の説明を聞いていると、腹立たしいです。また、その場の記者の勉強不足で、原発対応の不備を突くことが出来ないという状態です。昨日も海水の注水を中断していないという発言をしておりますが、これも間違いなく嘘だと思います。冷やす作業が出来なくて水をかけ続けておりますが、その汚染水を処理するところがもうなくなってきていて、更に汚染水で冷やしていけば、日に日に状況は悪くなっていくので、一進二退ということを専門家も述べております。これも言いづらいですが、本当に冷やし切れるかは、綱渡り状態です。吉田所長以下4～500人の人は、決死隊だと思います。東北電力の女川原発事故の際に、東京電力が外部電源の保護をしておけば、問題はなかった。それを東京電力は怠ってきたということです。この問題は、日本人として、どのように原発と共生していかなければいけないのか。20年、30年後に原発をゼロにしていけるのかどうか。原発問題は対応の遅れと、まだ現在進行形であることという2点をはっきりさせていかなければいけないことだと思います。

最後の1点は、この非常時に増税を考える財務省の思惑としては、社会保障と税の一体改革です。私は昨年の講演で言ってきましたが、昨年9月9日に65歳になり、年金を満額受給出来ますが、辞退しております。ところが、昭和22年～24年生まれの方々660万人の人が来年から高齢者になっていきます。当然、社会保障のお金や年金のお金等は、あと10年以内に枯渇してしまうのは事実です。この時期に、災害復興の為に消費税率の2%とか3%を上げるというようなことは、1998年に橋本龍太郎総理が3%を5%にして、GDPが7%程度下がって、結局が税収が減った事例もありますので、増税を考えるというのは、絶対にしない方がいいです。これについては、出来る限り自民党と民主党の教え子や、知り合いの国会議員に、頻繁に会い増税絶対にしないように話し合いをしておりますし、「さらば財務省」を書いた元財務省官僚の高橋洋一さんと経済産業省の審議官の古賀茂明さんとも話し合いを持っています。

昨日の海水注入の中断はなかったという発言については、先週からニュースで流れていますが、おそらく嘘を嘘で固めていると思います。3月11日～12日までの流れを思い起こしてみたいと思います。3月11日午後2時46分大地震が起き、その日夕刻の6時には、大津波の問題もあって大変な犠牲者が出ることは分かり、総理官邸の中は、福島原発が停止しかなり壊れていることも分かり、緊急事態宣言の発令をする段階でした。この段階で、菅さんは3月11日の午後は予算委員会を行っていたので、それを中断し、総理官邸の危機管理室に入り、活動します。

東京電力を呼び、東京工業大学の同窓会名簿を辿り、原子力の専門家の教授等4、5人に連絡をとり斑目原子力安全委員会委員長等を傍におきます。当時の報道で、再臨界するかもしれないという内容に対して、菅さんが再臨界を理解していない報道が流れたと思います。核分裂が続くということが、臨界です。再臨界ということですから再び核分裂がおこることになります。再臨界の恐れがあり、原子炉の中で、かなり歪んで壊れて停止はして、遮蔽板は入っているが、どうも早い段階から、放射能も漏れていて、圧力容器の外の核納容器までが壊れていて、外側に出て、圧力が高まり、外からの空気を流すベントをしなければならないということとを判断されました。

後は、福島原発の吉田所長、東京電力の本社の人間が入り、20数名ですっと会議が行われた。とりあえず夜中の2時前にこの会議は一旦終了します。その前に菅さんは側近の東工大出身者、官房副長官を呼んで考えていた。3月12日午前6時に真っ先に、総理官邸のヘリポートに、ヘリコプターを呼んで、7時過ぎに福島原発に入りました。この時に、TBSの元キャスターの広報官の下村健一さんが同乗して、映像をとり続けています。この時ヘリコプターに乗った政府関係者は、斑目委員長、下村広報官、寺田首相補佐官です。東京電力の武藤副社長の説明を30分位受けまして、その段階で、ベント（換気）をどうするかが問題となりました（次回詳述）。当然放射能が外に散るといのは分かっていますが、ベントをしなければ、建屋も核納容器も気圧の関係で爆発するのが分かります。この問題でもめることになり、菅さんは10時過ぎには官邸に戻り、ご存じのとおり午後から建屋が爆発します。後は、ベントの問題だけではなく、いわゆる冷やさなければならぬ問題がでてきており、真水のプールに水がなくなり、海水を入れる判断の問題になります。原子炉に海水を入れれば間違いなく、廃炉になります。その責任を冒頭に触れた村山元首相のように、菅さんがとにかく止めて冷やすという、ごく当たり前の指示をすれば、このようなことにはならなかっただろうということです。それが二転三転して、最終的に吉田所長が責任を取らされました。中断の要請があったが危険だったので、中断をしないで海水を注入しつづけたことにしないと、IAEAの調査で日本が説明のつかない状況になるからです。汚染水を流してしまったことも将来的には大問題です。どこからか漏れていることは間違いありません。早急に対応しなければ行けない問題でありますし、石棺を作る場合においても、すべてを掘り起こさなければ対応出来ません。まさに、一進二退の状況です。

問題はこの3月12日の午前中に菅直人さんは、携帯電話で104万円の政治献金を旧横浜商銀信用組合の理事で、在日の方から政治献金を受けていました。この時に菅さんは在日の方に、104万円を返金することをこの方に連絡しております。そして次の週の3月14日の午前中に、104万円を返金しております。そのことがわかったのが1ヶ月後の4月で、その3月12日の大変な時においても、自分の政治資金規正法の関係で動いております。これに関連していたこととして、3月6日の日曜日の夕刻に前原外務大臣が総理官邸に入っております。25万円の政治献金を、在日の焼肉屋を営む方から5万円ずつ5年間貰ったという話が出ていて、これについては本当に美談であります。前原さんのお父さんは、鳥取県の裁判所の関係者だと思えます。前原さんのお父さんは前原さんが中学生の時に、鉄道自殺をされます。母子家庭になった前原家は、お母さんの実家の京都山科の実家にうつり、そこで中学時代を過ごし、その時の同級生のお母さんが焼肉屋を営んでおり、面倒を見てくれていました。前原さんは、名門の洛南高校から京都大学に進学し、松下政経塾に入り、国会議員になり、民主党議員の代表になり、その前原さんの頑張りに対し、同級生のお母さんから5万円ずつ5年間政治献金を受けていました。

何も悪くないと思いますが、ただ、政治の世界では、パチンコ店や焼肉店を経営されている方は、かなりの確率で、韓国の方が多いです。そのような場合は、立場上、日本の国籍の確認をしなければいけません、それを彼は確認しないで貰っていた。その事実が発覚しても、年間5万円の5年間の25万円の件であれば、美談です。その理由を明白にすれば国民も納得すると思います。

話を戻しますが、首相官邸に入って、2時間後前原さんは外務大臣の辞任を決断します。ところが菅さんは104万円を持っておりますので、前原さんが辞めたら自分が困るという話になります。結局、菅さんは、前原さんの辞意を阻止出来ませんでした。菅さんの104万円は3月12日に処理しました。私は前原さんが辞めたのは本来この理由ではなく、この週の週刊誌に、G組のSという人が、前原さんのパーティ券を多額に購入している記事が掲載されています。十数年前にこのSという人物は、銃刀法違反と麻薬密売で逮捕されており、その後、暴力団のフロント企業となりました。彼は、会社経営を上手く軌道に乗せ、前原さん、野田佳彦さん、蓮舫さん、渡辺喜美さんに政治献金をしていたということが、週刊誌に掲載されました。本当の理由はそちらにあると思っております。

この3月11日に大変なことが起きている中で、自分の保身のために対処している菅直人という政治家は、ちょっと許せるものではないと思います。私も民主党を応援してきましたが、政権交代自体は悪いことではありません。ただ、民主党の国会議員は若すぎるし、未熟過ぎる。高学歴ではありますが、人間としての最低限の何かが欠けていると思います。例えば、菅さんが福島JAからキュウリとりんごトマトを持ってきて、テレビカメラが入っている時に、「このまま食べていいんですか」と言っておりましたが、そのようなことを言うから、風評被害が広がります。「美味しそうですね」と言って食べればいいんですが、そこをわかっていません。それから岡田克也さんは、南相馬市に入って、地元企業の社長さんと市長さんから陳情されているシーンで、その時の岡田さんの格好は、1人だけ防護服を着てヘルメットを被ったままでした。しかも握手の時に、彼は手袋のままその社長と握手していました。これは人間のモラルとして許されることではないと思います。このような状況の政権では、菅さんには一刻も早く辞めていただきたいですが、なかなか辞めません。

菅さんの辞める方法を考えました。1つは世論調査です。まだ20何%ありますが、10何%まで下がると辞めるだろうと思います。ただ、菅さんの奥さんが、世論調査がマイナスになることはないと言っているので辞めないでしょう。総理官邸に入っている人の話では、菅さんはパニック障害のような状況で、本人は限界だと思っています。だけれども奥さんが、今辞めると鳩山元首相、麻生元首相以下になる、ということで、世論調査が20%を切るか切らないかの段階で、浜岡原発停止をしました。延命への、脱原発への戦術です。

これはまだ確認がとれておりませんが、菅直人さんは4月の中旬頃から、東京工業大学の原子力の関係の専門家から、2つの断層にある浜岡原発の不安要素に興味を持ち、ゴールデンウィーク明けに、海江田経済産業省大臣と細野豪志さんを浜岡原発に行かせて、夜の6時に記者会見を行いました。もしかしたら、50~100年後世界の原発を止めた人間は菅直人という評価が残念ながらあるかもしれません。5月中旬に、孫正義氏と菅直人さんが3時間話し合いをもちました。太陽光パネルを多く作り、自然エネルギーを利用するという計画に、菅さんは酔いしれております。サミットでも同様に調子良くやっているといます。支離滅裂というか場当たり的で、東京大学教授の小佐古前内閣官房参与が、「20ミリシーベルトは、子供たちにとって、

最悪の状況を引き起こすから、研究者としてヒューマニズムとして、私はこれを許すことができないと」涙ながらに、辞任しました。本当ならば、学閥的な東大、東工大ではなく、京都大学で原子力についての専門家の小出裕章助教（教えることのできる助手のポスト）を入れるべきでありました。私は、国家国民の危機であれば、反対勢力だろうがなんだろうが、全ての力を借りて、意見を聞き最後の判断をトップリーダーがすればいいと思います。それが菅さんの中では、1番が浜岡原発になっております。

ある若い記者は、脱原発は脱小沢と同じですねと言っていました。脱小沢、脱原発といって国民の支持率を少し上げているだけです。支持率は27%から30%位に少し戻りましたがなんとも虚しいです。そんなことをやっている場合ではなく、現場の福島の状態をどうするかが大事です。今の総理官邸は全く機能していない状況です。本当はこんな時に、総理大臣を変える、菅首相を降ろすなんていうことをやっている場合ではないです。

しかし、阪神淡路大震災の時の村山富市元首相のように、責任は自分が取るからみんなでやってくれと指示があれば、官僚は動きます。亀井さんとお話しをした時に、当時亀井さんは運輸大臣で、トラック協会に連絡して、とにかく瓦礫の処理で使えるトラックをみんな現場に持って行ってくれとお願いしたということでした。宅急便の会社に、避難所に朝と夜弁当を配達してもらおうような手配をするなんていうことは3日で出来ます。今は、それができない。1995年7月の阪神淡路の復興計画委員会では、1兆2千億円で12万戸の復興住宅を作るという計画書が出ています。1月の震災で7月の復興計画で既に、復興住宅を作る青写真が出来ていました。

当時の仮設住宅で知り合った女性の方が7人おりまして、2人の方は亡くなりましたが、70歳前後の女性と今も連絡を取り合っております。今は復興住宅で六甲の山のところに、12階建て2DK位の広さのところに住んでおります。その人達から「我慢すれば、避難所に6ヶ月、仮設住宅に2年、その後13年数ヶ月復興住宅に1万7千円の家賃、年金でなんとか生活出来ることを東北の人達に伝えて欲しい」と言われて、何人もの教え子のプロデューサーやディレクターに話をしても、そういうことは誰もテレビで企画しない現状です。菅さんを辞めさせるのに、世論調査は無理です。

もう1つは、昨日からテレビに流れておりますが、自民党、公明党は来週6月2日か3日、内閣不信任案を提出します。6月1日に党首会談があります。自民党の谷垣総裁が行いますが、谷垣さんはツメが甘いです。3月下旬、私は谷垣さんと2人で話をしました。「あなたも自民党総裁を辞めて、菅さんにも辞めてもらって、差し違える覚悟を持って下さい」と言いました。

3月19日震災の一週間後の土曜日12時30分、谷垣さんは自民党総裁室で1人昼食を摂っておりましたが、携帯電話に菅直人さんから電話があり、副総理と復興担当の大臣の要請があり、大連立を組みたいと唐突な申し出がありました。その際、谷垣さんは「そのような重要な問題は2人の間では決められない。自民党は組織政党だから、党三役に話をし、同時に顧問格の元内閣総理大臣の人にも相談をし、それからでないと言返事が出来ません」と答えました。それに対して菅さんは、「今返事をいただきたい」と言って4、5分の電話でやりとりがありましたが、谷垣さんは断りました。私は、その話を聞いて、もう1度、谷垣さんから話し合いに行って、自民、民主の両党首が辞任して、新しい内閣を自民、民主を中心に大連立の救国拳国一致内閣を作るしかないと言言しました。そうしたならば、その場で明快な返答はもらえませんでした。やっと先週に、側近の国会議員から、大連立をする話を聞きましたが、はっきり言って

決断が遅いです。

来週、不信任決議案が提出されます。1日の党首討論で、菅さんが決定的なミスをすれば、不信任決議案は通過致します。民主党は30人位が欠席するか、不信任決議案に賛成するかもしれませんが、おそらく、不信任決議案は不発に終わるかも知れません。この時期に総理を変える状況ではありませんが、今の総理では指針がぶれすぎて、沈没するしかないです。「Anyone but 菅」菅さん以外なら誰でも今はいいです。

5月24日、渡部恒三さんと小沢一郎さんの誕生会がありました。その代表世話人が、前原さんです。160人が集まりました。80人の人が不信任決議案に賛成をしたら、不信任決議は可決され、内閣総辞職するか、衆議院の解散をするかになります。菅総理の側近の議員は、不信任決議が可決されれば、菅総理は、国民に信を問い、解散をすと言っております。横条議員は民主党を離党予定です。来週もしかすると、1年生議員数人が民主党を離れるかもしれません。いずれにしても、不信任決議案は、党首討論の後に行われます。谷垣が討論で勝てるかどうかだと思います。恐らく民主党の中では、後継者が決まれば、簡単に菅さんは辞めさせられると思います。

「Anyone but 菅」ですが、菅さん以外誰が首相にふさわしいかについて触れます。民主党の代表経験者は5人です。1人は菅さん、この危機的状况にありながら戦後最悪の内閣です。鳩山さんは最低です。私は、日米安保を軸にしながら、日中を含めたアジアの一員として、新しい外交展開を期待して鳩山さんに協力してきましたが、見事にその期待は裏切られました。あの沖縄県民に対する考え方は最低です。小沢さんについては、一連の政党助成金等のお金の問題で、政治を語る資格はないです。今では、小沢さんが声を掛けて集まる人間は、十数人です。最後まで彼についていく人間はその程度です。それを見越して前原さんが誕生会をやったのも事実です。前原さんについては、先程お話したような件で、元G組関係の政治献金問題です。残りの5人目が、岡田さんですが、これ先程お話したとおり、最低です。以上が民主党のトップ5人です。

他の候補者としては、アルファベットKではじまる人間です。1人目は山形県出身 鹿野道彦さん、驚かれる方も多いと思います。自民党時代、農水大臣をやっています。現在も農水大臣です。2年前の選挙まで4年間落選しておりました。私は彼とは古い友人ですので、何回か応援しにいきました。学習院出身のいい人です。消去法でいくならばいいと思います。積極的理由は70歳という年齢です。困ったときは、年長者にお願いするというのが1つの考えです。

今の候補者では、皆様からほとんど同意を得られませんでしたので、2人目のKです。海江田万里さん、菅さんよりは話している中身はまともかもしれません。けれどこの人も4年間落ちていました。もともとはリベラル派の人間です。経済産業大臣ですが、仲間はおりませんし、鳩山グループの一角であります。

3人目は渡部恒三さん。皆様から声が上がりましたが、別に菅さんを尊敬しているわけではなく、総理としてダメならダメとものをはっきり言います。ものをはっきり言えるから、恒三先生は福島県出身なので、1年間の限定でいいので、ワンポイントで総理をやっていただければ、みんなが協力すると考えていると思われれます。まさかと思われるかも知れませんが、渡部恒三さんの候補もあるというのを心に留めておいて下さい。

もう1人は、亀井静香さん。本人がやりたくてしょうがないようです。菅さんは総理を辞めてもいいという気持ちがあるようですが、亀井さんが総理になったなら、副総理か何かで原発

担当大臣が何かをやらせてもらいたいと考えているところがあります。1度、総理を退任されたら静かにしていただきたいと思います。

そうであれば、思い切って小泉進次郎君にやってもらうこともいいかもしれません。彼は、まだ人の話を聞く耳をもっています。最後の決断は政治家がするしかありません。聞く耳をもっている人なら私達は協力します。

もし、聞く耳を持った総理大臣なら、高橋洋一さんや何人かの財務官僚に財務省辞めてもらって、30兆円のお金を作ってもらおう。国債の整理基金は、12兆円あります。国債をバックアップするために、12兆円を持っているんです。けどそのようなルールを持っている国は日本だけです。だったら12兆円いらないので、そのまま復興基金にして、残り18兆円の国債を日銀が引き受ける。30兆円までは、財務省の官僚が、日銀に電話してお願いして30兆円までは自由に使えるようになっている。高橋洋一さんが財務省の主計局の課長時に、それをやってきた。今12兆円予算の中に入っているんで、残り18兆円で30兆円になります。公務員（国と地方）全国350万人の給与の2割カット、警察、消防、自衛隊の方は2割カットとは言えないので5%だけにし、残り一般行政職は2割にすればこれだけで4兆円のお金が出てきます。34兆円です。そのお金で、10兆円を岩手県、10兆円を宮城県、10兆円を福島県、あとは青森に1兆円、茨城に1兆円、あるいは千葉に1兆円、それ以外は資金をプールし、向こう5年間、4兆円の公務員給与を削減すれば、復興住宅も出来ます。東京電力で計画避難を強いられる人は、引っ越し代50万円で、半年の生活費2百万円で引っ越ししてもらえないです。農業をやりたい人、田んぼが塩を被ったので、原発周辺に今後10~20年は戻れないと思います。だったら秋田県の、秋田市や由利本荘市で、秋田県庁が建てた家で暮らして、農業をしてもらいます。戻れる時が来たら福島に戻ればいいです。

今、私達は銀座のビルを一棟無料で3年間使えるようにいたしました。ここに三陸の水産物を産地から届けてもらって、東京の大学生が捌いて、利益は三陸の人達に持って行ってもらいたいと考えています。とにかく明日の復興に繋がるようにしてもらいたい。けども福島県は、今そのような状況ではないです。岩手県と宮城県の震災の地域だけで、約2万名の方が、死者行方不明者です。ここが阪神大震災と全く異なる点です。地震や火災でなくなった方は千人以下です。2万人近くの方が水死です。そのうちまだ8千人の方が行方不明です。津波は責めてくる波より、引いてくる波のほうが、はるかに強いらしいです。当然、海の沖の方まで行っているとされます。49日、あるいは3ヶ月の90日になると、復興での行方不明の捜索は行わない、というルールが日本にはあります。どこかで区切りをつけて、復旧、復興の道を辿ることが大事です。皆様もお時間がありましたら、車で陸前高田、気仙沼、石巻、志津川、大槌町に行かれて見て欲しいです。全く価値観が変わります。東京の空襲の後の当時を知っている人達が言うには、今回の東日本の大災害は、似て非なるものはあるけれども、似ているところがあります。もの凄く感じるものがあります。

これから、私の最後の仕事として5年、10年間この復興に携われる仕事が出来ればという思いを考えております。阪神淡路の地震から16年半が経ちました。今でもその女性たちは復興住宅で元気にしております。たった1人残された86歳の女性が、5年前までは縫い物の仕事で5万円位稼いでおりました。年金が7万円位です。でも、そうやって、みんな生きていてよかったし、時々一緒に中華料理を食べる機会が、元気そうだとすごく嬉しいです。中越地震の時に山古志村の男性達から、公民館が壊れてしまって、2百万円位で修繕出来るので寄附していた

だけないですかとお願いされました。当時、筑紫哲也先輩に相談したところ、2百万円なんとかして集めなさいと言われて、大同生命に講演の協力をしてもらって、百万円のギャラを直接山古志村に届けてもらい、足りない分を吉永小百合さんに協力して頂いて、吉永小百合さんの着物をオークションで百万円で売らせて頂きました。2百万円のお金を集めて公民館を改修しました。今はそこで宴会をしています。そういうことをやり続けていくことが大事です。

だけでも今回の東日本大震災は明日に繋がりません。家もない、車もない、船もない、田んぼに戻れない、それで避難所の片隅にいる状況です。仮設住宅が出来ても避難所から出られない。避難所にいけば三食、食事が出てくる。仮設住宅になれば電気代も自分で支払わなければならない。布団だっていつまでも毛布というわけにはいきません。アイリスオーヤマさんに頼んで、布団1組を6千円で提供してもらおう約束しました。ある1カ所の仮設住宅に50数セット届けます。筑紫哲也先輩の奥様から、印税の百万円を寄贈頂きました。でも、何百もある仮設住宅では、たかが知れていると思います。ハリウッド化粧品が、避難所に口紅がないので、千本寄附してくれました。多くの女性が喜んでいました。

今の民主党の政治にそのような人の温かみを感じる姿勢がありません。一時帰宅は一世帯1人だけです。男性で印鑑証明や通帳がどこにあるか分かりませんよね。そういうことを平然と政府は告げます。政府もその後改善して、今は一時帰宅の人数が増やす対応をしております。

そのような状況が、世界中に配信されているので、観光客は増えません。一昨日、奈良新聞の講演で京都に宿泊しておりました。京都グランビアホテルのコンシェルジェの支配人が、年配の外国人観光客の人数は戻りつつあるというお話でした。でも外国の若者は来ません。アメリカの大学では、若者は原発問題が終わるまで、日本に行かないように、日本は小さな島国なので逃げる場所がという実態を話している現状です。

それでは、時間が来ましたので、残りを質問といたします。ご清聴ありがとうございました。

海老川 先生の非常にエキサイティングで興味深いお話をありがとうございました。ここから、フロアーの皆様からのご質問をいただきたいと思います。挙手していただいて、ご氏名を名乗られましてご質問をお願いいたします。

質問者1 鷺谷と申します。総理大臣の候補として石破茂さんはどうでしょうか。

福 岡 今の質問は、総理大臣候補として、自由民主党の石破茂さんということですが、私はおそらく自民党では、谷垣禎一と石破茂が候補に出てくるだろうと考えています。ただ谷垣禎一は平時のリーダーであって、非常時、戦時のリーダーではないと思います。だったら、亀井さんの方が戦時のリーダーであり、苦勞をよく知っている人ですので、彼の方がいいと思います。問題は石破さんですが、トップリーダーとなるとクエスチョンが付きます。防衛大臣は良いと思います。勉強家でもあります。ただ彼はもう少し、他の人に耳を傾けられたら、もっと伸びると思います。自分の得意分野について長く説明しすぎます。それは、自分の苦手分野を責められるのが嫌なので、得意分野を話そうとするからです。そういった点を、それは人間の器の小ささと私達は考えます。本当に力のある人間は、相手の土俵で勝負出来る人間だと思います。わからないことはわからない、と言えるように、もう一つ苦勞して、トップリーダーと言うよりむしろ、彼に副総理、復興担当大臣としてやってもらった方がいいと思います。

海老川 はい。ありがとうございました。では、次の方どうぞ。

質問者2 はい。藤高と申します。松下政経塾の門下生が、やはり日本のリーダーになるのではないかと期待しておりますが、野田さんはどうでしょうか。もう1つは、今後は松下政経塾出身の方が、日本の政治を引っ張っていくと思うんですがいかがでしょうか。

福岡 大変厳しく、最も答えにくい質問でございます。私は私の先生が松下政経塾の常務理事をやっている、元共同通信の論説委員長で、法政大学教授をやられた内田健三先生と、当時P H Pの社長をやっておられて、現在みんなの党の江口克彦さんとの関係から、当初の5年間だけ指導いたしました。その中に1回生の野田佳彦さんがおられて、今、彼は財務大臣をやり、人望があり人間味のある男です。前回お話ししましたが、前原代表で野田幹事長の時に、大蔵省出身の民主党の元国会議員の永田君が偽メール事件を起こし、その後、政界を去り亡くなりましたが、その後、野田さんは九州に行って、永田君のお墓にお線香をあげに行っていました。前原さんはまだお墓参りに行っていません。野田さんは早稲田大学の政経学部の政治学科で、私の直系の後輩にあたりますが、とってもいい人です。ですが、トップリーダーというよりは、どちらかといえばナンバー2です。野田さんと大阪出身の民主党の国会議員の樽床伸二さんは、人情味があって涙が流せる男です。ただ松下幸之助が目指してきたのは、世界を語り、地域住民の声を政治に反映出来る、現地現場主義の政治家を作ってくれと言われて、私財100億円を投じて作られた政経塾です。政経塾の出身があまりにも評判が悪いです。

今日はお話ししませんでした。大阪の維新の会ですが、今年の秋11月、橋下徹が大阪府知事を辞めて、大阪市長選に出馬をします。大阪府知事が空席になりますので、ダブル選挙になりますので、ニュースキャスターの辛坊治郎さんが出馬するような話があります。政経塾出身の政治家があまりにも評判が悪いですが、三重県の松坂市の山中光茂市長、あるいは茨城県の高萩市の草間吉夫市長、この2人は本当に政治の原点を見失わないで、市長としてがんばっています。今年どこかの講義で、30分位お話しをしてもらおうと思っています。山中市長は医師でもあり、アフリカのAIDSの子供治療を一年間行った経験もあります。慶應大学法学部で、外交官試験も合格し、アメリカのファンド会社にも受かりましたが、アフリカ難民の話聞いて全て辞めて、群馬大学の医学部に学士入学して、1年間アフリカでAIDS治療にあたるような行動力のある男です。そういう人もいますので、政経塾みんながだめではないです。ただ30代で議員バッジをつけていってしまうと、どこかであごが上がってしまうんです。人間は最後まであごをあげてはいけないと思います。

今日本の政治、政党は、みんなの党も頭打ち、名古屋の減税日本もだめ、大阪維新の会は秋にもう1度戦いがあります。民主党はもちろんだめといって自民党がいいとも限らない。これが今日本の政治の閉塞的状況です。

もし、誰か良い内閣が出来て、聞く耳をもってもらえるなら、私は大学の授業を他の人に代わってもらって、無給で2年間、本気でお金を使いながら復興計画をやりたいという気持ちはあります。10人ぐらいのスタッフを認めてもらえれば、弁護士と会社の副社長と後輩と霞ヶ関の人を5人くらい入れて復興政治をやりたいと思います。政経塾からは、先程紹介した山中さんと草間さんから協力してもらいたいという気持ちはあります。

海老川 福岡先生の壮大なビジョンをお聞かせいただいたところで、残念ながらお時間がきてしまいました。これで福岡先生のご講演会を終了したいと思います。先生、ありがとうございました。今一度、福岡先生に拍手をお願い致します。

この後、ノースアジア大学総合研究センターでは、6月10日にノースアジア大学ウインドオーケストラ・チャリティーコンサート、7月には再び福岡政行先生のご講演会、8月に内館牧子先生のご講演会を開催予定です。その際にはぜひ皆様方に足を運んでいただきたいと思います。本日のご来場、ありがとうございました。お気を付けてお帰り下さいませ。

[講演]

ノースアジア大学 総合研究センター主催 講演会

どうなる日本の政治 そして東北の復興

講師	白鷗大学法学部教授・東北福祉大学客員教授 ノースアジア大学総合研究センター客員教授	福岡 政行
司会	ノースアジア大学総合研究センター長 本学経済学部教授	海老川 寿美夫
日時	平成23年7月22日 午後1時～2時30分	
会場	ノースアジア大学 40周年記念館 271教場	

海老川 本日は、ノースアジア大学総合研究センター主催の公開講座・シティカレッジにお越しいただきまして、誠にありがとうございます。総合研究センター長の海老川でございます。大変ご著名でいらっしゃいます福岡先生のプロフィールを敢えてご紹介することもございませんが、先生はノースアジア大学総合研究センターの客員教授で、白鷗大学の教授でございます。また、東北福祉大学の客員教授でいらっしゃいます。先ほど先生からお話をうかがいましたが、先生は東日本大震災の被災地に10数回程入られまして、炊き出しやエアコンの設置と整備等、八面六臂のご活躍をされているということでございました。

今回のご講演のテーマは、「どうなる日本の政治 そして東北の復興」ということで、私共もこのテーマの暗示するところを注目し、関心を寄せ、非常に期待をして待っておりました。菅政権が退陣を表明して、1ヶ月が過ぎました。日に日に、本当に退陣するのか、いつ退陣するのか、わからない政治状況になっております。大震災、大津波から後、政治の機能不全が今なお続き、全くわからない政局が展開しているようです。福岡先生にこの政局を、一刀両断で解説していただきたいと思っております。それでは先生、どうぞよろしくお願い致します。

福岡 この数ヶ月で怒りっぽくなりました。同時に、涙もろくもなりました。

とてもつらい状況で、本日は秋田で一晩過ごしますが、明日、朝一番で仙台に入り、南三陸町から気仙沼を見て回りたくと思います。本日はお話したいことがたくさんありますので、今から午後2時25分までに一気に話します。その後、質疑応答したいと思います。冒頭7点で、この1週間のお話をいたします。

まずは、解散風というお化けが永田町に歩き始めています。8月9日だと思いますが、何もなければ菅さんは、8月6日に広島での平和式典に行き、8月9日に長崎での平和式典に出席し、その後、記者会見をします。総理大臣が解散と言え、大臣が反対しようとも、それは一気に解散することになり、3月11日のちょうど6ヶ月目の9月11日が投票ではないかということ、陸前高田の市長と先々週、陸前高田市でお話をしました。彼のお宅は流され、奥様は亡くなりました。叔父さんの家でお話をしていたら、9月11日という話が出てきて、早ければ8月9日に解散だろうという永田町での動きです。また、9月11日に岩手県の県知事選と県議選と市議選があります。

2点目、3日ぐらい前の朝、国会中継を見ておりましたら、与謝野さんが菅さんの後ろで座っており、前かがみになっておりましたが、完全に前に崩れました。朝の9時58分から倒れかかって寝ている人が大臣となっているのがおかしいです。厚生労働大臣も実際には何の答えもしない、抽象的な言葉で前向きに検討するというだけの答弁です。

山古志村の長島忠美元村長が、今自民党の比例代表で当選しておりますが、3ヶ月前にお話しました。暑くなったら避難所は大変で、氷柱を立てて、それを扇風機であてる。避難所は、依然として大型のエアコンはありません。先週土曜日に行ったときは、33~34度でした。おばあちゃんが赤い顔で、扇風機の風にあたりながら「先生、空気洗浄器をもってきてください」と言われたので、明日空気清浄機をドンキホーテから5台もらって持っていこうと思います。

話は変わりますが、1ヶ月ちょっと前に、TVタックルの生番組で、私は何もコメントしないでいようと思っていましたが、番組の後半の午後9時45分ぐらいに司会の阿川さんから「福岡先生、いかがですか」と問いかけられて、全くまとまらない番組状況に、「どうして、民主党のような、緩いバラバラの番組をやっているんですか」と答えましたところ、プロデューサー

からディレクターまで、全員顔をひきつらせていまして、それ以降番組からお呼びがかかりません。

その時、なぜ怒ったかといいますと、広野町から、ハワイアンセンターに700人ぐらいの人々が避難していて、町民と町長さんがいて生中継をしていました。最後の1人の方が「何時帰れるんですか。もう3ヶ月帰ってないので、空き巣が入って大変なんです」という問いかけに、原口さんと長妻さんが覚えてきたことを、一生懸命話そうとしておりましたが、全然とんちんかな回答しかしておりません。自民党の石原さん、みんなの党の江田さんがおりましたが、それに答えようとしませんでした。辛い答えではありますが、いつ帰ることができるかに対応してあげなければいけないと思います。原発事故は、止めて、冷やして、閉じ込めるという三段階を行わなければいけません。完全な冷温停止ができない限り、今の状況では帰ることができません。

あのサーキュレーションの汚染水の処理は、稼働率が50%です。それは4キロメートルの間をやっていて、他国の会社と日本の企業とやっていますが、パイプサイズが異なっていたりするわけなので、繋ぎ目がうまくいかないと思います。ある企業の後輩との話では、稼働して正常な動作まで半年を必要とする話を聞きました。京都大学助教の小出裕章先生の本が売れております。その本に書かれておりますが、10万トンタンカーを1隻買ってきて、汚染水を入れておいたほうが、早いようです。今、汚染水は、ただ漏れ状態であると思われます。

今の国会議員は現場感覚がありません。気仙沼沖に大島という島があります。そこに、うどの炊き出しに行きましたが、被災者の方と話をしておりましたら「先生、いろいろなものが欲しいんですが、フェリーを使わなければ買い物できません」と言われました。フェリーは片道400円で往復800円です。車じゃないといけないスーパーがあるんですが、車は片道2,000円で往復4,000円。人と車で4,800円がかかります。フェリーの無料券を島民に配ったりしてなんとかなる事じゃないですか。頭にきたので、小野寺五典さんに「なにやってるんだ」と怒鳴りましたが、彼は「私は野党です」と情けなく答えておりました。それで国交省の後輩に電話したところ、「先生、上の者が言ってくればやりますよ」との応えですが、この上の者とは菅さんです。官僚というのは、上の者が任せる、責任をとると言えば、速やかに動きます。島民には1ヶ月、1人4枚分のフェリー無料券を配布する等の対応をして欲しいです。このような現状を少しなんとかできないのでしょうか。

3点目です。今週末、明日から各社で世論調査を行います。NHKが16%、朝日が15%、時事通信が12.5%。だけれど総理官邸の側近は、まだ2桁の支持率がある、菅さんの奥さんはマイナスになることはないといっております。百人に聞いて百人がだめといってもゼロ%です。統計的には、そういう数字です。そういう現状もふまえて、私は最近、頭にきて怒りっぽくなってきました。

4点目。古賀茂明著の『日本中枢の崩壊』この本が30万部売れました。彼は経産省事務次官に呼ばれて、7月15日付をもって、退職勧告されたんですが、その前日の14日に相談されました。彼は現在、審議官ですが、元々はエリート中のエリートでした。それが1年ちょっと前に、国会の予算委員会で、彼は「現役官僚の天下りを認めたら、日本の官僚の状況はおかしくなって、大変なことになります」という発言をしたところ、仙石官房長官から「そんなことを言ったら、あなたのキャリアに傷がつきます」と恫喝されて、その時から一線からはずされております。審議官ですので、個室でパソコンはありますが、パソコンで作成したものをプリントア

ウトすることができないので、別の場所でやっているような状況です。現在、岩手県花巻の何某の工場に視察の命令があり、携帯電話も通じにくい場所で、山奥の20人の工場へ行かされる仕事をさせられています。私の後輩が経済産業省に電話して、古賀茂明さんに講演の依頼をお願いしたところ、そのような方は現在おりませんと回答をされたそうです。この本を読むと、霞ヶ関の実態がよくわかります。彼と食事をした時に、彼が一言だけ言ったのが「先生、仕事がしたいです。東北の復興のために自分の人脈やいろいろなものを使ってがんばりたいです。東北の復興庁の一員にさせてもらいたいです」そういう人間もいるけれども、多くは、何もしないでご機嫌とりばかりがいる現実です。

5点目です。なでしこジャパンについては楽しく話をしたいですが、菅さんがなでしこジャパンを官邸に呼んで、その後に監督が記者団から「何か菅総理にアドバイスありますか」という質問に、監督はニコッと笑って「スルー」と応えておりました。

6点目、セシウムに汚染された牛は、既に千6百頭くらいらしいです。鳥取県と沖縄県を除いて全部に広がっているそうです。この数ヶ月で牛肉を食べている方は、間違いなく絡んでいると思います。チェルノブイリの経過をみますと、15歳以下の子供については、食べさせられません、既に小学校の給食で出たそうです。スーパーでは相当量売ってしまったようです。でもそれは仕方の無いことです。ただ、このような状況を3月11日、12日の段階で放射能が広がっていくということは、スピーディーというコンピューターの3Dで予測されておりました。その情報を民主党政権は隠しておりました。このセシウムの問題は、今は肉。今後牛乳。秋に取れてくるお米、野菜も含めて、風評被害等の問題ではなくなってくると思います。

7点目、あるテレビ番組で次の総理大臣は、100%野田大蔵財務大臣と予想しました。野田さんであればパペットですから。副総理、大蔵財務大臣は、同じくパペットの谷垣さんです。この大蔵省の操り人形の2人を、総理大臣と副総理大臣、大蔵財務大臣にするという話をした途端に、野田さんのスキャンダルが3つ出てきて、一部査察も受けました。この直後に霞ヶ関の後輩から電話がありました。その後輩から「パペットの意味は操り人形の意味ではありませんよ」といわれたので、「パペットは操り人形だろう」と反論したところ、大蔵省の言っているパペットは、「パーのペットです」という回答でした。大蔵省の主計局の官僚は、東大文出身で、国家公務員試験を30番以内で合格している、エリート中のエリートであります。その官僚から理解が良いという評価を得ているのは、よく官僚の言うことを聞いているということです。パペットという意味が、今話しているような意味と捉えられています。

被災地から今、一番望まれるのは、蠅取紙です。ニュースで放映されていましたが、ペットボトルに穴を開けて、お酒とお酢を入れると、蠅が山のように死にます。気仙沼、南三陸志津川町の避難所も、蒸し暑くなってくると、瓦礫にうちあげられた魚やいろんなものが腐っていて、この1ヶ月で異臭を放っています。体育館の中で、段ボールで仕切って、1軒あたり4畳か5畳で仕切って、布団を敷いております。百数名の方が南三陸町から避難されている体育館に行くと、天井が高いので冷房があっても効かないです。氷柱もありません。除湿機、空気清浄機があれば、少しは助かります。私もささやかですが、明日空気洗浄機を5台持って行きます。

2日前に自衛隊が5万人撤去するということが、決まりました。一応、自民党と民主党の気の利いた政治家には、1万人でいいから、残ってもらって瓦礫の処理をして欲しいという要望をしました。自衛隊員は既に3人なくなりました。警察、消防の方々は亡くってはいません。

最後の遺体処理は自衛隊員が行います。今、海に上がってくるご遺体は、言い難いですが、五体満足のものはありません。それを水洗いするのが自衛隊員の役目ですから、消防や警察は、交通事故や火事現場で、遺体を何回か見てきています。日本の自衛隊員はそのような経験を踏んでいません。隊員がおかしくなって、熱中症や鬱病になって、瓦礫に飛び込んだりしております。河北新報に3人の方が亡くなったという記事が掲載されております。それが現状です。

陸前高田市については、前回お話ししましたが、8千世帯のうち4千世帯が根こそぎ奪われました。今日やっと県立陸前高田病院の仮設診療所が出来るということになりました。南相馬市で市長さんと食事をする機会がありました。その時、郡山駅で降りて、線量系ガイガーカウンターを持って、そのまま高速道路に乗って福島に入り、1.5Mシーベルトでほぼ通常の数値です。飯館村を通過しないと、南相馬市に入れませんが、飯館村に入った瞬間3.5Mシーベルトです。3.5Mシーベルト×24時間×365日=30.66mシーベルトです。また、200メートル走ると、1.3Mシーベルトとなります。ホットスポットというのは、一時的に放射能線強度が強くなっている地域です。南相馬市で市長に会っている時、図ってみると0.5Mシーベルトです。何の問題もないですけれども、南相馬市は全員避難。6万8千人中、5万人が避難しました。徳島県を除いた全国都道府県に避難されていて町民はばらばらです。とにかく政治に振り回されたくない、世界で影響力のある百人に選ばれた、桜井勝延市長が言っていました。南相馬市から、セシウムに汚染された牛が6頭生産されて、現在は1,600頭です。深刻な事態です。

なぜ、私が今年の講演から、菅さんを厳しく言ってきたかと言いますと、次のテレビ出演の時に言う予定ですが、本日の講演会で言います。年末年始、松下政経塾の教え子や大学の後輩達、国会議員と新聞記者達との忘年会、新年会の話の中で、菅総理が政権浮上することは簡単、支持率を上げることは簡単と言います。国民が嫌がっているものを叩けば、国民は付いてくる。だから天下り官僚を叩けば、脱官僚。公務員の給与を2割カットする。これで民主党は勝ちました。そして、去年の6月に彼が総理になった時に、小沢さんを徹底的に外しにかかりました。脱小沢です。このようなポピュリズムというか、人気取りだけでやっています。このままでは日本がつぶれてしまうと思います。そして3月11日の震災が起きました。

『週刊新潮』を読んでいただくと面白いです。菅内閣に、田坂広志と言う東大大学院出身の原子力の専門家でスピリチュアル、言霊をつかって人を惑わす参与が1人ついております。彼が3月末から、アドバイザーで最もよく菅さんと話をしているらしいです。菅さんは、3月11日から「3.11」と繰り返し言い続けている。私は総理大臣という立場にあって、この復興を成し遂げなければいけないので、総理大臣を辞めるとか辞めないということについては、答えたくないと言っております。

菅さんは4月に福島県より何倍も危ない、浜岡原発があることを専門家から聞いて、5月の連休明けの6日に記者会見をし、浜岡原発の停止、脱原発を国民に訴える。そして5月14日、ソフトバンクの孫正義さんと赤坂で3時間の会食をもち、太陽光パネル住宅1千万個設置を目標としています。そして、5月末から6月はじめの自然再生エネルギーの会で、菅さんに向かって、ソフトバンクの孫さんは「菅さん、10年総理やってください」と言っていました。今度生番組がありましたら、最初に「今、福島原発は終息していない、こんな時に自然再生エネルギーを言っているソフトバンクの孫さんはおかしい」と言いたいと思います。この非常時に、企業利益優先の考え方については許せません。まずは原発が終息した後で、自然再生エネルギーについて考えるべきだと思いませんか。脱原発ではなく、卒原発、縮原発という形で、い

くことが望ましいと思います。以上、私が3月11日以前から菅さんを批判していた理由です。

今すぐに菅さんは辞めていただきたいと思います。6月2日のペテンの日、私はテレビ局におりました。12時から民主党の代議士会がありました。菅さんが出てきて30数分間話していました。一度も辞めるとはいいません。一定の目処がついたら若い世代に責任をとるという表現でした。しかし、鳩山さんは、官邸に伺い、お辞めいただく事のご了解を得たと、補足をしました。そこで、みなさんは辞めると思っていました。本会議で不信任決議は賛成152、反対293で民主党からは、松木謙公さんと横条勝仁さんの反対があったが、圧倒的な大差で菅さんの不信任案は否決されました。菅さんは、今は支離滅裂でどうしたらいいのか、という状態まで来ております。

冒頭に触れた8月9日解散になるかわかりませんが、長崎の式典に出席した後に解散する。選挙運動は、8月お盆過ぎから始まるが、9月11日総選挙の投票。脱原発で冗談だと思われるが、菅さんは歴史に名を残したい。もう少し踏み込んでノーベル平和賞をとりたいと思っているようです。

ただ間違いなく2050年頃、世界は縮原発になっている可能性があり、そのきっかけとして、イタリアの原発についての国民投票があり、94.5%のイタリア国民が原発NOですので、日本も原発を少なくしようとするのがコンセンサスです。だから脱原発、問題はどのように解散選挙を行うことを考えてきた理由ですが、教え子の大臣や官僚の話を総合すると、6月の下旬に誰かが菅さんに、一点突破と提言したようです。小泉さんのように郵政民営化で解散をすれば、国民は原発反対なので、民主党は負けない。過半数はとれる。300議席とれなくても、240、250議席はとれる。後は他党に協力してもらえれば、菅さんは自動的に2～3年の間、総理でいられる。あの時は、小泉さんは死んでもいいのでということで、郵政民営化の抜き打ち解散をしました。

今解散したら、民主党議員は軒並み負けると思っています。小選挙区は壊滅的になると思えます。鳩山さんは間違いなく、苦小牧で落選します。小沢さんは当選する確率が高いです。

前復興担当大臣の松本龍については、おじいさんが、部落開放の人権問題で、有名な松本治一郎さんです。その孫で、九州で松本組と言え、九州電力か松本組です。松本さんと達増知事のやりとりは出来レースだと思います。宮城県知事も松下政経塾出身ですが、彼は自衛隊の戦闘ヘリコプターのパイロットです。宮城県知事も長幼の序で対応すべきでありましたが、松本さんはわざとやっていると思います。菅内閣の足を引っ張るためにです。私はその3日前に彼に避難所で会いました。彼は60、61歳だと思えます。彼が避難所で私を見かけたところ、すぐ寄ってきて、私に「先生、ありがとうございます」と言いましたので、礼儀は良く知っていると思います。

菅さんは、小泉さんのように一点突破を狙っています。負けてもそれはしょうがない、花道を作ってもらいたい。殺されてもいいので、脱原発解散を行いたい、遅くとも8月いっぱいです。9月の投票にもっていき、9月末の国連総会に出席したいという話もあります。

昨日も大蔵財務官僚のOBの国会議員と食事をしましたが、彼らが菅さんのところに書類を持って行きますと、そんな話は聞いてないと、怒ってボールペンを木の机に刺すらしいんですが、時々そのボールペンが机に立つらしいです。そういう状況なので、総理官邸にいても、みんな枝野官房長官に話を持って行き、そのコピーを仙石副官房長官に持って行くようになっていて、官僚が全く話をできる状況ではありません。内閣参与の何人かだけですが、休みの日も、

終日公邸です。

昨日、三鷹の市議会議員と会いまして、今春の三鷹市議会議員選挙によど号ハイジャック事件の田宮高磨と森順子の子供が立候補しました。菅さんは森順子の団体に6千数百万円を政治献金しております。民主党からは総額2億円が献金されております。斉藤まさしという男に2度ほど会いましたが、この男は今でもブログ等には、共産主義革命を実現した内容を書いています。菅さんは、拉致犯罪の辛光洙の嘆願書がかつて書いております。前回、在日朝鮮人のパチンコ店からの政治献金の問題で、菅さんが104万円の領収書の提出をしていなかったため、国会は審議を一時中断しております。来週月曜日に提出することになりましたが、提出できるかどうか、スキャンダルになる可能性があります。今回は、森順子の息子への政治献金問題と、パチンコ店からの領収書問題が一部の新聞で取り上げられておりますが、テレビでは取り上げられておりません。菅さんは脱原発という名分で解散に向けて進んできております。菅さんが小泉さんの話をするのは、あの人気を自分も欲しいからです。

資料に書いてある数字は、順当にいけば自民党は260議席前後、民主党は百議席を切り90議席、菅さんの選挙区には、横糸さんと自民党の元武蔵野市長が出馬します。菅さんはもしかしたら、勝てません。東国原さんも出馬の意思がある。票が割れると菅さんが有利になります。岡田さんは当選すると思います。私は、南相馬市で岡田さんが防護服を着て、手袋をしたまま、桜井市長と握手しているシーンを見て、岡田さんの人間性に落胆しました。

天皇・皇后両陛下は、石巻の海岸に亡くなった方への花を捧げました。宮城県庁か宮内庁の職員が、小雨が降っておりましたので、陛下に傘をさし出されました。陛下はふっと手で抑えられました。それが普通のお気持ちの表れだと思います。避難所では両陛下は、入口をお2人で入って、最初はお2人で廻られるんですが、しばらくすると別々に廻られるんです。美智子様は、必ず被災者やつらい思いをされている方とお話をする時、視線を同じ高さに合わせるように、中腰でお話しされております。そうやって約1時間廻られます。それは、どんなところででもです。それ以上長く居るのは、被災者の人達の負担も考えて、大変だということもあるようです。菅さんは、15分で廻って、退出するときに、被災者から「もう帰られるんですか」と声をかけられました。次の日は、避難所に3時間いたそうです。それはそれで、時間が長すぎで迷惑だと思います。

話を元に戻しますが、このことを踏まえると、公明党が40議席、みんなの党が50議席、共産・社民が20議席、立ち上がり日本等で15議席の数字になるんですが、解散になった瞬間に、小沢と鳩山が新党を作った場合は、民主党から百人くらいが離党します。そのようなケースでは、自民党は過半数いきません。200議席から220議席ぐらい、民主党や新党が70議席ずつ、公明党は40議席、みんなの党は40~30議席、他の政党は全部まとめて40議席くらいです。このような結果になることをみんな読んでいます。理由としては、小沢さんがキャスティングボードを握るからです。小沢さんは、総理大臣を自民党の谷垣さんで、自分を副総理、復興担当大臣を要望し、政治資金規正法について、追求しない条件をつけてくるとおられます。

小沢問題は10月6日に初公判となります。今の段階では、検察側の問題が生じたこともあり、ほとんど証拠が却下されるケースが多く、水谷建設の社長が多くの証言をしても、小沢さんに責任の追及がなく、秘書の1人が2人が、責任を負わなければいけないかもしれないと思います。今、小沢さんは虎視眈々と永田町で動いております。

こういう災害の非常時には、選挙を行うべきではありませんが、今日は7月22日で会期を延

長して、1ヶ月経ちますが、審議は遅々として進みません。この状態であれば、解散選挙をやった方がいいというのが、NHKオンデマンドの世論調査で結果が出ております。

私が言い続けたこととして、閣僚のすべてが辞表を提出すればいいと思います。海江田さんは、自分の判断で辞表を提出すると言っております。恐らく来週の火曜日、水曜日に九州電力の社長が辞任します。これで一連のやらせメール事件が終息しますので、海江田さんは記者会見をして、辞表を出すのではないかと思います。それに乗じて、今の大臣の中で4、5人辞表を提出するかもしれません。そこで来週の月曜日の夜までに、菅さんは104万円の返金の領収書の提出等があって、来週の月、火曜日に何か動きがあると思いますが、それでも菅さんは辞めないと思います。

政治の歴史の中で、昭和29年第5次吉田内閣、造船疑獄事件という汚職事件がありました。時の自由党の幹事長の佐藤栄作が、逮捕される寸前までいきましたが、当時佐藤幹事長に逮捕状が出た時に、法務大臣の犬養健の指揮権発動により捜査打ち切り、逮捕をやめさせました。この1件で、内閣はがたがたになりました。連立政権なので、自由党の吉田茂が、解散を匂わせ、緒方竹虎、松野鶴平はそれに反発し、国会議員を辞職しました。それを受けて、吉田内閣は総辞職となりました。民自党の鳩山一郎が総理大臣になりました。翌年自由民主党ができる経過となります。

ここまで来れば、総理、お辞めくださいと言って、辞めさせるようにした方が国民の同意を得られると思います。そのような状況でも、解散総選挙になると大変なので、この状況が続いていくと思います。それで、ポスト菅さんについては、誰がいいですかという質問があると思いますが、一言で言えば誰でもいいです。小沢チルドレン、ガールズ以外であつたら誰でもいいです。なんとなく自民党側と経済産業省では、海江田さんでいいと考えているようです。脱原発ではないからと話をすれば、菅さんよりはまともに話をします。そこを踏まえて、海江田首相でいいから、脱原発でなく、卒原発でいい。節電はするが経済界と協力する。海江田さんは経済産業省に支持を得ていますが、大蔵省からは敬遠されています。野田さんはスキャンダルが出すぎたので、総理大臣はないかもしれません。因みに自民党の中では総理大臣候補はどうかというと、石原さんはだめです。石破さんも暗すぎます。

新聞記者からの評判では、小泉進次郎君はいいです。彼はわからないことはわからないと言えます。彼はわからないことを電子辞書でその場で調べ、それでもわからなかったことについては、電話して教えてもらっていいですかという、謙虚な姿勢と聞く耳をもっています。まだ1年生議員であります。民主党議員の中でそのような1年生議員はおりません。

おとなしくて、聞く耳をもてる総理になったなら、私は無償で補佐官になります。古賀茂明と高橋洋一と現職の官僚百人を協力要員とし、お金を30兆円準備してもらい、現場の市町村の首長にお金を支給する。これで瓦礫処理をしてもらう。とにかく動かして、復興財源を作る。官僚にはこう言いたいです。協力要員の官僚は、片道切符です。大蔵省、経済産業省には戻れない、その地域人のために無料でフェリーを運航し、東北の高速道路は全て無料、3年から5年間一生懸命働いてもらう。私は今、経団連の人たちとお話をして、もしそうなったら、このような官僚の人達を一流会社で採用してもらえないかをお願いしています。経団連側もよるこんで採用すると言ってあります。でも現実的にはそこまでなか辿り着きません。

私は色紙にサインを書くときには、常に一期一会と書きます。本当は、耐勝という言葉を座右の銘にしております。耐えて勝つ、じっとじっと耐えながら最後に勝つというのは人生の中

でたくさんあります。責任をとり、聞く耳をもち、団結力だと思います。

円は78円で動いています。今の日本の状況で、なぜ日本の円が買われるんですか。ヨーロッパはかなり厳しいです。ギリシャやイタリア、アイルランドやポルトガル、そしてスペインもおかしくなってきました。アメリカも1週間以内に、新たにお金を借り換える法案が承認されなければ、米国債はデフォルトになります。日本が80兆円購入しているものがなくなってしまう。アメリカがデフォルトになりそうなので、消去法で、日本の円が買われております。

公務員の給与のカット分のお金から、被災者の方が瓦礫処理するボランティアを時給500円で3～4時間行える政策を打って欲しいです。避難所を出て仮設住宅に入ると、食事が3食供給されません。そうであれば、国民年金の人は当面5万円を食料支援金と支援するなどの政策を考えて欲しいです。こんな時に増税してしまうとますます厳しくなりますが、今の日本の現状であります。

最後になりますが、夏休みの旅行は、太平洋側に行って欲しいと思います。とにかく何かを積んで、避難所や仮設住宅に行って、救援物資を渡して来て欲しいです。瓦礫の中に5ヶ月住んでいて、処理が出来ない状況を見ると、同じ東北人としてなんとかしようと思われたいです。東北の復興なくして、日本の復興はありません。ですが、東北の復興は厳しいです。特に福島県は、南相馬の牛の問題は、何百頭にもなることを知っておりましたが、この問題を含めて、恐らく、今後10年、20年、30年、浜通りには簡単に戻れません。中通りも戻れないところが出てくると思います。そう考えると、一旦退くことも大事です。子供達だけでも集団疎開する。もう避難所、仮設住宅の段階の話ではありません。5階建て、10階建ての復興住宅をUR（都市再生機構）、住宅公団、建設会社に建設してもらおう。2兆円あれば全部出来るらしいです。むしろ5年間家賃1万円。それで神戸の復興住宅は今でも生きています。とにかく、今なんとかして頑張っていこうというのが現状です。では、質問どうぞ。

海老川 大震災、未曾有の大津波そして原発事故という今の東日本の現状を踏まえたお話の中で、厳しい中にも、暖かく思いやりのあるお話が沢山ありました。私も聞いていて涙が出そうになりました。それではご来場の皆様からご質問をいただきたいと思います。何かご質問はございませんでしょうか。先生へのご質問の際には、お手を上げられてお名前を教えてくださいたいと思います。

質問者1 由利本荘市の中島と申します。いろいろな出版物の中で、東北の人たちが日本から忘れさられているという話が出ておりました。隣国の中国は、日本の国債をどんどん買って、日本の土地も買って、日本を動かしていこうという話もあるそうです。韓国は自国に資源が無いので、外に目を向けて、日本を助けようとする話もあるそうです。日本が東北を見放してしまうのであれば、東北独自の国の政策というのを行った方がいいのではないのでしょうか。そういう意味でのキャンペーンを、先生の繋がりを通して行っていただきたいと思います。これを行っていただかないと今の日本の政治家の刺激にならないと思います。

福岡 はっきり言って、これ以上は止まったけれども、汚染水のサーキュレーションは、稼働率50%、ヨウ素131というのは、半減するまで1週間です。今日で130日経っているのに、依然として減少しません。この間の台風の影響で恐らくあちらこちらに漏れていると思います。今週

の週刊誌に、第4号機の燃料棒が千6百本ぐらいあるプール、貯水槽の土台が崩れています。東京電力の協力会社の下請け企業が、4号機だけに入っておりません。1号機、2号機、3号機は放射線量が高いが、4号機は手つかずです。しかしここが1番危なくて、これ以上、余震や大雨が降ってしまうと非常に大変です。以上のことを考えると、総理官邸も国会も福島に移動すればいいと考えています。また、日銀をなくして東北復興銀行を作って、そこで国債を刷って、30兆円を作ります。今は、お金がないので中間処理もできません。南三陸町では、放射能防止のために野焼きをしています。

4ヶ月経っているのにこの状態です。だったら中間処理施設を作るしかないです。東北の人たちも故郷から出たくないと思いますが、福島の市町村長には一旦退くようお願いし、逃げるんじゃなくて、本当に放射能が収まったときに、みんなで戻ってくるようにしたほうがいいです。けれども、国会を見てお分りのとおり、今は、何の情報もありません。セシウムに汚染された牛についても、以前から、厚生労働省はどこの稲藁が汚染されているかも把握しています。東北に何度か行って、総理官邸の近くの赤坂に住んでいて、何もしていない国会議員を見ていると、怒りしかでてこないです。それが現実です。次の質問をどうぞ。

質問者2 秋田市の小林です。前々回の講演会であったと思いますが、岡田克也さんが次期総理でいいじゃないかというお話を聞いて、私はがっかりして帰ったんですが、あの時は良かった理由と、今になって駄目ということの理由について、教えていただけますか。

福岡 本当に厳しいご質問をありがとうございます。前回触れましたが、民主党の党首経験者は5人、菅さんは最悪、鳩山さんは最低、小沢さんは論外、前原さんは10年早いです。消去法で言えば岡田さんしか残りませんでした。この人と話してみても、何を聞きたいのかわからないで、やっぱり駄目だなあと思いました。それを去年の暮れにそういう発言をいたしました。被災である福島県の南相馬市に内閣府のバスで入り、1人だけあんな防護服を着ている感覚、あれが風評被害を引き起こします。手袋をしたまま、握手をしてはいけないと思います。

先々週、日曜日の午前9時50何分に地震がありました。ちょうど南三陸から気仙沼に入り、午前10時に津波警報が報道されて、気仙沼川のところに仮設橋ができました。そこに岡田さん達の民主党の一行が来るということで、私達もそこに行こうとしましたが、時間に間に合いませんでした。後で、陸前高田市市長から、津波警報が出ましたので、岡田さん達は3分でお帰りになりましたと教えてもらいました。それを含めまして、ご指摘のとおり、誰も総理候補としていない状況です。どうもありがとうございました。

海老川 他にご質問ございませんか。ないようですのでこれで質問時間を終わります。もう一度、秋に福岡先生には来ていただくことになっております。以上をもちまして、福岡先生の「どうなる日本の政治 そして東北の復興」のご講演会を終わらせていただきます。ご来場いただきまして誠にありがとうございました。今一度、本日のご講演者の福岡先生に暖かい拍手をお願い致します。ではご来場の皆様、お気を付けてお帰り下さい。またのお越しをお待ちしております。

[講演]

ノースアジア大学 総合研究センター主催 講演会

野田新政権の方向性と可能性

超円高時代と日本の空洞化

講師 白鷗大学法学部教授・東北福祉大学特任教授
ノースアジア大学総合研究センター客員教授 福岡 政行

司会 ノースアジア大学総合研究センター長
本学経済学部教授 海老川 寿美夫

日時 平成23年12月20日 午後1時～2時30分

会場 ノースアジア大学 40周年記念館 271教場

海老川 本日は、ノースアジア大学総合研究センター主催の公開講座・シティカレッジに、お足元が悪い中を御越しいただきまして、誠にありがとうございます。待ちに待った野田政権のお話を、福岡先生からお聞きすることが出来ます。野田政権が発足しまして、3ヶ月が経ちました。私達も野田政権の行方と可能性に非常に関心をもって見守っております。福岡先生は皆様御存知のように、白鷗大学法学部の教授であり、私どもノースアジア大学総合研究センターの客員教授でいらっしゃいます。さて菅政権に比べまして、「花はないが、なかなか頭の低い慎重な政権運営でしかも下野を覚悟で現実路線を歩みやろうじゃないか」という印象を持ちますが、まだ産声をあげて日が浅く、迷走気味ではありますが、今一、野田新政権の行く末については、わからないところだらけであります。日本のこれからの最大の焦点である先行きには、TPPへの参加問題、税と生活保障の一体改革等、色々な問題を抱えております。これは民主党だけの問題ではなくて、政治全体の問題であろうかと思えます。また、日本の社会・経済は、産業の空洞化、世界一高いと言われる法人税、電力制限、労働力の規制問題等々、多くの難題をかかえてまして首相の難局は底無し沼のように続いております。やはりここは、「野田新政権の方向性と可能性」ということで、ぜひとも福岡先生の快刀乱麻を断つようなお話を伺いたいと思えます。

では、福岡先生、どうぞよろしくお願いいいたします。

福岡 年内も押し迫って、12月20日です。こちらの講演が終わりましたら、今晚仙台まで入り、明日福島県の南相馬の幼稚園と保育園へボランティアに行き、明後日は、宮城県の南三陸の仮設住宅に行き、もちつき大会を行う予定です。今日は気合いを入れて講演をしようと思ひまして、昨晚秋田に来たのですが、秋田の冬の冷たい歓迎をうけました。雪が降っておりましたし、秋田駅から秋田ビューホテルまでの、距離はわずかでしたが、寒くてしょうがない状況でした。

それでは、始めますが、私は過去、平壤には2回行っております。金正日さんのご遺体について、私の知り合いで、対日全権大使のソニールホという男に連絡を取ろうと思ひていますが、なかなか連絡が取りにくいところです。大騒ぎをしておりますが、しばらくは大丈夫だと思ひます。北朝鮮も危機管理をきちんとやっておりますので、軍隊の移動はありません。あの兄弟は、丁々発止であまりどうこうという問題はありませんが、私はこういう時にこそ、思い切って日本からお米を送ったり、いろいろな支援をやって、拉致問題の解決と解明をしてくれるように働きかけたいと思ひます。北朝鮮では、今年はかなりの不作のようです。過去2回、北朝鮮に行った時に砂糖やチョコレートを持っていったところ、子供達が喜んでいたことを思い出します。時の総理大臣、外務大臣は、直接教えたこともあります。残念ながら松下政経塾の人間です。

本論に入ります。今から30年前に松下幸之助先生に呼ばれまして、私財80億円を投じて、政経塾を作ることにしたと告げられました。この時言われた点は、二点だけです。現地現場主義、これが松下電器、パナソニックの原点だと思ひます。その延長線上で、地域住民の声を政治に反映できる政治家を作りたいと思ひるので、先生ぜひ地方自治を、政治学を教えて下さいと言われて、その他に演説の仕方を教えましたが、はっきり言って残念な結果です。その中の1期生が10数名おりましたが、そのうちの1人が自由民主党の国会対策委員長、逢沢一郎さんです。当選7回、まだ大臣になっていません。もう1人が浜松市長で、なかなか優しい良い人ですが、彼がスズキ自動車のバックアップで、市長2期目で今年の春は無投票で、当選いたしました。

そして何人かいる人の中で全く印象のなかった人が、野田佳彦という人物でした。彼の唯一の印象は、最後まで酒を飲んでいるくらいです。のんべえの野田と言われておりました。その彼が総理大臣になりまして100日経ちましたので言いますが、彼では無理だと思います。みなさんもわかりだと思いますが、完全にオーバーロードです。処理できない状況です。昨日も、午前10時にNHKが、北朝鮮で重大放送があると報道しておりました。そうした状況では、通常、街頭演説には行かないと思います。その程度のレベルであって、周りにいるのが、松下政経塾の塾生ですが、どちらかというとも3流の人達です。後でどうなるかについては、お話いたしますが、1点だけ、ポスト野田さんの話が既に出ております。今、永田町では桜が早いのか、野田さんが早いのか、どちらが散るのが早いかと噂されております。3月、4月の予算が通った段階で、総理大臣の職を辞する感じが出ております。竹下登さんが平成元年に予算が通ったら辞めると宣言したことがあります。この講演会終了後に質疑応答がありますが、その時に、質問をしないようにお願いします。

2点目、今日最後のところで、来年どうなるという時に、春から7月位にかけて、おそらく解散総選挙になると思います。細かい内容については、今月末発売のSAPIOという小学館の雑誌の中で、300小選挙区を全て書いてありますので、そちらで確認していただいて、大阪のダブル選挙の結果の関連で、今後かなり大きなニュースになります。恐らく橋下徹さんは石原慎太郎さんと会って、小沢一郎さんと夕食を一緒にとると思います。そのニュースが今晚から明日にかけて、放送されると思います。たまたま11月26日の投票日の前日、大阪で仕事がありましたので、石原慎太郎さんが来て、橋下徹の応援演説をしておりました。みなさんも映像でみられたと思いますが、10分程演説をされた後に、橋下さんの手を上げて、大阪と東京で手を組もうという宣言をしておりました。私は、石原さんの性格をよく知っていますので、一番嫌いなタイプが橋下徹さんだと思います。その人と手を握って、なにかやるというのは、よっぽど何か裏があるのではないのかなと考えていたら、立命館大学卒業のゼミ生が今、関西テレビの大阪知事選の担当記者です。彼から9月末、石原伸晃さんと橋下徹さんが大阪の中之島ロイヤルホテルで3時間ほど食事をして、この時に橋下徹さんは、国政に将来出馬しますが、私は自由民主党と協力して国政を変えていきたい旨を伝え、公務員改革等々をやる場合に、労働組合、自治労、連合のバックを受けている民主党とは、協力することができませんということを述べております。大阪市長選で、大阪自民党が現職の民主党系の平松さんを、本気で応援しないよう要望しました。そういう話があったと言われ、その見返りとして石原慎太郎さんが応援にいったということです。この大阪ショックというのは、小沢一郎さんも自分の側近に対して、橋下徹さんの悪口は絶対に言わないように、彼は使えると言ったそうです。

今の日本は多少いい加減でも、嘘つきでも、日本の国を変えてくれるような、強引な、剛腕な、傲慢な人を求め始めているのではないかと思います。自民党がだめだからと言って、民主党を選んだが、その民主党も鳩山さん、菅さん、野田さんと3代続きいてほぼ絶望的です。ヒトラーや金正日ではないが、かなり強引なヒーローを、大阪をはじめ日本は求め始めているのではないのでしょうか。そうでないと、市長選だけでなく、知事選までダブルスコアで、しかもほとんど無名の大阪維新の会の府議会議員が、200万票もとって当選するというのは、もう勢いだけだと思われま。

3点目、ボランティアの話がたくさんしたかったんですが、時間があまりありませんので、野田政権の話と中畑横浜ベイスターズの話をしようかと思っております。一言だけいいます。

宮城県石巻市大川小学校に先日行きました。107人中74人の子供達と先生達が、津波にのまれて亡くなりました。この場所を避けていたわけではありませんが、この場所に行けば私は、涙が止まらなくなるのがわかりましたので、避けていました。今、津波の被害を受けた三陸海岸に、曹洞宗のお坊さんだけでなく、すべての宗教がお地蔵さんを建てることのできることで、ここまで津波が来たというところに、小さなお地蔵さんを建てることによって、手を合わせる事が出来ます。この1月からお地蔵さんを建てる運動をはじめますので、1,000円でも参加できますし、長島元監督や、王元監督や、菅原文太さん、日本の一流企業20社ぐらいは、協力していただきますので、その時がきましたら是非お願いをしたいと思います。宮城の河北新報に掲載されておりましたが、大川小学校の傍に住んでいる82歳のおばあさんからお手紙をいただきました。娘の婿で37歳の大川小学校の先生と、その孫娘があの方に亡くなってしまいました。そのおばあさんが住んでいた場所に、お地蔵さんを是非建てて欲しいというお願いの内容がありました。その後、岩手県出身の平野復興大臣が「津波で逃げなかった馬鹿な同級生がいる」という発言をしておりました。しかし、それは馬鹿で逃げなかったわけではなくて、多くの人が、逃げ遅れた人を助けようと思って、もう一度戻って津波の第二波の被害に遭遇しています。この平野大臣の言葉が、おばあちゃんの心に突き刺さりますと手紙に書かれておりました。その手紙から女川に行ってみましたが、本当に何もなかったところで、女川原発の交付金で立派な小学校が建てられていましたが、2階で8メートル位ですが、その上に屋上もあります。100数名の子供と先生達は20分ぐらい立ち往生をしました。先生達は、200数メートル先の避難所に誘導するか、校舎の裏山を登るかで恐らく悩んだと思います。その間に、津波の第二波が湾から来て、70数名の方がお亡くなりになりました。

一川防衛大臣については、もうどうでもいいです。問責決議になります。あの沖縄防衛局長をスクープしたのは、琉球新報の政治部長です。35歳の若い記者が、沖縄防衛局長と食事をはじめて30分位で、「犯す前に犯すなんて言うか」という発言については、オフレコであっても言うてはいけないと思います。若い記者は、このような発言がありましたと、政治部長にメールで報告しました。政治部長は社長に掛け合ってスクープにしました。朝日新聞、毎日新聞、共同通信では報道しなかった例の一件です。この政治部長は、私のゼミのOBです。

山岡荘八さんのDNAを受け継いでいる山岡賢治さんは、小沢グループです。そのマルチ商法の演説を聞いてみると、やはりダメだと思います。まだ大臣をやっておりますが、1月に更迭になるそうです。

それから小宮山厚生労働大臣ですが、今、彼女は、霞ヶ関では第二の田中真紀子と呼ばれているそうです。わがままでいい加減で、自分の目立つことしかやりません。

あと安住淳さん。当初は岡田克也さんが大蔵財務大臣になる予定でした。しかし彼は大臣になることを頑なに断りましたので、大蔵財務大臣のポストが空いてしまい、彼が大蔵財務大臣になりましたが、来週、私は角川書店から『財務省解体論』という本を出版します。彼は、早稲田大学の雄弁会で、根回しと四畳半の政治は得意です。NHKの方に聞いたら、政治部だといいますが、選挙の時だけ、政治部の肩書きをつけたというような人です。

政経塾の中で、唯一まともかなと思っていました玄葉外務大臣。彼の携帯電話に電話すると、1時間でも30分でも後に、必ず折り返しの電話をしてくれます。11月23日の勤労感謝の日に、中国に日帰り訪問しました。チャーター便を使って1,200万円。一泊して、ビジネスクラスで行けば、事が足りることですが、外務大臣になってこんなことをする人は、ダメだと思います

ので、破門にしました。もうどうしようもないので、来年から、私は政治の評論をやめて、野球の評論をしようかと考えています。

4点目、3つのお話をします。自動車会社はトヨタ、日産、ホンダ、いろいろあります。半分以上が海外で生産されております。このことが円高、空洞化を引き起こし、さらに拍車をかけております。東京エレクトロンやTDK等の「産業の米」といわれる半導体を除いて、日本の主要産業は、だんだん国内では生産しなくなっていくというところが1点目です。2点目、日本の輸出産業の主力は、自動車、電気、半導体と言われております。自動車は現在の状態ですが、電気もソニー、パナソニックは、テレビ産業からほぼ全面的に引き上げてきております。ほとんど韓国のサムソンにやられています。自動車が半分、電気もテレビが主力でありました。今、東芝が良いと言われておりますが、東芝は原子力発電所に関わっているからいいわけでありますので、今後、脱原発になっていけばそれはわかりません。半導体は、TDKや東京エレクトロンはタイの洪水で若干被害を受けております。

ボランティアで東日本に入っていくと、忘年会をやりましょう、今年は早く忘れたいという人が圧倒的に多いです。それはみなさんも同じ気持ちであると思います。しかし来年の方がもっと悪いと思います。戦後66年、最悪の年であると言われた平成23年より、ギリシャ、イタリア、アメリカと、日本の円高を考えたら、来年の夏前後に、本当に世界恐慌前夜かと思われるような状況が、あちらこちらで目立ちはじめると思います。韓国、サムソンは圧倒的に強いという風に言って来たが、ついにこのウォン安で、韓国経済はガタガタになりかかっていると言われております。ここ1週間の中国の報道を見ていると、上海の株は暴落とは言わないが、かなり下がっており、そしてマンションが売れなくなってきている。これはバブルが崩壊をし始めているという日本の1989年～1991年、アメリカのサブプライムローン問題の時のような感じになっているのかもしれないです。そう考えますと、11月からはじまりましたギリシャ危機、イタリアもおかしくなっている。フランスも変です。ドイツも少し変だと言われているが、アメリカがもっと深刻です。我が日本もこのような状況がいつまで続かない。以上を踏まえて、2011年より2012年の経済危機の方が、円高問題による産業の空洞化が深刻になります。秋田県はそれが最も、苦しいと思います。就職も人口も減り、自殺者数も青森県と並んで非常に多いです。

そんな時、曹洞宗の大きな集まりがあって、山形県の大先輩から言われたのは、長い歴史の中で禅宗（曹洞宗や臨済宗）が広がっていくのは、大体、景気が悪くなっていく時だそうです。この2、3年、禅ブームであります。それから、皇居のまわりをマラソンする人が増えて、リーマンショック以降、2千数百年の長い人間の歴史の中で、この数年間は、もしかすると景気が下がってくる典型的な事が、人間を本能的にお金を使わない禅ブームや、皇居のまわりを走るマラソンブームを引き起こしているのかもしれないです。これは2011年より2012年の方が、さらに悪くなるのではないかとお話をさせていただいて、来年の2月の時にどういう展開になるか見守っていきたいと思います。

私は自分のサイトをやっているんですが、その中で、日本の寿命はあと3年くらいだという話をしておりましたが、講談社から、『ジリ貧大国日本』という本を書いて下さいと言われてまして、現在執筆中です。2014年に、消費税8%になり、15年に10%です。この物が売れない時代に、消費税を上げるという野田政権の発想は、よくわかりません。こんな時に、大蔵財務省のパペットでいいのか。本当に深刻な事態であると思います。

どうしても、お話ししたい事があります。今年の3月11日から12日にかけての、菅直人総理大

臣の行動と、1995年1月17日の阪神淡路大震災の日の村山富市総理大臣の行動についてです。つまり、2人の総理大臣の決定的な違いをお話したいと思います。ぜひ、帰りに大学の図書館に寄っていただいて、『文芸春秋』10月号、9月10日に発売になったものですが、この中に「戦後最強の総理大臣は誰か」という鼎談があります。石原慎太郎さん、野中広務さん、亀井静香さんの3人が話し合いをしている頁が12頁ぐらいあります。ぜひ、帰って読んで見て下さい。概略は、この5分間でお話いたします。1995年1月17日月曜日でした。朝5時50数分、阪神淡路地区でマグニチュード7.5の大地震がおこり、NHKの中継では神戸の町はことごとく潰れて、火の手もあがっているという状況でした。もちろん東京も揺れ、ニュースで私達はそれを見ました。この日、9時30分当時、自民、社民、さきがけの連立で、村山富市政権でした。主力は自民党でありました。総理官邸に被害状況を報告した人がおりました。既にその段階では、確認はできませんでしたが、各消防、警察の情報で死者は3千人を超えている。NHKは11時頃の発表では未だ7人位でした。村山富市首相はそれを公邸で見て、10時から緊急臨時閣議を行いました。その閣議の中で、村山富市首相は立ち上がり、今朝より阪神淡路大震災の報告を各方面から受けている。犠牲者の数は相当数に及ぶという報告も受けている。そして、村山さんは、「ただ私は、総理大臣として、どう対応していいかという答えを、残念ながら持ち合わせておりません。しかし、その後、総ての責任は、私がとります。各大臣、各省庁と相談をし、一刻も早く全力で、阪神淡路大震災の被災者の人命救助に当たってもらいたい。」という話をします。閣議は5分かからず、官房長官が引き取ります。大臣達は各省庁に戻り、11時過ぎ、運輸大臣の亀井さんは運輸省幹部を集めて、トラック協会、宅急便の会社に連絡し、ありとあらゆる水、食べ物、カイロ等をもって阪神淡路の地区に、九州・四国地方から、岡山県を經由し、東海・東京地方は京都を經由して入っていくようにしました。請求書と領収書は後で送っていただければ、全額、運輸省が支払い対応する事にしました。その指令を決めたのが12時近くです。

1月17日、私は白鷗大学に移った直後でした。18日に駒沢大学と白鷗大学の学生が、神戸市長田区尻池小学校のボランティアに入って、その昼頃に、既に学生達のところに、500人分の弁当が、佐川急便とクロネコヤマトさんが届けてくれて、水もカイロもありました。毛布は十分ではありませんでしたが、届くようになりました。これが阪神淡路大震災の時の出来事でした。

『文芸春秋』の中で、石原慎太郎さんは、佐藤栄作が最強だといいますが、亀井静香さんは、いや村山富市先生であると言っております。当時、野中広務さんは、国家公安委員長及び自治大臣でしたが、17日の午後2時、加藤紘一自由民主党幹事長を呼んで、向こう3年間特別交付税や補助金を全額、阪神淡路の復興に使うからと、自由民主党の各派閥のリーダーに根回しを依頼しました。加藤紘一自由民主党幹事長は納得して、派閥のリーダーに了解をとったのが、1月17日の午前10時からの3、4時間の出来事だったと文芸春秋には書かれています。

ところが3月11日、日曜日のNHKを見られた方はお気づきの事かと思いますが、11日の午後の8時ぐらいに原子炉の気圧が上がって、メルトダウンが始まっていて、電気が消え、40～50人いた東京電力の人達は、放射線量が高くなったので、防護服を着て、第1・第2・第3・第4の原子炉に入らなければいけないことになり、20代、30代の東電の社員達もセシウム134の影響で精子がなくなるにも関わらず志願をしましたが、彼らにはまだ子供を産む未来へのチャンスがあるので、40代、50代の人たちが原子炉に入ったと言われております。この時すでに、

吉田所長は食道癌になっていたが、原子炉にずっと立て籠もっていて、ベント（空気の入れ換え）をしなければいけませんでした。ベントをすると外に放射能が出ますが、例えば沸騰したヤカン、火を止めるか、蓋をとらなければいけません。千度まで温度が上がれば、空焚きになってメルトダウンしてしまうと思います。

菅直人首相に報告があったのは3月11日午後8時過ぎ、福島原発東京電力経由で官邸に連絡が入ってきました。菅直人首相がそこで指令したのは、1点だけです。3月12日朝6時、総理官邸のヘリポートに自衛隊のヘリコプターをつけるようにということです。この時ヘリコプターに乗ったのはパイロットと自衛隊関係者、菅首相、斑目原子力安全委員長、下村広報官、寺田首相補佐官です。7時13分に免震棟のヘリポートについて、菅首相はコンピュータ制御室に入りました。およそ30人、東京電力の武藤副社長と吉田所長等。総てがまだはつきりしていませんので、概略を言います。7時14分にコンピュータ室に入ってきた菅首相は、最初の3、4分、村山富市さんとは違って、「どうなっているんだ。担当者が報告しろ」と言い、武藤副社長が「私が東京電力の副社長で、社長と会長は現在出張中です。現場担当者は吉田所長です」と答え、菅首相は「どうなっているんだ。何をやっているんだ」と数分間、怒鳴り続けた。東京電力の社員は萎縮しながら聞いているだけでした。

もし村山富市さんのように、責任は自分が取るから、とにかく福島原発を守ってくれと言ったら、東京電力は迷わずベントを開き、水をかけたと思います。メルトダウンはしても、水素爆発は起きなかった。真水はタンクの中に4時間分しかありませんでしたが、まわりには海水が無尽蔵にありました。海水をかけて冷やすということは、原子炉が使えなくなることになります。原子炉が使えなくなることについては、東電は判断がつかない。責任という二文字がある時とない時では、人の行動は違います。菅首相は、脱原発を首相任期の延命工作に使いました。3月12日のこの段階で、彼はただ怒鳴っていただけでした。

この『文芸春秋』の10月号を読んだ数人の方が、村山富市さんはすごかったなあという話をします。私は岐阜県の大学でも客員教授をしており、岐阜県知事と食事をする機会がありまして、この話を10月の中旬にしております。彼は通産省、外務省のキャリア官僚で古田さんといいますが、当時彼が筆頭秘書官でした。彼が言うには、村山先生のあの日はすごかった。そして1月18日の火曜日の閣議で、防災担当大臣小沢潔という、自民党出身の人柄の良い方がおりましたが、この人が阪神淡路大震災の視察をヘリコプターで行って、10時からの正式な閣議で状況がはつきりしないぬるい報告しました。閣議の終了後、村山富市首相は、当時の筆頭秘書官の彼に、「野中さんと亀井さんに頼んで、今日明日中に、復興特命大臣を決めてもらいたい。小沢さんには気の毒であるが、この難局を乗り切るのは難しい」と言われて、野中さんと亀井さんに調整してもらい、小里貞利が特命復興大臣になりました。次の日、1月19日に皇居で拝命です。村山さんは、危機管理能力の勉強をした人ではありません。このような話を聞きましたので、直接本人に会って聞くしかないと思って、大分県に行きました。ある講演で、来賓として村山先生もいらっしゃることになっておりまして、お食事の時間をとって頂いて、別府の温泉で一緒にお食事をしました。当時の「責任」の言葉を村山先生に確認したところ、1996年1月4日に伊勢神宮を参拝された後、東京に戻り記者会見をし、「阪神淡路大震災の復興への道筋がついたので、一つの任務が終わったと思い、内閣総理大臣の職を辞する。後は自由民主党の橋本龍太郎先生に引き継ぎます」と述べられました。その年の1月の末に自社さ連立政権のまま、村山さんが降りて、橋本龍太郎さんが総理大臣になった経緯です。

食事が終わって9時過ぎに、タクシーでお見送りする時に、村山先生が「なんで菅直人君は、四国の巡礼になんか行ったのかな。大震災の時の総理大臣なら、青森の八戸から千葉県まで、津波で被害を受けた海岸に、頭を丸めて鎮魂の旅に出なかったのかなあ」と言われて、すごく心が震えました。村山富市さん87歳、まだ矍鑠としております。これが危機管理、リーダーの決断と責任だと思います。

1995年1月17日、阪神淡路大震災で6千人の死者、津波の被害はありませんでした。2011年3月11日～12日の地震津波の犠牲者1万9千5百数十人、行方不明3千6百数十人。秋田県の犠牲者はいませんでした。山形県、青森県、栃木県、東京都、千葉県は犠牲者が出ました。宮城県、岩手県は深刻。福島県はさらに深刻。あの場所には40年戻れません。浜通り、大熊町、楢葉町、双葉町、いったん退くしかないのかなあという思いがあります。明日、南相馬にミネラルウォーターを20万円分持っていきます。それは保育園の子供達の粉ミルク用です。福島県県北の水道水は飯館村の近くの浅川ダムです。保育士さんから水が欲しいという申し出がありましたので、子供たちのためにも持って行きたいと思います。

ポスト野田さんについてです。民主党からは3人、岡田克也さん、前原誠司、鹿野道彦です。前原誠司さんですが、116万円のホテルオータニの領収書が出てきました。コクヨ製品の領収書を使用しておりましたが、一定の金額を超えると印紙を貼るのが常識です。ホテルニューオータニからは正式にホテル側のものではないと発表されております。1枚数十万円の偽造の領収書が2枚出てきました。

残る2人、岡田克也さんも決してよくはありませんが、8月に彼はちょっと頑張りました。菅直人さんが首相に居座っていた、8月6日、9日の広島・長崎の原爆式典後、8月15日の昼、総理官邸に入り、1時間、「菅さんがやめなければ日本の国が動かない」目を真っ赤にして、涙で訴えたいらしいです。12時何分かに部屋から出てきて、目を真っ赤にして、記者を前に「菅総理大臣は、今月末をもって、辞めることに同意していただいたので、今月中に代表選を行うことになりました」と発表しました。

その後、野田佳彦さんが立候補し、小沢さんがいろいろ画策して海江田万里さんを立てました。馬淵さん、鹿野さんも立候補してきました。前原誠司さんは野田さんに先輩、頑張ってくださいとエールを送りました。ところが、朝日新聞でお盆の後に世論調査をしたところ、次の日本の総理大臣は誰がふさわしいかという内容で、前原誠司さんが27%、野田佳彦さん4%という数字に、前原さんは代表選出馬、その気になりました。仙谷由人さんに相談して、28人位いる凌雲会グループは、前原誠司さんを擁立。岡田克也さんは激怒しました。前原さんの行動に対して、非難しました。また政経塾6期生で前原さんと同期の玄葉さんも非難しました。

小沢一郎は海江田万里さんを擁立させました。もし、決戦投票になれば410人中150票くらいは小沢、鳩山グループで持っている。2番手にならなければ決戦投票にならないが、前原と野田はいい勝負で80票くらい。鹿野道彦50票。馬淵20票か30票。決戦投票は上位2人。このとき岡田克也さんは仙谷由人さんに頭を下げた。決戦投票に前原が残ったら、あいつは口先だけの男だから。ハッ場ダムをはじめ、TPPの第二の大国をはじめ。彼を嫌いな若手チルドレン、ガールズはいっぱいいる。10人、20人は票がこぼれる。海江田にいつか可能性がある。そしたら、絶対に勝てるという風にはいかないが、野田佳彦なら人畜無害。ポーっとしているだけです。ここは、小沢も海江田のやり方だけは潰さなければ民主党はおかしくなる。涙を流して頭を下げ続けて、野田佳彦さんに仙石さんを巻き込んで。100票を超えて野田が2番に

なって、決戦投票で逆転でした。その後、もちろん野田さんは岡田さんのお陰で自分は総理になれたんだから、大蔵財務大臣をやってもらおうと空けていたら、岡田さんは引きこもり状態です。小沢さんから言われて政治家になったが、あんなでたらめな、いい加減な、人を道具としてしか使わない人は嫌だ。前原みたいな、格好をつける、口先だけの男は嫌だ。引きこもり。大蔵大臣を拒否ですよ。外務大臣をやって幹事長をやっているんだから、もうリーチですよ。次は岡田さんですよ。この男の政治的な勘の悪さ。今、引きこもりですから、はっきりいって。だけど、ちょっと1度、新年早々会ってみようかなと思っています。でも、帯に短し、襷にも短い。

消去法で、鹿野道彦69歳。学習院大学、山形東高校出身。彼は、自民党でも農水大臣。民主党でも大臣。今、野田政権の大臣をみても、皆嫌だと思います。消去法、消去法というので残ったのが彼です。一応、先日会いました。「やらなければいけません」と訛って言っていました。しかし私は覚悟は持っている。やる限りは命をかける。自民党にもお願いをする。公明党にも、立ち上がれ日本にもお願いをする。共産党はともかく、救国大連合をやりたいと思っている。だけど、鳩山政権が駄目で菅政権が駄目で、野田政権が潰れて解散総選挙しないで、また総理大臣が変わることを国民はもう許さないと思います。本当にどうしようもないと思います。

自民党、谷垣禎一さん。いい人です。岡田と谷垣の共通点は、東大法学部官僚と弁護士。秀才。2人とも、首相になるタイミングが違います。平時のリーダーです。非常時、戦時のリーダーではないと思います。だから駄目です。問題は石原伸晃さんと石破茂さん。名前は石でも2人は軽石。まだ無理です。だから、誰もいない。次の総理はいないと思います。だけど、消去法でやるしかないだろうと思う。

問題は冒頭に触れた、大阪の橋下徹市長が今日東京に来て、今日明日と何人かの人に会います。石原慎太郎都知事とは都庁で会うと、ゼミOBの産経の記者が昨夜メールをくれた。産経で記事になるのかは知りません。何で石原慎太郎がわざわざ大阪まで応援に行ったのか。私は石原伸晃に、橋本は自民党と組みたいので協力をお願いしたい。ただし、自民党には人がいない。あなたに直ぐには行かないだろうから、お父さんにそのときは国政に転じてもらいたい。総理大臣は国会議員でなくては出来ませんから。次の総選挙の直前に名前はわかりませんが、石原新党を作り東京都知事を辞め、国政に東京ブロックで出馬し、その後に石原伸晃が東京都知事選に出る。そういわれたら石原慎太郎は78歳、79歳ですから。息子可愛い。石原伸晃に後の都知事をやらせたいという気持ちもあるかもしれない。そして産経新聞を読んでいる人ならわかるように、「やり残したことがある、今は死ねない」。1つでしょう、やり残したことは。石原さんは日本のトップをやりたい。そう考えている節があるといわれている。亀井さんと石原慎太郎さんは組むかもしれないが、おそらく平沼さんと組むと思われれます。これに民主党の若手が10数人、自民党から20人。石原新党が出来る。小沢一郎ももちろん民主党を割って出てくるかもしれない。みんなの党の渡辺喜美さんとおそらく橋下さんは組む。その間を繋いでいるのは橋下徹さんが当選したときに後ろで赤いネクタイをして手を振っていた牛尾治朗さん。みんなの党の顧問。橋下さんのアドバイザー。

もう1つの話として、『日本中枢の崩壊』が50万部を売り上げた古賀茂明さんを、大阪府知事選に橋下さんが担ごうとしたときに、渡辺喜美さんは古賀茂明さんならいんじゃないかと承諾しました。最近はまだ本当に彼らは忙しくて講演で歩き続けております。出来レースでしょう。公務員改革、天下り廃止。古賀茂明は「私はブレインになる」と宣言した。当然元々は、

渡辺喜美さんの補佐官になろうとした人です。橋下さんは石原慎太郎さんも小沢一郎さんも手玉に取っているじゃないですか。平成の時代はこの23年の大阪から来年の24年の総選挙にかけて。橋下さんは大阪市長をあと2、3年やります。大阪都計画のためのきちんと自治法を改正しなければならぬから。それまでの間は、慎太郎さんと協調していくような気がします。だから応援にわざわざ行った。自民党と組み、次の総選挙で自民党は120議席くらいが200議席くらいまでは伸びるでしょう。民主党は300議席超えているが、100議席前後まで落ちるでしょう。小沢一郎は当然橋下さんに「比較多数の政党から総理大臣は出さなくてもね、35人の日本新党の細川を総理にしたんだから、人数は関係ないよ。」ということも橋下さんは頭に入れております。石原新党でけっこうです。大阪維新の会は大阪一区に東国原を立てるらしい。近畿ブロックの比例区は29議席です。大阪維新の会なら半分とはいわないまでも3分の1は取るでしょう。下手すれば半分取れると思います。

東京で石原慎太郎さん、東北で小沢一郎さん、北関東、南関東でみんなの党。どうですか？全部合わせれば100議席近くいくと思う。自民党150から200議席弱。過半数241議席。慎太郎さんが1年やって大阪とやろう東京と。2眼レフ構想だ。いや、名古屋もある。3都物語ですよ。大阪、名古屋、東京の3都物語です。

次の選挙で政界再編革命が起きるかもしれない。冒頭触れた、日本の国民はそれでもいいものかと感じております。何はとにかくガラガラポンで変わってくれという。自民党が駄目で民主党を選んだが、民主党はもっと酷いです。だったら、もう誰でもいいからやってくれといったら、橋下徹さんがいて石原慎太郎さんがいて、小沢一郎さんがいて。慎太郎さんと小沢一郎さんは絶対に手を組みません。だから橋下さんはブリッジで影響力を持っているわけです。渡辺喜美はその尻馬に乗って、美味しいところをいただきたい。この図式で進んでいくのかなと考えますが、2、3年で駄目になると思います。橋下は次の次の総選挙で国政に出てきて、総理大臣を目指します。それが昨日の大阪市での発言です。今晚から明日にかけて、どういう報道が出るのかわかりませんが、おそらく北朝鮮のニュースはもう夕方までで、こちらのニュースがメインになるかもしれません。総ての党が橋下さんに会います。まだ40代の男です。行列のできる俺は政治家だと、最近言っているそうです。私は行列が出来ているか、どうか見たことがないので知りません。

以上であります。最後に質問の時間になるまでの5分間、ちょっとお話があります。10日ほど前に中畑清君から連絡がありました。日曜日の夜です。「先生、横浜の監督にと、打診を受けました。」翌日月曜日の12月5日夜11時にほぼ決まります。翌日モバゲー、DNAのオーナー、社長達と会う。火曜夜10時監督を要請され、受けることとなります。「12月9日金曜日2時より、横浜ロイヤルパーク日航ホテルで記者会見をしますが、『絶好調』は封印をします。新しいキャッチフレーズを考えてください。」と彼からお願いされました。私は彼に四字熟語を教えても駄目かもしれないと思っていました。でも一応四字熟語の本を、助手に準備してもらいました。四面楚歌、付和雷同、波乱万丈、どれも違います。しっかりこないです。そこで私は2時間ほど考えました。中畑清、色紙は「元気中畑」。元気じゃ陳腐です。明るい、熱い奴だ。ボランティア活動をずっと続けている。福島県の矢吹町出身。私は熱風横浜、情熱なんとか等を考えました。

12月9日11時。彼から、車に乗って横浜に向かうときに電話がかかってきた。「先生、何か良いキャッチフレーズはありますか？」「四字熟語は駄目だし、お前は英語できないし、Boys,

be ambitious っていうわけにはいかないし。何か情熱とか、熱情とか、熱いとかそういうような感じかなと思ったんだ」と伝えたら、「『熱いぜ』でいきますか。」と答えていました。そして、彼らしいキャッチフレーズを記者会見で発表しました。

しかし、アテネオリンピックの時に戻ってきて、痩せた長嶋監督が「清、日の丸は重い、フラッグは重い」といって、札幌から戻ってきて田園調布で倒れられた。中畑君は長嶋監督の名前がある限りヘッドコーチで動き続けた。「先生やっぱり日の丸は重かったですが、かろうじて銅メダルを持って帰ってきました。」と言っていました。辛かったと思います。「高木豊やヤクルトの宮本慎也たちがバックアップして、何とかメダルを持ってきました」とも彼は言うておりました。赤坂の一流料亭で彼に食事をご馳走した時に、2人で抱き合って健闘を讃えて、「清、お前もう1回ユニホームを着てくれ」と。アテネオリンピックの直後の彼との約束でした。駒沢大学野球部はほぼ知っています。

11月28日月曜日、中畑清のドリームチャリティゴルフ大会がありました。私は大学の講義の関係で午後4時過ぎオークションだけ参加しました。長嶋監督のプレザーが出品されるということで、20万円持って買いに行きました。260名参加のゴルフ大会です。山本浩二元監督が傍で飲んでおられて「先生、みんな中畑君の友達なんですか」と尋ねたので、「みんな友達ですよ」と答えると「すごいですね、野球やめて20年経ってゴルフ大会をやってこれだけの人が集まるなんて、中畑君はそういう男なんですね。」と山本浩二元監督は関心しておりました。

オークションのプレザーは30万円で落札されてしまいました。私は落札された人をじっとみていたところ、「先生使って下さい」と言ってプレザーを持って来てくれました。

私は、ヤクルトのファンですが、横浜のボックスシートも買うことにしました。今日から3回連載で『夕刊フジ』に私の話を聞いた記者の記事が掲載されます。赤坂で中畑君を囲んで食事をした時、太田監督から監督の心構えを言ってもらいました。「中畑。監督は選手の力を引き出すことかな」と一言だけ言ったところ、彼は「はい。選手をのせることだと思います。50の選手の力を、60引き出せば」巨人には、100の横浜の村田、100のソフトバンクの杉内の2人が移籍しても、100+100は200にならないで、150です。50の選手が80になり、50+50は100ですが、80まで引き上げてあげれば、160になりますので、巨人に勝てる可能性がでてきます。山本浩二元監督他、巨人関係者が中畑さんに言った事は一つです。「中畑さんが、横浜の監督になってよかった。明るさ、元気だけでいい。あの巨人の、清武さんとナベツネさんの悲しい話を消してくれた」来年のプロ野球は面白いです。今年は最下位の横浜、私も中畑さんに一言挨拶しました。「最下位の下はないので、安心してやってくれ」と、全然エールになりませんが、6位の下はないですから。

以上で、年末にかけての楽しい嬉しいお話を補足して、質疑応答の時間となります。ご静聴、ありがとうございました。

海老川 いつもながら、先生のお話には数字や日付などの数値情報をご講演の中で縦横無尽に出て参りましたが、野田政権も桜の咲く頃までかという大変興味深い政局を占うお話でした。では質問時間を取りたいと思います。今から先生にご質問されたい方は、どうぞ。お名前を名乗られてからお願い致します。

質問者1 秋田市の笹渕と申します。年金が上がるというお話がありましたけれども、復興会議の際に、

増税ありきで話が進められてきましたが、公務員や政治家は自分達の生活を税金で保証しておりますが、有識者や報道関係者は、そのようなことを一切質問しません。これは官房機密費でもいただいているのかなと疑念を抱いてしまうのですが、日本はこれから立ち直る要素があるのでしょうか。そのあたりを教えていただきたいと思います。

福岡 一番受けたくない質問ですが、大変明快な質問であります。内閣官房機密費は、年間約13億円らしいですが、領収書のいらぬお金を大蔵財務省が2ヶ月か3ヶ月に1回、3億円ずつ入れるそうですが、官房長官が自由に配って、そういうお金を有識者にあげているかも知れないし、新聞記者達もかなり貰っていると思います。政治評論家は貰っておりません。この20年で、10数人の評論家やいろんな人から話を聞いております。あの有識者や原子力開発安全委員会のメンバーでは、ダメだと思えます。児玉龍彦先生の8月と10月の時に言った事をユーチューブを見ていただくと、「満身の怒りを込めて抗議する」と彼は言いました。いつもは、はっきり言わないような先生であります。原子力村で働いていた人々が委員になって駄目です。京都大学の准教授や他の大学の先生を原子力安全委員会に入れないと、おそらく解決しません。こちらはいいけど、こちらは駄目だというのは、なかなか住人を納得させられないです。会津若松市は完全に風評被害です。観光客は激減です。いわきのスパリゾートハワイアンズも全然お客さんは来ません。ご指摘のとおり、今の政治は腐りきっております。だから政経塾出身者もほとんど破門状態です。

他にご質問がないようですので、時間になりましたので、これで終わりたいと思います。2月にまた来ますので、内閣支持率が2月になると20数%になってイエローカードです。20%代になったら、それから数ヶ月で時の政権は倒れます。その時に新しい総理大臣が誰になるのか、選挙管理内閣をつくって、解散即総選挙をするのか、争点はたった1つです。増税か反増税かの問題です。こんな時に増税の問題もどうかと思いますが、いつの日か、消費税が20%になることを覚悟して頂きたいと思います。このことは、2月の講演会の時にまとめてお話しして、秋田県の明るくない厳しい未来もお話したいと思います。

海老川 福岡先生、素晴らしい力のあるお話をありがとうございました。先生は明日からボランティアに行かれるそうでありまして、どうぞお気を付けて行っていただきたいと思います。以上で、本日の講演会を終わらせていただきます。お足元にお気をつけてお帰り下さいませ。今一度、先生に暖かい拍手をお願い致します。

ご来場の皆様にご案内申し上げます。40周年記念館1階で雪国民俗館主催の「暮らしの中のあかり展」を開催中でございます。展示もあと残り4日間となっておりますので、ぜひとも、「暮らしの中のあかり展」にお立ち寄り下さいますよう、お願い申し上げます。

[論 文]

近世初期三教思想の一資料『勸善書』に関して（２）

花 田 富二夫

はじめに

前号において、近世初期、抄出和刻本『勸善書』の全容を紹介し、その中の動物債務返済談について、我が国仮名草子との関係を見てきた。ただし、これらは、あくまでも源流としての位置づけであった。というのも、我が国物語との受容関係については、『勸善書』からの単線過程だけではなく、この間に、善書的内容を持つ、多数の類書群が介在するからである。

たとえば、前号であげた「債務返済談」の『善悪報ばなし』巻二の2は、源流として『勸善書』十九巻の六 三に見える話と同根であり、『因果物語』などとも類想することを述べてきた。しかし、この話は、すでに江本裕氏に指摘されるように^(注1)、中江藤樹作『鑑草』（正保四年刊）巻六「崇文門のほとりに商人ありける」の条を直接の典拠とするのである。そして、この『鑑草』は、中国類書『迪吉録』に依っている。すなわち、中国書物としては『勸善書』『迪吉録』という説話ルートをたどりながら、日本の『鑑草』『善悪報ばなし』という読み物群に影響を与えたのである。

『迪吉録』は明崇禎の進士顔茂猷の編纂による書物であり、従来から論述が備わる。当書は八巻八冊からなる大部の書物で、きわめて大量の説話群から成っている。そこで、本稿では、当論と関わる最終巻の平集一冊、即ち、公鑑門「放生之報から女鑑門」までの内容について一覧表の形でその全容を示すことにする。別表がそれである。また、類話の項には、今述べた『鑑草』をはじめ、本稿を中心とした若干の読み物との関連も示しておく。では、前号に引き続き、本稿では、二秤斗談型説話に関して述べる。

二秤斗談

『勸善書』巻十六の六 五から八にかけての4話は、大小の二升を悪用して利ざやを稼いでいた商人たちが悪報を受ける話である。

第六話は次のような話である。

陳後主の時、市中に一人を震殺す、背に字有り、曰く
斗軽重の四字
、得道者の李居正之を識る、乃ち秤
(第六話)

の中には、飾り文字で梵語らしきものが書かれる。文字については未詳なので、に代えた。これは、二升を使っていた者が、天の怒りによって震殺され、その背中に軽重の秤斗を用いたためという悪報が刻印されたという話である。

この悪報背字の型は、江戸期以前の成立と推測される『直談因縁集』巻八の三五にもあり、そこでは、ある商人の背中に、「二口月八三」の文字があり、文字の真ん中に一本棒を通すと意味が生じるという型になっている。

第五話では宋の謝秀林が小さい秤（権）で貸し出し、大きい秤で受け取って、その差を自己の利益としていたが、やがて天の怒りを買って、雷撃されて殺された。肉塊が散らばったので、死体を焼いたところ、腹中に雷楔が残っていたというものである。

同様に、第七話も、ある餓鬼の苦しみは、

前世の時、市の令と作て、常に軽秤小斗を以て与へ、重秤大斗を以て常に大利を己に得んと欲し、
余人侵す剋故此報を受く

ということであった。

第八話は、麵類や帛類を売っていた商人が、長尺大斗を用いながら、短尺小斗で売っていたため、目のない大蛇に転身させられ、小虫に嚙食される苦しみに落ちるという話である。以上、いずれも大小の二升を使い、暴利を貪った故の悪報であった。

この二榘談がひとつの位置をしめるようになる。万治二年刊浅井了意作『堪忍記』巻四は商人の堪忍説話であり、その四の十五の二「もろこし梁の世に商人市に出て物を売る」の話は次のようである。

夏の事なるに、俄に空かきくもり白雨して、雷おびたしく、天地くらやみのごとなり。つみに
いかづち市の店におちかゝり、商人うたれて死けり。その背にあやしき文字あり。人々読て見るに、
読るに似て、その義理つかず。いかなる故なるらんとて、立つどひて見る所に、ある道人、馬に
のりながら、これを見て、手に持ける鞭をその文字にあてゝいはく。二〇〇月八三とあり。この六
字に豎の点をくはへてみれば、市中用小斗といへる文字なりけりと。いかづちのためにうたれて死
して、この恥をあらはしけり。
(振り仮名は省略)

この話の「二〇〇月八三とあり、この六字に豎の点をくはへてみれば」で明らかのように、これは、前述『直談因縁集』巻八の三五と同話である。また、この話は渡辺守邦氏の指摘によると(注2)、『ひそめ草』にも登載されており、『法華経直談鈔』巻十にも見えている。二榘を使った悪報談としてかなり流布したものであり、背中に文字が刻まれるという構想が、『勸善書』などのかなり古い説話として出現していたことが判る。

『堪忍記』は、かなりの説話を『迪吉録』に拠っていることが判明している。小川武彦氏の指摘に基づいて(注3)、平集との関連説話を一覧表に記しておく。その他『堪忍記』との関連説話は、平集にとどまらず他巻にも及ぶが、ここでは割愛する。

この二榘談の中で、『堪忍記』にも採られ、『鑑草』にも採られ、さらに『善悪報はなし』でも翻案された一話がある。それを掲載しておこう。この説話は『迪吉録』平集にも見えているのだが、当箇所は全文ではない。全文を載せるのは兆集の方であり、今、兆集の全文を掲げる。章題は「周婦以廉直悟其親子登科第」である。

周才美、有子婦、賢徳能幹、才美將以家政付之、諭以斗斛秤尺、各二様、并出納軽重便宜、婦不悦、
拝辞舅姑、不願為婦、恐他日生子敗家、以為妾之所出、枉負其辜、才美愕然曰、吾家薄有田業、何
遽辞去、婦曰、翁平日所為有逆天道、妾心有愧、居之不安、才美曰、汝言誠是当悉除毀、婦曰、未
可、問其所用年数若干、才美曰、約二十余歳、婦曰、必欲妾留侍奉、若許以小斗量入、大斗量出、
小秤短尺買物、大秤長尺売物、二十余年、以酬前日欺瞞之数、妾即願留、才美感悟、欣然許諾、婦
生二子、皆少年登科 (評略)
(京都大学蔵近衛本による)

本話に基づいた『堪忍記』も『鑑草』も原文に忠実な翻訳文となっている。どちらかというところ、『堪忍記』の方が字句を多用して巧みな文章となっている。両者を引用してみよう。

周才美が婦、才徳すぐれけるが、才美家をわたさんとて、升を二つとり出し、(1)此の小さき升にては人にわたし、大きな升にてとりおさむべし。そのうけとりわたしのてだては。かく。すべしと。

いとねんごろに教へければ、よめうけごはずして申けるは、左様にもちがたき所帯ならば、我さいばんの及ぶところにあらず、いとまを給はりて家に帰らんと請。才美その意趣をとへば、婦こたへて、翁の両升をつかひたまふところ、天道にそむきぬれば、⁽²⁾必ず天の責ありて、此家やぶるゝのみにあらず、子孫までもそのむくひおそろしく侍れば、かく申なりと云。才美おどろきはぢて、左あらばその方の心にまかせて、向後両升を敗りすつべしと云。婦答て、両升をつかひ給ふ年数はいくばくぞやと云。二十余年に及べりと答ふ。婦人申けるは、いまより二十余年の間、ちいさき升にてとり、大きな升にて出し、今までの科をつくなひてのち、升壺つにし給はゞとゞまりて家をうけ取べしと云。才美悔て、兎も角も汝がさいばんにまかすとて家を渡しければ、婦うけとりて廉直に家をおさめぬれば、その家日々にさかへ、生る子二人まで少年にして及第して⁽³⁾高官にのぼりけり。

(加藤盛一校注 岩波文庫『鑑草』による)

原文とつきあわすと、かなり忠実に翻訳したことが見て取れる。特に、傍線部(1)は原文の「諭以斗斛秤尺、各二様、并出納軽重便宜」を、具体的に詳しく説明したものである。また、(2)は原文の「妾心有愧、居之不安」を改変したものであり、原文では、あくまでも婦人の倫理観による、「自ら恥じる」「ここに安んじていられない」という気持ち、「天道の責め」が「おそろしい」という天道思想へと転化させられている。天罰の恐怖を強調したためであったろう。(3)は作者が追加した箇所である。このように、忠実な翻訳にあっても作者の手がある程度加わっていることが分かる。『堪忍記』はさらに、和文化が進展している。

宋の周茂才とて。有徳なる人あり。^(A)算漢に達して。売買を業とし。財をまうくる事。夜に日におほく。大福人の名をほどこしけり。ひそかに斗斛と。秤と。隼尺とを。二様にこしらへ。⁽¹⁾かるくほそきをもつてはかりいだし。おもくながきをもつておさめいるゝほどに。利潤はなはだつよし。その妻張氏は。知恵たけて。賢なる人なり。かたち世にすぐれて。心ざしあはれみふかし。しかるに妻は。此有様を見て。大に歎く色あり。その舅姑の前に行て。われ此家の妻となり。未久しくあるべし共思はず。もしその内に。子をうみたらは。子ともろ共に。家ほろび。⁽²⁾科にあはんととき。みづからがいたしける。業のやうに人の申さんも心うかるべし。家のほろびはちかきにあるべし。只いとまを給はりて。かへり侍べらんといふ。周才美聞て。大におどろき。はづかしく思ひ、汝のいふ所まことに。天道のおそれあり。わざはひのきたらん事は。かならず遠からず。今より後は。このちいさくほそき斗衡をうち破。すつべしといふ。妻のいはく。⁽³⁾それいまだ。みづからが思ふ心に足ざる事あり。さてその二様をば。何年ばかりつかひきたれるといふ。周才美がいはく。二十余年このかたなりと。妻のいはく。みづからを此家にとゞめて。君が親たちにつかうまつらしめんと思ひ給はゞ。今よりして量とるへき物は。小斗にてとり。人に渡すときは。大斗にてはかりいだし。物を買時は。おもき秤。短き尺にてとり。賣時は。かるき権ながき隼にてわたし。二十余年のあひた。是をもつてさきの。くらましける科をつくのひ給はゞ。みづから此家にとゞまり侍らんといふ。周才美ふかく。感じてかくのことくにせしかば。家にぎはひいよ／＼徳つきて。二人の子をまうけ。学文させしかば。いくほとなく。禁中にめされて。学士の官にのぼり。家さかへけり

(仮名草子集成第二十巻による)

まず、本話では周才美の名前を周茂才として書き出し、妻の名も張氏としている。だが、この周茂才や張氏の名前は原文に見えないのであり、作者の考案であったかと推測される。あるいは、他本から得た知見かもしれないが、今の所確認し得てない。また、二重傍線(A)も、原文にさらに加味した記述である。しかし、一方で原文には忠実なのであり、傍線(2)や(3)は『鑑草』が訳出しなかった部分である。本話ではこれらを丁寧に訳出している。(1)もまた、『鑑草』の記述より、原文に近いと言

える。最終行、科擧の試験に合格したところは、『鑑草』と同じく高官に上ったことを述べ、さらに家も栄えたとして慶祝の気分を高めるべく工夫されている。総じてこれらより、本話はかなり忠実に原文を訳出しながらも、訳文自体も流暢であり、構想的にも『鑑草』に比べ一段と説話化されていると言えよう。しかし、本話の人物関係には疑問が生じる。

この『鑑草』に拠ったものが、『善悪報はなし』巻二の四「れんちよくの女富栄る事」である。以下に本文をあげておく。

洛陽にさる商売人あり、⁽¹⁾子に家をわたし、我はみんきよせんとしたくして、升を二つ取出して、よめにむかつていはく、なんぢ今日よりして家をわたす也、然れば、此ちいさき升にては人にわたし、大きなますにてはおさむべしとて、其うけとりわたしのやうくはしくをしへければ、よめつくノ、聞ていはく、さやうにむつかしき所帯ならば、我さいばんいたす事かつて成がたかるべし、さあらば我にはいとまを給はりて家にかへらんと申、舅おどろき、なんぢさやうにいひし心ねはいかにと問、よめこたへていはく、さればこそ其方の両升をつかひ給ふ所、さりとは天道にそむきぬれば、かならず天のせめのがれがたくして、つみには他家やぶるゝのみならず、子孫までも其むくひのがれがたかるべし、ぜひわれにさいばんさせんとおぼしめさば、向後両升をやぶり給へと、⁽²⁾しうとのいはく、扱も女のち糸うすき事のはかなさよ、とくぶんを得る事をしらずして、いなといふ、然らばなんぢはからひにまかせをく、ともかくもと云、よめのいはく、さ候はゞ、其両ますつかひ給ふ年数はいくばく成ぞや、舅こたへて、されば廿四五年余と申、よめ申けるは、今より二十四五年の間、ちいさき升にて取、大きな升にて出し、今までのとがをつぐのひてのち、升一つにし給はゞとゞまりて家をうけ取べしと云、しうと聞て、それはなんぢがさいばんにまかするうへはともかくもと云て、家をわたしける（以下。略）

傍線を引いたように「さいばん」という言葉が『鑑草』と共通している。この点から、本話は『鑑草』に拠ったことが判然とする。

さて、傍線（１）のように、洛陽の商売人は隠居する身であり、これは周才美に相当する。顧みるに『鑑草』の方も、「翁」に対して、「婦（よめ）」は諫言しているのであり、周才美は妻からすると舅に相当する。原文の方も「周才美、有子婦」とあり、「子の婦」とするのが妥当であろうから、『鑑草』と本話は原文に正しく即したと言える。この点において『堪忍記』は周茂才、周才美と人名そのものが揺れながら、周才美を妻の夫とみなして構文化しているのが見てとれよう。名前が揺れたのは一抹の疑問を抱いたからであろうか。作者の誤読と言わざるを得ない。

このように三話を並べて考察してみると、人物関係の誤りなど副次的なことも判明するのであるが、『迪吉録』に発した当話の発展を追うことができる。それは、『鑑草』『堪忍記』と比較的原文に忠実な翻訳の世界から、最後の『善悪報はなし』などのように、日本話柄への転化の形である。『善悪報はなし』では、主人公も「洛陽の商人」となり、傍線部（２）のように「しうと」は一度は「よめ」の進言を拒むという新しい筋書を添加されている。もちろん、原文への依存度は強いが、これらではかなり中国臭が払拭され日本化されてくる。その意味で、『善悪報はなし』は、少しく翻案化の兆しが表れているとも言えるであろう。これらは今後の課題ともしておこう。

以上、『勸善書』に発した二枘談のひとつの様相を述べた。なお、一覧表には、仮名草子『戒殺放生物語』（寛文四年刊）との関係説話も記入した。本書には株光大師の戒殺放生の文なども影響しているが、『迪吉録』にも掲載されるため参考資料として掲示しておく。

注

- (1) 『近世前期小説の研究』一四〇頁(若草書房、2000年)
 (2) 『仮名草子の基底』一〇二頁(勉誠社、1986年)
 (3) 『『堪忍記』の出典 上の一 中国種の説話を中心に』「同上の二」(『近世文芸 研究と評論』第十号、十二号 1976年5月、1976年6月)

[別表] 『迪吉録』平集

番号	章 題	内 容	キーワード	分 類	類 話
01-01	毛宝贖亀墮水得救	毛宝、亀を養育後、放した。敗軍中、一人、命を助かる。	白 亀	放 生	戒殺放生物語 4の8、堪忍 記8の25の5
01-02	劉之亨放鯉延寿	夢中に二人の李姓の人物が現れ、命を乞う。翌日二頭の鯉を放し、寿命が延びる。	鯉	放 生	
01-03	嚴泰贖亀還銭	嚴泰、亀を五千の銭で贖い、放す。有烏の人、濡れた銭を返す。其居を嚴法寺と名付ける。	亀	放 生	
01-04	陳弘泰放蝦蟇獲金蝦蟇	弘泰、借錢の代わりに、蝦蟇を贖い、放す。後、金の蝦蟇を得た。	蝦 蟇	放 生	
01-05	王五活蠅蠅積其寃	王五、酒器に投死せんとする蠅を助けたために、刑死を免れた。	蠅、筆に 集まる	放 生	戒殺放生物語 4の13
01-06	隋侯活蛇報珠	隋侯、蛇の命を助け、蛇、夜光の珠を報じる。	蛇、夜光 の珠	放 生	戒殺放生物語 4の11
01-07	楊宝庇雀啣環	楊宝、九歳の時に黄雀の命を救う。後、群雀来たる。一童子現れ、白環四枚を与え、孫四世まで栄えた。	黄雀、白 環四枚	放 生	戒殺放生物語 4の12、堪忍 記8の25の2
01-08	韋丹救龍報以祿命	韋丹、四〇歳にして第せず。洛陽橋で一龍を贖い、放す。後、胡盧先生と老人のところに詣づ。老人はさきの龍であった。そこで一通の文字を授かり、及第、栄達していった。	龍	放 生	
01-09	宋郊渡蟻並得高魁	胡僧、相を占い、兄弟のうち、兄の郊が数百万の命を救ったと驚く。顧みるに蟻の群れを橋を渡して救ったという。	蟻	放 生	
01-10	蔡襄放鷓鴣身胤俱顯	鷓を喜んで食べていた蔡襄の夢に褐衣の老人が現れ、詩を誦し、それを聞いて、鷓を放し、進士に上った。	鷓	放 生	
01-11	李遂夫不食牛三世登科	遂夫、父以下三代牛を食せず、科に上ったことを、夢人の文書で知る。	食 牛	放 生	
01-12	顧待問悔食牛復牛注榜名	顧待問、牛を食して、榜の名前を墨塗されたため、後悔し、以後、食せざることを誓い、姓名を注した。	食 牛	放 生	
01-13	陳元植護生寿延百歳	元植、隠鷺を好み、禽鳥も彼を恐れなかった。夢に緋衣人現れ、延寿を告げる。後、食欲増し、九九歳から百歳に至る。	延 寿	放 生	
01-14	喻參救鶴得珠	參、母に孝養、鶴を治療して放し、後、鶴が明珠を贈与。家は富む。	鶴	放 生	
01-15	楊序活魚卵延寿	序、夢に億万の命を救うと、命が助かると告げられ、魚卵を江中に投げ、延命した。	魚 卵	放 生	堪忍記8の25 の6
01-16	劉子嶼放鯉得金	子嶼、二大鯉が堰内の子をくわえて跳躍しているのを見て、堰内の魚を放し、地中に金を得た。	鯉	放 生	戒殺放生物語 4の7
01-17	李進勅放魚免厄	進勅、船中に魚を満載していたとき、読経の声がし、驚く。輪廻の身を感じ、魚を放つ。大風に遭ったときに、大魚数百頭に助けられる。夜になり、荻叢中に金二斤を得る。	魚	放 生	
02-01	許憲男好火獵反焚其面	許憲の男、火獵を好み、白シヨウを弓で射るも失い、却って、火で面を焼く。	火 獵	殺 生	
02-02	益州人食龜立死	三人、入山し、路に迷い、龜に路を示される。一人が小龜を食し、暴死す。	龜	殺 生	
02-03	元稚宗好漁獵異受割鬻	稚宗、神人が現れ、皮を剥がれたり、鑊で煮られたりして、漁獵を戒められ、以後、漁獵せず。	漁 獵	殺 生	
02-04	東興人殺猿子全家疫死	山で猿の子を得て、母猿も追ってきたが、子猿を殺し、母猿も死に、その家疫病で絶える。	猿 子	殺 生	戒殺放生物語 1の6
02-05	沛国士人毒燕雛子皆唾	小児の時、三の燕に茨を食させて殺した応報により、三子が口をきけず。	燕	殺 生	戒殺放生物語 1の4
02-06	齊貴人好噉牛見牛觸死	貴人、牛を噉うて、病の時に牛来たり死す。	牛	殺 生	

番号	章 題	内 容	キーワード	分 類	類 話
02-07	阮倪割牛舌生子無舌	倪、牛の舌を割き喰らい、子に舌無し。	牛 舌	殺 生	
02-08	望蔡令殺牛飲啖癩疾死	県令、牛を殺して飲酒し、目覚めると体中に隠疹が出来、らい病となって死す。	牛	殺 生	戒殺放生物語 2の6
02-09	文立殺孕鹿瘡落鬚眉	文立、子を孕んだ一鹿を殺し、鬚眉落ち、瘡を生じる。	鹿	殺 生	戒殺放生物語 2の11
02-10	僧群折鴨翅絶飲死（見報而死）	群、少年時に鴨の翅を折り、水を絶つて死す。	鴨	殺 生	
02-11	僧法昭折鴨脚脚随折	法昭、鴨の脚を折り、俄かに脚が折れ、永く廃疾す。	鴨	殺 生	
02-12	王將軍好畋獵喪其愛女	將軍王某、獵を好み多くを殺す。五男に一女が生まれたが、七歳時、荒野の中で、兎の鳴き声をし、足には荆棘あり、やがて死す。	好 獵	殺 生	
02-13	李壽頻殺隣犬群犬索命	壽、畋獵を好む。又、隣犬を殺す。公、疾病に罹り、五犬の命を求む。追福に四犬は許し、一犬は許さず。壽、偏風を患う。	畋 獵	殺 生	
02-14	王遵斷鵲舌患口疾行乞	王遵、病の時、喧騒のために鵲の舌を断つて放し、兄弟口疾に罹る。	鵲 舌	殺 生	
02-15	陸孝政殺蜂蜂螫舌死	孝政、湯で蜜蜂を殺し、後、舌を刺され、口を塞がれて死す。	蜂	殺 生	
02-16	果毅宰豚聞哭驚死	果毅、常に豚を買い、客をもてなす。十豚をすべて買ったところ、最後の豚の時に、向の家で哭く声がある。客は皆帰り、果毅は病を得て死す。	豚	殺 生	
02-17	屠人為群羊所刺	屠人、病み、羊から手や脚を捉えられ、刀で刺され、死す。後蘇り、刀の穴などが似る。	羊	殺 生	
02-18	楊舜臣嗜胎畜冥中見訴	舜臣と知元、身ごもった牛などを好んで食し、舜臣死すが七日目に蘇り、訴えられたことを告げる。知元は三日後に、舜臣は五日後に死んだ。	胎 牛 他	殺 生	
02-19	季全多殺報見其子	季全、殺戮を好み、鳥たちも頭を刈って飛ばせたりした。妻が子を産んだが、頭皮が垂れたりしてともに死す。兄弟も残虐で、眼鼻がないものが生まれた。	好殺動物	殺 生	
02-20	当塗民斷鰻一家并命	当塗人、三頭の鰻を得、其の子、頭を羹にせんとしたところ、蛇に化した。二匹もまた、半蛇となった。子及び一家は絶えた。	鰻	殺 生	
02-21	朱化販羊為羊鬼所殺	化、羊を販す。一人が小羊を買うべきことを告げ、小羊百十口を買った所、すべて鬼となった。其の人を探しだすと、それも又鬼であり、化はやがて死んだ。	羊	殺 生	
02-22	李詹耽味責及伝者	李詹、鰻を酒で煮たり、驢の胃腸を蕩かして酒飲したりして、首を絞められて死すが、蘇り語る。	暴 食	殺 生	
02-23	王公直控蠶償命	村が飢饉となり、桑の葉が高騰したので、王公直が妻と図り、蚕を地中に埋め食物を購入した。門吏より囊中に血があることを不審とされ、中に人の臂があり、蚕を埋めたところから人の死体が掘り出され、臂が一致したため、殺人の罪となって処罰された。	蚕	殺 生	
02-24	王洞微漁獵瘡痂数年	洞微、禽獣、魚鳥を数万も殺したため、病熱に苦しみ、多くを噛まれ、後十年で死す。	殺 戮	殺 生	
02-25	崔道紀烹殺子并魚除其祿壽	道紀、僕が井戸からくみ上げた魚を煮て羹に食したところ、天から黄衣の人が降り、寿命が三十五歳で果てた。	魚	殺 生	
02-26	何沢豪於烹殺子死鑊中	沢豪、常に、鶏犬鷺鴨を煮て食していたが、子供が鑊中で鶏と一緒に煮殺された。	鑊	殺 生	
02-27	岳州民竭沢害生瘡爛死	人、漁獲ならびに亀の肉を鬻いでいたが、総身に瘡ができ、水中に体を投げ入れたら亀の形に変わり、爛れて死す。	漁 獲 亀	殺 生	
02-28	老翁蝶蝦死為蟻食仍化為蝦	蟻数千、水中に入り、蝦と化す。かつて蝦を焼くのを業とした老翁を葬った所であった。	蝦 蟻	殺 生	
02-29	章邵殺鹿兒自殺其子	邵、鹿の子を捉え殺す、母鹿、悲号やまず。邵の子、大樹の下に休む。わが子と知らず、殺して傍らの衣ばくを奪った。	鹿	殺 生	
02-30	翟楫食牛悔罪得嗣	楫の妻懐妊するが、夢に白衣の婦人が現れ一児を送るが、牛が隔てて子供を抱けず。以後、牛を食せざるを誓い、子供が生まれた。	牛	殺 生	
02-31	孫勉殺鼈見訴	勉、一鼈を射殺し、死す。冥に入り、訴えられたが、その職故に殺したこととした。	鼈	殺 生	
02-32	焦仲好射獵妻子無子遭	仲、殺を好む。新宅成るが、門に巨大な蛇縦横す。三男あれど相次いで死す。仲は老いて死せず。	好 殺	殺 生	

番号	章 題	内 容	キーワード	分 類	類 話
02-33	朱某好塞蜂窠生子無窠	朱、蜂の窠を塞いで殺し、自子二人も穀道を塞がれて死す。	蜂窠、紫姑神	殺 生	
02-34	張四兒屠牛為牛触死	四兒、牛を殺すを業とす。牛、市に奔入し、四兒追われ、殺さる。牛、また牛肆にも乱入、器物を壊す。	牛	殺 生	
02-35	応天拳子多殺猪变猪死	拳家、猪の肉などを毎日食し、夢に猪に变ずる由を告げられるが、信ぜず。暴死して、棺中に猪に变ず。	猪	殺 生	
02-36	劉万殺大魚一家腫死	万、秋冬は打雁、春夏は漁獺を業とす。僧の忠告を聞かず、大魚を食して、一家病死す。	大 魚	殺 生	
02-37	鎮民業屠怪徵破家	某家の鴨が算帳算帳と鳴くため、翁怒り、釜で煮る。其の家破産す。	鴨鳴き声	殺 生	
02-38	李紹嗜犬兇斃身死	紹、犬食を好む。飼っていた黒犬が吠えたので斧で殺そうとし、自子の首に当たり死す。紹、病を得て犬の声を為して死す。	犬	殺 生	
02-39	雲棲放生文	略		殺 生	
02-40	広放生論	略		殺 生	
03-01	来旺被殺化豕鳴冤	陳、城コウ神に謁見して豕が車に迎える。豕に従って冤地にゆく。豕、食せずして死す。(略)	人鬼の交わり	刳殺私殺之報	
03-02	何法僧刳殺夢發其賊	諸葛元崇、何法僧に殺され、母の陳氏の夢中に父の死とともに、自らも殺されたことを告げる。道立、鬼語を確認し、二人を捉え、法に依り殺す。	鬼 語	刳殺私殺之報	
03-03	洛陽盜焚刳天火驅殺	洛陽の午橋より失火、七人が焚死す。午橋の一家に強盗に入った賊がつかまり、天空の火、六、七団が襲い、心中に入って発狂したことを述べた。	天 火	刳殺私殺之報	
03-04	杜通達殺僧蠅入鼻死	通達、妻と鬩り、僧を殺した所、僧の腹中に嚶嚶の音がし、蠅が鼻中に飛び入り、通達死す。臨終の際、蠅は妻に入り妻も死す。	蠅	刳殺私殺之報	
03-05	刑文宗殺客及僧蠅入鼻死	文宗、客の絹を狙い、殺す。老僧に出会い、それも殺す。後、僧を殺した場所で、口から蠅が出て、鼻に入り、文宗、大病を得て死す。	蠅	刳殺私殺之報	
03-06	舟師殺尉納妻子訴状誅	崔氏、王氏を娶りて船で赴任するとき、船人、崔氏の囊たくを狙い、深潭に落とす。夜、王氏を納れ、王氏男子を産み、船人養う。崔母も子を待つが、乱離す。子供、拳に赴く。道に迷い、崔母の家に寄る。朗君にそっくりであった。亡子の衣服を贈ったところ、その服から父のいきさつが判明し、船人、孫は罪に服した。	衣 服	刳殺私殺之報	
03-07	舅殺小兒里兒白其辜	兒、殺され、斎を催すときに、死兒が里中兒と共に行き、舅が犯人であることを告げる。里中兒それを話し、舅は罪せられた。	死兒の靈	刳殺私殺之報	
03-08	李參軍刳掠後世償殺	李生、侠を好む。深州の録事參軍に至る。王武俊帥を郡守、皆畏れる、其の子、土真属郡を巡り、深州に至る。もてなしのために李生が召される。土真は悦ばず。土真、李生を獄にかけ。大守、獄中で李生に訳を尋ねた。李生、若くて貧なる時、一少年の囊を狙って、これを岸壁に落とし、繒百段を得て、これから読書に励んだ、という。王公(土真)こそ、その少年という。土真、李生の首を取る。土真に自覚はなかったことが奇異である。	殺 人	刳殺私殺之報	
03-09	盜殺盧叔敏托夢獲斬	叔敏、小奴と京に赴くに。紫衣人と同行し、紫衣人、小奴を殺し、生(叔敏)も殺される。緱氏尉の夢に生が現れ、賊に殺されしことを告げ、賊が白牛一頭を牽き連れることを告げる。鄭君、賊を捕らえ、崔相の書を見つけ、夢告に従い、牛を牽く者をならびに、属党を捕縛した。囊中の絹を狙ったものであった。	殺人夢告	刳殺私殺之報	
03-10	七歳兒被殺牛發伏誅	王安国の家に賊が入り、安国の一子何七、殺される。村人の集會に何七の魂が現れ、賊の姓名や二牛の事を告げる。その後、二客がありて、牛を我が物と主張したので、安国は、告げの件や、その姓名などが一致したため、賊を捕らえた。	牛 夢 告	刳殺私殺之報	
03-11	盜掠殷氏狐發獲賊	殷氏の家に賊が入り、父子三人が殺される。南華の夢に三人が現れ、賊の姓名を告げる。捕縛の途次、狐が現れ、一穴中に入り、群盜の金帛が出現した。支党が穴中に死んでいた。	夢 告 狐	刳殺私殺之報	
03-12	蜀民微物殺人誤殺親子	五斗の米を負った者が泊まり、主人が妻と謀り、殺さんとし、厠に立ったが、寝ていたのが我が子と知らず、我が子を殺してしまった。	自 子 殺	刳殺私殺之報	

番号	章 題	内 容	キーワード	分 類	類 話
03-13	僧齊能被鳩転生報警	齊能、京から度牒を請けて歸りに、別邸の主人から殺され、妻が子を産むが、其の子は齊能が転生したものであり、父を犯人と告げ、床下から度牒が出現した。	転 生	劫殺私殺之報	
03-14	王冠幼孩入薬凌遲死	南京の富人、房中の術を修練し、婢妾十余人を置いた。薬を和し、幼孩を煮たりと恣であり、凌遲死絶した。	凌遲死絶	劫殺私殺之報	
03-15	李宝善縦火雷震死	宝善、陳匠父子を火殺す。四年後族党と捕らわる。魚田の青魚数尺となり、宝善は雷震に打たれ死す。族党も陳匠父子のように焼け焦がれた。	雷 震	劫殺私殺之報	
04-01	銅烏疑怨殺人嘔血死	張超、翟願と不和。翟願、殺され、張超疑われる。翟兄子の銅烏、張超を殺し、吐血して死す。	銅 烏	誤 殺 之 報	
04-02	郭景章醉撃人腦尋腦瘡死	景章、酔って、貧民趙安を打ち、腦に注子の口がささって死す。一子に金帛を与え、隠した。後、景章の腦に瘡が生じ、膿血絶えず、死す。	腦 殺	誤 殺 之 報	
04-03	汴卒誤殺一人誤死擗手	卒が都門より棘野中に至った時、叢中に人が隠れていたが、虎豹と間違えて誤殺。囊中の金を盗って豊かになり、一女を育てた。卒、匠の子を以て、女を妻とした。匠の子、刀を削っていたとき、卒、酔の余り、腹につきたてて死す。	叢中誤殺	誤 殺 之 報	
04-04	聶司務掌死一吏生子破家	司努因、吏が笏板を失くしたので顔面を打った所、死す。官、妻のもとを訪れ、一子を産む。子に掌の痕跡があり、父はその因果を知る。夫妻、逃げる。子は家業を蕩尽し、家を破った。	掌以打顔面	誤 殺 之 報	
05-01	倭寇犯海誅死無遺	永楽時、都督劉江、倭寇の賊を討つ	倭 寇	草沢嘯聚之報	
05-02	唐賽児妖逆賊党俱殲	山東民林三妻、夫が死に、山麓の石匣の中に宝劍妖書を見付け、術を行う。紙を切って人馬となす。妖徒、盛んなため捕縛せらる。賽児、賊党を殲滅する。	妖 術	草沢嘯聚之報	
05-03	鄧茂七作寇射死	郷村に総甲を置いて統治させた。茂七、総甲となり、田主と租を争い、田主、訴える。拳兵十余万人。寇、流矢に当たり死す。	租	草沢嘯聚之報	
05-04	黄蕭養謀反九月磔死	蕭養、獄に居たとき、竹葉が生えてきて、祥瑞と言われ、獄を脱したが、都督の軍により誅罰された。	竹 葉	草沢嘯聚之報	
05-05	劉千斤僭号一鼓擒戮	千斤、流民を集めて賊党をなし、勢いあつたが、圭督等により平らげられた。	流 民	草沢嘯聚之報	
05-06	満四反石城半歳械誅	士達、賊す。満四謀反し、石城に抛る。満四、磔に誅せらる。	賊	草沢嘯聚之報	
05-07	岑濬襲田州被斬革爵	濬、謀反し、田州府を破る。やがて斬られる。	謀 反	草沢嘯聚之報	
05-08	劉六等作乱一年尽滅	劉六、劉七、響馬賊となるが、やがて官軍に殲滅される。	馬 賊	草沢嘯聚之報	
05-09	趙風子從賊数月伏誅	趙風子、任侠を好み、劉六等が妻をおびやかしたため、二賊を殺傷したが、賊に捕らえられ、寇を為すようになった。後、官軍に負われ、僧と偽ったが、斬られた。	寇 賊	草沢嘯聚之報	
05-10	張璉現龍爪終歸擒磔	璉、官に捕らえられんとし、水に浮いて逃れ、皆、龍爪を見た。後、官軍に捕らえられ、磔誅された。	龍 爪	草沢嘯聚之報	
06-01	孝順	略		功 過 格	
06-02	和睦	略		功 過 格	
06-03	慈教	略		功 過 格	
06-04	寛下	略		功 過 格	
06-05	勸化	略		功 過 格	
06-06	救済	略		功 過 格	
06-07	交財	略		功 過 格	
06-08	性行	略		功 過 格	
06-09	敬聖	略		功 過 格	
06-10	存心	略		功 過 格	
07-01	田婦孝食天穀	常州に盲の媪がいた。婦が飯を炊いたものを間違つて溺器に盛った。婦は何も言わず、きれいな部分は媪に食べさせ、自分が臭いところを食した。後、天により。米の湧き出る宝の囊を授かった。	溺 器	女 鑑 門	鑑草一、堪忍記6の21の4
07-02	杜婦逆変異類	延平府の三兄弟の婦、姑に食事を与えず、首の下はそれぞれ、牛、犬、豚の異類となり、数月で死す。	人首獸身	女 鑑 門	鑑草一、善惡報はなし1の4、堪忍記6の21の5

番号	章 題	内 容	キーワード	分 類	類 話
07-03	開封婦生死巧換	開封に老翁あり、長婦別居す。幼婦妻を娶る。翁、身を質にいれて銭を得る。新婦、質銭を出し、翁を贖う。長婦、貪にして、その銭を盗み去る。新婦疑われ死す。棺に雷雨あり、長婦の聲がした。そこに新婦が現れ、鬼物と驚く。地には長婦が死んでおり、手に銭があった。	死生交換	女 鑑 門	鑑草一、堪忍記6の21の1
07-04	李氏秦氏祥禍各殊	見公鑑孝門		女 鑑 門	鑑草一
07-05	酸棗婦雷換狗頭	酸棗県の里婦、姑の目が見えないため、犬の糞を食させ、狗の首と化した。	狗頭新婦	女 鑑 門	鑑草一、善悪報はなし4の2、堪忍記6の21の2
07-06	喻氏孝免雷厄	見公鑑孝門		女 鑑 門	鑑草一
07-07	姜詩妻事姑感鯉	詩の妻、龐氏、姑の為に江水を汲みに行くが遅滞した為、詩に責められ、傍舎に留まり、紡績して姑に贈った。姑、隣母よりその件を聞き、還す。一子を溺死させるが、姑に告げず。姑が魚膽を好むので隣母と食すよう力を尽くした所、泉が湧出し、双鯉を供した。	双 鯉	女 鑑 門	鑑草一、堪忍記6の21の6
07-08	王氏女哭父開眼	王氏の女、盲目にして孝なり。三十にして父死に、血涙を流し、少妹が血を舐めた所、左目が開いた。	開 眼	女 鑑 門	
07-09	林婦三孝相成子孫世貴	林侑の妻周氏、姑に孝。子の婦、徐も周に孝養す。徐、子を産む。盗に迫られ、夫、児を沢へ捨て、盗人に討たれる。盗人周氏に目をかけ、周氏と徐氏は逃げる。周氏神に祈り、子供の定老は無事だった。定老が妻、潘氏も二母に孝を尽くした。徐、晩年に疾に遭うに、潘、股肉を進ず。子孫、三孝のために繁栄す。	三 孝	女 鑑 門	鑑草一
07-10	戚母三美兼備両子栄寵	戚如圭母周氏、七歳にして父を、そして母を喪う。姉と食する時は必ず祭った。長じて、戚を産む。姑、高夫人によく仕え、夫人が風痺を患ったならとも臥起した。長子は進士に登った。	婦徳母徳	女 鑑 門	鑑草一
07-11	王覽婦均役子孫世貴	詳見蓋愆門		女 鑑 門	鑑草六
07-12	徐鄭妯娌二難	唐の張孟仁、張仲義兄弟の妻、鄭と徐はともに紡績に励み、それぞれ富て傲らず、貧にして諂わなかった。	兄 弟 妻	女 鑑 門	
07-13	章氏二嗣継貴	章氏の兄弟に子無くして、兄が一族から一子を抱えたが、後、自子をもうく。弟、子無くして一子を乞う。兄嫁は自子を譲り、それぞれ科に登った。	兄 弟 子	女 鑑 門	鑑草六
07-14	魯義姑棄子存侄卻敵見褒	齊が魯を攻めた時、婦人が抱えていた児を捨て、連れていた児を抱えて逃げた。その子は兄の児という。自分の児は私の愛、兄の児は公の愛と言った。義姑と称す。	捨 自 子	女 鑑 門	
07-15	薛義姑辞婚鞠弟朔業興隆	薛、父母が亡くなり、二弟の為に嫁がず、後、倪氏に嫁ぎ、子孫繁栄した。	二 弟	女 鑑 門	
07-16	曾婦守節却敵崇加封蔭	晏氏は夫が死しても嫁がず。寇の攻撃に、黄牛山に砦をなし、敵を防いだ。晏氏は家財を傾けて、少壮などを訓練し、敵を防いだ。	砦	女 鑑 門	
07-17	李媿妻奮勇全城名著夫崇	李媿、敵賊のために城を逃げんとするを、妻の楊氏が死守するように諫言す。李媿、矢に当たり帰臥せんとするを、またも諫言し、城を守る。	妻勇諫言	女 鑑 門	
07-18	魏母慈前子己子竝貴	魏の慈母、後妻となり、三人の子があり、五人の前妻の子がいた。慈母は前妻の子らを自子以上に慈しんだが、前妻の子らは、慈母を愛さない。中の子が罪を犯し死に当たるを、慈母は魏王に説いて前妻の子を救った。	繼母慈愛	女 鑑 門	鑑草五、堪忍記7の23の3
07-19	徐妻殺前児已児継死	東海徐甲の前妻の子を鉄臼と言ひ、後妻の子を鉄杵と言う。後妻陳氏、鉄臼を苦しめ、十六歳で死す。鉄臼、鬼となって、陳氏の寝台に登り、呪いの言葉や、鋸で棟を切る音などがする。鉄杵、六歳で腹はれて、死す。	繼母酷暴	女 鑑 門	鑑草五、善悪報はなし1の12、堪忍記7の23の2
07-20	宋陽繼母犯天誅	盈州の令、官に赴く途次、古寺で老媪が桐葉で首を包んでいるのに会う。葉を払いのける事三度。續裳者現れ、宋陽氏の子で、繼母に野葛花湯を賜り、倒れたことなどのいきさつを語る。繼母は洛陽で、疔を發して死んだ。令は依頼されたまま、土を掘ると骸骨を得たので、埋め直した。	繼母天誅	女 鑑 門	
07-21	歙県商婦作地狗枯	歙県の商人、妾を娶り、一子をもうける。妻、その子を地上に置かせ、飯を食わせ、狗児と称す。商人、これを踏み殺す。妾も自死し、妻も飲食がその子同様となった。	狗 児	女 鑑 門	鑑草五、堪忍記7の22の12

番号	章 題	内 容	キーワード	分 類	類 話
07-22	石揆妻溺女喪命	石揆の妻、二子を殺し、後、母子ともに倒る。附記、元秀、妾の産んだ子、四人ともに埋め、頭切れて死す。	子 殺	女 鑑 門	鑑草五
07-23	陳夫人孝慈受贈	一清の妻、廖、子を産んで死す。後室、陳、子に慈愛あり、姑によく仕える。子、進士に登る。	後 室	女 鑑 門	鑑草五
07-24	呉夫人慈仁受累封	呉夫人は王益の継妻にして、前配の二子を甚だ愛した。二子が亡くなり、その婦を他と異なって遇した。自も五子を産む。	後 室	女 鑑 門	鑑草五
07-25	柴母捨己子蔭前子而光寵	柴母は潤夫の継室。子を産む。潤夫、死す。以前の妻子を託す。前妻の子が罪を犯し、死に当たるを、柴母は我が子に代えんとす。	後 室	女 鑑 門	鑑草五
08-01	文母胎教生聖子	文王の母、太任は目に悪いものを見ないなど、よく胎教を行った。	胎 教	教 子 報	鑑草四
08-02	孟母習教成大賢	孟母、子の教育のために三度居を遷した。	孟母三遷	教 子 報	鑑草四
08-03	程母和而訓義子為名儒	二程子の母、夫、大中公に謙順にして、婢女などにも「人則一也」の考えで対応するよう諭した。	母 教	教 子 報	鑑草四・五
08-04	陶侃母貧而訓廉子作三公	見公鑑慈教門		教 子 報	鑑草四
08-05*	呉母教子以讓成進士 (目録なし)	呉賀母、賀が客と語るを聞いて礼讓を欠くといひ、泣いて食を取らなかつた。	母 教	教 子 報	鑑草四
08-06	虞潭母陳堯咨母暴勝之母俱善教	見公鑑慈教門		教 子 報	鑑草四
09-01	鄭夫人節而義子為顯相	鄭夫人は歐陽修の母。崇公、進士に挙がるが、卒す。修、貧なれど、母は父の遺訓を述べつつ、我が子を学に努めさせた。やがて修も進士に挙がった。	教 子	守 節 背 夫 報	堪忍記 8 の 24 の 8
09-02	計夫人節而忠兩代伝芳	計夫人は張浚の母。浚の父、早く卒す。母、父の言行を以て告ぐ。浚、行、直にして、言、誕ならず。母の賢なるにより、後、宰相となる。	教 子	守 節 背 夫 報	鑑草二
09-03*	景蓮真淫於從兄三受雷震 (目録なし)	景蓮真は嫁いだが夫と歡を失って家に回る。從兄と通淫し、三度、雷火に焼かれるが死せず、背に文字を書かれた。「乱倫怪獸、求生不得、求死不得」と。姑も錢を貰い、大風に眼をえぐられた。	淫 乱	守 節 背 夫 報	鑑草二
09-04*	魏薄妻断耳守節生子太守 (目録なし)	房氏、16歳で魏薄に嫁ぎ、薄、遺言を残し死す。妻は自ら耳を切って棺に投げる。終身、糸竹も聴かず。子、12歳の時、父母、存するといひ、ひそかに家へ帰った。子は後に名を成した。	母 守 節	守 節 背 夫 報	鑑草二、堪忍記 8 の 24 の 9
09-05	朱買臣妻棄夫而夫貴身恨死	朱買臣の妻、夫にみきりをつけて、他に嫁いだが、後、買臣が高官に登り、毒く恨みて死す。	棄 夫	守 節 背 夫 報	鑑草二
09-06	楊志堅婦棄夫而夫顯身受杖	志堅、学問のために貧乏。妻が去ろうとしたので詩を作成して送った。顔魯公、内史と為り、志堅の清貧を憐れみ、絹や米などを贈り、幕官となした。その後、夫を棄てる者はいなかつた。	棄 夫	守 節 背 夫 報	
09-07	鄭婦背夫改適未幾輒死	鄭氏の妻陸氏は、両夫にまみゆることなかれという夫との約言を背き、曾氏に嫁いだ。後、男が鄭氏の文書を渡し、上帝へ訴えられ、やがて死す。	背 夫	守 節 背 夫 報	鑑草二、善惡報はなし 4 の 3、堪忍記 8 の 24 の 6
09-08	京民婦私通校尉為尉所殺	京師で、ある校尉が隣婦と通じ、床に上がっていたところ、夫が帰ってきて、床下に忍んだ。夫は妻の体が冷えないか心配して帰宅したものであり、校尉は婦人の背信を憎んで殺した。野菜を売っていた老人が犯人にさせられたので、男が自首した。	背 夫	守 節 背 夫 報	鑑草二
10-01	杜昌妻虐兩婢身受毒報	杜昌妻柳氏、嫉妬深き故、召使の指を切ったり、舌を抜いたりして、柳氏の舌、傷つき、禪師の力で蛇が抜け落ちる。	婢 報	妬 毒 報	鑑草三、善惡報はなし 1 の 11
10-02	胡亮妻烙眼眼亦変	胡亮、妾を連れ帰るを妻の賀氏嫉妬して両眼を潰したところ、妻に祟り、眼なき蛇生まれる。	妾 報	妬 毒 報	鑑草三、堪忍記 7 の 22 の 6
10-03	梁仁裕妻捶婢腦亦創潰	梁仁裕の妻、婢に嫉妬して、脳髓を撃殺す。後、妻李氏の頭上に疽が出来、潰れて死す。	妾 報	妬 毒 報	鑑草三、堪忍記 6 の 22 の 8
10-04	韋女以疑斃妾卒与妾俱死	洪武年中、京師の校尉が隣婦と通じ、夫のいない間に忍び込むが、夫が妻の寒さを気づかって帰宅したのを見て、婦人を殺す。時に、菜売りに嫌疑が掛けられたので自首して、罪を許された。	姦 通	妬 毒 報	鑑草二
10-05	押司妻笞殺孕婢為孕羊見殺	羊をもてなしのために割こうとした時、李明府の夢中に婦人が現れ、命を乞う。婦人はかつて押司の妻であり、女僕が妊娠したのを嫉妬して笞殺したと告げる。	婢 応 報	妬 毒 報	

近世初期三教思想の一資料『勸善書』に関して(2)

番号	章 題	内 容	キーワード	分 類	類 話
10-06	縉雲婦虐其從嫁飽鬼毒	縉雲の妻、朱氏、婢に嫉妬し、妊娠したのを殴撃し、屍を断って厠に捨てた。朱氏妊娠した時、故婢が現われ、胸を突く。大鳥が来て、糞を投げ、朱氏ついに死す。	婢 応 報	妬 毒 報	鑑草三、善悪報はなし1の13
10-07	祝氏烙其寵婢受畜報	祝氏が其寵婢に嫉妬し、鞭を加えたり、鉄火で烙印を押して婢は死す。後、婢の家の犬に生まれ変わるべく、婢の母が一犬を産んだ。	婢 応 報	妬 毒 報	
10-08	徐氏隕妾胎腹疾狂死	岳州の趙指揮の妻徐氏は、嫉妬深く、指揮に嗣なく、常に一妾を置いていた。徐氏は残虐で、妾が妊娠すると、寒剤を飲ませ、墮胎させた。後、徐氏の腹中に疾ありて、妾の声がして命を乞う。やがて、徐氏も死に、指揮の死んで家が断った。	婢 応 報	妬 毒 報	鑑草三
10-09	休寧商婦餓殺妾喉結就斃	休寧の商婦は妬み深く、一妾を幽閉し、飢え殺そうとしたが、死なず。生きたまま棺に入れ、四人に担がせたところ、棺中から声が出て、金を与えるから助けてと言われ、金をとったが、四人はそのまま埋めた。商婦やがて喉を狭まる病となり、二人の医者治療させた。女の霊鬼が現われ、四人のうち一人は川へ沈めたといい、二人の医者業について報せた。	婢 応 報	妬 毒 報	鑑草三、善悪報はなし2の5
11-01	李郡君還珠增寿	郡君、老嫗が落とした珠を拾い、老嫗に返し、老嫗はすっかりやつれてしたが、感謝した。後、郡君、病に伏した時、大官府に至り、寿命が二〇年延びた。	拾得遺珠	廉 貪 報	鑑草六
11-02	周氏婦蓋貪獲福	詳見公鑑蓋窓門 周才美が子の婦、才美が大小の升を用いて家を治めるように教えたのに対し、それは悪なることを告げ、これまでの二〇年間を償うために、軽く入れ、重く出して償うように諭した。	大 小 升	廉 貪 報	鑑草六、善悪報はなし2の4、堪忍記4の19の3
11-03	元氏婦歸償化牛	万年県元氏の妻謝氏、小さい升で酒を売り、大きい升で値を取っていたため、牛に転生し、法界寺の夏侯師に買い取られたと、娘の夢に告げた。娘、牛に会うと、牛は涙を流した。	升・転生	廉 貪 報	鑑草六、善悪報はなし1の10
11-04	爐郎母負債作驢	崇文門のほとりに麵戸あり、母が夢に告げるは、麵戸の負債を済まなかったために驢馬に転生し、償っているという。子供、麵戸に行って買わんとするが、銭が足らず、皆で銭を出し合うが不足した。主人が木橋を渡れと言い、驢馬も悦び渡る。主人、許す。	驢馬・転生	廉 貪 報	鑑草六、善悪報はなし2の2
12-01	楊夫人慈祥一門三貴	楊誠齋の羅夫人、七〇歳になっても召使に粥を煮て食べさせ、八〇になっても止めなかった。	慈 愛	仁 虐 報	鑑草五、善悪報はなし5の7
12-02	會師母嚴酷再世作狗	王會師の母、家人につらく当たり、狗に生まれ変わり、妻に打たれ、やがて行き方知れずなる。	酷 薄	仁 虐 報	鑑草五、善悪報はなし3の13、戒殺放生物語1の8
12-03	胡泰母虐転世為鶏	胡泰母、家人につらくあたったため、鶏に生まれ変わって来ると告げ、夢の告げの通りとなる。胡泰の継母、これを嫌い、やがて鶏を殺し捨てた。	鶏	仁 虐 報	鑑草五、堪忍記7の22の5
12-04	鄭太君寛厚生子作相	元寛の妻は、夫が早世すれど、二人の兄弟を立派に育て、家人にも寛大にして慈愛に富んでいた。	仁 母	仁 虐 報	鑑草五
12-05	練氏仁勇全城八子皆貴	章大傅の妻練氏、大傅の二将が令に違反し殺されようとした時、二将を逃がした。大傅が死んだ後、二将と交渉し、城を守り、八子も皆登第した。	仁 勇	仁 虐 報	
12-06	秦檜妻同謀害忠胤嗣無遺	秦檜の妻は陰険で狼なることは夫以上であった。王氏も子供なく、幾ばくならずして死す。檜もまた数日で死す。	胤嗣無遺	仁 虐 報	
13-01	傅家婢放鰲解疫疾	傅家の婢、鰲を殺すに忍びず放す。後、病疫となったとき、鰲が泥を胸にはこび、婢の病は治った。	放 鰲	放生殺生報	戒殺放生物語4の15
13-02	建業婦焚繭生奇瘤	建業の婦人、繭を焚いたために、背の上に奇瘤が出来、囊中に繭のような物があり、声がする。衣を覆って気を閉じ、常にこれを露わにするとよいと。重さは囊のようだった。	焚 繭	放生殺生報	
13-03	店家婦烹羊殺二命	店家の新婦、一小男を産む。親族の会に羊を殺そうとし、羊が屠人に跪拝するがこれを殺す。肉を煮ていたところ、お湯がこぼれ、母子が死んだ。	殺 羊 報	放生殺生報	
13-04	蘇巷妻殺蛇即死	蘇巷、田に出た時に蛇のようなものを手に入れ、飼っていたが、妻がこれを殺し飯に飽きなかったが、しばらくして死す。	殺 蛇 報	放生殺生報	

イメージトレーニングの基本的実施方法に関する研究

伊藤 護 朗

はじめに

イメージトレーニング（以下、ITとする）とは、スポーツ選手の精神力を強化するためのメンタルトレーニング（以下、MTとする）の中で、心像（mental image）を利用して行う方法のことをいう。

この方法はスポーツ選手のMTの中で最も広く用いられ、中心的な役割を果たしている。トレーニングのねらいや用いるイメージの種類によって、（１）メンタルリハーサル（mental rehearsal）、（２）ビジュアライゼーション（visualization）、（３）ピークパフォーマンス（peak performance）の３つに大別される。

メンタルリハーサルは、試合の直前にこれから自分が行おうとしている動きを順を追って思い浮かべることによって、事前のチェックを行い、心の準備を整え、余計な考えや妨害を排除して精神を集中させる方法である。ビジュアライゼーションは、予想されるさまざまな試合場面、たとえば、相手に応援が多い場合とか、チャンスやピンチなどの試合展開のケースに対して、視覚や聴覚あるいは身体感覚的に想像し、それらにどう対処するかをあらかじめ普段の練習の時に、頭の中で訓練しておく方法である。そして、ピークパフォーマンス法は、最高のゲームをした時の理想的な精神状態を思い浮かべ、そのような精神状態を、いつでもどこでもつくり出せるように練習する、という方法である¹⁾。

この３方法の実践効果については、数多く報告されているが、確かに、イメージには人間そのものを変化させる作用が潜在しているように考えられる。たとえば、実力が並のスポーツ選手がエリート集団（チーム）に入団した場合、最初は萎縮するが時間の経過とともに周りのエリート選手と同化して、見違えるように成長するというような例は枚挙にいとまがない。「朱に交われれば赤くなる」である。

このことに習って、筆者がかってスポーツ指導に関わった時、指導対象者に理想のモデル（チーム内の優秀選手）を設定させ、そのモデルのプレーや仕草を毎日凝視させたり、イメージさせたりしたことがある。その結果、６か月程度の期間を要したが、指示した選手にモデルに似たプレーや動作が表れるようになったことを確認している。

ただ漫然とITやMTを行うのではなく、実施する根拠を明確に説き、継続して取り組めばその成果は着実に上がるものと、自らの経験で確信している²⁾。そこで、ITが今後もより有効に活用されることの一助になればという思いを込めて、以下にITの基本的実施方法やその要点などについて検討してみることにする。

動機づけと競技成績の関係

普段の練習では、軽快にのびのびと動きまわり、実力をいかんなく発揮するのだが、いざ試合となると緊張し、膝はガクガク、腰はフワフワとした感じになる。これではいけないと思うと、今度は肩に力

が入って肘がコチコチ、頭の中もポーッとして、何が何だかわからないままプレーする。こんな状態で失敗することが多い。

このように、いつもの力が発揮できないのは、明らかに「上手にやりたい」とか「何としても勝ちたい」といった感情が先走ってしまうからにはほかならない。精神活動は、物ごとを受けとめる「感受」作用（第1段階）から始まる。つづいて感受したものを「知覚」（第2段階）し、さらに知覚したものを、このようなものと「認識」（第3段階）する。そして認識したものを、状況に沿って「識別」（第4段階）したあと、自分なりに「理解」（第5段階）し、「判断」（第6段階）を経て「決断」（第7・最終段階）に至るのである³⁾。

したがって、「上手にやりたい」や「勝ちたい」を強烈に意識すると、最終段階の「決断」までの各過程が歪められて、適切な状況判断ができなくなってしまうのである。野球の例でいうならば、あと1人の打者を抑えれば勝てるというような時、投手の頭の中には勝利の感激シーンがこみあげてくる。そうなると一刻もはやく試合を終えたいという気持ちにかられ、打者の心理や特徴を考えないまま無造作に投げて打ち込まれることがよくある。打者にしてみれば、窮地に追い込まれているものの、逆転に一縷の望みをかけて、渾身の力をふりしぼって立ち向かうのが当然である。バッテリーにこうした客観情勢を冷静に判断する余裕があれば、打者の方が苦しい場面だけにめったに打たれるものではない⁴⁾。

一般的には、動機づけ（やる気）が強いほどよい成績（競技）があげられると思われがちである。心理学においても、動因理論は動機づけとパフォーマンスの間に、図1に示したような直線的な関係を想定していた。しかしながら、多くの実験的証拠は動機づけの強さとパフォーマンスの間には、逆U字型の関係があることを示したのである。つまり、動機づけが低いと持てる力は十分に発揮されない。気分がのらなかつたり、ゆるんだり、あるいは締めたり萎縮したりの状態になる。逆に動機づけが高くなり、気力が充実し集中力が増大してくると、それにつれて成績も向上してくる。ところが、あるところになると動機づけの増大と成績の向上の間に乖離が生じてくる。先の例で投手が気負って単調になるように、やる気が空回りをし、成績がかえって低下してしまうのである。いわゆる“あがり”の状態である⁵⁾。

したがって、スポーツ選手が持てる力を最大限に発揮するには、低くてもいけない、かといって高過ぎてもいけない、その中間の微妙な強さに動機づけをコントロールしなければならないのである。また、この理論と同じように、人間の心理には努力すればするほど、その反対の方向に身体が動くという傾向がある。たとえば、大勢の人前で話す時、「あがらないようにしよう」と思うが、そう思うことによって、かえってあがってしまうことがある。これはあがるまいと努力することが、無意識の中ではあがることへの心配を強め、無意識の力に引っぱられてしまうのである。そのために、ますますあがることになるのである。このような現象は「努力逆転の法則」ともよばれている。

ゴルフでは、バンカーを避けようと意志をふるい起こせば起こすほど、そこへボールが飛ぶといわれる。野球でも同じように、「三振をしないこと」「フライをあげないこと」と強く指示すると、試合では不思議と逆の結果になるこ

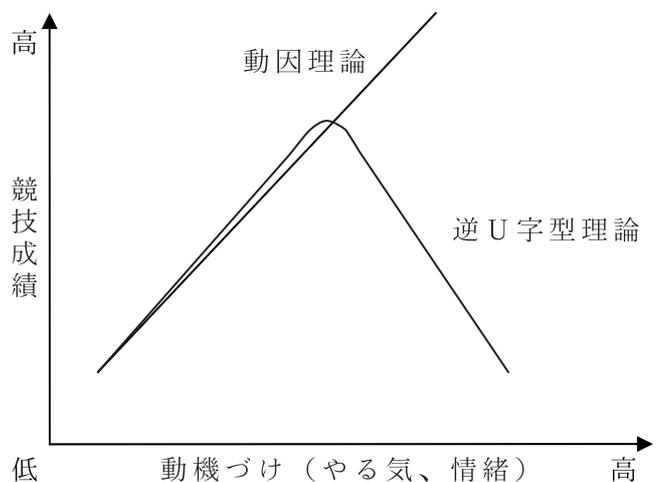


図1⁶⁾ 逆U字型 (努力逆転の法則)

とが多い。三振をしないようにと指示するのは、三振が多いから注意するのだが、三振という言葉の強調によって選手は「三振をしない」ことを強く意識する。同時に「三振するかもしれない」というマイナス観念をも刺激することになり、ひいては意志がマイナス観念の方向に傾くことにもなるのである。

クーエ (Coue, E.) はこのような事象について、「意志と想像力が相争っている時、勝者は常に想像力のほうである⁷⁾と説かれたという。このことは次に示す実験例で理解することができよう。直径が15cmの図2 (縮尺図) のような円を白紙に描いて机の上に置く。そして鉛筆の先端に25cmほどの糸を結び、その糸の先に金属ボタンのようなおもりをつける。それから、その鉛筆の根元のところを持って水平にして、おもりが円の中心点0の真上に垂れ下がるようにする。手にはあまり力が入らないように注意する。そして直線ABのことだけを考えながら、AからBへ、BからAと、直線に沿って視線を動かす。すると、おもりはその直線に沿って揺れはじめる。直線CDについても同じである。次に、視線を円に沿って動かすと、おもりは円形に揺れる。必ずそうなるとは限らないが、多くの場合そうなる。揺れないように努力するとかえって揺れることもある。おもりを動かすことを意識しなくても、線のことだけを考えていると、その考えが無意識の中へ入り込み、知らぬ間に自らの手でおもりを揺らしてしまうのである。そして、「おもりが揺れている」といわれると、「そんなはずはないし、揺らさないようにしよう」と思っても止まらないのである⁹⁾。

意に反して体が動くということは理屈では成り立たないが、実際にはこのように動いてしまうのである。となれば、人間は意識だけでなく、無意識の中に潜む想像力によっても動かされていることを認めないわけにはいかない。したがって、持てる能力を存分に発揮するためには、意志の持ち方だけ考えたのでは片手落ちである。無意識の中に存在する想像力をいかに活用するかをも併せて考慮してこそ、より大きな効果が期待できるのである。

そこで、先述の「三振しないこと」や「フライをあげないこと」のアドバイスの仕方について考えると、三振をしないようにではなく、「ボールをよく見て打つこと」とし、フライをあげないようにではなく、「バットの引き腕の脇を締めて打つこと」というように対応策を指示する方が得策であると推測される。なぜなら、してはいけないことを言葉で発した場合は、三振やフライのマイナス想念 (想像) を強く刺激することになりかねない。けれども、三振やフライにならないための「すべきこと」 (対応策) を強調すれば、そのことに意識を集中してプレーできるので効果的であるとみることができよう¹⁰⁾。

プレー目標の設定と平常心の保持

MTといえば、できないことをできるようにするための精神力強化と考える人も多いが、それは錯覚である。心理的機能がいくら高く作用しても、その人が持っている生理的能力の限界を超えることは不可能である。その限界内で生理的機能をいかに大きく発揮できるかは、その人の心理的能力 (精神力) によって左右されるのであり、これを高めるのがMTである。

自己を肯定的、建設的にとらえなければ存分に能力を発揮することはできないが、その前に何ができて、何ができないかについて、できるだけ正しく認識する必要がある。練習もしないで水泳ができるよ

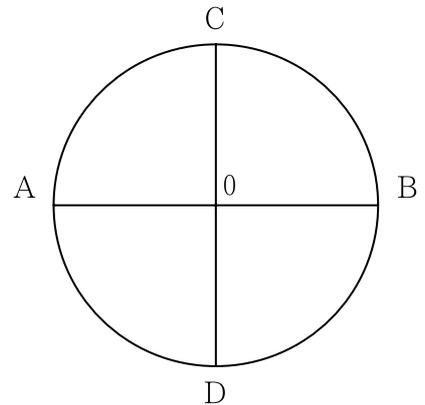


図2⁹⁾ 想像力と意志の関係を
実験する図 (縮尺)

うになるとか、絶対にあがらないで演技するというようなことは、人間には無理なのである。演技の「舞台負け」についていうならば、100%完全な演技がない限り、全くあがらないということはありません。不完全なのに、自分の演技は完全であると思い込んであがらなかったり、不完全であると承知していても、全くあがらないという人がいるとすれば、そのほうが問題である¹¹⁾。

「100メートルを5秒で走る」などという暗示が無効であることは誰にでもわかるが、多くの人が抱きそうな願望で、その実現が不可能であることに気づいていない場合が少なくない。そのような願望をMTで実現しようとするれば、マイナス効果を生み出すだけでなく、MTそのものの効果に対しても不信を抱くようになるだろう。そのような類の願望としては、「絶対勝ちます」とか「必ず優勝して全国大会に出場します」などの自己暗示があげられる。競う者は双方とも思い込んだからといって、どちらかが負けるのである。確かに、はじめから弱気であっても、勝てるどころも負けてしまうということはある。しかし、ただ「必ず勝つ」だけでは動機づけが高まっても、確信する裏づけが伴わない限り「努力逆転の法則」をまねくことになってしまう。どんなスポーツでも、具体性をもたずして要求水準を高くしたのでは、その対応に集中力や柔軟性を持続できないことが多い。勝つことを強く意識して意気込むと気持ちだけが前へ前へと先行して、結果をはやく出したという衝動にかられる。しかし、試合の流れの中ではナイスプレーだけでなく、ミスやつまずきも当然起こる。その場合、勝つことへの意識が強い分、反動的にダメージが大きくなり、自己統制力を喚起できない状態へと陥ってしまう可能性が出てくる。

エリート選手は、「勝てるという気持ちゆるめたり、ダメだという気持ちが切れたりしたら、試合ではいい結果が出ない」というようなことをよく話すが、これは逆境や試練を数えきれないほど乗り越えてきたからこそその含蓄のある言葉といえよう。試合でいい結果を出している時は、平常心を保って冷静に欲望を抑え、足もとまで十分気を配りながら対応している場合が多い。反対によく結果が出ている時は、不思議にも事前に選手の言動に慎重性を欠くような兆候が起こっているものである。

この兆候に関して、筆者が現在でも鮮明に覚えている例をあげてみたい。1989年のプロ野球日本シリーズで近鉄が巨人に3連勝して、勝利インタビューを受けた若い選手達が、「巨人はパリーグの最下位のチームより弱い」など蔑視するような言葉を発して、野球ファンの間で大きな反響を呼んだ。その後、近鉄は不名誉な4連敗を喫し、巨人の逆転優勝となったのである。また、同じような例が高校野球にもあった。1990年夏の甲子園大会へ出場した秋田県代表チームが体験したことである。試合前の練習会場で一緒になった対戦相手チームから、「田舎者ははやく帰れ！」とヤジられたのである。筆者も同行していたが、選手達は驚きと憤慨をあらわにした。相手チームはプロ野球のスカウトが目指す好投手を擁する強豪で、優勝候補にあげられていたが、結果は3対2で秋田県代表校に軍配が上がった。こうした例はプロ・アマを問わず枚挙にいとまがない。

将棋の米長邦雄は「私は勝った時も、負けた時も、だいたいできるだけ冷静にというか、ポーカークフェースというか、表情も気持ちも普段と変わらないように努力しています。一番まずいのは勝ちそうになった時に、ああじゃ、こうじゃとしゃべることです。これは勝ちを逃します。」¹²⁾と述べ、心に油断やすきの生じるのを戒めている。米長がいうように、勝負は終わってみないとわからない。その前に気負ったり、落ち込んだりしたのでは自ら墓穴を掘るようなものである。

それでは、勝ちを意識しないで、自己動機づけを高めるにはどうするのかということになるが、やはり結果（勝敗）目標に固執しないことが肝要だといえよう。勝つことに心を奪われると、やる気が空回りしたり、冷静さを欠いたりすることが多い。勝つことへのこだわりを払拭し、実力を発揮するには何を心掛けるべきかというプレー目標を設定し、それに意識を集中させて試合に挑むことができるように、事前にイメージ（メンタル・リハーサル）を繰り返すことが大事であると考えられる。たとえば、「バット

をきっちり振り抜く」「全力疾走する」「フットワークを生かした守備をする」等々の目標設定である。ただし、この目標設定の項目は多くしないほうがいい。あれもやる、これもやる、と数多く掲げるのでは意識が集中しきれず、体の反応がスムーズにできなくなる恐れが生ずる。筆者のこれまでの経験では、心掛けるべきことを3項目くらいに絞ったほうが効果的であったと感じている。

イメージ形成の要点と自己暗示

誰でも心の中にスクリーンを持っているが、それに映し出される映像の見方は二つあり、人それぞれの方法をとる。一つは自分自身のパフォーマンスを、あたかも自分が身体の内側にいて外を覗いているように見る方法であり、今一つはパフォーマンスを行っている自分を、他者の目で見るというように、内からではなく外から見る方法である。どちらの方法によっても、映像を知覚し認知することができるが、両方の見方ができれば映像を定着する上でより一層の効果が期待できよう。

「メンタルリハーサル」にしても、「ビジュアルイゼーション」や「ピークパフォーマンス」にしても、イメージする際に最も大事なことは反復実施することである。1～2回イメージしたというだけで、予期した通りに身体を動かすことは先ず不可能であるといえる。運動する時、たとえばボールをゴールに入れるとか、腕を水平に挙げるなどと客観的な目的をもつ。そして、そのためにはこのような感じで身体を動かせば多分うまくいくであろうという仮説、すなわち予期される運動の感覚的なイメージに基づいて運動を実施する。しかし、初心者の場合、実行された運動が目的を達成することはほとんどない。水平に挙げたつもりでも鏡を見ると水平にはなっていないのである。それは初心者のもっている目的とする運動についてのイメージがあいまい不正確であることに原因がある。

そこで、実行した運動と初めに目的とした運動とを比較し、誤差検出を行うというフィードバックの働きにより、予期イメージを修正することになる。このようなプロセスを繰り返すことにより、頭の中に目的とする運動についての明瞭で正確なイメージが形成されていき、やがて目的とする運動が正確に行えるようになるのである¹³⁾。

運動する人は頭の中でイメージすることができれば、すぐさまその効果があらわれることを期待する。しかし、忘却はITの終了直後に最も著しく進行し、形成基準に達してからのトレーニング量が少ないほど大きいのである¹⁴⁾。したがって、その運動をイメージ通りに実現するためには、反復練習を数多く積み重ねることが必要なのである。しかも、ITは技術練習と併行することになるので、そのみの効果について確証を得ることは極めて難しいことである。このところにスポーツ選手が、その必要性を認識しながらも受け入れきれないでいる一つの大きな原因が存在するように思われる。

先述したように、ITは人間ができないことをできるようにするものではない。また即効力をもつトレーニング法でもない。その効果は技術訓練と同様、長い期間根気強くトレーニングを積み重ねてこそ発現するものである。

剣道や柔道・相撲などでは、古来から他の選手の運動動作を見て学ぶという、いわゆる「見取稽古」を練習法の一つとして位置づけ実施しているが、これがとりもなおさずITの基本であるといえよう。筆者も体験（実感）したが、毎日毎日目標とする選手の動作を追い続けると、次第にその選手に感化され、無意識にその選手の動作や仕草を倣ねるようになるのである。このことは、徐々に頭の中にイメージが形成されていることを意味する。けれども、スポーツは体でしか表現できないものであり、いくらイメージが形成されても実際その通りに、しかも無意識に近い状態で体が動かなければ、技術を習得したことにはならない。したがってITと技術訓練を併行してこそ、スポーツ技術がより効果的に高めら

れることになると思われる。

そこでイメージの仕方であるが、その方法を誤ると逆効果になりかねないので十分理解して取り組む必要がある。効果的に実施するために、第一に心がけなければならないことは、「ピークパフォーマンス」において、基本技に徹した最高のプレーをイメージすることである。ピークパフォーマンスの方法は、自分の最も調子がいい時の姿（理想）をイメージし、その通りに実現しようとするものであるが、ややもすれば理想のフォームそのものではなく、結果にイメージを集中させがちになる。たとえば野球でいうならば、たまたまインコースに甘い投球がきて、引っぱった打球がうまく風に乗ってホームランになるといことがある。この場合、ホームランとなった結果をピークパフォーマンスと考えて、その時の打撃フォームと飛球軌道を強くイメージすると、引っぱる打撃イメージ形成ができてしまう。そうなるとおのずと引き腕の脇があき、膝、腰、肩と開き、外角球にバットが届かないフォームへと変わっていく。これが俗に言われる「一発の甘いわなにはまり打撃フォームを崩す」である。そうならないために、自己の力をうまく出しきった時のフォームや心理状態、準備動作、タイミング（間の取り方）などを意識しイメージすべきである。

第二に心がけなければならないことは、自己自身について前向きにイメージすることである。思い通りにプレーできなかつたり、不利な状況におかれた時にこそ肯定的感情を抱かなければならない。自己の力を信じてイメージしても順風満帆にことが運ぶとは限らないが、不調をいかにやく脱出するか、ダメージをいかに最小限に食い止めるか、などについて積極的・建設的に考えて取り組むことがいい結果を出す鍵となる。

人間の行動は、大脳の行動抑制作用によって絶えずブレーキがかけられている。普段おとなしい人が、酒を飲んでめをはずすのはこのブレーキがゆるんだり、はずれたりするから起こるのである¹⁵⁾。また、嬉しいことがあれば、はしゃぎたくなったり、気分が乗ると心が弾んで普段より行動が積極的になるのもこのためである。反対に心配や不安をもち感情が否定的になると黙り込むようになるが、これは行動に強くブレーキがかかり、自我の殻にこもってしまうからにほかならない。

欧米の一流スポーツマンは、自分のプレーに対し心の底から自信を抱き、それを宣言することに全く遠慮がないといわれる。2011年7月、テニスのウィンブルドン（英国）選手権大会が開催された。この大会の男子シングルスで、ノバク・ジョコビッチ（セルビア）が不利の予想を覆して、2連覇を狙った第1シードのラファエル・ナダル（スペイン）を破って初優勝した。優勝インタビューで「彼らに勝るとずっと信じていた。だから今、この場にいる」¹⁶⁾とこたえ、自意識の強さをのぞかせている。

同様にわが国のエリート競技者をもみても、必ずといっていいほど、自己を鼓舞することに長じている。女子プロの第一人者である宮里藍は「ギャラリーの声援が大きければ大きいほど自分は力を発揮できるタイプ」¹⁷⁾と公言している。また、2009年12月、日本男子ゴルフで史上初となる10代での賞金王を獲得した石川遼（18歳）は、「小学校の頃から賞金王になりたいと思い、ゴルフ漫画をかいていた。トップ選手の伊沢利光、片山晋呉らを登場させ、最後は僕が勝つ展開にしていた」¹⁸⁾といい、それが現実のものとなった。さらに、北京オリンピック（2008年8月）のソフトボールで、米国を破って悲願の金メダルを獲得したエースの上野由岐子（ルネサス高崎）は、アトランタ五輪（1996年）を見て夢を膨らませ、中学の卒業式で「五輪に出て金メダルを取る」¹⁹⁾と答辞を読んだという。このように、目標に強い志を立てて邁進し達成したという例は、枚挙にいとまがない。夢を抱き自己を信じて前向きに取り組むことは、「一流選手」になるための必要条件であろう。

第三番目の心がけとしては、「徐々に力が発揮できる」という意識を持つことである。試合前に「絶対勝つ」とか「必ず優勝する」というような強気を表す言葉をしばしば耳にする。けれども、先述し

たように、競技者双方が同じように「勝つ」ことを強く思い込んでも、どちらか一方は負けるのである。最初から気後れしたり、控え目であったりしては、勝てるどころも負けてしまうということになりかねないが、「絶対勝つ」というのは単なる意気込みにすぎない。勝つことへの自信の裏づけがあってこそ、「意気込み」が有効になるのである。その裏づけが整わずして、ただ勝つことを表面的に強く意識するのでは、かえって「努力逆転の法則」がはたらき、体の動きが空回りすることになる。しかし、「逆U字型理論」のところでも述べたように、動機づけ（やる気）が低い場合も、気合いがのらなかつたり、ゆるんだりして持てる力が十分発揮されないのである。妙案とは断言できないが、筆者の経験からすれば、試合の序盤から最大限に結果を出すことにとらわれなくて、「徐々に力を高めていく」と考えたほうが力が発揮されやすかったように感じている。

試合が近づいても、調子が上がらない選手は、焦ったり、悩んだりすることが多い。いざ試合となっても調子が出ないとなおさら滅入ってしまう。そのような時、筆者（野球の監督時代）は「だんだんバットが振れてきている。前より状態が良くなってきている」と暗示をかけたことがある。結果はともかく、そうすることによって選手達は、少なからず前向きにプレーする活力を生み出したように記憶している。どんな状況でも、気負わず、諦めずの気持ちを保って戦い続けることができるように、選手自らも暗示をかけながらプレーして欲しいと思う。

「チームで1番になる」とか「必ず勝つ」というような意志表示は、しないほうが良いといえる。成績の順番とか、努力の成果などはあくまで相対的なものであり、自分の能力が上がってもそれが下がったように位置づけられることもある。その結果、せっかくプラス暗示の効果が出ているのに、マイナス暗示につながってしまうおそれがある。成績順位とか目標達成などは能力が上がってこそ期待できるものであり、まずは自己能力をいかに効果的に発揮するかを考えるべきであろう。

したがって、「徐々に要領が身についていく」「日に日に調子が上がる」「努力すれば能力が上がり、他の選手と肩を並べることができる」というような願望の持ち方が理にかなっているといえる。「名手」や「秀才」になるかどうかは、さまざまな条件によって左右されるが、前述したような意識の持ち方をして努力すれば、そうでない場合に比べて、その域に近づく速度は著しく速くなることは間違いなさであろう²⁰⁾。

第四番目の心がけとしては、自分自身の中に「心の会話」を持つことがあげられる。試合に挑み極度に緊張すると、無意識の状態に陥って自分が何をしているのか、全くわからないというようなことがある。いわゆる“あがり”の状態である。あがりの度合いは個人によってまちまちであるが、大きく受ける人でも試合を経験していくうちに徐々に少なくなって、自らの動きをある程度客観的に判断しながら、コントロールできるようになる。そして大きな試合であればあるほど、その経験から培われる精神力も強化され、“舞台負け”しないようになることができる。しかし、大きな舞台となる試合は度々あるものではない。たとえあったとしても、自分がメンバーになって出場できるとは限らない。また出場できても結果が良くなければ元の木阿弥であろう。したがって、試合の場において冷静に自己を省みながらプレーできるように、普段からイメージの中で予想されるさまざまな場面や対応の仕方などについて訓練（ビジュアルイゼーション）をしておくことが必要である。そのための一方法が「心の会話」なのである。

「ここで我慢していればチャンスはある」「バットは入るときもあれば入らないこともある」「自分らしく最後までプレーしよう」「もう1打いいスイングをして、もう1打バットをすれば大丈夫²¹⁾」などなど。これはゴルフの宮里藍が近年の大会で、ラウンド中に自らに言い聞かせたといわれる言葉である。他のプレーヤーについて極力意識しないように努め、戦術を自己との語り合いの中から客観的に判断し

プレーしている様子を伺い知ることができる。

「失敗したくない」「何としても勝ちたい」というような一念にこりかたまって試合に挑むと、その欲心や心の緊張から、普段の力を発揮できないでしまうことが多い。逆に勝たなくてもいいという気持ちで臨めば、動機づけは高まらないが相手の勝とうとする気持ちや、やろうとしている手の内はよく読めるはずである。要するに欲がなければ心を無にでき、局面を冷静に、しかも客観的に眺めることができる。それ故に、試合中は余計なことを考えないように自分自身の中に二人の自分（主観的立場と客観的立場）を存在させ、会話することによって試合への集中を図ることが可能になる。このことはセルフトーク（self talk：自己内対話）とも呼ばれている。

何のスポーツであれ、最小限留意すべきポイント（原理・原則）があるはずである。たとえば野球の場合、投手が試合中調子を崩している時のチェックポイントとしては、投げる腕の肘が肩より下がっていないか、フリーフットを上げた時、軸足に十分体重がのっているか、投球間隔を十分とって、ボックスとの呼吸を合わせているか、などがあげられる。投手はピンチをまねくと往々にして冷静さを欠く。そして、投げることにのみに夢中になって、チェックポイントを省みることができないまま自滅していくケースが非常に多い。このような状態に陥らないようにするためには、普段からチェックポイントについて「心の会話」を持ちながら練習することが必要であろう。

また、心の会話は自己肯定の言葉を主体にやりとりをしなければならない。元気が出るような、自信が湧いてくるような言葉を選ぶことが大切である。簡単にいえば、親友に話しかけるように自分に話しかけるのである²²⁾。試合の流れが順調な場合は、「いいぞ、いいぞ、その調子」「自分は冷静で落ち着いている」「自分の長所は俊敏なこと」「油断は禁物、最後の最後まで慎重に」というような表現で、いいムードを一層盛り上げていくことが重要である。逆に、不調な状態に陥っても、「何で失敗したんだ」「試合をだいなしにした」などと自己否定するような言葉は決して用いてはいけない。何かひとつのことが気になり出すと、集中できなくなりプレーが乱れる。「自分は粘り強い選手だ」「ピンチのあとには必ずチャンスがくる」「大丈夫だ、落ち着け、ここが耐え時だ」「気持ちを切り替えて頑張ろう」というような言葉を声にして唱え（雑念が湧かないように）、自己を鼓舞することに徹すべきである²³⁾²⁴⁾。

さらに、冷静さを保持するためには、試合の最中でも簡単に思い出せるように、キーワードやフレーズを考えておくことが便利である。たとえば、「強い」「リラックスしている」「自信がある」「調子よくいっている」「集中している」などの言葉である。試合の状況いかんによっては、自己会話する余裕を持たないことも考えられる。そのような場面では、こうした短い言葉の使用によって自己意識を取り戻すことが可能となる。

大事な試合の直前に、選手はよく鏡に向かって自分の顔の表情を写して見る。それによって我にかえるためである。また、ロジャーズ（C.R.Rogers）の「クライアント中心療法」（カウンセリング理論）では、クライアントが発した言葉をカウンセラーがそのまま反射応答することによって、クライアント自身の自己統制力を喚起させる²⁵⁾。「心の会話」もこれらの考えと同じように、自らの語りかけによって自己を見つめ、統制していくという手法なのである。

要 約

本研究は、スポーツ選手がITを実施することによって、いかにすれば自己能力を最大限に発揮できるかについて、検討を試みたものである。以下にその概要を述べることにする。

(1) スポーツ選手が持てる力を最大限に発揮するには、動機づけ（やる気）が高過ぎても、低過ぎても

- いけない。その中間の強さにコントロールする必要がある。そのためには、結果（勝利）目標の達成に固執するのではなく、プレー目標（力を発揮するために心がけること）達成にむけてイメージすることが肝要である。
- (2) 試合に挑む際は、プレー目標を数多く掲げないほうがいい。3項目以内に絞る。項目を多く設定すると、意識が集中しきれず、体がスムーズに反応できない場合がある。
 - (3) 目的とする運動をイメージ通りに実現するためには、イメージが形成基準に達した後も数多く反復練習し、潜在意識の中に刻印する必要がある。
 - (4) ピークパフォーマンス法においては、最高の結果を出した時のフォームではなく（これが理想のフォームとは限らない）、基本にもとづいた自分の理想のフォームをイメージすべきである。また、大まかにイメージするのではなく、力をうまく発揮した時のタイミングなどを具体的（綿密）にイメージすることも大切である。
 - (5) 自己の否定的観念を刺激しないように注意する。たとえば、「三振しないこと」をイメージすれば、「三振するかもしれない」というマイナスの想像が働く可能性が生ずる。マイナス言葉（三振）を用いなくて、「ボールをよく見て打つ」というように、すべきこと（対応策）を強調することが無難といえよう。
 - (6) 思い通りにプレーできなかつたり、不利な状況に陥った場合でも、否定的な言葉を用いてはいけない。自己を鼓舞する言葉を声にして唱え（雑念が湧かないように）、積極的にプレーすることがいい結果を出すことの鍵となる。
 - (7) 「勝つ」ことを強く意識すると、「努力逆転の法則」が働く恐れが生ずる。試合の序盤から最大限に結果を出さなければいけないと考えないで、「徐々に力を高めていく」「だんだんいい状態にもっていく」と自身に言い聞かせることによって、力がスムーズに発揮されやすくなる。
 - (8) 試合において冷静に自己を鼓舞しながらプレーするには、「心の会話」（セルフトーク：self talk）が有効である。自分自身の中に2人の自分を存在させ、試合の流れが順調な場合は「いいぞ、いいぞ、その調子」「油断は禁物、最後まで慎重に」というように、一方の自分に語りかける。逆に、不調に陥った時は「自分は粘り強い、最後まで諦めない」「大丈夫だ、必ずチャンスは巡ってくる」などと励ますことによって、余計なことを考えないでプレーに集中することができる。

文 献

- 1) 伊藤護朗『運動と意識』（1998、大阪教育図書）156 157頁。
- 2) 伊藤護朗「メンタルトレーニングの効果に関する実証的研究」・教養・文化論集第6巻第1号（2011、ノースアジア大学総合研究センター教養・文化研究所）135 137頁。
- 3) 佐伯和彦『自己の器を拓げる法』（1982、日本文芸社）22 23頁。
- 4) 伊藤護朗『身体活動と心理』（2005、大阪教育図書）137 138頁。
- 5) 杉浦隆「逆U字型理論」・体育教育、第35巻第4号（1987、大修館書店）73頁。
- 6) 前掲書（5）、73頁。
- 7) 千葉康則『自己暗示術』（1982、光文社）14 15頁。
- 8) 前掲書（7）、11頁。
- 9) 前掲書（7）、10 15頁。
- 10) 伊藤護朗『イメージにおけるスポーツメンタルトレーニングの意義と実践に関する研究』・秋田論叢第20号（2004、秋田経済法科大学法学部）3 4頁。
- 11) 前掲書（7）、42 44頁。
- 12) 米長邦雄『人間における勝負の研究』（1982、祥伝社）77 78頁。
- 13) 杉原隆「メンタル・プラクティス」・体育科教育、第36巻第1号（1988、大修館書店）79頁。
- 14) 松田岩男『体育心理学』（1979、大修館書店）203頁。

- 15) 石河利寛 『スポーツとからだ』 (1989, 岩波新書) 177頁。
- 16) 秋田魁新報・2011年7月5日
- 17) 前掲書(16)・2010年8月15日
- 18) 前掲書(16)・2009年12月7日
- 19) 前掲書(16)・2008年8月22日
- 20) 前掲書(7), 45-51頁。
- 21) 前掲書(16)・2010年6月22日
- 22) Ken Ravizza & Tom Hanson 『HEADS-UP BASEBALL』 p172. Masters Press 1995.
- 23) K・ポーター, J・フォスター (阿部美恵子他訳) 『メンタルトレーニング』 (1988, 不昧堂出版) 137-142頁。
- 24) 天外伺朗 『マネジメント革命』 (2006, 講談社) 102-103頁。
- 25) Carl R. Rogers, The Directive Versus Non Directive Approach, PP.115-128, in "The Counseling and Psychotherapy" 1942. The Houghton Mifflin Company・Boston Press.

[論 文]

夏目漱石『硝子戸の中』を読む

死生観を視座として

橋 元 志 保

はじめに

夏目漱石『硝子戸の中』に、次のような文章がある。

不愉快に充ちた人生をとぼとぼ辿りつつある私は、自分の何時か一度到着しなければならない死といふ境地に就いて常に考へてゐる。さうして其死といふものを生よりは楽なものだとばかり信じてゐる。ある時はそれを人間として達し得る最上至高の状態だと思ふ事もある。

「死は生よりも尊とい」

斯ういふ言葉が近頃では絶えず私の胸を往来するようになった。

然し現在の私は今まのあたりに生きてゐる。私の父母、私の祖父母、私の曾祖父母、それから順次に溯ぼつて、百年、二百年、乃至千年万年の間に馴致された習慣を、私一代で解脱する事が出来ないで、私は依然として此生に執着してゐるのである。

「硝子戸の中にばかり」暮らしている、語り手「私」は月の美しい「静かな夜」一人の女性の訪問を受ける。「其女」は「とても回復の見込みのつかない程深く自分の胸を傷けられてゐた」。それと「同時に其傷が普通の人を経験にないやうな美しい思い出の種となつて其人の面を輝やかしてゐた」。その「宝石」のような思い出そのものが「彼女を死以上に苦しめた手傷其物」であり、「其女」はこのまま生き続けるのを辛いと思う以上に、時と共に「今持つている此美しい心持」が薄れていくのを心底恐れていた。生きるべきか死ぬべきかを問う女に、語り手としての「私」は「死は生よりも尊とい」と明言しながらも、「生きること」を促す。

自分が今存在するという事は、自分の父母、祖父母、曾祖父母、そしてその先祖という無数の「生」が存在したという事である。自分自身の「生」を、そうした連綿と続く「いのちの流れ」の中に位置づけたとき、人は自らの「生」を自分自身の考えだけで処断することは出来ない。波平恵美子は、日本人の「死生観」が「祖先崇拜」の念と深く結びついていることを指摘しているが、⁽¹⁾ この「私」の「死生観」にも顕著にそれが表われている。自分の「生」を独立した、個別的なものとして考えず、多くの祖先からのいのちを受け継ぎ、そしてそれを未来の子孫へと渡していく媒介的な存在として考えているのである。

また、先に引用した「私」の「死生観」を表す文章は、ただ生と死の間で揺れ動く「其女」への応えとしてのみ、解釈されるべきものではないだろう。『硝子戸の中』には、死のモチーフが点在している。愛犬ヘクトーの死、若い頃知り合った芸者咲松の死、決まって病後に知り合いから次々と送られて

来る葬儀の知らせ、年賀の客から聞いた年若い芸妓の死、早逝した美しい人妻大塚楠緒子との思い出、肺病で亡くなった長兄、そして少年の頃死に別れた母の姿。死を語る言説に満ちた『硝子戸の中』というテクストを読み解く鍵として、位置づけられる文章である。また、「死」に関する「人間として達し得る最上至高の状態」、「境地」、「解脱」という言葉からは、明らかに禅宗の影響が窺えるのである。

島藺 進によれば、明治期に「死生観」という言葉が様々な著作を通じて広められ、多くの人々が関心を持つようになったという。⁽²⁾ 本稿では、その「死生観」を視座として、『硝子戸の中』を読み解き、また『こゝろ』をはじめとする他の小説に描かれた「死」について考察する一助にしたいと考えている。

「死生観」の変遷について

初めに日本における「死生観」の変遷について、ごく概略を見ていこう。まず問題となるのは日本人の死後の世界に対する考え方であろう。梅原 猛は、恐らく仏教移入以前から存在していた日本人の「あの世」観とでもいうべき考えには、次のような四つの特徴があると述べている。

あの世は、この世とまったくアベコベの世界であるが、この世とあまり変わらない。あの世には、天国と地獄、あるいは極楽と地獄の区別もなく、従って死後の審判もない。
人が死ぬと魂は肉体を離れて、あの世に行って神になる。従って、ほとんどすべての人間は、死後あの世へ行き、あの世で待っている祖先の霊と暮らす。
人間ばかりか、すべての生きるものには魂があり、死ぬばその魂は肉体を離れてあの世へ行ける。あの世でしばらく滞在した魂は、やがてこの世に帰ってくる。誕生とは、あの世の魂の再生にすぎない。このようにして、人間はおろか、すべての生きとし生けるものは永遠の生死を繰り返す。⁽³⁾

梅原は、このような日本の土着の「あの世」観が仏教に影響を与えたのではないかと述べている。この世に存在するすべてのものに「仏性」を見出す、「草木国土悉皆成仏」という言葉は鎌倉時代に多くの宗派に広まったが、明らかにそれは日本仏教独自の特色であった。また、浄土教において親鸞が説いたあの世とこの世の往還、壮大な菩薩行は、日本人の「あの世」観の原型に非常に良く類似しているという。また、日本においては葬式などの死の儀式を仏教が、お宮参りや結婚などの再生の儀式を神道が司ってきたのだという。そしてまた、魂があこの世とこの世を循環するという思想は、生まれ変わりという考えを生んだ。子孫が祖先の名を受け継いだり、子供の身体的特徴から既に亡くなった祖先の生まれ変わりだと家族の中で話し合われたりして来たのである。⁽⁴⁾

なお、このような生まれ変わりの思想を含む「あの世」観は、近代の日本においても広く信じられていたことを、波平恵美子は指摘している。恐らくそれが変容したのは医療の進歩や経済の進展による栄養状態の改善により、新生児や乳幼児の死亡が格段に減少した第二次世界大戦以降のことであると波平は述べている。⁽⁵⁾

さて、日本人の「死生観」を考える上で次に重要なのは平安時代末期から鎌倉時代にかけてであろう。鈴木大拙は「日本的靈性」は鎌倉時代に目覚めたと述べているが、⁽⁶⁾ 明治時代に起こった死生観言説の流行には、鎌倉仏教すなわち禅宗が大きな影響を与えている。

大野順一は保元・平治の乱、そして源平の合戦へと続く乱世が人々に死を強く意識させた、と述べている。地震や飢饉、疫病の流行、そして、戦乱による集団的な複数の死。戦乱に巻き込まれて命を落とす人民百姓もいれば、戦場となったために春の耕作、秋の収穫が出来ず、人為的な飢饉が頻繁に起こっ

た。大野によれば、このような乱世によってもたらされた夥しい死が、かえって人々にはじめて「生」というものを真剣に考えさせたのだという。また、『平家物語』には「命」という言葉の用例が約150語あるが、「甲斐なき」「露の」「しばしの」「はかなき」「もろき」といった形容辞と共に語られ、「生」の儚さと有限性が強調されていると述べている。そして、このような死の深淵が、今生きている現世を「末代」と感じさせ、未来を「来世」と信じさせる信仰が生まれたのだという。唐から伝わった浄土教的思想が「たんなる観念としてではなく、死を通しての体験として、『浄土宗』に定着したという、歴史的必然性が、ここに見出される」のだというのである。⁽⁷⁾

大野が述べるように、乱世における夥しい死と仏教信仰の隆盛は分かち難く結びついている。平安時代末期から鎌倉時代にかけて武家社会が確立すると盛んになったのは、曹洞宗・臨済宗の二派を主とする禅宗である。室町時代には京都と鎌倉に官寺五山が確立され、武家を中心に熱心に信仰された。⁽⁸⁾ また、禅宗は武士道に強い影響を与え、近世から近代にかけてもその信仰は受け継がれていくのである。

やや先を急ぐことになるが、近代において禅宗が「死生観」言説に影響を与えたことは前述したとおりである。島園 進は、近代において「死生観」という言葉が生み出され、「死生観」に関する言説や考察領域が活発化したと述べている。その中心となったのが、仏教を土台とした国民教化の講演説教者であり、また多数の著作でも知られる加藤咄堂であった。⁽⁹⁾ 『日本国語大辞典 第2版』によると「死生観」という言葉の意味は「生きることと死ぬことについて、判断や行為の指針となるべき考え方。生と死に対する見方」とある。このような現在使われている意味で、「死生観」という言葉を最初に用いたのが、咄堂であるという。

明治38(1905)年に『死生観』を、明治41(1908)年に『大死生観』を、昭和13(1938)年に清泉芳蔵と共著で『死生禅』を著している。島園は古今東西の聖人や宗教家、文豪、英雄等の「死生観」に言及した大著『大死生観』よりも、最初の著書『死生観』に明瞭に咄堂の「死生観」が表されていると指摘しているが、その通りであろう。『死生観』は「死生観の変遷」「武士道と死生観」「古聖の死生観」「近世の死生観」「死生問題の解決」の5章から成る。死生の問題は、いかに科学が発達しようとも全ての人々の前に横たわる「永久の疑団」である。「生あるもの死あり、死終に免るべからずとするも、その来たるや時を択ばず、九死の病者、時に一生を得、頑強の壮者、忽爾として逝く。防ぐに道なく、止むるに法なし」と咄堂は語り、生死の問題について考察することは人生の真義について考えることであると述べている。そして、古来聖人や哲人たちによって生死の問題がどのように考えられてきたのか、また武士道や禅宗との関わりから日本人の持つ「生死一如」の観や、社会的生命の永生、天命などを示し、一般の人々に「生死の問題」についてどのように考えていくべきなのかを説いている。⁽¹⁰⁾

このような加藤咄堂の「死生観」に関する考察や執筆は第2次世界大戦の時期まで続いていく。また昭和17(1942)年には、鈴木大拙による「日本人の死生観」や「生と死」といった論考が著されている。⁽¹¹⁾ 島園は、明治時代後半から「死生観」言説が活発化した背景として、修養主義の隆盛を挙げているが、⁽¹²⁾ 単に国民道徳の確立や社会的規範の教化のためというだけでは捉え切れない部分がある。「死」について人々が熱心に考え始めたのは、近代において「死」の意味が変容したからである。より具体的に言えば近代は戦争の世紀であった。漱石は『趣味の遺伝』の冒頭において、満州の荒野に広がった血生臭い殺戮の様子を描いているが、日清・日露戦争は国内での戦乱とは比較にならない規模の死傷者を生み出した。かつてない程の大規模な殉難者と、本国に帰還できなかった戦死者の遺体。それに伴う死の儀礼の変化が、人々に否応なしに「死」について考えることを迫ったのである。

波平恵美子は、日清・日露戦争以降、日本人が古来持っていた祖先崇拜や死後の世界への信仰が変化していったことを指摘している。徴兵制によって家族や故郷から奪われた夫や息子たちは、兵士として

死亡すると、その死後も家族から切り離された。戦死者の遺体や遺骨は原則として、陸軍墓地や海軍墓地に埋葬され、またその死者の霊は各地の招魂社や護国神社、そして靖国神社に他家の戦死者の霊と共に合祀された。⁽¹³⁾

靖国神社は、戊辰戦争の勤王軍の戦死者の慰霊招魂のために明治2（1869）年に創建された招魂社をその発祥としている。明治維新のための殉難者の他、西南戦争や日清・日露戦争等の諸戦役の戦死者を「国事」に身を捧げた志士の霊として祀っていった。また、明治維新の際の殉難者として祀られた霊が3588柱であったことと比較すると、日清戦争によるものは1万3619柱であり、日露戦争では8万8429柱と、戦死者の数が飛躍的に増えていることが分かる。しかし、特に地方と区別するために東京招魂社と呼ばれた現在の靖国神社は、国を守るためにその身を捧げた志士達の霊が祀られた場所として、人々の尊崇を集めたのであった。⁽¹⁴⁾ 明治初期から多くの参拝者を集め、特に三日間にわたる例大祭の時の人出は大変なもので、服部撫松の『東京新繁盛記』等に詳しい。⁽¹⁵⁾ また漱石の『吾輩は猫である』の中にも、幼い妹が「御ねえ様も招魂社がすき？わたしも大すき。一所に招魂社へ御嫁に行きませう」と姉に誘いかける場面がある。⁽¹⁶⁾ 幼い子供に至るまで、当時の人々がどのように招魂社を捉えていたのか、良く理解できる記述である。もちろんそこには、幼い姉妹が揃って戦死者の花嫁になることを願うような、国民教化のありように対する風刺が込められているだろう。

このような近代戦争による大量の戦死者と、その死に伴う儀礼の変化は、人々に「国家」のために身を捧げる行為を非常に尊いものとして植え付けていった。そもそも近代教育においては忠孝の精神が尊ばれ、親に捧げるような「孝」を天皇に対する「忠」として捧げる家族国家観がその道德教育の基盤となっていたのである。そして一方でまた、中国やロシアといった列強との戦争を経験していく中で、日本人とは何か、そのアイデンティティーを日本の伝統文化の中に求め、様々な修養主義の言説や例えば武士道言説のような国民の精神的な拠り所となるような思想が数多く生まれていった。「死生観」という言葉はこのような時期に一般化していったのであり、およそ第2次世界大戦の時期まで「死生観」に関する様々な叙述が為されていく。

以上、「死生観」の変遷を概略ながら辿ってきたが、正に漱石の文学はこのような時期に、多くの犠牲をはらった日清・日露戦争を乗り越え、家族国家観を基盤とした国民国家が樹立されようとする時代に書かれているのである。しかし、例えば『三四郎』の冒頭部に日露戦争以降の困窮する庶民の現状や日本の将来への厳しい見通しが提示されているように、国民教化の意図が込められた「死生観」言説をむしろ相対化するような叙述に満ちている。次節からは『硝子戸の中』に見られる様々な死について注目していくが、個々の死に関連する記述から、それを総括して語る語り手が時折提示する「死生観」を抽出し、その意味について考察していきたい。

生と死の交錯する物語

『硝子戸の中』は全39章から成っている。最初の章は序であり、最終章は結びとなっている。渡部芳紀によれば、それ以外の2章から38章にわたって26もの話が語られているという⁽¹⁷⁾。そのうちの多くが語る現在よりも時制を遡った過去の出来事について記述されており、亡くなった父母や兄、従兄、今も生きている姉たちとその縁故にあった人々等を回想する、という形式になっている。もちろん語る「私」の存在する「硝子戸の中」にも様々な人々が訪れ、「私」に様々な感慨を抱かせ、語り続けることを促していく。つまり、現在の物語と過去の物語が交錯するという形式になっているのだが、例えば現在生きている床屋と話している最中にも、その話題は過去の共通の知り合いであった従兄や年若い芸者咲松

の死へと繋がり、時制は過去へと遡っていくのである。

また今、何故「私」が語り書くのか、という表明は、序と結びに明確に示されている。序において「硝子戸の中」という「狭い世界」にいる私にも「事件」は起こるし、時折「思ひ掛けない人」が訪れて「思ひ掛けない事を云つたり為たりする」という。「私」は「興味に充ちた眼」を持ってそれらの人々をみつめ、忙しい新聞の読者にとって「どれ程つまらなく映るだらうか」、「軽蔑」されはしないかとの「懸念」さえ抱きながら、前述のような人々との関わり合いやそこから生まれた様々な考えをこれから記述していくのだという。そして、その後26もの話を語り終えた「私」は、「他の事と私の事をごちやごちやに」書いたことと、「他の事を書くときには、成る可く相手の迷惑にならないやうに」配慮したことについて触れる。また自分の身の上を語る時には、「比較的自由的な空気の中」で記述することができたが、自分の「卑しい所」「悪い所」「面目を失するやうな自分の欠点」については不十分な記述に留まったという。その上で「私」は聖オーガストの懺悔やルソーの懺悔をあげ、「本当の事実」を「人間の力」で叙述することの難しさについて触れている。つまり、「私」の語り及び記述は、起こった物事を「明るい側」から眺めた視点によるものであり、不十分なものであること、一面的なものであることを暗に認めているのである。

この文章について「懺悔ではない」と断わりながらも、「語ることと書くこと」に対して誠意を尽くそうとする「私」の姿勢は、この作品の随所で感じられる。第5話(11章)「書いたものを見てくれと云った女に告げたこと」や第22話(33章)「他に対する私の態度」、第23話(34章)「講演」等でもそれは読み手に強く伝わってくる。言葉という不十分な道具を使用して、自らの思いを他者に伝えることの困難と、それによって生じる誤解や苦悶、そして不幸を繰り返し「私」は嘆き、少しでも是正しようと努力し続ける。しかし、それは到達をみないまま、「語り書く私」をも相対化するような視点、すべてを包み込むような微笑の中へと回収されていくのである。

『硝子戸の中』の全26話のうち正に15話が、死に関連する物語や既に亡くなった親戚や知り合い、飼犬等との思い出の物語である。本稿の冒頭に引用した「死は生よりも尊とい」という言葉から、『硝子戸の中』に「死への憧憬」を見る先行研究もあるが、⁽¹⁸⁾ただ死に憧れ死に救いを求めているような意図によって書かれた文章ではないであろう。周囲に溢れる生と死の中で、そのどちらをも誠実に見つめ、生死の問題について真剣に考えている姿勢が伺えるのである。そしてまた、『硝子戸の中』に描かれた様々な死は、明らかに「私」の「死生観」を形づくっていく役割を果たしている。

まず、『硝子戸の中』の死において特徴的なのは、若く美しい女性の早逝であろう。第9話(16~17章)「床屋との再会」において、昔知り合いであった床屋の許を久しぶりに訪れた「私」は、その床屋を鼻屑にしていたという従兄「高田の旦那」の死を床屋に告げる。そこで知ったのは、その従兄とも共通の知り合いであった東家の年若い芸者咲松(御作)の死であった。「私」がまだ17か18歳の学生で「其上大変な羞恥屋はにかみ」で通っていた頃のことである。従兄の家のすぐ近くにあって芸者屋に、従兄や二番目の兄と共に遊びに行っていた頃、「私」は咲松と知り合ったのである。彼女はやさしい性質で「羞恥屋」の「私」にも親切であった。だが、すぐに良いお客に引籍されて「品の好い奥様」になってしまった。その後、旦那の仕事の都合で「浦塩(ウラジオストック)」へ行き、23歳の若さで亡くなってしまったのだという。咲松の死を知った「私」は次のように語る。

私は帰つて硝子戸の中に坐つて、まだ死なずに居るものは、自分とあの床屋の亭主丈のやうな気がした。

この強い孤独感は、恐らく「私」が若い頃一緒に芸者屋の2階で遊んだ人々のほとんどが亡くなってしまったという事実に気づいたためであろう。長兄と同様、次兄も青年期に早逝してしまったのである。そして、つい2週間ばかり前に知らされた従兄の死。その上、今日知った咲松の死。芸妓であったとはいえ、性質も良かった咲松に年若い「私」は淡い恋心を抱いていたのかもしれない。若い時を共有し、賑やかにトランプをして遊んだ相手が今現在、一人も生き残っていないことに「私」は限りない寂寥を感じているのである。

そして、若く美しい芸妓の死は再び「硝子戸の中」を訪れた「年賀の客」によって語られる。第14話(24章)「年賀の客 - 或る女の死」は、まだ年若い芸妓が二人の旦那に身受を争われ、恋人に義理立てをして「首を縊つて死んでしまつた」というエピソードである。その自死の原因となった恋人が「年賀の客」であり、色街で育った割には「真面目な正直な人」であった。けなげな芸妓はたった19歳で、「何処へも行かない」という約束をその「年賀の客」としていた。そして、「十日ばかり会はないであるうちに死んでしまつた」のだという。「私」はこのエピソードを「憐れな物語り」と見做しているが、この年若い女性の死は日本人の「死生観」の一端を覗かせている。河合隼雄が指摘しているように、日本人の「生死の隔壁」は薄く、自死への罪悪感もキリスト教的価値観に縛られている西洋人に比べると弱い。⁽¹⁹⁾ それゆえ、耐え難い苦痛や乗り越えられない障壁から逃れる手段として、自死を選んでしまうのだという。このような行為は、モーリス・パンゲの言う「意思的な死」⁽²⁰⁾とは全く違うものであるが、近代以前の日本において特に芸妓や遊女の間では多く行われていた。本稿の第2節「生命観の変遷」で触れたように、日本人の伝統的な死生観には「生まれ変わり」を信じるという思想があった。特に江戸時代に流行した遊女とお客の心中においては、想い合って共に死んだ者は死後再会できるということが信じられていた。同様の考えは、明治期の日本においても民衆の間では信じられていたと、東京帝国大学における漱石の前任者ラフカディオ・ハーン(小泉八雲)も述べている。⁽²¹⁾

さて、続く15話(25章)も際立って美しい女性の早逝のエピソードである。「私」はある雨の日、一台の幌俵に出会う。その車上の人女性で、「遠くから其白い顔」を「私」に見せていた。

私の眼には其白い顔が大変美しく映つた。私は雨の中を歩きながら凝と其人の姿に見惚れてみた。同時に是は芸者だらうといふ推察が、殆んど事実のやうに、私の心に働らきかけた。すると俵が私の一問ばかり前へ来た時、突然私の見てみた美しい人が、鄭嘯な会釈を私にして通り過ぎた。私は微笑に伴なう其挨拶とともに、相手が、大塚楠緒さんであつた事に、始めて気が付いた。

視界の悪い雨の日にさえ、遠くから見惚れてしまうような美しい顔。心に残る美しい微笑と会釈を「私」に送った、大塚楠緒子は儂くも早逝してしまう。

楠緒さんが死んだといふ報知の来たのは、たしか私が胃腸病院に居る頃であつた。死去の広告中に、私の名前を使つて差支ないかと電話で問い合わせられた事杯もまだ覚えてゐる。私は病院で「ある程の菊投げ入れよ棺の中」といふ手向の句を楠緒さんのために詠んだ。

美しい女性の早逝は哀しみと共に生の不合理を感じさせる。「私」も大病をして生死の境を彷徨っていた時があつた。同じ時期に楠緒子は病を得て、亡くなってしまったのである。「死生観」言説には、たとえば前述した加藤咄堂の文章のように死の不可避性や生の不合理を語ったものが多く見られる。大塚楠緒子との思い出を語る文章には、彼女の死を悼む気持ちと同時に自分だけが生き残つたという痛み

がある。死者を悼む気持ち、また死者との思い出を「語り書くこと」は人間だけが行なう営為であろう。死は、死者と生者との間を別つものであると同時に、死者との思い出を変容させてしまう。心に残る美しい思い出は、思い起こされるたびに痛みと哀しみを伴うものとなるのである。

冒頭に引用した或る女のエピソードへと戻ろう。第3話(6～8章)「或女の告白」において、女は忘れがたい思い出をその胸に抱き、今も苦しんでいることを「私」に告げる。

其人はとても回復の見込みのつかない程深く自分の胸を傷けられてみた。同時に其傷が普通の人の経験にないやうな美しい思ひ出の種となつて其人の面を輝やかしてみた。

彼女はその美しいものを宝石の如く大事に永久彼女の胸の奥に抱き締めてみたがつた。不幸にして、その美しいものは取も直さず彼女を死以上に苦しめた手傷其物であつた。二つの物は紙の裏表の如く到底引き離せないのである。

私は彼女に向つて、凡てを癒す「時」の流れに従つて下れと云つた。彼女は若しさうしたら此大切な記憶が次第に剥けて行くだらうと嘆いた。

公平な「時」は大事な宝物を彼女の手から奪う代りに、其傷口も次第に療治して呉れるのである。烈しい生の歡喜を夢のやうに量してしまふと同時に、今の歡喜に伴う生々しい苦痛も取り除ける手段を怠らないのである。

語る「私」は続いて、この思い出が「深い恋愛」の記憶に基づいていることに触れているが、生きるべきか死ぬべきかを問う彼女に「生」を勧めたことは前述したとおりである。しかしながら、その助言の欠点も明らかに「私」は認めているのであって、「美しいものや気高いものを一義に置いて」人間というものを考えれば、「死」という選択もありうることを語っているのである。菊川忠夫によれば、人間のみが「死者に対して敬意を払う」という。⁽²²⁾ 確かに動物は仲間の死を本能的に察したり、その遺体から離れない等の様々な行動を取るだろう。しかし身近な者の死を悼み、いつまでも記憶に留め、葬儀を始めとする様々な儀礼を行なうのは人間だけである。言い換えれば、死が人間に様々なものを与えてきた、ある種の文化や宗教を形づくる媒体となってきたといえるであろう。

そしてまた、おそらく人間だけが死を選択するという意思を持っている。ここで問題となっているのは、その選択を行なうか否かということであり、語る「私」は倫理上それは有り得ない、としながらも自らの言葉に迷いを持っている。おそらく「私」は「死は生よりも尊とい」と明言しながらも、その根拠をはっきりとはまだ見出せずにいるのである。

『硝子戸の中』に描かれた若く美しい女性達の早逝や生死の選択に迷う姿は、私達にいのちの儂さや死の不可避性を感じさせる。また同時に死の持つ意味、死が私達に投げかけてくる問いに気づく契機ともなっているのである。

いのちの流れ

『硝子戸の中』において懐かしさを持って語られるのは、「床屋との再会(咲松の死)」や「楠緒さんとの思い出」、「母の思い出」等をはじめとする女性たちの死に関わる叙述であり、特に父の死やその思い出に関する言説は非常に少ない。それは、『こゝろ』においては男性の死、特に父なるものの死が物語の中心として描かれている事とは対照的である。『こゝろ』において死は、「私」の父の危篤、乃木大将の殉死、Kの自殺、そして「先生」の死というように、徹底して男性たちの死に至る言説とその行動

が描かれている。それゆえ死が一つの自己表現として、自らの価値観と信念によって選択すべきものとして捉えられている。これは、明らかにモーリス・パンゲの言う「自死の文化」の表出であろう。意思的な死を自殺とは捉えず「自死」と見做し、自らを処する一つの生き方、武士道の影響を受けた日本人固有の価値観の表れとして見るものである。⁽²³⁾

しかし、『硝子戸の中』には、そのような死はまったく描かれておらず、男性の死といえば「私」の長兄の肺病による死が描かれている程度である。しかもそれは、『行人』の一郎を思わせるような、その聡明さと整った容姿と険しい性情で、家族や「私」に近寄りたさを与えていた在りし日の長兄の姿や、柳橋の芸妓との恋の思い出を語る叙述に終始している。度々里子に出されたため、あまり馴染めなかった家族の死を語る恬淡ささえ感じられる語りなのである。

兄たちの死については、『思ひ出す事など』の中でも語られている。大患に倒れ、九死に一生を得た「余」は、手にした鏡の中に何年も前に世を去った兄の面影を見出す。「骨許意地悪く高く残つた頬、人間らしい曖昧を失つた蒼く黄色い皮、落ち込んで動く余裕のない眼、それから無遠慮に延びた髪と髯、どう見ても兄の記念であつた」⁽²⁴⁾という強い血の繋がりと、死期の近づいていた兄の容態をまざまざと感じさせる描写である。

若くして亡くなった二人の兄たちの髪や髯には白髪が混じる暇もなかつたという。兄たちと違って、生き残った「余」の髪にも髯にも銀の筋が疎らに混じっている。そのような年齢になってもまだ生き延びようとする「余」は、今を盛りの青年期に世を去って行った兄たちに対して、極まりの悪さを感じている。しかしそれは明らかに、自分の「いのち」というものが他者との繋がりの中で生かされているという死生観を表わす言説であろう。血の繋がりの希薄さを感じさせる『硝子戸の中』における兄のエピソードとは明らかに懸隔のある記述である。

第2話(3～5章)の「飼い犬ヘクトー」についての記述は、父との関係について考える意味でもなかなか興味深い。まだ乳離れをしたばかりの小さな子犬が「小供達の朋友」となり、乱暴者の成犬に成長し、やがては水死による死骸となって硝子戸のある家に戻ってくる。一見猫のエピソードと同じく、子沢山の家庭にもたらされた元気な子犬の成長記であり、家族との交流の記録でもある。しかし、やんちゃな子犬にはなぜか有名な「猫」にはなかつた名前が与えられた。

それはイリアッドに出てくるトロイの勇将の名前であつた。トロイと希臘と戦争をした時、ヘクトーは遂にアキリスの為に打たれた。アキリスはヘクトーに殺された自分の友達の讐を取つたのである。アキリスが怒つて希臘方から躍り出した時に、城の中に逃げ込まなかつたものはヘクトー一人であつた。ヘクトーは三たびトロイの城壁をめぐつてアキリスの鋒先を避けた。アキリスも三たびトロイの城壁をめぐつて其後を追ひ懸けた。さうして仕舞にとうとうヘクトーを槍で突き殺した。それから彼の死骸を自分の軍車チャリオットに縛り付けて又トロイの城壁を三度引き摺り廻した。……

トロイ戦争の名場面に続いて、「私」はヘクトーという「此偉大な名を、風呂敷包にして持って来た小さい犬に与えたのである」と語るが、もちろんそれはユーモラスな印象を読み手に与えるための語りの戦略であろう。しかし、古代ギリシア叙事詩『イーリアス』をよく知る者ならば、ヘクトーがトロイのヘレンと恋に落ちたパリスの兄で、父プリアモスから大変愛され期待されていた、文武両道に秀でた跡継ぎの王子であったことを記憶していただろう。家族や国民に深く愛されていた王子の名を、恐らくその「古典的な響」と共に気に入っていた「私」は「小供達の朋友」に与えたのである。

しかし、叙事詩『イーリアス』からの引用は何故、ヘクトーの死の場面なのだろうか。トロイとギリ

シアの大規模な戦争。その戦いの中で起こった王子ヘクトーの死。この後は叙事詩『イーリアス』の中でも見せ場ともいべき父王プリアモスの嘆きの場面である。ヘクトーの死を父王は大地を駆けまわり衣服を引き千切って嘆く。気が触れたかのようなその嘆きはその場では治まらず、とうとう父王は敵将アキレウスが連れ去った息子ヘクトーの遺体を引取りに、単身敵の陣地へと向う。遺体を戦車に繋いで引き摺りまわしていたアキレウスは、悲しみに満ちた父王を敬意といたわりを持って迎え遺体を引き渡す。王子ヘクトーの葬儀の記述を持って、叙事詩『イーリアス』は終わるのである。東北大学附属図書館の漱石文庫には、漱石の旧蔵書としてHomer (ホメロス) の The Iliad of Homer が今も保管されており、漱石がこの名高い古代ギリシアの叙事詩に目を通していたことは明らかである。⁽²⁵⁾

そして、ヘクトーという「古典的な響」を持つ名とその死は、微かな戦いの気配を、『硝子戸の中』ではほぼ隠蔽されている男性たちの戦いによる死の気配を表わしている。冒頭で「去年から欧洲では大きな戦争が始まつてゐる。さうして其戦争が何時済むとも見当が付かない模様である」と語り手が語っているように、『硝子戸の中』が書かれた前年の大正3年にはヨーロッパで第一次世界大戦が勃発していた。もちろんその数年前からヨーロッパの主要国及びロシアは二つに分かれて潜在的な対立関係にあった。欧州から伝わってくる大規模な戦いと殺戮の様子は、遠雷のような微かな音を『硝子戸の中』にも響かせているのである。

また、「私」が実の父からも兄からも邪険にされていたことは『硝子戸の中』にも語られているが、「小供達の朋友」である子犬に父からの深い愛情を受けていた王子の名を与えたことは興味深い。そもそも子供たちについて語ることは、『硝子戸の中』に点在する家族のエピソードを温かい絆で繋ぐ役割をも果たしている。悪夢にうなされた「私」を揺り起こし、温かい言葉で安心させてくれた母の微笑の思い出は、すぐに3人の娘達の面白い行動のエピソードへと繋がっていく。つまり、過去の「私」の背負っている生まれ育った家族との疎遠さを、現在の「私」の家族、子沢山の上に猫や犬といった子供たちが愛玩する動物と賑やかに暮らす日常が打ち消してしまうのである。そして自らの病や厭世観、旧知の人々の逝去の知らせによって「死」に傾いていく「私」の心情を「生」の方向へと大きく揺り戻す役割をも果たしているのである。

また、父からの「いのちの流れ」が明確に語られないかわりに、母からのそれは強調されている。母の思い出について語ることは、「私」にとって「記念」であり、『硝子戸の中』の全26話の棹尾を飾る物語として記述されるのである。第26話 (37~38章) は次のように始まる。

私は母の記念の為に此所で何か書いて置きたいと思ふが、生憎私の知つてゐる母は、私の頭に大した材料を遺して行つて呉れなかつた。

母の名は千枝といつた。私は今でも此千枝といふ言葉を懐かしいものゝ一つに数へてゐる。だから私にはそれがたゞ私の母丈の名前で、決して外の女の名前であつてはならない様な気がする。幸ひに私はまだ母以外の千枝といふ女に出会つた事がない。

母を慕う気持ちに溢れた文章である。「千枝」という名前の固有性へのこだわりは、そのまま母への愛情の強さとも取れるであろう。もしくは求めて得られなかつた愛情への執着なのだろうか。母は決して「世間の末つ子」のように甘く自分を取り扱ってはくれなかつた。それでも「宅中で一番自分を可愛がつて呉れたものは母だといふ強い親しみの心」が「私」にはあつた。しかしながら、母をはじめとする肉親に対して「私」が疎外感を感じ、心からの親近感を抱けずにいるのは、幼い頃二度も里子に出されたためであろう。その上高齢で「私」を生んだ母は「こんな年齒をして懐妊するのは面目ない」と云っ

たという話が家族の間から伝わって来たという。

私の知つてゐる母は、常に大きな眼鏡を掛けて裁縫をしてゐた。其眼鏡は鉄縁の古風なもので、球の大きさが直径二寸以上もあつたやうに思はれる。母はそれを掛けた儘、すこし顔を襟元へ引き付けながら、私を凝と見ることが屢あつたが、老眼の性質を知らない其頃の私には、それがたゞ彼女の癖とのみ考へられた。私は此眼鏡と共に、何時でも母の背景となつてゐた一間の襖を想ひ出す。古びた張交はりまぜの中に、生死事大無常迅速しょうじじだい いしずり云々と書いた石摺なども鮮やかに眼に浮かんで来る。

遅く生まれた末っ子の「私」は、他の兄妹達と違って母の「水々しい姿」を知らずに育った。「私」が見慣れた母の構図は、「御婆さん」めいた古風な様子で常に裁縫をしている姿であり、裁縫のための大きな眼鏡と「紺無地の紹の帷子と幅の狭い黒縹子の帯」、そしてその背後にあった「石摺の張交」の襖が極めて印象的なのであった。この「生死事大無常迅速云云」という禅語を石摺りという技法を使って書にしたもの等が張られた襖は、「母の思い出」のエピソードの最後にも再び登場する。ある日「私」が二階で昼寝をしていた時、「自分の所有でない金銭を多額に消費してしまつた」という悪夢にうなされて母を呼ぶと、母はすぐに二階に上がってきてくれたのである。

二階の梯子段は母の大眼鏡と離す事の出来ない、生死事大無常迅速云云と書いた石摺の張交にしてある襖のすぐ後に附いてゐるので、母は私の声を聞き付けると、すぐ二階へ上つて来て呉れた。私は其処に立つて私を眺めている母に、私の苦しみを話して、どうかして下さいと頼んだ。母は其時微笑しながら、「心配しないでも好いよ。御母さんがいくらでも御金を出して上げるから」と云つて呉れた。私は大変嬉しかつた。それで安心してまたすやすや寝てしまつた。

温かい母の微笑と慰めの言葉は、悪夢にうなされていた「私」をあっさり癒し安堵の眠りへと誘ひ込んだ。母の老いたる古ぼけた姿と、決して「悪戯で強情者な私」を甘やかさない厳しい気性は、ここでは何も語られない。ただ母の温かい慈愛が、そしてそれに包まれて心から安堵し穏やかな眠りにつく子供の姿が読みとれるのみである。そしてその母との思い出の中から、というよりも「私」の夢もしくは強い希望の中から現れた母の慈愛の微笑は、『硝子戸の中』の最終章における「私」の微笑へと引き継がれていく。

「不愉快に満ちた人生」をとぼとぼと歩いてきた「私」は、この物語の終焉ですべての「不快」を手放し、その上に立ってすべてを見渡すような眼差しを手に入れる。その微笑に満ちた眼差しは、暖かな春の庭を眺め、「硝子戸を開け放つて」しまう。そして、「静かな春の光のなか」で穏やかな眠りにつくのである。それは、母の慈愛の微笑に包まれて眠った少年の頃の思い出に繋がる光景でもあるし、より以前の生まれる前の記憶に繋がる光景であるのかもしれない。または「私」の心がはじめて開放され、「一切の生きとし生けるもの」を受け入れる「慈しみのこころ」が生まれたのかもしれない⁽²⁶⁾。いずれにしても、それは気難しい秀才の兄さえ「畏敬の念」を抱いたという母の「生」を受け継いだことを意味している。

「母の名は千枝といつた」と語り手は語る。寓意の観点からは、智慧につながる名である。そして古風な大眼鏡と共に禅語の書かれた石摺の張交の襖は、母の換喩として成立している。このことは何を意味しているのだろうか。次節では、『硝子戸の中』に散りばめられた禅語について注目していくこととしたい。

生死の超越

母の背後の襖に張られていた石摺の書「生死事大無常迅速云々」とは、『正法眼蔵随聞記』に出てくる禅語である。『正法眼蔵随聞記』は、曹洞宗の開祖道元禅師が弟子たちに説いた言葉や問答を、弟子の一人で永平寺二世である孤雲懐奘が筆記したものである。『正法眼蔵随聞記』には、次のように記されている。

示云、無常迅速也、生死事大也。暫存命ノ間、業ヲ修シ、學ヲ好ニハ、只佛道ヲ行ジ、佛法ヲ學スベキ也。文筆詩歌等、其詮ナキ也。捨ベキ道理、左右ニ及バズ⁽²⁷⁾。

時は瞬く間に去って行くが、人間として生まれて、この自己の生死を極めることこそ、人生最要の大事であると述べるこの文章が、裁縫をする母の襖の背後には常に見えていた。悪夢にうなされた自分の許にすぐにやって来て、微笑と癒しの言葉を与えてくれた「母の思い出」とも密接に結びついている。

また、第2話（3～5章）の「飼い犬ヘクトー」の話でも、ヘクトーは亡くなる前に「硝子戸のある家」の庭の古びた手水鉢で水を飲むが、側面には禅語が刻まれ、「其所には寺と仏と無常の句が漂つてゐた」とある。そして、ヘクトーが亡くなった池のある家は「古い寺の傍」であった。

第4話（9～10章）「友人〇の来訪」でもその学生時代の思い出を語るうちに、空の澄み切った秋の日に「あッ悟つた」と友人〇が低い声で叫んだ事を思い起こす。彼と同じ様な境地になれない「私」は「悟りとは妙なものだ」と言う彼の言葉にも一言も返せないのであった。

これらのことは一体何を意味しているのであろうか。つまり、「私」は繰り返し仏縁に出会いながらも、全く仏の道に入ろうとはせず、従って悟ることもなかったということ表現しているのではないだろうか。しかし、病に倒れ九死に一生を得た「私」は若い時を共有した兄や従兄弟、そして知り合った美しい女性達の多くが既に亡くなっていることを一つ一つ確認していく。死というものが遠く彼方にはあるが、決して避けられないものであることをはっきりと知った今、「語り書くこと」を行いながらも、「私」は生死の問題について考え続けるのである。

第3話（6～8章）「ある女の告白」において「私」は「死は生よりも尊とい」と明言している。死が生死の「輪廻」を断ち切る最上至高の状態だと述べながらも、自らが生を捨て去ることも、そしてそれを人に勧めることも出来ない。つまりは、「此不愉快に満ちた生といふものを超越する事が出来なかつた」のである。

この「私」が志向している「死」は、日本の伝統的な「あの世」観に基づいたものではなく、また「祖先崇拜」を伴う明治期にも民衆の間では一般的であった死生観に基づくものではないであろう。それは、明らかに禅宗の影響を受けた死生観を述べているのである。自分のなかに留まっている「いのち」を生かすことは、仏の御命を生かすことになる。それゆえ、それに執着してはならないのと同様、無下に捨て去ってもならないのである。

鈴木大拙は、多くの著作を遺した仏教思想家として知られているが、曹洞宗の開祖である道元の『正法眼蔵』について次のように述べている。

この間、道元禅師の本を見てみると、禅師にかういふ言葉がある。よほど真宗の所説に似てゐます。『正法眼蔵』といふ書物は中々大部のものです。＜中略＞その中に、「生死」の巻といふのがあつた。それに次の如き文句がある。

「この生死はすなはち仏の御いのちなり、これをいとひすてんとすれば、すなはち仏の御いのちをうしなはんとするなり。これにとどまりて生死に著すれば、これも仏の御いのちをうしなふなり。仏のありさまをとどむるなり。いとふことなく、したふことなき、このときはじめて仏のこころにいる。ただし心をもてはかることなかれ、ことばをもていふことなかれ。ただわが身をも心をも、はなちわすれて、仏のいへになげいれて、仏のかたよりおこなはれて、これにしたがひもてゆくとき、力をもいれず、こころをもつひやさずして、生死をはなれ仏となる。云云。」

此に注意すべき事は、道元が「仏の命」と云ふ文字を用いたことである。而してこの生死が即ち仏の御命なりと云ふのである。我々は生れたり死んだりするのであるが、此の生れたり死んだりするものが即ち仏の御命に外ならぬと、道元は云ふのである。お経などを読んでみると、仏は生死の因を悟られて生死を脱却せられ、久遠の生命を獲得せられたといふ風に書いてありますが、それがここでは仏の御命は生死そのものがさうだと云ふのです。それ故、此の生死は無駄に棄てるべきでない、それは仏の御命を棄てることになるのである。またこれにとどまる、すなわち生死に住する、或は生死に執着することになると、これまた仏の御命を失ふことになるのである。生死を厭ふこともなく恐れることもなく、生死の中に住して、而してその来住に任せ、自然に生死の動くままに動いてみると仏のお命を失ふこともなく、従ひて生死に囚はれることがない。この時始めて仏の心に入ると云ふ。心に入るは即ち命を全うするのである。⁽²⁸⁾

漱石が大学の友人達の影響から、明治27年の暮れから28年の正月にかけて鎌倉円覚寺塔頭帰源院にて参禅を行なったことは夙に知られている。⁽²⁹⁾ 東北大学附属図書館の漱石文庫に今も残されている彼の蔵書の中には、『碧巖録』をはじめとする様々な禅宗の書籍の蒐集が見られる。⁽³⁰⁾ また、漱石が残したノートの中には「超脱生死」について書かれた文章があり、円覚寺での参禅の経緯について語られている。⁽³¹⁾ そして、晩年には神戸の禅寺の修業僧、鬼村元成、富澤敬道とも親しく交流していた。⁽³²⁾ このような禅宗への傾倒は、『門』や『夢十夜』、『行人』をはじめとする諸作品に影響を与えている。そして、この『硝子戸の中』にも明らかに「私」の「死生観」と結びついた形でそれは生かされているのである。

[注]

- (1) 波平恵美子『いのちの文化人類学』（新潮選書 1996年8月）
- (2) 島園 進『日本人の死生観を読む 明治武士道から「おくりびと」へ』（朝日新聞出版 平成24年2月）
- (3) 梅原 猛『世界の中の日本の宗教 日本人の「あの世」観』（『日本人のあの世観』中央公論社 平成元年2月）
- (4) 梅原 猛 前掲論文
- (5) 波平恵美子 前掲書
- (6) 鈴木大拙『日本の霊性』（『鈴木大拙全集』第8巻 岩波書店 平成11年10月）
- (7) 大野順一『死生観の誕生』（福武書店 昭和57年9月）
- (8) 『國史大辞典』（吉川弘文館 昭和54年）
- (9) 島園 進『解説 死生学研究と死生観 加藤咄堂と死生観の論述』（加藤咄堂『死生観 史的諸相と武士道の立場』書肆心水 平成18年9月）
- (10) 加藤咄堂『増補 死生観』（井冽堂 明治43年7月）
- (11) 鈴木大拙『日本人の死生観』『生と死』（『鈴木大拙全集』第32巻 岩波書店 平成14年5月）
- (12) 島園 進 前掲論文
- (13) 波平恵美子『日本人の死のかたち 伝統儀礼から靖国まで』（朝日新聞社 平成16年）
- (14) 小堀桂一郎『靖国神社と日本人』（PHP 研究所 平成10年8月）
- (15) 服部撫松『東京新繁盛記』（『明治文学全集』第4巻 筑摩書房 昭和44年8月）には、明治維新の後に新築された社寺の第一として招魂社をあげ、忠義の志士たちが九段という大変見晴らしの良い高台の地から、この都を守護してくれるに違いないと述べている。また、一年に四度の例大祭には招魂式の他、花火、競馬、相撲等の催しものまであり、毎回大変な人出で賑わっているとある。
- (16) 夏目漱石『吾輩は猫である』『漱石全集』第1巻（岩波書店 平成5年12月）
- (17) 渡部芳紀『硝子戸の中』（『夏目漱石（二）』現代国語研究シリーズ5 尚学図書 昭和50年）なお、『硝子戸の中』の話の

分類及びタイトルについては渡辺氏の論を参考にさせていただいた。

- (18) 瀬沼茂樹『夏目漱石』(東京大学出版会 昭和37年3月)
- (19) 河合隼雄「日本人の死生観」(『河合隼雄著作集』第13巻 岩波書店 平成6年)
- (20) モーリス・パンゲ著 竹内信夫訳『自死の日本史』(筑摩書房 昭和60年)
- (21) 小泉八雲著 落合貞三郎他訳『知られぬ日本の面影』(『小泉八雲全集』第3巻 大正15年8月)には、「心中」について、どうしても現世で結ばれない恋人たちが「共に死ぬることによつて、未来の世界で忽ち夫婦になれると信じてゐる」とある。また、実際に当時の松江で起きた医師の息子と可憐な18歳の女郎の心中についての記述もある。
- (22) 菊川忠夫『生と死の哲学 現代タナトロジー序説』(世界書院 平成3年7月)
- (23) モーリス・パンゲ 前掲書
- (24) 「思ひ出す事など」(『漱石全集』第12巻 岩波書店 平成6年12月)
- (25) 東北大学附属図書館漱石文庫には、漱石の旧蔵書である The Iliad of Homer が、6冊保管されている。そのほとんどが英訳版で、1冊だけフランス語訳版 L'Iliade がある。
- (26) 中村 元『生きる道 の倫理 構造倫理講座』(春秋社 平成17年)
- (27) 『道元禪師全集本正法眼藏隨聞記』(田島毓堂・近藤洋子編『正法眼藏隨聞記語彙索引』法蔵館 昭和56年8月)
- (28) 鈴木大拙「無心といふこと」(『鈴木大拙全集』第7巻 岩波書店 平成11年12月)
- (29) 夏目漱石「虚子著『鶏頭』序」(『漱石全集』第16巻 岩波書店 平成7年6月)
- (30) 東北大学附属図書館漱石文庫には、禅宗に関する漱石の旧蔵書が多数保管されている。『佛果圓悟禪師碧巖録』の他、『臨濟宗眼目』、『一休和尚全集』、『澤菴和尚全集』、『禅林集句』、『禅門法語集』、『禅窓閑話』など、多岐にわたる。
- (31) 夏目漱石「ノート 超脱生死」(『漱石全集』第21巻 岩波書店 平成9年6月)
- (32) 夏目鏡子・松岡 讓『漱石の思い出』(文藝春秋 平成6年7月)

[附記] 『硝子戸の中』の本文の引用は凡て『漱石全集』第12巻(岩波書店 平成6年12月)に拠る。なお、引用に際してルビは適宜省略した。

[論文]

湖沼の干拓によって成立した水田の植生保全上の意義： 茨城県潮来市の例

村 中 孝 司

要 約

茨城県潮来市は霞ヶ浦、外浪逆浦などの水域に接しており、米の増産を目的とした干拓がすすめられてきた。現在では水田や住宅地などとして利用されて利用されているが、そのような生態系の保全上の価値はほとんど顧みられることがない。本研究では、このような経緯で干拓によって人工的に造成された水田の植物の保全上の価値を検討するため、近隣地域で旧来より水田として利用されている谷津田の植物相と比較した。谷津田（28カ所）では、104種の維管束植物が確認され、ヒメミソハギ *Ammannia multiflora*、ミズマツバ *Rotala pusilla* などの保全上重要な種が7種確認されたのに対して、干拓地の水田（19カ所）では64種であり、保全上重要な種は3種であった。このような違いには、周辺からの種子の供給源などの違いが関係している可能性がある。本研究から、当該地域における干拓地では主な水田雑草の定着が確認されたが、その種組成は旧来から水田として利用されてきた場所よりも乏しく、水田の植物相の保全上の価値は高くはないことが示唆された。

はじめに

近世以降、日本の沿岸域では農地の拡充などを目的とした干拓が行われてきた。第2次世界大戦以降では、米の生産拡大を目的とした大規模な干拓が全国各地で次々に行われ、水域生態系の喪失の主要原因となってきた（山野2006）。1989年に始められた諫早湾干拓事業は、沿岸域の生物多様性の損失および漁業に及ぼす影響が示唆され、重大な社会問題となった。また、このような水域の干拓工事は、八郎潟残存湖をはじめ、多くの湖沼等での水質汚濁を引き起こすなど、問題となっている。現在では、このような反省の上に立ち、日本国内のみならず、世界の様々な地域で干拓事業そのものの見直しや中止が決定され始めている（e.g. National Research Council 1992；Middleton 1999）。

一度干拓されて陸地化した土地では、農地として利用されているほか、住宅地や工業用地などとしても利用されている。したがって、干拓地を湖沼などの水域に再生させ、生態系の構成要素を取り戻すことはほとんど不可能といえる。すでに農地や宅地化した場所は、人工的に作られた土地であるため、その地域での生物多様性や生態系サービスについては、認識されることはほとんどない。しかし、同じように人工的な土地である都市公園が生物の生息・生育域として機能していたり、文化的サービスを得る場として機能している場合があることから、このような干拓によって生じた土地の生態系サービスについても考慮する価値はある（佐藤ほか1995；服部ほか1997；水上・萩原2005）。

一方、旧来より稲作が行われている水田では、近年、水田に生育する植物の保全上の重要性が認識さ

れ、水田は日本列島でも重要な生態系の1つとして知られるようになってきた(角野1994; 冨永2003)。水田は、このような水田雑草の生育場所として機能するだけでなく、昆虫、甲殻類、鳥類、魚類などの生息地としてもきわめて重要であることが明らかにされている。しかし、これらの水田においても、基盤整備、除草剤散布などによって、水田雑草の種多様性は低下している(大窪・前中1995; 山口ほか1998; 中本ほか2002; 下田・中本2003; 大塚ほか2006)。さらに、減反政策や農業従事者の後継者不足等の理由によって特に中山間地域では放棄水田が増加し、クズ *Pueraria lobata* (Willd.) Ohwi などの大型の多年生草本や、セイタカアワダチソウ *Solidago altissima* L. などの外来植物が蔓延し、水田雑草の種多様性を低下させる一因となっている(下田・中本2003; 根本・大塚2004)。そのため、マルバノサワトウガラシ *Deinostema adenocaulum* (Maxim.) Yamazaki、オオアブノメ *Gratiola japonica* Miq. など、数多くの水田雑草が全国や地方版のレッドデータブックに記載され、保全上重要な植物種として選定されている(角野1994)。干拓によって造成された農地が、このような水田生態系としての付加価値があるとすれば、本来の保全上の意義とは異なる意義を見出せる可能性はある。

茨城県潮来市は水郷筑波国定公園の一角に位置し、霞ヶ浦、北浦、外浪逆浦、常陸利根川に面している。現在の市域の一部は、かつて内浪逆浦と呼ばれる水域であり、昭和以降の干拓によって陸地化され、現在では、水田や住宅地となっている。一方、同市域の旧来の陸地のほとんどが谷津で構成され、低湿地は水田(谷津田)などとして利用されてきた。そのため、干拓によって生じた水田と、旧来から水田として利用されてきた谷津田が隣接するかたちで存在している。本研究では、茨城県潮来市の水田を対象に、旧来の水田と干拓によって生じた水田の植生を比較し、干拓後の水田の生態系基盤を保全上の価値を検討することを目的とした。

調査地

茨城県潮来市(北緯 $35^{\circ}56'$ 、東経 $140^{\circ}33'$)は、面積 71.4km^2 、人口約3万人の市である。1年間の平均気温は 14.7°C 、年間降水量は $1,530\text{mm}$ である(茨城県鹿嶋観測地点; 北緯 $35^{\circ}58'$ 、東経 $140^{\circ}37'$; 1992年~2011年の20年間の平均値; 気象庁気象統計情報による)。

潮来市は、霞ヶ浦、北浦、外浪逆浦、常陸利根川などの水域に接している。また、多くの小川が流れ、なだらかな起伏があり、市域の中部および北部の大部分が谷津と微高地で構成され、谷津の上流部まで水田耕作が行われるなど稲作が盛んである。しかし、現在では放棄水田も多く見られるようになっている。また、市の南部には、かつて内浪逆浦よばれる水域が存在していたが、1940年代以降に開始された干拓事業によって陸地化され、現在では水田や住宅地として利用されている。微高地は畑や住宅地として利用されているほか、雑木林として残存している場所を多く含んでいる(村中2011)。調査は、干拓によって生じた水田(以降、干拓地と呼ぶ)、および旧来より稲作が行われている水田(以降、谷津と呼ぶ)の2つを対象とした。

方法

地形図、土地利用図などにに基づき、干拓地では19カ所、谷津では28カ所の調査区をそれぞれ設定した。調査は各々の調査区($60\sim 400\text{m}^2$)の中を踏査し、出現するすべての維管束植物の種名と被度階級を記録する方法で実施した。被度階級はBraun-Blanquetの植物社会学的手法(Braun-Blanquet 1928)により、6段階で記載した。この際、同定不可能な実生は対象外とした。

出現した植物を、佐竹ほか (1981, 1982a, b)、矢野ほか (1983)、林・平野 (1989)、岩槻 (1992)、大井・北川 (1992)、中池 (1993) を参照し、秋一年生、春一年生 (越年生)、多年生のいずれかに区分した。なお、2つ以上の生活史を持つ植物については、現地における予備的観察や資料に基づいて、調査地においてももっとも普通に見られるいずれかの生活史に該当することとした。

上記の文献のほか、清水ほか (2001)、清水 (2003)、村中 (2002) に基づき、外来植物と在来植物を区分した。また、在来植物については、これらの資料に基づき、水田雑草に該当するものとそれ以外を区分した。なお、ここでいう水田雑草とは、本来的に水田に生育する種を指しているものとした。出現した在来植物に対して、環境省 (2007)、茨城県 (1997)、牛久市 (2006) の少なくとも1つに掲載のあるものを、保全上重要な種として選定した。

干拓地および谷津それぞれにおける種の出現頻度を、調査区数に対するその種の出現した調査区数の割合として与えた。また、被度階級は、その階級における最大値と最小値の平均を取り、被度% (各階級の被度%範囲の中央値) に置き換えて分析に用いた。なお、すべての分析において、イネ *Oryza sativa* L. を除外した。

結 果

干拓地および谷津の植物相と種数

28科113種の植物が確認された。このうち、外来種は11種であった。最も種数の多い科はイネ科の23種であり、次いでカヤツリグサ科19種、キク科15種の順であった。これらのうち、外来植物はキシウウスズメノヒエ *Paspalum distichum* Linn.、オランダミミナグサ *Cerastium glomeratum* Thuill. など11種であり、外来植物の種数の全体の種数に対する割合は9.7%であった。また、在来植物102種のうち、水田雑草には61種が該当し、在来植物の種数に占める割合は59.8%であった。保全上重要な種はミズマツバ *Rotala pusilla* Tulasne、ミズワラビ *Ceratopteris thalictroides* (L.) Brongn.、ヒメミソハギ *Ammannia multiflora* Roxb. など8種であった。すべての種のリストおよび科ごとの種数をそれぞれ表1、表2に示した。

干拓地では、24科64種が出現した。このうち、カヤツリグサ科の11種が最も多く、次いでイネ科の10種であった。また、外来植物は5種であり、外来植物の種数の全体の種数に対する割合は7.8%であった。水田雑草には42種が該当し、在来植物の種数に占める割合は65.6%であった。保全上重要な種は、ミズワラビ、ヒメミソハギ、ウリカワ *Sagittaria pygmaea* Miq. の3種であった。

谷津では、27科104種が出現した。このうち、イネ科が最も多く23種であり、次いでカヤツリグサ科の18種、キク科の13種であった。外来植物は8種であり、外来植物の種数の全体の種数に対する割合は7.7%であった。水田雑草には57種が該当し、在来植物の種数に占める割合は54.8%であった。保全上重要な種はミズワラビ、ヒメミソハギ、ミズマツバ、アゼテンツキ *Fimbristylis squarrosa* Vahl、カワラナデシコ *Dianthus superbus* L. var. *longicalycinus* (Maxim.) Williams、ヘラオモダカ *Alisma canaliculatum* A. Br. et Bouch'e、ミヤコグサ *Lotus corniculatus* L. var. *japonicus* Regel の7種が出現した。

干拓地、谷津の両方に出現した種は55種であり、このうち、外来植物はわずかに2種であった。また、在来植物53種のうち、水田雑草に該当するものは38種であり、在来植物の種数に対する割合は71.7%に達していた。

表 1. 出現した維管束植物のリスト

学名	和名
<i>Equisetum arvense</i> L.	スギナ
<i>Ceratopteris thalictroides</i> (L.) Brongn.	ミズワラビ
<i>Ranunculus sceleratus</i> L.	タガラシ
<i>Cerastium glomeratum</i> Thuill.	オランダミミナグサ
<i>Dianthus superbus</i> L. var. <i>longicalycinus</i> (Maxim.) Williams	カワラナデシコ
<i>Sagina japonica</i> (Sw.) Ohwi	ツメクサ
<i>Stellaria alsine</i> Grimm var. <i>undulata</i> (Thunb.) Ohwi	ノミノフスマ
<i>Stellaria neglecta</i> Weihe	ミドリハコベ
<i>Persicaria hydropiper</i> (L.) Spach	ヤナギタデ
<i>Persicaria longiseta</i> (De Bruyn) Kitag.	イヌタデ
<i>Persicaria nipponensis</i> (Makino) H. Gross	ヤノネグサ
<i>Persicaria pubescens</i> (Blume) Hara	ボントクタデ
<i>Persicaria yokusaniana</i> (Makino) Nakai	ハナタデ
<i>Rumex japonicus</i> Houtt.	ギシギシ
<i>Elatine triandra</i> Schk.	ミゾハコベ
<i>Sarothra laxa</i> (Blume) Y. Kimura	コケオトギリ
<i>Cardamine flexuosa</i> With.	タネツケバナ
<i>Rorippa indica</i> (L.) Hiern	イヌガラシ
<i>Rorippa islandica</i> (Oeder) Borbkg	スカシタゴボウ
<i>Duchesnea chrysantha</i> (Zoll. et Mor.) Miq.	ヘビイチゴ
<i>Aeschynomene indica</i> Linn.	クサネム
<i>Glycine max</i> (L.) Merr. subsp. <i>soja</i> (Sieb. et Zucc.) Ohashi	ツルマメ
<i>Lespedeza striata</i> (Thunb.) Hook. et Arn.	ヤハズソウ
<i>Lotus corniculatus</i> L. var. <i>japonicus</i> Regel	ミヤコグサ
<i>Trifolium repens</i> L.	シロツメクサ
<i>Ammannia multiflora</i> Roxb.	ヒメミノハギ
<i>Rotala indica</i> (Willd.) Koehne var. <i>uliginosa</i> (Miq.) Koehne	キカングサ
<i>Rotala pusilla</i> Tulasne	ミズマツバ
<i>Ludwigia epilobioides</i> Maxim.	チョウジタデ
<i>Acalypha australis</i> L.	エノキグサ
<i>Hydrocotyle matirima</i> Honda	ノチドメ
<i>Hydrocotyle sibthorpioides</i> Lam.	チドメグサ
<i>Oenanthe javanica</i> DC.	セリ
<i>Solanum ptycanthum</i> Dunal ex DC.	アメリカイヌホオズキ
<i>Clinopodium gracile</i> (Benth.) O. Kuntze	トウバナ
<i>Clinopodium micranthum</i> (Regel) Hara	イヌトウバナ
<i>Lamium purpureum</i> L.	ヒメオドリコソウ
<i>Mosla punctulata</i> (J. F. Gmel.) Nakai	イヌコウジュ
<i>Limnophila sessiliflora</i> Blume	キクモ
<i>Lindernia angustifolia</i> (Benth.) Wettst.	アゼトウガラシ
<i>Lindernia dubia</i> (L.) Pennell	アメリカアゼナ
<i>Lindernia procumbens</i> (Krock.) Philcox	アゼナ
<i>Mazus pumilus</i> (Burm. fil.) van Steenis	トキワハゼ
<i>Lobelia chinensis</i> Lour.	ミヅカクシ
<i>Hedyotis diffusa</i> Willd.	フタバムグラ
<i>Artemisia princeps</i> Pamp.	ヨモギ
<i>Bidens frondosa</i> L.	アメリカセンダングサ
<i>Bidens tripartita</i> L.	タウコギ
<i>Centipeda minima</i> (L.) A. Br. et Aschers.	トキンソウ
<i>Eclipta thermalis</i> Bunge	タカサブロウ
<i>Erechtites hieracifolia</i> (L.) Raf.	ダンドボロギク
<i>Erigeron philadelphicus</i> L.	ハルジオン
<i>Gnaphalium affine</i> D. Don	ハハコグサ
<i>Ixeris debilis</i> A. Gray	オオジシバリ
<i>Ixeris stolonifera</i> A. Gray	ジシバリ
<i>Kalimeris pseudo-yomena</i> Kitam.	カントウヨメナ
<i>Lactuca indica</i> L.	アキノノゲシ

表1. (つづき)

和名	科名	生活史	水田雑草	絶滅危惧	外来種	出現状況	
						干拓地	谷津
スギナ	トクサ科	多年生				○	○
ミズワラビ	ホウライシダ科	秋一年生	○	○		○	○
タガラシ	キンポウゲ科	秋一年生	○				○
オランダミミナグサ	ナデシコ科	春一年生			○	○	○
カララナデシコ	ナデシコ科	多年生					○
ツメクサ	ナデシコ科	春一年生					○
ノミノフスマ	ナデシコ科	春一年生	○			○	○
ミドリハコベ	ナデシコ科	春一年生	○			○	
ヤナギタデ	タデ科	秋一年生	○			○	○
イスタデ	タデ科	秋一年生				○	○
ヤノネグサ	タデ科	秋一年生					○
ボントクタデ	タデ科	秋一年生	○				○
ハナタデ	タデ科	秋一年生					○
ギシギシ	タデ科	多年生					○
ミゾハコベ	ミゾハコベ科	秋一年生	○			○	○
コケオトギリ	オトギリソウ科	秋一年生	○				○
タネツケバナ	アブラナ科	春一年生	○			○	○
イヌガラシ	アブラナ科	春一年生				○	○
スカシタゴボウ	アブラナ科	春一年生	○			○	
ヘビイチゴ	バラ科	多年生				○	○
クサネム	マメ科	秋一年生	○			○	○
ツルマメ	マメ科	秋一年生					○
ヤハズソウ	マメ科	秋一年生					○
ミヤコグサ	マメ科	多年生					○
シロツメクサ	マメ科	多年生			○	○	
ヒメソハギ	ミソハギ科	秋一年生	○	○		○	○
キカシグサ	ミソハギ科	秋一年生	○			○	○
ミズマツバ	ミソハギ科	秋一年生	○	○			○
チョウジタデ	アカバナ科	秋一年生	○			○	○
エノキグサ	トウダイグサ科	秋一年生				○	○
ノチドメ	セリ科	多年生				○	○
チドメグサ	セリ科	多年生				○	○
セリ	セリ科	春一年生	○			○	○
アメリカイヌホオズキ	ナス科	春一年生			○	○	
トウバナ	シソ科	多年生					○
イヌトウバナ	シソ科	多年生					○
ヒメオドリコソウ	シソ科	春一年生			○	○	
イヌコウジュ	シソ科	秋一年生				○	○
キクモ	ゴマノハグサ科	多年生	○			○	○
アゼトウガラシ	ゴマノハグサ科	秋一年生	○			○	○
アメリカアゼナ	ゴマノハグサ科	秋一年生			○		○
アゼナ	ゴマノハグサ科	秋一年生	○			○	○
トキワハゼ	ゴマノハグサ科	秋一年生				○	○
ミゾカクシ	キキョウ科	多年生	○			○	○
フタバムグラ	アカネ科	秋一年生	○			○	○
ヨモギ	キク科	多年生				○	○
アメリカセンダングサ	キク科	秋一年生			○		○
タウコギ	キク科	秋一年生	○			○	○
トキンソウ	キク科	秋一年生	○			○	○
タカサブロウ	キク科	秋一年生	○			○	○
ダンドボロギク	キク科	秋一年生				○	○
ハルジオン	キク科	多年生			○		○
ハハコグサ	キク科	春一年生	○				○
オオジシバリ	キク科	多年生					○
ジシバリ	キク科	多年生				○	
カントウヨメナ	キク科	多年生					○
アキノノゲシ	キク科	秋一年生					○

表1. (つづき)

学名	和名
<i>Solidago altissima</i> L.	セイトカアワダチソウ
<i>Stenactis annuus</i> (L.) Cass.	ヒメジョオン
<i>Youngia japonica</i> (L.) DC.	オニタビラコ
<i>Alisma canaliculatum</i> A. Br. et Bouch'e	ヘラオモダカ
<i>Sagittaria pygmaea</i> Miq.	ウリカワ
<i>Sagittaria trifolia</i> L.	オモダカ
<i>Lemna perpusilla</i> Torrey	アオウキクサ
<i>Spirodela polyrhiza</i> (L.) Schleid.	ウキクサ
<i>Commelina communis</i> L.	ツユクサ
<i>Murdannia keisak</i> (Hassk.) Hand.-Mazz.	イボクサ
<i>Eriocaulon robustius</i> (Maxim.) Makino	ヒロハイヌノヒゲ
<i>Juncus effusus</i> L. var. <i>decipiens</i> Buchen.	イ
<i>Juncus leschenaultii</i> Gay	コウガイゼキショウ
<i>Arthraxon hispidus</i> (Thunb.) Makino	コブナグサ
<i>Arundinella hirta</i> (Thunb.) C. Tanaka	トダシバ
<i>Digitaria ciliaris</i> (Retz.) Koeler	メヒシバ
<i>Digitaria violascens</i> Link	アキメヒシバ
<i>Echinochloa crus-galli</i> (L.) Beauv. var. <i>crus-galli</i>	イヌビエ
<i>Echinochloa crus-galli</i> (L.) Beauv. var. <i>formosensis</i> Ohwi	ヒメタイヌビエ
<i>Echinochloa phyllopogon</i> Stapf.	タイヌビエ
<i>Eleusine indica</i> (L.) Gaertner	オヒシバ
<i>Eragrostis ferruginea</i> (Thunb.) Beauv.	カゼクサ
<i>Imperata cylindrica</i> (L.) Beauv.	チガヤ
<i>Leersia japonica</i> Makino	アシカキ
<i>Leersia sayanuka</i> Ohwi	サヤヌカグサ
<i>Microstegium vimineum</i> (Trin.) A. Camus	ヒメアシボソ
<i>Panicum bisulcatum</i> Thunb.	ヌカキビ
<i>Paspalum distichum</i> Linn.	キシユウスズメノヒエ
<i>Paspalum thunbergii</i> Kunth	スズメノヒエ
<i>Phragmites communis</i> Trin.	ヨシ
<i>Poa acroleuca</i> Steud.	ミゾイチゴツナギ
<i>Poa annua</i> L.	スズメノカタビラ
<i>Sacciolepis indica</i> (L.) Chase	ヌメリグサ
<i>Sacciolepis indica</i> (Linn.) Chase	ハイヌメリ
<i>Setaria faberi</i> Herrm.	アキノエノコログサ
<i>Setaria glauca</i> (L.) Beauv.	キンエノコロ
<i>Cyperus brevifolius</i> (Rottb.) Hassk. var. <i>leiolepis</i> (Franch. et Savat.) T. Koyama	ヒメクグ
<i>Cyperus difformis</i> L.	タマガヤツリ
<i>Cyperus flaccidus</i> R. Br.	ヒナガヤツリ
<i>Cyperus flavidus</i> Retz.	アゼガヤツリ
<i>Cyperus iria</i> L.	コゴメガヤツリ
<i>Cyperus microiria</i> Steud.	カヤツリグサ
<i>Cyperus rotundus</i> L.	ハマスゲ
<i>Cyperus sanguinolentus</i> Vahl	カワラスガナ
<i>Eleocharis acicularis</i> (L.) Roem. et Schult. var. <i>longiseta</i> Svenson	マツバイ
<i>Eleocharis congesta</i> D. Don	ハリイ
<i>Eleocharis kuroguwai</i> Ohwi	クログワイ
<i>Fimbristylis autumnalis</i> (L.) Roem. et Schult.	ヒメヒラテンツキ
<i>Fimbristylis dichotoma</i> (L.) Vahl	テンツキ
<i>Fimbristylis miliacea</i> (L.) Vahl	ヒデリコ
<i>Fimbristylis squarrosa</i> Vahl	アゼテンツキ
<i>Fimbristylis verata</i> R.Br.	メアゼテンツキ
<i>Pycnus polystachyos</i> (Rottb.) P.Beauv.	イガガヤツリ
<i>Scirpus fluviatilis</i> (Torr.) A. Gray	ウキヤガラ
<i>Scirpus juncooides</i> Roxb.	ホタルイ
<i>Monochoria vaginalis</i> (Burm. f.) Kunth	コナギ

表1. (つづき)

和名	科名	生活史	水田雑草	絶滅危惧	外来種	出現状況	
						干拓地	谷津
セイタカアワダチソウ	キク科	多年生			○		○
ヒメジョオン	キク科	秋一年生			○		○
オニタビラコ	キク科	春一年生				○	
へらオモダカ	オモダカ科	多年生	○	○			○
ウリカワ	オモダカ科	秋一年生	○	○		○	
オモダカ	オモダカ科	秋一年生	○			○	○
アオウキクサ	ウキクサ科	多年生	○			○	○
ウキクサ	ウキクサ科	多年生	○			○	○
ツユクサ	ツユクサ科	秋一年生				○	○
イボクサ	ツユクサ科	秋一年生	○			○	○
ヒロハイヌヒゲ	ホシクサ科	秋一年生	○				○
イ	イグサ科	多年生	○				○
コウガイゼキショウ	イグサ科	多年生	○				○
コブナグサ	イネ科	秋一年生	○			○	○
トダシバ	イネ科	多年生					○
メヒシバ	イネ科	秋一年生				○	○
アキメヒシバ	イネ科	秋一年生				○	○
イヌビエ	イネ科	秋一年生	○			○	○
ヒメタイヌビエ	イネ科	秋一年生	○				○
タイヌビエ	イネ科	秋一年生	○			○	○
オヒシバ	イネ科	秋一年生					○
カゼクサ	イネ科	多年生					○
チガヤ	イネ科	多年生					○
アシカキ	イネ科	多年生	○				○
サヤヌカグサ	イネ科	多年生	○				○
ヒメアシボソ	イネ科	秋一年生					○
ヌカキビ	イネ科	秋一年生	○			○	○
キシユウスズメノヒエ	イネ科	多年生			○	○	○
スズメノヒエ	イネ科	秋一年生					○
ヨシ	イネ科	多年生				○	○
ミゾイチゴツナギ	イネ科	春一年生					○
スズメノカタビラ	イネ科	春一年生	○			○	○
ヌメリグサ	イネ科	秋一年生	○			○	○
ハイヌメリ	イネ科	秋一年生	○				○
アキノエノコログサ	イネ科	秋一年生					○
キンエノコロ	イネ科	秋一年生					○
ヒメクグ	カヤツリグサ科	秋一年生				○	○
タマガヤツリ	カヤツリグサ科	秋一年生	○			○	○
ヒナガヤツリ	カヤツリグサ科	秋一年生	○			○	○
アゼガヤツリ	カヤツリグサ科	秋一年生	○				○
コゴメガヤツリ	カヤツリグサ科	秋一年生	○				○
カヤツリグサ	カヤツリグサ科	秋一年生				○	○
ハマスゲ	カヤツリグサ科	多年生					○
カワラスガナ	カヤツリグサ科	秋一年生	○			○	○
マツバイ	カヤツリグサ科	多年生	○			○	○
ハリイ	カヤツリグサ科	秋一年生	○			○	○
クログワイ	カヤツリグサ科	多年生	○			○	
ヒメヒラテンツキ	カヤツリグサ科	秋一年生	○				○
テンツキ	カヤツリグサ科	秋一年生	○			○	○
ヒデリコ	カヤツリグサ科	秋一年生	○			○	○
アゼテンツキ	カヤツリグサ科	秋一年生	○	○			○
メアゼテンツキ	カヤツリグサ科	秋一年生	○				○
イガガヤツリ	カヤツリグサ科	秋一年生	○				○
ウキヤガラ	カヤツリグサ科	多年生					○
ホタルイ	カヤツリグサ科	秋一年生	○			○	○
コナギ	ミズアオイ科	秋一年生	○			○	○

表2. 分類群 (科) ごとの種数

すべての種および、水田雑草、保全上重要な種 (絶滅危惧)、外来種に区分した場合の種数をあわせて示している。

科	全種			水田雑草			絶滅危惧			外来種		
	全体	干拓	谷津	全体	干拓	谷津	全体	干拓	谷津	全体	干拓	谷津
イネ科	23	10	23	10	6	10	0	0	0	1	1	1
カヤツリグサ科	19	11	18	16	10	15	1	0	1	0	0	0
キク科	15	6	13	4	3	4	0	0	0	5	0	5
タデ科	6	2	6	2	1	2	0	0	0	0	0	0
ゴマノハグサ科	5	4	5	3	3	3	0	0	0	1	0	1
ナデシコ科	5	3	4	2	2	1	1	0	1	1	1	1
マメ科	5	2	4	1	1	1	1	0	1	1	1	0
シソ科	4	2	3	0	0	0	0	0	0	1	1	0
アブラナ科	3	3	2	2	2	1	0	0	0	0	0	0
オモダカ科	3	2	2	3	2	2	2	1	1	0	0	0
セリ科	3	3	3	1	1	1	0	0	0	0	0	0
ミソハギ科	3	2	3	3	2	3	2	1	2	0	0	0
イグサ科	2	0	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0
ウキクサ科	2	2	2	2	2	2	0	0	0	0	0	0
ツユクサ科	2	2	2	1	1	1	0	0	0	0	0	0
アカネ科	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0
アカバナ科	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0
オトギリソウ科	1	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0
キキョウ科	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0
キンポウゲ科	1	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0
トウダイグサ科	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
トクサ科	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ナス科	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0
バラ科	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ホウライシダ科	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0
ホシクサ科	1	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0
ミズアオイ科	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0
ミヅハコベ科	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0
総計	113	64	104	61	42	57	8	3	7	11	5	8

生活史

秋一年生は65種 (全体の種数に対する割合 ; 73.5%)、春一年生は14種 (15.8%)、多年生は34種 (38.4%) であった。なお、木本は出現しなかったため、多年生植物はすべて多年生草本であった。干拓地では、秋一年生が38種 (59.4%)、春一年生が11種 (17.2%)、多年生が15種 (23.4%)、谷津では、秋一年生が38種 (61.5%)、春一年生が9種 (8.7%)、多年生が31種 (29.8%) であり、種数に対する有意差はなかった ($p > 0.05$; 二乗検定)。また、生活史ごとの種数を表3に示した。

干拓地、谷津の両方に出現した種のうち、秋一年生は37種 (67.3%)、春一年生は6種 (10.9%)、多年生は12種 (21.8%) であった。干拓地にのみ出現した9種のうち、3種が外来植物であった。一方、谷津にのみ出現した49種のうち、ヒロハイヌノヒゲ *Eriocaulon robustius* (Maxim.) Makino、サヤヌカグサ *Leersia sayanuka* Ohwi、タガラシ *Ranunculus sceleratus* L.など19種 (38.8%) は水田雑草であり、外来植物はアメリカアゼナ *Lindernia dubia* (L.) Pennell など6種であった。

表3. 3つの生活史における種数

種数の合計および、水田雑草、外来種の種数を内数としてあわせて示す。

生活史	全体			干拓地			谷津		
	合計	水田雑草	外来種	合計	水田雑草	外来種	合計	水田雑草	外来種
秋一年生	65	43	4	38	30	0	64	42	4
春一年生	14	7	3	11	6	3	9	5	1
多年生	34	11	4	15	6	2	31	10	3
総計	113	61	11	64	42	5	104	57	8

干拓地と谷津における種の被度%の比較

出現したすべての種とその被度%を表4に示した。また、干拓地および谷津それぞれにおける被度%の上位30種を被度%の高い順に並べ、それぞれの種の被度%との関係を表す順位 被度曲線を図1に示した。

干拓地において最も被度%が高かったのはヤナギタデであり、これは谷津においても同じであった。また、干拓地、谷津においてともに高い順位に位置していたのは、タネツケバナ *Cardamine flexuosa* With.、ミズワラビ、チョウジタデ *Ludwigia epilobioides* Maxim.、キクモ *Limnophila sessiliflora* Blume、タマガヤツリ *Cyperus difformis* L.、コナギ *Monochoria vaginalis* (Burm. f.) Kunthであった。しかし、干拓地において被度が2番目に高いトキンソウ *Centipeda minima* (L.) A. Br. et Aschers.は、谷津では13位あり、谷津で被度%が5番目に高いアゼトウガラシ *Lindernia angustifolia* (Benth.) Wettst.は干拓地では16位であった(図1)。

干拓地および谷津ともに、順位 被度曲線はおおよそL字型を示していたが、干拓地では少数の種が際だって高い被度%を示す傾向があったのに対し、谷津では突出した被度%を持つ種は存在せず、比較的多くの種が高い被度%を示す傾向が認められた。干拓地ではヤナギタデ *Persicaria hydropiper* (L.) Spachが他の種の被度%よりも際だって高く、2位のトキンソウの1.57倍であった。また、被度が4%以上の種は、ヤナギタデ、トキンソウの2種であった。一方、谷津では、ヤナギタデとタネツケバナの被度%の差は比較的小さく、ヤナギタデの被度%はタネツケバナの被度%の1.32倍であった。また、被度が4%以上の種は、この2種のほか、キクモ、チョウジタデ、アゼトウガラシの合計5種であった(図1)。

干拓地と谷津の両方に出現した種を対象に、干拓地と谷津の間で種の被度%の平均値を比較したところ、チョウジタデ、アゼトウガラシ、タウコギ *Bidens tripartita* L.、タイヌビエ *Echinochloa phyllopogon* Stapf.、イヌタデ *Persicaria longiseta* (De Bruyn) Kitag.には有意差が確認され ($p < 0.05$; t検定)、いずれも谷津で高い被度%を示していた。なお、統計処理には、被度%の100分の1を逆正弦変換した値を用いた。また、干拓地、谷津どちらか一方の種の被度が0.5%以上で、他方における種の被度%の2倍以上であったのは、トキンソウ、ハリイ *Eleocharis congesta* D. Don、アゼトウガラシ、タウコギ、タイヌビエ、イヌタデの6種であったが、干拓地で被度%が高かったのはトキンソウのみであった。谷津でのみ出現し、干拓地では出現しなかった種のうち、谷津での被度が0.5%以上であったのは、ヒロハイヌノヒゲ、サヤヌカグサ、オオジシバリ *Ixeris debilis* A. Gray、ヒメタイヌビエ *Echinochloa crus-galli* (L.) Beauv. var. *formosensis* Ohwi、ミゾイチゴツナギ *Poa acroleuca*

表4. 干拓地および谷津の水田における主要な植物種の被度%

和名	干拓地 (n=19)	谷津 (n=28)	p
干拓地・谷津の両方で被度が1.0%以上の種(有意差無し)			
ヤナギタデ	9.05 ± 19.48	7.81 ± 5.98	NS
タネツケバナ	3.95 ± 2.52	5.92 ± 6.09	NS
キクモ	3.45 ± 5.60	5.47 ± 8.45	NS
ミズワラビ	3.51 ± 3.39	3.68 ± 4.89	NS
タマガヤツリ	2.96 ± 1.94	3.68 ± 3.90	NS
コナギ	2.96 ± 3.21	3.57 ± 3.03	NS
トキンソウ	5.76 ± 13.91	2.12 ± 2.56	NS
メヒシバ	1.81 ± 3.00	3.57 ± 11.75	NS
キカシグサ	2.14 ± 2.34	3.01 ± 3.94	NS
オモダカ	2.14 ± 2.34	2.01 ± 2.58	NS
タカサブロウ	1.64 ± 1.60	2.01 ± 2.17	NS
アゼナ	2.14 ± 2.34	1.45 ± 1.59	NS
キシウスズメノヒエ	1.97 ± 2.98	1.23 ± 2.60	NS
セリ	1.32 ± 2.40	1.34 ± 2.16	NS
ミゾハコベ	1.64 ± 1.60	1.00 ± 2.09	NS
ツユクサ	0.82 ± 1.41	1.00 ± 2.09	NS
ホタルイ	0.66 ± 1.31	1.00 ± 1.49	NS
ノミノフスマ	0.88 ± 1.40	0.56 ± 1.22	NS
カヤツリグサ	0.66 ± 1.31	0.67 ± 1.31	NS
マツバイ	0.66 ± 1.31	0.56 ± 1.91	NS
谷津での被度が有意に高い種			
チョウジタデ	2.63 ± 1.17	4.35 ± 3.74	*
アゼトウガラシ	1.48 ± 1.60	4.02 ± 4.24	**
タウコギ	0.82 ± 1.41	2.23 ± 2.93	*
タイヌビエ	0.33 ± 0.99	2.12 ± 3.30	**
イヌタデ	0.33 ± 0.99	1.12 ± 2.12	*
サヤヌカグサ	0.00 ± 0.00	1.45 ± 4.21	*
ヒメタイヌビエ	0.00 ± 0.00	0.78 ± 2.02	*
ミゾイチゴツナギ	0.00 ± 0.00	0.78 ± 2.02	*
タガラシ	0.00 ± 0.00	0.45 ± 1.11	*
アメリカセンダングサ	0.00 ± 0.00	0.33 ± 0.98	*
ハルジオン	0.00 ± 0.00	0.33 ± 0.98	*
谷津でのみ出現した種(谷津での被度が0.5%以上)			
オオジシバリ	0.00 ± 0.00	2.34 ± 11.80	NS
ヒロハイヌヒゲ	0.00 ± 0.00	1.12 ± 3.63	NS
カントウヨメナ	0.00 ± 0.00	0.89 ± 3.59	NS
メアゼテンツキ	0.00 ± 0.00	0.89 ± 3.59	NS
イ	0.00 ± 0.00	0.56 ± 1.91	NS
ハイヌメリ	0.00 ± 0.00	0.56 ± 1.91	NS
ハハコグサ	0.00 ± 0.00	0.56 ± 1.91	NS

表4. (つづき)

和名	干拓地 (n=19)	谷津 (n=28)	p
その他の種			
ハリイ	0.49 ± 1.17	1.12 ± 3.63	NS
ヒナガヤツリ	0.33 ± 0.99	0.89 ± 2.06	NS
イボクサ	0.33 ± 0.99	0.67 ± 1.31	NS
クサネム	0.33 ± 0.99	0.67 ± 2.46	NS
ヒメクグ	0.33 ± 0.99	0.56 ± 1.22	NS
イヌビエ	0.33 ± 0.99	0.45 ± 1.11	NS
コブナグサ	0.16 ± 0.72	0.67 ± 3.54	NS
ヨシ	0.16 ± 0.72	0.56 ± 1.91	NS
チドメグサ	0.16 ± 0.72	0.56 ± 1.22	NS
ヌメリグサ	0.82 ± 2.29	0.33 ± 0.98	NS
カワラスガナ	0.82 ± 1.41	0.33 ± 0.98	NS
テンツキ	0.71 ± 1.30	0.33 ± 1.77	NS
ミゾカクシ	0.66 ± 1.31	0.45 ± 1.11	NS
アキメヒシバ	0.49 ± 2.15	0.11 ± 0.59	NS
イヌガラシ	0.49 ± 1.17	0.11 ± 0.59	NS
スギナ	0.16 ± 0.72	0.45 ± 1.11	NS
ヒデリコ	0.16 ± 0.72	0.45 ± 1.11	NS
スズメノカタビラ	0.16 ± 0.72	0.45 ± 1.85	NS
オランダミミナグサ	0.05 ± 0.23	0.33 ± 0.98	NS
セイタカアワダチソウ	0.00 ± 0.00	0.45 ± 1.85	NS
ミズマツバ	0.00 ± 0.00	0.33 ± 1.77	NS
エノキグサ	0.16 ± 0.72	0.22 ± 0.82	NS
イヌコウジュ	0.16 ± 0.72	0.22 ± 0.82	NS
トキワハゼ	0.16 ± 0.72	0.22 ± 0.82	NS
アオウキクサ	0.16 ± 0.72	0.22 ± 0.82	NS
チガヤ	0.00 ± 0.00	0.22 ± 0.82	NS
ヤハズソウ	0.00 ± 0.00	0.22 ± 0.82	NS
ボントクタデ	0.00 ± 0.00	0.22 ± 0.82	NS
コゴメガヤツリ	0.00 ± 0.00	0.22 ± 0.82	NS
スズメノヒエ	0.00 ± 0.00	0.22 ± 0.82	NS
イガガヤツリ	0.00 ± 0.00	0.22 ± 0.82	NS
ツメクサ	0.00 ± 0.00	0.22 ± 0.82	NS
(以下省略)			

** ; $p < 0.01$, * ; $p < 0.05$, NS ; $p > 0.05$ (t -test)

Stead., カントウヨメナ *Kalimeris pseudo-yomena* Kitam., メアゼテンツキ *Fimbristylis verata* R. Br., イ *Juncus effusus* L. var. *decipiens* Buchen., ハイヌメリ *Sacciolepis indica* (L.) Chase, ハハコグサ *Gnaphalium affine* D. Don の10種であったが、干拓地でのみ出現した種の被度はいずれも0.2%未満であった。

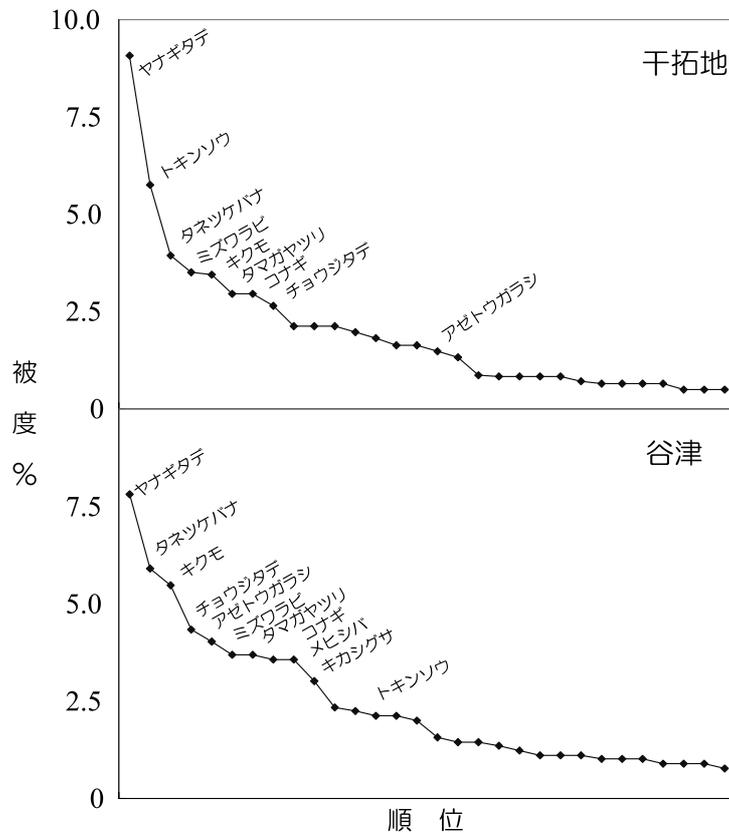


図 1 . 干拓地および谷津における、出現した植物の被度%順位 (上位30種) とそれぞれの被度%との関係

考 察

38種の水田雑草が干拓地および谷津の水田にともに出現していた。また、干拓地ではミズウラビ、ヒメミソハギなどの保全上重要な種も出現していた。しかし、干拓地と谷津では出現した種数に際立った違いが確認され、谷津にのみ出現した植物は49種に達するなど、谷津で種数が多かった。これには、調査区数や調査面積の違い、水田の管理手法の違いが影響を及ぼした可能性がある。あるいは、谷津水田の植生の構成要素が必ずしも干拓地に定着しているとは限らないことを示唆している。なお、谷津のみに出現した種の中には、ヒロハイヌノヒゲ、タガラシ、メアゼテンツキなど、一般的に水田や低湿地に出現する植物が19種含まれていた。

一方、カントウヨメナなどの、水田よりはむしろ草原、土手、雑木林に見られる多年生植物も出現していた。これらは、調査区となった水田の周辺から偶発的に種子や根茎などが供給され、水田内に一時的に定着して出現したものと推測することができる。谷津の水田では、水田の周辺に雑木林などの多様な立地が入り組んで存在しており、これらの種子供給源が豊富に存在している。そのため、たとえ侵入した植物にとっての生育環境が望ましいものでなかったとしても、一時的な定着を可能にする程度に侵入機会が多いことを反映しているものと推測される。しかし、干拓地では、周囲が平坦な乾田であり、また住宅地などとして利用されているため、本来の植物の種多様性は高くはないであろう。実際、このよ

うな植物の侵入・定着があまり認められないのは、これらの植物の種子供給源が周辺地域にほとんど存在していないことを裏付けているものと推測される。たとえば、5種の保全上重要な植物は、谷津のみで出現した。このうち、ミズマツバ、アゼテンツキなどは水田や水田畦畔に出現する種であるが、カラナデシコ、ミヤコグサはそのような水田雑草ではない。これらの種もやはり周辺の地域から偶然もたらされたものであろう。なお、これらの種の水田での出現は、その周辺環境、すなわち雑木林や路傍などにこれらの保全上重要な種が豊富に分布していることを示唆している。

明治維新以降の近代的土木技術の導入によって、本来の土地利用とは異なる土地利用形態が生まれ出された。そのため、都市域ではしばしば都市公園などのきわめて人工的な「緑」であっても、重要な自然であり、そこからの文化的サービスを得るといった機能を持つ。このような地域では、本来そこにあるべき自然の姿はもはやない。したがって、元来の自然生態系に復元することは、社会的な背景を考慮すると非常に困難であると言わざるを得ない。そのため、人工的に作られたこのような代償的な都市公園や住宅地域の緑などの自然性の評価が試みられている（佐藤ほか1995；阿波根・中山2005；宇津木ほか2005）。これらは自然破壊を行い、その結果人工的に造成される「緑」を正当化するものではない。しかし、すでに失われたものを多額の労力と費用を費して回復を試みるよりも、現在おかれている代償植生の生態系の健全性を少しでも維持し、そこから生態系サービスを得られるように管理しようとする試みは、都市化が進行した地域においてはさらに重要になってくるであろう。本研究における地域も、すでに干拓が始まってからすでに50年以上を経過していること、住宅としての利用も行われていることから、湖沼に回復させることはほとんど不可能である。水田以外の土地利用形態に対する評価を行うことはできなかったが、水田を対象とした植物相では、いくつかの水田雑草の出現は確認され、水田の植生の維持という役割は担うことができるものの、谷津の植物相に比べるとその種多様性は乏しく、保全上の価値は谷津にはやはり及ばないものと推測される。

なお、この地域の水田に出現した植物のうち、外来植物の割合は低い傾向にある。一方、谷津における植物の種数や種多様性も、全般的に乏しい。たとえば、同様に市域のほぼ全域が谷津となっている茨城県牛久市では、市内の中心を流れる小野川周辺の水田に、ミズマツバ、マルバノサウトウガラシ、ホシクサ *Eriocaulon cinereum* R.Br.、ヒロハイヌノヒゲなどの水田雑草が広範に確認されている（村中ほか2005；村中・大谷2009；村中未発表）など、水田雑草をはじめとする保全上重要な種の出現の有無や程度には違いがある。このような水田雑草の乏しさをもたらしている理由を探ることは本研究からは十分にはできないが、単なる地域差による種子供給源の質・量の違いや、水田の乾田化、除草剤の散布等の人為的要因の程度とその歴史の違いが関係しているのかもしれない。

本研究では、茨城県潮来市という1つの地域を対象として、人工的に造成された立地における環境を、水田雑草の視点からのみ検討した。住宅地や公園などの「緑」なども含め総合的に評価することで、近代的土木技術によって造成された立地の自然性評価が可能になるものである。また、水田雑草についても地域における種組成の違いや乾田化などの他の影響についても十分には明らかではない。それらについては、より多様な地域の水田のデータを収集するとともに、水田以外の様々な土地利用形態の価値を総合的に評価するなど、今後のさらなる研究を待たなければならない。

引用文献

阿波根あずさ・中山徹（2005）と市公園における自然環境再生手法の一考察～自然再生緑地整備事業を対象として～7.都市計画参加と組織. 平成16年度日本建築学会近畿支部研究報告集537-540

- Braun-Blanquet J (1928) Pflanzensoziologie; Grundzüge der vegetationskunde. Julius Springer, Berlin. (鈴木時夫訳 (1971) ブラウン プランケ植物社会学 . . 朝倉書店, 東京. を参照)
- 服部保・矢倉資喜・浅見佳世・武田義明・石田弘明 (1997) 三田市フラワータウンにおける蝶類群集からみた植生の自然性評価. 植生学会誌14: 47-60
- 林弥栄・平野隆久 (1989) 野に咲く花. 山と溪谷社, 東京
- 茨城県 (1997) 茨城における絶滅のおそれのある野生生物<植物編>. 茨城県生活環境部環境政策課
- 岩槻邦男 (1992) 日本の野生植物 シダ. 平凡社, 東京
- 角野康郎 (1994) 日本水草図鑑. 文一総合出版, 東京
- 環境省 (2007) レッドリスト (植物) 維管束植物. 環境省自然環境局野生生物課
- Middleton B (1999) Wetland Restoration: Flood Pulsing and Disturbance Dynamics. John Wiley & Sons, Inc., New York
- 水上象吾・萩原清子 (2005) 都市住宅地域の緑において好感される「自然らしさ」と手入れの関係に関する考察. ランドスケープ研究68: 875-878
- 村中孝司 (2002) 外来種リスト (維管束植物) (日本生態学会編, 外来種ハンドブック. 地人書館, 東京) pp320-353
- 村中孝司 (2011) 茨城県潮来市に残された二次林の現状と保全上の課題. 教養・文化論集 (ノースアジア大学総合研究センター 教養・文化研究所紀要) 6 (1): 99-114
- 村中孝司・榎本友好・平田晶子・大谷雅人・小幡和男・渡辺泰 (2005) 茨城県県南地域の水田・休耕田に自生する絶滅危惧植物 マルバノサワトウガラシ *Deinostema adenocaulum* (ゴマノハグサ科). 植物地理・分類研究53: 217-218
- 村中孝司・大谷雅人 (2009) 地方版レッドデータブック作成における絶滅危惧植物の選定方法と必要な情報: 牛久市レッドデータブックの試み. 保全生態学研究14: 131-135
- 中池敏之 (1992) 新日本植物誌 シダ篇 改訂増補版. 至文堂, 東京
- 中本学・関岡裕明・下田路子・森本幸裕 (2002) 復田を組み入れた休耕田の植生管理. ランドスケープ研究65: 585-590
- National Research Council (1992) Restoration of Aquatic Ecosystems: Science, Technology, and Public Policy. National Academy Press, Washington, D.C.
- 根本正之・大塚広夫 (2004) 管理条件の違いが谷戸地形における水田周辺の雑草群落到に及ぼす影響. 雑草研究49: 184-192
- 大井次三郎・北川政夫 (改訂) (1992) 新日本植物誌 顕花篇 改訂版. 至文堂, 東京
- 大窪久美子・前中久行 (1995) 基盤整備が畦畔草地群落到に及ぼす影響と農業生態系での畦畔草地の位置づけ. ランドスケープ研究58: 109-112
- 大塚広夫・根本正之・榎田信彌 (2006) 管理手法の異なる谷津の水田と畦畔の植生. 雑草研究51: 229-238
- 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫 (1981) 日本の野生植物 草本編 . 平凡社, 東京
- 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫 (1982a) 日本の野生植物 草本編 . 平凡社, 東京
- 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫 (1982b) 日本の野生植物 草本編 . 平凡社, 東京
- 佐藤治夫・小柴千賀・山野智子 (1995) 群落構造からみた都市公園の自然性評価の試み. ランドスケープ研究58: 149-152
- 清水矩宏・森田弘彦・廣田伸七 (2001) 日本帰化植物写真図鑑. 全国農村教育協会, 東京
- 清水建美 (2003) 日本の帰化植物. 平凡社, 東京
- 下田路子・中本学 (2003) 中池見 (福井県) における耕作放棄湿田の植生と絶滅危惧植物の動態. 日本生態学会誌53: 197-217
- 富永達 (2003) 絶滅に瀕する耕地雑草の現状. 京都府立大学学術報告「人間環境学・農学」(55): 101-105
- 牛久市 (2006) 牛久における絶滅のおそれのある野生生物<植物編>. 牛久市建設部緑化推進課
- 宇津木栄津子・西川嘉輝・田中利彦・小林達彦・川上智稔・井本郁子 (2005) 都市公園における自然環境の類型化 鳥類・昆虫類を指標とした環境区分 . 造園技術報告集3: 14-17
- 山口裕文・梅本信也・前中久行 (1998) 伝統的水田と基盤整備水田における畦畔植生. 雑草研究43: 249-257
- 山野明男 (2006) 日本の干拓地. 農林統計協会, 東京
- 矢野悟道・波田善夫・竹中則夫・大川徹 (1983) 日本の植生図鑑< > 人里・草原. 保育社, 大阪

大学における法学教育から法教育への示唆

中 里 真

はじめに

法教育とは、法教育研究会の報告書（以下本稿においては、「報告書」として引用する。）によれば、「法律専門家ではない一般の人々が、法や司法制度、これらの基礎になっている価値を理解し、法的なものの考え方を身に付けるための教育を特に意味するもの」であると定義される¹⁾。ここでは、単に知識を得させるのではなく、一般の人々に現代社会における法的価値なるものを理解させ、その根源を人々に注目させる意図があるものとする。他方、大学における法学教育、特に法学部教育とは、より専門的で実践的な教育をすること、体系的な法知識を備えた人材を育成することといったいわば結果面を重視した教育であると捉えられているように思う。以上のように捉えると、一見大学での法学教育と法教育とは異なるようだが、これら二つは次の特徴においては関連性を見ることができる。第一に、大学に進学する学生も高校までは専門的な教育を受けているわけではないという点であり、第二に、大学全入時代の今、大学に入学する人材はかつてのそれとは異なる次元で多種多様であるという点である。最初の点については、大学での法学教育、特に法学部の初年次教育では、法的なものの考え方とは何かを意識させるような講義や、それらをスムーズに身に付けられるようにすることを意識して講義されていることに注意すべきである。たとえば我妻榮先生は、1971年初版の『民法案内1 私法の道しるべ』のはしがきにて、「よかれ、あしかれ、諸先生は講義の初めに一番むずかしいことをいう。諸君は、これを聞かねばならない運命におかれている。」と述べ、法学部生も初年次教育では苦勞することを正面から認めている。そのうえで、「そうである以上、せめて、それはなんの役に立つことなのか、実際問題としてどんな場合に争いとなるのか、難しいのは何のためなのか、というようなことを理解していたら、少なくとも、諸君の苦しみを軽減するであろう。うまくゆけば、そこから何ものかをつかみとることができるかもしれない。」と、同書の役割が法学部生向けに法的なものの考え方を身につけさせることである点を示し、本文において、第1章の一番はじめに「法律を学ぶには、暗記しないで理解しなければならない」とのタイトルを掲げるなど理解を助けるための工夫が凝らされていることがうかがえる。後者の学生の多様性については、大学教育の変質にかかわるものである。かつて、新制大学移管の時期に大学が駅弁大学などと揶揄され、その後もタラバガニ大学と揶揄される時期があるなど、これまでも大学の変質は指摘されていたが、ここで筆者が述べる変質はそのような類の変質を指すのではない。近年一部大学では、報道にもあるようにリメディアル教育と称される取り組みが盛んに行われている。これは、学生の理解を得るために、これまでのような教育方法とは相当違った視点、すなわち学生が自ら学ぶことを待つばかりでなく、積極的にやさしい解説を含む講義をなすことが大学に求められることを示して

1) 法教育研究会報告書『我が国における法教育の普及・発展を目指して 新たな時代の自由かつ公正な社会の担い手ははぐくむために』2頁参照(2008年)。

いる。また、FDの一環で行われる学生授業アンケートの影響もあり、学生の興味・関心を引くための授業の工夫は（上級学年で行われる専門科目講義においても）相当行われているものと推察される。そのような大学教育の現場において行われる工夫は常に法教育の側面を持ち、初等教育・中等教育における「法教育」へも示唆を与えることに疑いはない。そこで、本稿では、以上の二点を中心に法教育に必要と思われる具体的教育について示したい。

1 法教育の目指すもの

我が国においては、法に関する教育は、今までも大いに行われている²⁾。例えば、さまざまな新書をはじめ、専門家ではない一般の読者を対象にした法律書は、古くから存在するし、現在も数多く刊行されている³⁾。また、法律関連書籍という意味では、元裁判官による著書、元検事によるエッセイ本などもある⁴⁾。町の書店などに赴くと、法律専門書籍は置いておらずとも、六法自体は辞書コーナーなどに置かれている例は良く見かける。これらは、比較的市民が簡単に法律関連書籍を手にとることができる環境がすでに備わっている状況だと評価できる。六法はともかく、法律関連書籍に共通する目的を敢えて挙げるとすれば、堅苦しいイメージのある法というものへの垣根を低くしようとしている点だといえ、書籍の題名などからもそういった意識がうかがえる。もちろん、今回の法教育が目指すものが、その目的を違えているとは考えられない。なぜなら、法教育を普及させるためには、より多くの人々にその役割を認識させることが重要であり、法が一面では社会規範としての役割を担っているという価値観も存在しているからである。

この点、現在の法学に対する印象は決して市民にとってなじみやすいといった類のものではない。おそらく、一般的に法学は何を取り扱っているのか・勉強すると何をするのかということが分かりづらいということも指摘されるだろう。このような法の置かれている特殊な状況をスポーツとの対比で説明する文献がある⁵⁾。同書は、スポーツには、それぞれ競技人口の違いがあるが、アマチュアも含めた競技人口が多くなれば、競技に対する理解が深まり、観衆は増えるだろうし、競技レベルも上がることになるとする。つまり、意識を持った競技人口を増やすことが、そのスポーツ競技の発展につながるともいえると指摘する。この観点で法学を考えてみると、法についてのプロといえば、裁判官・検察官・弁護士であろうが、それ以外に普段から契約を行ったり交通規則を守った生活をしていたりする一般の市民らは、それぞれの行動において法に深く関心を持っている状態が一般であるとまではいえない。いわば、自らが法についての競技者や観衆であるとの意識を持ってはいないと指摘するのである⁶⁾。結局、現状のままでは法学の普及は難しいということにもなる。法（教育）の社会全体への普及のためには、やはり、自分がそこに関わっていることを意識することが求められるのであり、そのように意識する人が増えるということがひいては法の発展につながるのだろう。

そのため、法教育では、市民に法的価値観や考え方を身に付けさせるためにこれまでとは異なるアプ

2) 大村敦志『法と教育 序説』11頁以下（商事法務、2010年）には、戦前から法学者が一般の人々に対する教育を重視し、行っていた様子が示されている。

3) 枚挙にいとまがないが、手元にある資料で述べれば、穂積重遠『法學通論』（日本評論社、1941年）から、星野英一『民法のすすめ』（岩波新書、1998年）、二宮周平『家族と法 個人化と多様化の中で』（岩波新書、2007年）など様々刊行されている。

4) これも手元にある資料のみの提示ではあるが、例えば、前者であれば森炎『裁く技術 無罪判決から死刑まで』（小学館新書、2009年）や、後者であれば、やや古いが山川一陽『法律家の散歩道』（法学書院、1986年）等が挙げられる。

5) 大村敦志『ルールはなぜあるのだろう スポーツから法を考える』（岩波ジュニア新書、2008年）。

6) 前掲注5・大村162頁参照。

ローチを思い描いているのではないだろうか。そのアプローチとは、正しい法律の知識を与えることよりも、個々人が意識的に法を知覚するように動機づけを与えることにこそ主眼があるのではないか。もしそうであれば教育をする側も受ける側もそれを知っていれば役に立つ（例えば生活上得をする、子供が生き生きとする）という場面が多ければ多いほど効果が上がるだろうし、教えたい・学びたいという気を起させよう。いずれにせよ、題材を取り扱う教育者は、具体的に何に着目をしなくてはいけないのかを明確に意識する必要が出てくる。

2 法教育の難解さ

普段から行う契約や守っている交通ルールが法との関わりのひとつだといえることから、実は人々が法に触れる機会は非常に多いし、普段から法を意識しうる機会も実は多い。たとえば、新聞の社会面における記事に関しては、犯罪を報じる記事などで、刑法等についての記述がない日はないと言っても過言ではないし、学校教育の面でも、高校教育では「現代社会」が「労働法」や「憲法」などについて取り上げており、子どものうちから「法律」に数多く接している⁷⁾。もっとも、普段これらの法的なるものを目にする場合、それぞれが日常生活とはやや離れたところで起きている出来事に感じさせるようなものであったり、高度な社会問題を解決するための政策を知るための知識と接したりするため、接する問題そのものが難解さの印象を伴っていることが多い。そのために法に対する難解さを感じさせているということもある。法学部生に対する講義の際にもそのような障壁を実際に感じさせる場面があると指摘するものもある。その場面とは法学部における民法の講義で担保物権を教える場面だという。というのも、担保物権というのは、すべてお金が絡む話だからであり、学習者が人間とその社会について深い理解を持つところまで成長してくれなければならないことが初学者にとって難解さを感じさせる原因なのだ⁸⁾。

また、法学教育という点でもう一つ注意しなければならないのは、法律用語の難解さである。そもそも、日本の法律用語は、その成立経緯において明治時代に外国法を輸入し、翻訳して用語を新設したという事情があるため、江戸時代以前には全く使用されていなかった用語が今も少なからず使用されている。他方我が国の近代法の輸入元であるフランスやドイツでは、例外もあるものの、法律用語はほぼ誰でも知っている日常用語が使用されているため、教育する際にも非常に垣根が低いという事情がある⁹⁾。このような違いは、そもそも法は一般市民が使う物ではなく専門家が使用するものとして存在すればよいという立法者側の意識も背景にあることもあり¹⁰⁾、日本では一般の人々にも「法」は専門家のための専門用語であればよいという意識が自然と定着しているように感じる。そうすると、教育者・受講者ともに専門家でないような現場においては前述のようにせきかく教育の場面で、「法」について触れる機会の多かったとしても、教える側もどこかとっつきにくい印象をもっているため、さほど思考をめぐらさずとも済む知識を得させることに向かいがちとなると思われる¹¹⁾。実際に教科書の記述は、法律の名

7) 同旨、渡邊弘「法を学ぶ者のための法教育入門」法セミ662号14頁（2010年）。

8) 池田真朗「法律学習の心得」法セミ640号14頁（2008）。

9) この点についてわかりやすく説明されている資料として、古田裕清『翻訳語としての日本の法律用語』（中央大学出版部、2004年）がある。

10) 内田貴『債権法の新時代』8頁以下（商事法務、2010年）。

11) 前掲注2・大村3頁は、「学校の先生がたが、法的知識の方に向かいがちなのに対して、法律家（弁護士界など。司法書士会も同様か）は考え方を重視する傾向にある」と指摘する。

称やいつ制定されたかという暗記項目に終始している感があるし、仮に個々の教員が独自に工夫して法の背景を伝えようとしていたとしても、「これまでの法に関する教育においては、……法が総体としてどのような価値や原理によって基礎づけられ体系だったものとして構成されているのか（あるいはそうっていないのか）というが弱かった」¹²⁾と指摘されるような状況を生み出してしまふ。そうすると、学習者にとっても、良く分からないけれども覚えるべきものであるとか、自分の生活感覚からは離れたところに存在する異質なものという印象を受ける結果を作るのではないだろうか。

3 教育者にとっての障壁

既述の通り、法教育の趣旨は、日々の生活と法とが密接に関わっていることをそれぞれの人が意識できるようにすることだと考える。しかし、法を疎遠に感じさせる理由は、前節で述べたような用語の難解さや生活感の欠如であるため、法学教育を特に受けたわけではない教員にとっても疎遠に感じている状況は同様であろう。よって、法教育では学習者のみならず、教える側もその大切さを実感できる仕組みづくりが必要であると考えられる。

これらの方策を講じるに際しては、報告書においても諸外国での法教育についての取り組みが法教育の展開についても大いに参考とすべき点があるとして紹介されている¹³⁾。そこでは、アメリカ・フランス・スウェーデン・フィンランドの法教育についての取り組みが挙げられており、外部団体による法教育活動が行われていること（アメリカの教育例）や、市民教育や実際の選挙システムを採用したクラス代表等の選出を行っていること（フランスの教育例）、学校教育における法教育の実践例（スウェーデン・フィンランドの教育例）といった具体的施策が示されている。ただ、学校現場に立つ者にとっては、すぐに採用可能なものばかりではないことや、学習指導要領を踏まえて教育を行う我が国との違いということについての不安もあり、諸外国の制度をそのまま導入するには抵抗もあろう。また、これまで行われていた法についての教育¹⁴⁾とは異なる点があるのか、あるとすればどう改善すればよいのかの認識が難しい面もあるように思う。

さらに、用語の難解さに関連して言えることは、法学は法律名や専門用語を単に知っているだけでは問題解決に用をなさないという点であり、このことも障壁として捉えられよう。というのは、単に用語の難解さや、仕組みを教えることの難しさということでは法学に限ったことではない。数学の微分・積分や、英語の仮定法・分子構文といった名称等、他の教育分野にも法と同様に用語自体の難解さは存在しているように感じられる。ただ、数学の公式を例に挙げて言えば、公式自体の名称や仕組みを十分に理解せずとも、その使い方さえ分かれば正しい答えが導けるという性質のものであり、構造の理解が足りないからといってそれほど不便さは感じない。一方で法律用語の名称や専門用語は、先の公式の持っている問題との類似性が他者に説明をする際の便宜的意味という側面しかないということや、名称のみ知っていることが問題解決には何の役にも立たないという点で認められるが、その使用という面では公式を当てはめるといような作業のみでは法律問題の解決策としては十分でないばかりか問題も発生するという異なる特徴も併せ持っている。法学の場合は、具体的にその利用場面に遭遇した時、果た

12) 前掲注7・渡邊15頁参照。

13) 前掲注1・報告書4頁以下参照。

14) たとえば、前掲注1・報告書9頁には、これまでの実践例が挙げられている。また、前掲注1・報告書10頁には、これまで、社会科・公民科、生活科、道徳、特別活動、家庭科、総合的な学習の時間など6項目にわたって法教育の実践が行われていたことが示されている。

してあるべき解決とは何であるのかを考えることまで大切になるからであり、その点が先の公式の問題との相違点なのである。ということは、法教育という観点からは、これら名称や制定時期を教えること以上に、なぜそうなったのかという原因や解釈を学ばせ、知識を他分野にまで広げていけるような考え方を教わる側に持たせることが必要となろう。この点に関連し、法務省の主催した法テラス平成22年度法教育懸賞論文最優秀賞作品では、「『導入は簡便に』という考え方」が大切であると述べられている¹⁵⁾。すなわち、「法教育の導入を考えると、いかに生活に身近なテーマから入るか、いかに短い時間で完結するか、いかに多くの教員を巻き込むことができるか、これが重要なポイントである。¹⁶⁾」というのである。本節の文脈では、さしあたり「いかに生活に身近なテーマから入るか」という点に着目するが、実は学ぶ側も教える側も身近なものが果たしてどのように法と有機的関連性を持っているのかを感じることにこそ難しさを感じているのであり、その面における補助を教育者側は欲しているのではないかと推察する。結局、報告書にあるような身近なものから教えていくといった実践例がどのようにこれまで教えていた法律名や対策としての条文と関連性を持っているのかを認知させることがこの問題を解決するために重要なのではないかと考えている。特にこの点について、大学における法学教育ではどのような実践を行っているのかを節を変えて述べたい。

4 大学における法学授業の実践例

筆者は、法学部1年生担当の科目と経済学部3年生担当の科目を主に担当している。そして初講義の際には、おそらく初めて接すると思われる法学への疎遠さをなるべく取り除く内容にしようと思がけている。具体的には、まず交通事故事例を挙げ、その事例を取り巻く法環境がいかなるものかを説明する形式を講義の導入としている。このような例を挙げることで、普段は遠い存在に感じている法が、いかに身近なものであり、いかに生活と関わっているのかを意識させることから講義を始めようとしている。また、講義の初めには、教壇から降りて学生の座席まで行き、どのような法的問題が生じると思うかについて、彼らの思いつくままに答えさせ、その中から反則切符、逮捕、慰謝料請求などといった答えが出揃った後に、それぞれの法的性質（すなわち、行政罰・刑罰・民事罰に対応すること）を解説するという方式を採っている。このような双方向の教育を意識した手法は、筆者が大学院在籍時に東北大学法学部「民法総則講義」の序論部分（民法入門）で経験した講義形式を参考にしている¹⁷⁾。なお、導入講義の際には「法的考え方に必要なのはなぜそうなるのかを考えることだ」という点には言及しないようにしている。その理由は、高校時代まで知識注入型の教育を受けていた彼らに対し、突然「法律を学ぶには暗記しないで理解しなくてはならない」と説いたところで、理解力ある学生ならともかくそうでない学生には特に法学の敷居を高く感じさせる原因になるのではないかと思うからであり、まずは硬く疎遠な印象の法学に対する警戒感を解くことが必要ではないかと考えているからである。もっとも、法律家は、「なぜそのようになるのか」を考えることが法的素養として重要であることを知っているため、時には知識注入型の教育は批判されることがあるかもしれない。しかし、法教育の導入においては知識注入型を採用し、その後「なぜそのようになるのか」を考える教育へとシフトしていく方法も評価

15) 武藤立樹「学校教育において法教育を普及させるための方策について」。同論文は、法務省ホームページにて参照可能。
(<http://www.moj.go.jp/content/000071962.pdf>)【最終閲覧2012.1.31】

16) 前掲注15・武藤参照。

17) なお、河上正二『民法学入門』（日本評論社、2版、2009年）では、「はじめに（初版への序）」において授業形式への言及があり、また、従来の法学部での導入教育の内容についても同著からうかがい知ることができる。

されて良いように思う。法教育の本当に重要な要素は、「なぜそのようになるのか」を考える点にあるという指摘は、筆者も首肯する¹⁸⁾。ただ、基本的知識なくして、その制度を考えることはできないのだから、差し当たっては知識を習得させることも必要な作業であろう。そして、法的知識は格式高過ぎて近寄りがたいという印象を与えているのだから、実は身近な例の中にこそ法的知識は散らばっているものもあり、それほど格式高い物ばかりがあるわけではないということを印象付けられれば、その後本質的な勉強をする際にも役立つのではないかと考えている。実際講義を行っていて、学生からの反応が良いのは、相続についての法定相続分の配分方法についての説明である。これは、まずは条文に示されている法定相続人の順位者（血族相続人であれば、第一位が直系卑属、第二位が直系尊属、第三位が兄弟姉妹であり、配偶者は常に血族相続人と同順位の相続人となる）と、その配分方法というまさに知識についての教授に過ぎないわけだが、あるときには学生から、「大学の友人のみならずバイト先の友人・先輩とも話が盛り上がった」との感想を受けたこともある。このようなテーマ自体に関心を寄せるもの以外でも、知識のつけ方について、例えば、テレビ番組であるようなクイズ形式で結論をどう考えるのかといった問いかけをするといった方法も効果的である¹⁹⁾。法律問題の中にもテーマによっては、一応はある答えを覚えればその知識が使えるようになるのだと認識させて講義を終わらせるという手法をとっているわけである。先に述べた公式を当てはめれば答えが出るようなものではないとの説明と矛盾するようだが、法学へ興味を持たせるという意味では十分法教育としての役割を果たしていると考えている。そして、数回の講義を経るにつれて、題材によっては、一応答えを出した後も話を続け、似たようなケースや少し視点を変えた事例の場合にそれが妥当するのかに意識を向かせる作業を行う回数を増やしていく。最終的には少し別の要素が加わると答えが変わる可能性があるのだという説明を加えることで一応の法的思考への接続を図るわけである²⁰⁾。このような講義を半期経験した学生の中には、「法学自体が難しいながらも興味をひけるテーマであることを認識した」という回答をするものもあるほか、「法学は難しいかと思ったが、その難しさに面白さを見出せるようになった」などと答えてくれる学生もいる。

5 小 括

以上のことから、法教育で重要なのは、知識注入型教育をからめながら、各受講者に応じたテーマを設定することではないかと考えている。個人的な感覚では、講義・市民講座において、筆者自身の示談経験や、キャッチセールスを受けた経験などを講義すると反応が良い。一般的にも、学生が興味を持って学べるようにするための書籍も公刊されている²¹⁾。無論、受講者によってはテーマ設定に難儀することもあるかとは思ふ。筆者が、市民講座や県の研修施設で講座を担当した際は、受講者の社会経験を

18) この点につき、伊藤滋夫「実践的法学教育論 民法の授業の現場からの一試論」大東法学 8 卷 2 号 43 頁（1999 年）には、「すべての法的思考は、突き詰めていけば結局は、ある仕組みの趣旨のある具体的事例への当てはめの問題であると考えられる……から、そうした意味での仕組みの趣旨、すなわち『なぜ』そうした仕組みがあると考えられるのかということは、すべての法的思考において基本的に重要なことであるというべきである。」と述べられる。

19) 講義であつかう事案の大半は、NHK 総合で放送されている「バラエティ生活笑百科」や、日本テレビ系列で放送されている「行列のできる法律相談所」で取り上げられるような事案を題材にしている。

20) 前掲注 15・武藤では、「法教育は積み上げ方の学習である」旨述べられており、初等教育から中等教育までを系統的にひとつの学習とみなして教育を進めるべきであるという主張は、筆者のような短期間の講義で教育を完結させる方式とはやや趣旨が異なるものの、全体を通じた教育方法の構成をはかるべきとの主張という意味では近似するものではないかと考えている。

21) 信州大学経済学部経済システム法学科編『大学生が会う法律問題 [改訂版]』（創成社、2011 年）、野田・松井・千葉・井田・五十嵐・君塚著『シネマで法学 [新版]』（有斐閣、2004 年）など。

頼みにしながら様々な事案から法学への関心を引くという手法がまさに有効であったが、大学での講義の場合、学生は社会経験をそれほど積んでいないため、契約といったことを話しても、正直実感がわかないという顔をされることもしばしばある。そのような時は、契約問題に関しては聴講者の中に一人暮らしの学生がいることを念頭にアパートの賃貸について関わる法律問題を解説したり、自らのアパート賃貸の経緯を解説したりするなどしている。また、筆者が消費者法を専攻していることもあり、消費者問題を扱う事例を紹介することもしばしばある。悪徳商法の具体的な話も、国民生活センターの相談事例のほか、実際に自身が経験した電話勧誘の事例や自宅に届いた偽の債権回収業者からの振込み依頼はがきなどを実際に持ち出して扱っているが、アンケート結果などを見れば、自己の経験を導入とした具体的事案の設定方法への反応は総じてまずまずのものである。ただし、先の相続の問題と比べれば受講者の理解度が多少低くなっている感否めないし、アンケートなどにおいては話が難しいと述べる学生も散見されるのが実情である。結局、テーマ設定が適切か否か常に試行錯誤している毎日である。こうした状況下で、筆者はできるだけ完璧な講義を追及しているものの、完璧でないから全て失敗とは捉えないようにするよう心がけている。例えば、経済学部で担当している民法概論の講義では、一年間で民法のほぼ全ての領域をカバーすることが求められている。ただ、個人的能力の限界があり、その中でも特に深い情報を提供できる領域とまだまだ勉強中の領域というものが混在しているというのが正直なところである。こうした状態は、専門的に内容を教えているはずの法学部における教育であっても、実はその教員には得意・不得意の個所があるということは、実際に講義を受けている学生にもあまり知られていないように思う。それでも、法学に携わる大学教員は多くの場合、全体を通して学生に対する教育を行うことができている。では不得手の箇所についての講義はどのようにこなしているのかと問われれば、それは準備の量を十分にすることに加え、聴講している受講者から多くのことを学びながらこなしているのである。筆者の接している学生はある意味正直で、テーマ設定や話の進め方等の違いにより、関心のある項目とそうでない項目とにおける受講態度が大きく異なる。よって、彼らの反応をみて、講義内容を微修正しながら関心を引けるような工夫をすることで、準備時間の調整を図り、おおよそいずれの講義であっても、一定の水準が保てるように努めているのである。おそらく法を扱うということは、多かれ少なかれこのような場面に接することを覚悟しなくてはならないものだと考えているし、受講者から学ぶことが多いというのも法教育の特徴だといえるのではないかと。つまり、すべてにおいて自信を持って教えるということは、もちろん望ましいことではあるが、(少なくとも法学においては)必ず要求されるということではないといっている言いすぎだろうか。法学とは、教育する側が学びながら教えるということが可能な題材だと認識し、ともに学び・教える教育だと考えることも重要なのではないだろうか。

6 具体的取り組みへの提言

大学での法学教育から見えてくる法教育への示唆としては、受講者にある種の具体的事例を経験させる(知覚させる)という作業が有用だということではなからうか。ある法学部の教員は、大学法学部4年間の勉強とは何かという問いに対して、法学部4年間で学ぶことの内容は、たとえばスポーツというルール概要を知ることと近く、学部は、競技のルールブックをもっているというミニゲームをする場であるというふうに考えるといいのではないかと述べている²²⁾。つまり、社会ルールの説

22) 造事務所 / 岩嶋宏恭 編著『法学部受験の総合研究』38頁(旺文社、2005年)。

明（法条文を教授すること）とミニゲームのような実践や疑似体験（ゼミナールでの議論や重要判例の検討等）を通して、徐々に法学の知識を身に付けさせる作業を行っているということになる。この点は法教育も法学部教育と同様に考え、すなわち、法教育に携わる教員はミニゲームのような実践を通して教育を行うという意識を持てばよいと考える。比喩的に言えば、大学（特に法学部）で行われるのが、ある種の本格的なスポーツとすれば、さしずめ初等教育で求められるのは、鬼ごっこやキックベースといった（単純なルール設定の下、走り回ることによって楽しさと充実感を得るなどの）全ての競技の基礎になるような動きを教えるということになるのだらうし、少し高度な教育を求めるとすれば、少年サッカーや少年野球のような経験をさせるということになると考える。もう少し具体的に言及すると、教える具体例は、これまで行われてきた法教育（道徳や家庭科など）を活用し、そこに付加的説明を加えることが基準とされるべきで、少し高度な授業とするのであれば、交通ルールや宗教におけるルールがどういった価値観に基づいているのかを学ぶといったことなどでよいのではないかと思うのである。例えばスポーツを通じた教育ということであれば、ルールを伝える際にそのルールはなぜ定められているのか、そのルールによってどのような利益をもたらし、どのような不利益を排除しているのかを教えることが、ある面ではそれも「法教育」ととらえられるのではないかと考えている。少し乱暴な言い方をすれば、法教育は、別段特定の授業時間を設けずとも良いのである。なぜなら、国語で取り上げられている小説や、論説を題材にして、社会では何を守らなければならないと価値観が構築されているのかを教え、考えさせればよいのだし、数学の証明問題などを解かせたり公式を学ばせたりするに際して、どのような論理でそのような公式が立てられているのか、例えば実社会ではどのように利用される場面があるのかということを一例として教えることもあればよいと考えているからである。もっとも、初等教育で学ぶ算数の公式が、高度な数学などの公式の基礎になっていることなどは、算数を教わる段階で教えられたところで、恐らくあまり児童の理解を得られないだろうとは思いますが、繰り返しなぜそうなのかを伝えることは「なぜ」という考え方を涵養するうえでは重要な作業なのではないかと考えている。このように法教育の対象をひろく日常に散在している題材・教材から選定する際に意識されるべきは、私見では、さまざまな視点から「このきまりは何を目的としているのか」という問題設定ができるかどうかということだと考えている。もちろん、このような抽象的なものではなく、具体的な法解釈につながるような法的思考を得させることも大切であるとは思いますが、今回対象としている学校教育においては、それを求める必要までは無いと考えるからである。

しかし、教える側にとっても、法学は、そもそも「専門用語以前に根本的にわからない何か」であるというイメージを持っている人が多いことが想像でき、そのような意識を持っている教員に、「このきまりは何を目的としているのか」を教えるのみで十分であるとか、ただし、その際には先の関係性まで意図しながら教育せよ、というのみではおよそ混乱を増すだけであろう。若干の言い換えを行うならば、本稿にいう「このきまりは何を目的としているのか」を学ぶこととは、相当基本的なことを考え直し、自分の言葉に置き換えて考える基礎とすることで、『法＝ルール＝みんなのもの』だと気付かせるということの意味している。生活する上で何を守るべきかは、案外身につけているものであるが、それが法とどのように結びついているのかについてはあまり意識されていない。法教育の主眼は、そこに気づかせることにあるように思う²³⁾。これは、法学部教育がこれまで目指していたものと変わらないと指摘したいのだ。

23) 神谷説子「法教育のススメ」法セミ662号10頁（2010年）参照。著者は、自ら考え直したことで法や裁判自体への関心の持ち方が自分でもびっくりするほど変わったと述べる。

こうして、ひとつの事柄をさまざまな角度から見られる力を養うことも、法教育の主要な役割なのである。そして、法学に限らず、今学んでいるものが一体どのようなものであるのかというように興味を持たせることが、結果的には法学を理解するうえでの重要な布石になっているのだと考えている。その中では、教える側が解釈の仕方や、なぜそうなるのかを知っていなければならないし、教わる側に対して、考える必要性を意識させた教育がなされなければならない。そして、それらの一端でも教わる側が想像できれば、それだけで十分に「法教育」の目的は達成できるものとする。とて、どこの科目であっても、そうして打たれた布石を今度はルールとは何かということを考える段階につなげていくようにすればよい。しかも、それは何段階かに分けて教える方法を考えていけば良いのである²⁴⁾。例えるならば、習字の練習も始めはなぜ良いのか分からずになぞっているだけであったとしても、繰り返すうちにそのポイントが見えてくることもある。法学も始めのうち、分かりにくかったとしても、根気よく似たような事例に遭遇させるたびに、その中に潜んでいる重要性を意識させ、いずれ受講者が気づけるようにすることが必要だと思ふのである。そのためには、より具体的な事案に触れさせることが必要である。それは、モデルケースとして枝葉が切り落とされた事案を設定するよりも、より現実に近い、あるいは実際に起こった「生の事案」を感じさせた方が、重要性を感じ取るためには有用だと思ふためでもある。この主張の趣旨は、導入は簡便にしつつも、一定のレベルを保ったまま、理解しやすく教えることが常に目指さねばならないということである。筆者は、これが法教育に携わる教員に求められる最重要課題でもあろうと思ふ。法は、身近であるからこそ、複雑な社会においてさまざまな面を見せる題材である。そのような中でも、受講者に認識可能な状況を作り出すためには、やはり題材そのものにも一定程度の難しさを保っておくことも必要なのである。

最終的には以上の視点を持って、法教育に携わる教員各々が受講者と教える側とが共通の興味を持つ題材を見つけていくことが大切だといえる。ただ、その題材を見つけるという作業は、すぐに身につくようなものではないので、教員自身が日常から題材を見つける訓練を行うことも必要であろう。訓練方法としては、県の教育委員会その他で、教員用のいわば題材発見教室のようなものを設けて教員研修を行うという方法も、ひとつ有効なように思われる。わざわざ教室を開かずとも、教材の作製の推奨・法テラスによる教材の収集や公表・FDのようなフィードバックを繰り返すというだけでもよいだろう。同時に、法教育において教育者養成に求められることとしては、気づかせるための「あるきっかけ」を方策として提示することが必要であろう。具体的には、弁護士会や司法書士会、ひいては法科大学院の学生による教員への啓発・教育活動がこれにあたりと考えている。これまでの活動では、弁護士会や司法書士会による出前講義などが挙げられる。ただし、これらは、高校生向け、一般市民向けの活動であったように思われる。これまでの活動の対象を教員に向けなおし、教員自身も自発的に学んでいく姿勢が今後は求められると思われる。そして、「法教育」の観点からは、法律実務家には、その際に扱われる題材を、あまり体裁にこだわらずに、教育する側の一番の関心事に引きつけて、どこに法がかかわっているのかを考えていくような題材とすることも求められよう。場合によっては、教育する側からのリクエストをとってそのテーマをもとに話を広げていく方法もあるし、出前講義からさらに進んだ、教員に対する「法学の家庭教師」のような施策も考慮されてよいかもしれない。その際に、注意すべきは、

24) もっとも、個々の教科における学習においては、「初等中等教育の教員によって克服の努力が続けられている」との指摘(前掲注7・渡邊15頁参照)もあり、既に各教科において実施されている面も多いとの反論もあろう。ただ、筆者は、以上のことを、各教員の努力に頼る体制によって実現するのではなく、教える側が法との接点を常に意識することができる体制をつくることで実現するように提案したい。

「専門用語の解説」や「講演」を行うのではなく、まさに、制度の背景にある事柄や、考え方を一緒に学ぶ演習形式を念頭に置いた出張講義こそが求められることになる。

さらに教員と児童・生徒とが一緒に学べる状況が加われば、なお効果は上がると思われる²⁵⁾。高大連携授業や出前講義といった高校生向けの施策の活用は制度の利用という意味では実現への敷居が低いのではない。NHK 総合で放送されている「ようこそ先輩」のような形式の授業を初等・中等教育機関の教員・生徒双方を対象にして行うといったようなことが法教育でも求められていると考えられる。そのほか、たとえば、法学部を設置する大学では、その多くで「模擬裁判劇」が行われていると推察されるが、これらは、おもに各大学においてイベントとして開催されている。仮に小学校や中学校までこれを出張し、児童・生徒の前で公演することができれば、劇観賞後、教員・生徒が一緒になって議論する話題とすることも可能であろうし、場合によっては演じた大学生を交えると深い話にもつながるだろう。

おわりに

以上、法教育の実践例として、大学での法学教育を例に種々述べてきたが、多少逆説的なことをひと言述べておきたい。それは、法教育という授業そのものに過度の期待をよせることはやめたほうが良いということである。この趣旨は次の点にある。近年世界順位が落ちたとはいえ、日本は、化学や数学分野で世界の上位に位置しているといつてよいと思われる。だからといって、教育を受けた皆がその分野を得意となっているわけではない。結局は、全体的な底上げによって関心を持つものを引き上げることができるということであり、教育とはそういうものだと思っておく必要があるといたいのだ。実際、法学部を出た学生のうち、法的知識をきちんと身に付けていると自負できるものはそれほど多くない。ただし、学部4年間で耳なれた法律用語に接した際、多くの場合、それを全く知らない人たちよりは意識が向いてくれているのではないだろうか。結局大学で法学を教えている身としては、無意識であっても、将来「どこかで法律用語を耳にした気がする」という反応をしてくれるだけの基礎を与えるということだけでも十分と考えるべきだと考えている。法教育もそのような何気なく意識できる状態になってもらうことが、一つの到達点だろう。そして、そのような文脈からいえば、以上に述べたことのほかに、全国の法学部は法養育へ寄与できる潜在力をもっと備えているのではないかと考えている。

「法」はとても広範な価値観を対象としている学問的素材でもある。題材によっては、宗教的な観点の含まれているものや、道徳観念の含まれているもの、さらには、立場によって答えの分かれるものもある。そのような題材であることを認識した上で教育し、教える側も「教えられることがあるかもしれない」ぐらいの意識で臨むことができれば、良いのではないだろうか²⁶⁾。

25) 前掲注1・報告書30頁以下参照。ここに関しては、「としょかんライオン」を題材にした論稿（前掲注2・大村43頁以下）が非常に示唆的である。

26) 同旨をいうものとして、前掲注2・大村51頁参照。

[論文]

除雪ボランティアを通じた互助・共助コミュニティの構築に関する研究（その3）

～ 地方紙に掲載された除雪ボランティア活動者、利用者等の感想の分析～

高橋和幸

・ 課題設定

本研究（その1）から（その2）までは秋田県「大仙市雪まる隊」を事例に除雪ボランティアがもたらす活動効果、組織的な発展過程、市社会福祉協議会の側面支援方法等の解明に努めた。それによると、地道な広報が奏功しボランティア登録を行う市民が着実に伸びていること、地区ごとに自主的に判断して除雪活動を行う体制構築が進んだ等の効果が発見できた。とはいえ、低所得等のため真にボランティアにしか頼れない方を対象とする選定の難しさや、活動者のボランティア保険料等経費の補てん、出勤式や広報作業等の大部分を社協の支援に頼っており自主的な運営を目指す道のりの遠さ等、の課題も浮き彫りとなった。

（その3）では、同隊の活動者アンケートの結果分析等を予定していたが、東日本大震災により同市社協は岩手県沿岸地域へのボランティア派遣と連絡調整に繁忙となり、調査協力依頼をすることが困難になった。そこで、研究方法を切り替え、各地で除雪ボランティア活動を通じてどんなことを考え、利用した高齢者等がどのように感じたかを情報収集し検討することにした。

・ 研究方法

新聞記事を調査することにした。まず、東北6県の地方新聞のうち最も発行部数の多い新聞社を対象とした。青森県のように太平洋側から日本海側まで広範囲な面積をもち積雪量も違いがある県についてはそれを考慮し2社を採用した。こうして各新聞に掲載されている除雪ボランティア記事を収集したものの母数が少ないことから北海道と新潟県の新聞社を追加し、最終的には8道県の地方紙を調査対象とした。対象紙は、青森県は東奥日報（本社青森市）とデーリー東北（本社八戸市）、岩手県は岩手日報、秋田県は秋田さきがけ新報、宮城県は河北新報、山形県は山形新聞、福島は福島民報（但し積雪の多い会津版）を選択した。なお、北海道の北海道新聞（道南版）と新潟県の新潟日報を追加した。

上記9紙の平成23年1月1日から2月28日までの2か月の記事を調べ、雪に関するもの全てをピックアップした。対象期間を1、2月にしたのは、例年になく豪雪に見舞われ除雪ボランティア活動が盛んだったからである。なお、夕刊が発行されている地方紙については合わせて調べることにした。最初の作業として、該当記事をマイクロソフトエクセルに要約して転記し、各紙の雪に関する記事取り扱い数とそのうち除雪ボランティア活動を掲載した割合をみることにした。次に、各紙の2か月間の除雪ボラ

ンティア記事掲載数のうち、活動者や利用者等の感想・紙上発言（以下、感想）が掲載されている割合についても調べた。これらの予備調査結果は次の に掲載した。

本調査では、除雪ボランティア記事掲載数のうち、活動者や利用者等の感想を一覧表にし、分類整理を行い、その結果から活動効果等を考察した。

予備調査の結果

1. 雪に関する記事とそのうちの除雪ボランティアに関する記事数、並びに感想掲載数

表 1.

新聞社名	雪に関する記事掲載数	除雪ボランティアの記事掲載数	新聞社名	雪に関する記事掲載数	除雪ボランティアの記事掲載数
東奥日報(青森県)	106	12(12)	山形新聞(山形県)	180	38(30)
デーリー東北(青森県)	33	3(2)	福島民報(福島県)	142	20(6)
岩手日報(岩手県)	120	17(15)	北海道新聞(北海道)	49	6(6)
秋田さきがけ新報(秋田県)	191	44(39)	新潟日報(新潟県)	109	8(7)
河北新報(宮城県)	78	15(10)	計	1008	163(127)

雪に関する記事は主に社会面と地方面の雪下ろし事故や雪の影響による交通障害等であり、スポーツ面のウィンタースポーツは除く。除雪ボランティアの記事掲載数のうち()はボランティアに関する感想記事の掲載数である。

雪に関する記事は全体で1008件確認された。そのうち除雪ボランティアが163件含まれた。表1のとおり、最も除雪ボランティアの記事掲載数が多かったのは秋田さきがけ新報で、次いで山形新聞、三番目に福島民報となった。また、本稿で注目している除雪ボランティア記事のうち、感想の掲載が最も多かったのは秋田さきがけ新報、次いで山形新聞、三番目に岩手日報であった。

2. 記事として取り上げられた除雪ボランティアの活動形態

表 2.

形態	件数	形態	件数
除雪ボランティア(自主組織)	27	中・高校生徒とPTA等の混合型	11
除雪ボランティア(社協支援型)	13	企業ボランティア	8
町内会によるボランティア	5	組合・協会等のボランティア	10
中学校生によるボランティア	19	個人でのボランティア	7
高校生によるボランティア	24	その他の活動形態	25
大学生ボランティア	14	合計	163

分類：その他とはグリーンツーリズム、県外のNPOや団体が訪問、行政職員有志、地域の消防団、シルバー人材センター会員有志等

163件の除雪ボランティアの活動形態は多岐に渡った。なかでも、中・高・大学等の学校ボランティア(含む混合型)が4割強(163件中68件、41.7%)を占めていた。

3. 除雪の対象と、除雪・屋根の雪下ろし活動別について

表3.

高齢者世帯	99件
高齢者世帯と障害者世帯	16件
福祉施設等	9件
歩道等の道路環境	24件
伝統行事等の会場	3件
高齢者世帯と福祉施設等を一緒に	7件
その他の箇所	5件
合 計	163件

表4.

除雪	144件
屋根の雪下ろし	19件
合 計	163件

表3より、高齢者世帯への除雪が多いことがわかった。なお、危険作業を伴う屋根の雪下ろしの、ボランティア活動件数は19件で、除雪作業144件に比べるとやはり少なかった（表4参照）。

除雪ボランティアに関する感想（紙上発言）の分析

前述のとおり感想が記載されたものは127件である。それらには活動者のものが121人分、除雪ボランティア利用者のものが79人分、支援機関職員等のものが12人分記載されていた。一つの記事に感想が複数掲載されている場合もあり、それら一つ一つを取り上げたことから紙面に取り上げられたボランティア件数と、感想を述べた人の数は一致しないことを先にことわっておきたい。

なお、活動者の場合は年齢層が幅広く121人分の感想のように多いことから、中・高校生、大学生、社会人の3区分で整理した。利用者支援機関等の感想はとくに区分しなかった。

1. 活動者【121人】の感想について、分類整理した結果

1 (1) 中学・高校生徒【52人】の感想

表5.

達成感 (25人)	
や り が い	大変だけどやりがいを感じる。・同様意見ほか2人（内訳：中1男性2人、高校男子サッカー部員）
	力仕事で大変だったが、おばあさんに喜んでもらい、やりがいを感じた。（中2男性）
	困っている人の役に立つ活動なのでやりがいがある。（高2男性）
	疲れたけど、お年寄りが笑顔で喜んでくれたので良かった。（中1男性）
	雪が硬くなっていて苦労した。地域の役に立ててよかった。（中1男性）
	大変だったが、道路の雪が片付いて気持ちがいい。トレーニングにもなった。（中1男性）
	地域のお年寄りのために仕事をして、汗をかくのは気持ちいい。（中3男性）
	いつもお世話になっている地域の人に恩返しができるよかった。（高2男性）
う れ い	自宅の雪かきと違い、人の為に働くのは気持ちが良い。（中1男性）
	雪が多くて大変だったけれど、お年寄りの皆さんに喜んでもらえてうれしかったです。・同様意見ほか3人（中2男性2人、中2女性、高校生男性）
	作業は大変だけど、車などがちゃんと通れるようになってうれしい。（高校生、女性）
	協力してくれた地元の人たちに感謝したい。大勢の仲間と雪かきができるうれしい。（高1女性）
	冬場のトレーニングにもなる。少しでも役に立てればうれしい。（高2男性）
野球部は地域に支えられて活動している。地域に貢献できうれしい。（高校野球部主将、男性）	

うれしい	3年間お世話になった地域に、恩返しの気持ちで作業している。少しでもお年寄りの力になればうれしい。(高3男性)
	吹雪の中で大変でしたが、お年寄りに喜んでもらえてうれしい。温かいカップ麺を頂いたり、帽子をストーブで温めてもらったり、やさしい気持ちに感謝しています。(高校野球部員、男性)
その他	今年は自宅で4、5回も雪寄せをしたが、高齢者宅は初めて。みんなと一緒になので雪寄せも楽しい。(中1男性)
	困っているお年寄りの役に立つことができた。自分の体力づくりにもなったと思う。(中2男性)
	例年はない大雪で、お年寄りの多い地域は大変。役にも立てるし、トレーニングにもなる。(高2男性)
	寒かったが地域の役に立てばと思い、頑張った。(高3女性)
地域に恩返ししたい (11人)	
	支えてくれる地域の人に恩返しをしたい。(高1男性)
	ふだんから、文化祭などで地域の人たちにお世話になっているので、恩返しの気持ちです。(中2男性)
	地域の方々にはいつも応援してもらっている。感謝の気持ちを込めた。(中2男性)
	少しでも役に立ちたい。家でも雪掃きを手伝っているので、きょうはスムーズにいった。(中2女性)
	去年より雪が多くて大変だったが、地域に貢献することができ、学校生活も充実する。(高2男性)
	地域の人たちに除雪を通じて恩返しできれば、自分たちも精神的に成長できる。(高3男性)
	できることは自分たちでやるのが大事だと思う。みんなで取り組み、地域貢献の大切さを実感した。(中3男性)
	疲れるし、腰が痛くなる。家の除雪してくれるお父さんの大変さが分かった。いつも地域の人に助けてもらっているから、こういう機会に恩返ししたい。(中3女性)
	自分の家にもじいちゃん、ばあちゃんがいて雪かきの大変さも分かる。以前から力になりたいと思っていた。(高1男性)
	3年生は2月2日から自由登校だが、地域の為ならばと思い、同級生たちと参加した。積雪は去年と比べてかなり多い。(高3男性)
	地域のお手伝いができればと思い参加した。今年は雪が多くて結構大変だった。(高2男性)
継続意欲 (12人)	
	今年は雪が多く、困っている人の助けになれるよう頑張る。(中2男性)
	実際に除雪してみると大変さがわかる。自分たち若者が頑張らなければいけないと感じた。(高2男性)
	地元の高校生として今後も住民の役に立つ活動に取り組んでいきたい。(高2男性)
	喜んでくれて良かった。これからも人の役に立つことを率先して行いたい。(高1男性)
	みんなで行う除雪作業は楽しい。地域のために力になりたいと思う。(中2女性)
	去年より雪が多くて大変だったが、一生懸命雪かきをして、お年寄りに喜んでもらったので良かった。今後もボランティアを続けたい。(中1男性)
	皆が参加してくれてうれしい。地域の人を使いやすいように雪を片付けたい。(中2女性)
	みんなが集まれば作業も早い。近所に困っている人たちがいたら除雪を手伝いたい。(小5男性)
	雪かきする姿を見たお年寄りが笑顔になってくれた。うれしかったし、やりがいにもなった。スノーバスターズは住民のため、そして自分達のためにもなる活動。引退後だけ来年も参加して元気とパワーを与えたい。(高2女性)
	毎週の事でつらいと思うこともあるが「ありがとう」と言われると励みになる。今後も頑張りたい。(高1男性)
	除雪を必要とする人の役に立ててうれしい、機会があればまた協力したい。(中3男性)
	積極的にみんなで協力し、笑顔で除雪したい、と決意表明した。(中2男性)
率直な思い (4人)	
	雪は多いし、思ったより重くてびっくりした。・同様意見ほか2人(高2女性2人、高1男性)
	つるはしが重くてきつかったが、だんだん慣れてきた。たくさん除雪できた。(中2女性)

中・高校生、大学生、社会人の3区分で整理したため、小学生1人の感想をここに含めることにした

1 (2) 大学生【16人】の感想

表6.

達成感 (7人)	
	少しでも役に立てば、うれしい。地域の人たちとの交流も図りたい。(大学3年男性)
	雪国の生活の苦勞を知ることができ、貴重な経験になった。高齢者にも喜んでもらえてうれしかった。(大学3年男性)

こんなに大掛かりな除雪は初めて。重労働だったが、地域に貢献できたのではないか。(大学1年男性)
西和賀町には雪で困っている高齢者が多いことを実感した。雪かきは大変だが、とてもやりがいがあった。スノーバスターズの重要性は非常に高い。地域の実情等も学び、将来は福祉に携わる仕事がしたい。(大学2年男性)
東京出身だが、地域の役に立ちたいと思って参加した。(ブドウ棚除雪を経験して)おいしい作物を作るためには多くの苦労があることを実感した。(大学1年男性)
雪が重くて大変だった。雪国の厳しさを実感できた。(大学2年男性)
慣れないスノーダンプの使い方に戸惑いながらも、思った以上に汗をかくので、寒さも気になりませんでした。(大学2年男性)
責任感・意欲 (3人)
思ったより腰に負担がかかるし、少し動いただけでも足が取られて大変。明日はお年寄りのために精一杯雪かきを頑張りたい。(大学3年男性)
スコップに雪を乗せるのは意外に難しい。毎朝雪かきをしている人は大変だと思う。地域の人たちが歩きやすいようにしたい。(大学2年生男性)
神奈川県出身で除雪は初めての経験だった。思った以上に雪が多く、雪国の大変さが分かった。また機会があれば参加したい。(大学2年男性)
勉強になった (6人)
雪がこんなにやっかいだとは思わなかった。高齢者の方ばかりでほんまに大変なんやと感じました。(大学1年女性)
熊本県出身なので、こんなにたくさんの雪を見てびっくりした。地域の人と触れ合うことで、大学の教室では学べない貴重な体験ができた。(大学院生女性)
雪は思ったより重い。しんどいです、と苦笑いしながらも、精力的に作業した。(大学3年男性)
村の人はみんな親切で感謝している。もっと滞在したかった。(韓国人大学生)
慣れない場所で会話を広げていくことで、コミュニケーション力が付く。(大学2年女性)
高齢者の方たちにとって、雪片付けは大変な作業。若い人間が協力するのが大切だと感じた。(大学2年女性)

1 (3) 社会人【53人】の感想

表7.

達成感 (14人)
喜んでもらうと、楽しく作業ができる。(67歳男性)
運動になるし、ちょっと良いことをしたかなという満足感もある。(活動代表44歳男性)
雪が思った以上に硬くて大変だった。活動を通して少しでも地域に貢献していきたい。(25歳女性)
山形の雪の量がすごい。雪かきをした経験があまりないので作業は大変だけれどやりがいがある。(除雪体験ツアー客27歳女性)
駅前には歩行者が多い。歩道の雪がきれいになって、歩く人が喜んでくれるとうれしいですね。(46歳男性)
自分も年をとれば人の世話になるから、やれるときに手助けできればと思って、と話した。(63歳男性)
ランドセルやお金を寄付することはできないが、汗を流すことで施設利用者が喜んでくれたらうれしい。(除雪ボランティア活動を行った会社社長談)
訪問しての雪下ろしは4年目。木沢地区は一人暮らしのお年寄りが多いと聞いているので、役に立てればうれしい。(NPO職員52歳男性)
何か社会の役に立ちたいと思っていたところへ除雪ボランティアツアーの企画を知り、知人を誘って参加した、と満足げに語った。(61歳 除雪ボランティアツアー客男性)
取り締まりだけでなく、人助けも警察の仕事。困っている人を助けられて良かった。(警察官)
大雪で不安な思いをしていたはず。もっと早く来てあげたかった。(31歳公務員男性)
除雪により、少しは運転しやすい環境になったと思うので、多くの人にカマクラを楽しみに町を訪れてほしい。(活動の代表男性)
雪が車道まで覆い、大型車がすれ違えない所もあるので、危険な場所をなくしたかった。自社のトラックとブルドーザーを使って2日間の除雪作業を終え、道路がさっぱりした。村の交通死亡事故6千日を何とか達成してもらいたい。(除雪した店主談)
自宅の雪下ろしを2回したほか、自分ではほとんど除雪できない近所の一人暮らし高齢者(80歳)宅でも3回下ろした。いつもお世話になっているから、自分がやれることはやろうと思って、と話した。(個人ボランティア74歳女性)

地域貢献意識、責任感 (21人)	
「お元気ですか、雪かきは大丈夫」と声を掛けて回る。Mさんも「自分は72歳だが、まだまだ元気。少しでも地域に恩返しができれば」と語る。(72歳男性)	
隊員も自宅の除雪が大変だが、やれる範囲で頑張るしかない。(活動の代表76歳男性)	
こんなに雪が降るのは1973年の48豪雪以来。雪が重くて作業は大変だが、困っている市民が多く、やらなくてはならない。(52歳公務員男性)	
市の除雪車はなかなか狭い道まで除雪してくれない。地区内は高齢者も多く、車のすれ違いも大変な状況で、できる部分は住民が協力して行うしかない。(67歳男性)	
しばれて雪が硬く、お年寄りには厄介。日ごろお世話になっている地域の人たちのため、来年以降も続けたい。(活動の代表談)	
予想していたよりも雪が多く、作業は大変だったが、乳児院の方々に喜んでもらえて良かった。今後も地域貢献活動を続けていきたい。(活動の副代表談)	
助け合いの気持ちを大切に、積極的に活動したい。(28歳男性)	
ことしの雪は大変。地域の人が安全に冬を乗り切れるよう、うちの会も頑張っていきたい。(警察官男性)	
年をとれば雪かきは誰でも大変になる。無理なくできる範囲で続けたい。(会長64歳男性)	
雪国の暮らしの大変さを肌で感じた。参加者を広く募って今後も訪問したい。(町内会長63歳男性)	
どんどん若い人が減っている。みんなで支え合い、地域社会を守っていきたい。(54歳男性)	
除雪することで車の運転や歩行者の危険を減らしたい。(会の事務局長54歳男性)	
学校の他にも隣近所も除雪した。今年のような大雪では、助け合わないと。(個人ボランティア44歳男性)	
今年は雪が多い。私たちの活動もこれからが本番、と気を引き締めた。(58歳男性)	
今後も率先してボランティア活動を行っていきたい。(公務員男性)	
除雪ボランティア活動で人にやさしいまちづくりの一役を担いたい。(活動の代表談)	
今年は大雪で高齢者が自力で雪下ろしをするのは、限界にきているのではないかと。例年は年1回だが、今年ももう一度行くかもしれない。(37歳公務員男性)	
ニュースで秋田の大雪を知り、お世話になっている町に恩返しをしたいと東京から除雪ボランティアに訪れた。(大学野球部監督男性)	
思ったより雪が重い、腰が痛くなりそう、と慣れない作業に苦労しながら一時間ほど作業した。(公務員)	
1階部分がほとんど覆われるほど積もっていたら、お年寄り1人ではどうすることもできない。地元の人もこんなに雪が多い年は珍しいと言っていた。(友好都市間交流で訪れた公務員53歳男性)	
近所の除雪を請け負った。三人で3時間掛け、屋根から雪を下ろし、重機で雪を飛ばす。危険もあり決して割に合う仕事ではない。けれどもあくまで元気な人が困っている人を助けるのが地域からの習わし。実を言うと、料金を払った方が頼みやすい面もある。(67歳男性)	
普及・啓発のための発言 (18人)	
今年のような大雪では助け合わないといけな。い。(44歳男性)	
声を上げて一生懸命動けば人は集まる。実際に動かないことには雪はなくなる。(町内会役員男性談)	
小さいころから除雪しているし、手伝うのも特別なことではない。(活動の代表男性)	
困難な時ほど助け合いが重要。多くの人の力を貸してほしい、と呼び掛けた(活動の代表69歳男性)	
今年もバスターズの季節になった。今日は比較的雪が少ないが、けがのないよう頑張りたい、と呼び掛けた。(活動の代表談)	
今以上に雪が積もれば作業できなくなってしまう状態だった。住民の協力に感謝している。(自主除雪隊長談)	
こちら辺はまだ、住民に仲間意識があるからグループもあるし、近所同士で支え合っている。確かに今年は異常な降り方で大変だけれど、このくらいの量ならまだなんとかなるよ。(活動の代表63歳男性)	
地元の中学生の通学路となっており、安全性を確保できて良かった。町内会の団結力も感じられた。(町内会長談)	
今や高齢者の生活に不可欠な活動。世代を超えた地域のつながりも広がった。(ボランティアセンター運営委員長71歳男性)	
観測史上最高の積雪を記録した今冬は、みんな自分の家で手いっぱい。だが、苦しいときこそ住民同士の結びつきを強めて組織的に支え合う必要がある、と住民に呼び掛け有志が会の結成に動いた。(活動の代表男性)	
自宅の除雪もあるが、もっと困っている人がいる。支援の輪が広がってほしい。(52歳男性)	
結成当時から続けているメンバーも多く、隊員の年齢も上がっており、新たな参加はうれしい。共助の精神が多くの人に広がることが目標だ。(隊長52歳男性)	

大雪に限ったことではない。今しっかりした組織をつくれれば、地震や土砂崩れのときも対応できる。上畑を災害に強い集落にしたい。(メンバー、社会人男性)
20日以上降り積もった雪の固さと重さを実感した。職員による一斉除雪が、もう少し頑張ろうという市民へのメッセージになればいい。(除雪ボランティア活動に参加した市長談)
災害ボランティア実習の一環としての除雪ボランティアを通じてボランティアの大切さを感じ、中山間地域の実情を理解してもらいたい。(除雪ボランティア引率、大学教授男性談)
除雪機の燃料代はこれまで個人負担。まるっきりのボランティアよりは、田野畑村「結の除雪交付金」制度で負担が少なくなり評価する。(自治会長62歳男性)
安全に気をつけ、地域の人に笑顔も贈ってください、と激励。(校長)
周囲の皆さんの支援があるから学校がある。恩返しのもりで頑張ろう、と激励。(校長)

2. 除雪ボランティアの利用者【79人】の感想について、分類整理した結果

表8.

心の支え、ボランティアとの交流を楽しみにしている (18人)
自分ではできないので助かった。こうして来てくれると心強い。(95歳女性)
腰が辛いので除雪の助けは欠かせない。来てくれるその気持ちがありがたい。(79歳女性)
今年は雪が多くて大変だったので本当にありがたい。心が温まる。(78歳女性)
足腰に痛みがあって除雪に難儀する。本当に助かる。子どもたちの親切が身に染みる。(82歳男性)
自分ではどうしようもなかった。手伝ってくれる気持ちだけでうれしい。(60歳男性)
雪下ろしをしてもらい本当にうれしい。元気がつきます。(86歳女性)
懸命に頑張ってくれている。おかげさんです。(92歳女性)
妻と二人で雪掃きするのは大変。生徒たちが来てくれると本当に助かる。地域住民を助けてくれる生徒たちがとても頼もしい。(73歳男性)
黙っていても「屋根の雪なんとだぁ」って聞いてくれる。親切なもんだよ。玄関の雪寄せも近所の人が手伝ってくれるため、大雪にも不安を感じることはない。(75歳男性)
大変助かるし、孫に会っているみたいです。・同様意見ほか1人(78歳女性、除雪してもらった高齢者)
除雪と共に、生徒たちとの交流を楽しみにしている。・同様意見ほか2人(78歳女性、除雪してもらった高齢者2人)
大変助かる。生徒たちとのふれあいも楽しみにしている。(78歳女性)
年に一回の訪問を楽しみにしており、本当に助かる。(除雪してもらった高齢者談)
若い人たちが来てにぎやかになったし、真剣に雪かきをやってもらってありがたかった。(80歳男性)
非常に助かりありがたい。お礼に赤飯を作って学生に振る舞った。(81歳女性)
体が不自由なため除雪できず、ボランティアに助けられた (12人)
足を痛めているので1人で片付けるのは大変だった。本当に助かります。・同様意見ほか7人(77歳女性2人、76歳女性、86歳女性、75歳男性2人、87歳男性、除雪してもらった高齢者)
今年の冬は三回雪下ろしを自分で行ったが、一人では危険で十分にできなかった。ボランティアに来てもらって助かった。(75歳女性)
今月に入り3回も雪下ろしをしたため手に力が入らなくなった。今年は雪が毎日降るので心細かった、と支援にほっとした様子だった。(75歳女性)
何とか毎日雪寄せしているけれど、体のあちこちが痛くて大変。生徒たちが来てくれてありがたい。(除雪してもらった高齢者)
重い心臓病で15種類の薬を手放せず、雪かきはできない。昨日の朝もボランティアの男性が除雪機で市道までの小道をつくってくれた。自分のことでやっとなのはずなのに。心配してもらって、本当にありがたい。(除雪してもらった女性高齢者)
不安が解消された (20人)
片付けがままならず困っていたのでとっても助かる。・同様意見ほか2人(除雪してもらった高齢者2人、84歳女性)
一人暮らしなので雪おろしができず、家がつぶれるのではないかと心配していた。とてもありがたい。(87歳女性)
ひさしのつららが落ちて不安だったが、取り除いてもらい助かった。野球部員のパワーはすごい。(80歳女性)
除雪中に腰を痛めて自分でできず、窓ガラスが壊れないか心配だった。雪を寄せてもらって本当に助かった。(75歳女性)

屋根に積もった雪の重みで家がつぶれないか心配だった。雪下しをしてもらい本当にありがたい。(除雪してもらったお年寄り談)
昨年12月から3回自分で屋根に上がって雪おろしをしたが、腰を痛めて立つのもつらくなっていた。家がつぶれるより先に自分がつぶれてしまった。雪下しをお願いしたらすぐ来てくれて助かった。気持ちが休まった。(79歳女性)
屋根から落ちた雪もあり、積雪は2メートルを超えた。硬くなった雪をスコップで崩し、スノーダンプで運び出した。毎朝の除雪で疲れ、食事を作る元気もなくなってきた。除雪を手伝ってもらい、今日はゆっくり休めた。ありがたい。(85歳女性)
勝手口をふさいでいる雪と、勝手口に通じる通路の雪をスコップでかきだし、スノーダンプで排雪してもらい、本当に助かりました。これで安心です。(86歳女性)
今年の雪はここ何年かで一番。どうにもできない状態だった。若い人(ソフトボール部員)の働きぶりは元気いっぱい。屋根に達する程積もった雪がなくなり、安心して生活できる。ありがたい、の一言です。(86歳女性)
雪の量は去年の倍くらいあり、ここ1週間毎日片付けていたが1人ではどうしようもなかった。これで枕を高くして眠れる。(72歳男性)
妻と二人暮らしで危険なため雪かきができなくてとても困っていた。若い人たちに助けてもらい、ありがたい。(78歳男性)
車椅子で週4回デイサービスに出かける。玄関先に少しでも段差があっても困る。きれいに雪かきされた玄関先を見て、雪が降っても外に出る生活は元気の源です。(除雪してもらった男性高齢者談)
雪で外出できないと考えると恐ろしい。いつも助かっている。(81歳男性)
除雪ができなくて困っていたので助かります。室内がとても明るくなりました。・同様意見ほか2人(75歳女性、69歳女性、85歳女性)
学生の除雪のお陰で約2週間ぶりに部屋に日光が差した。本当に良かった。若い人は力があるし、元気がいい。(77歳女性)
除雪と屋根から下ろした雪で家屋の1階部分はすっぽり覆われ、家の中に外光が入らない状態だったが、行員の皆さんが2メートル近く雪を掘り起こして窓が見えるようにしてくれた。おかげで家の中が明るくなった。本当にありがたい。(76歳女性)
感謝 [ありがたい、助かった] の声かけ (20人)
雪の多い地域なので非常にありがたい。・同様意見ほか3人(除雪してもらった高齢者、75歳女性、85歳女性、80代男性)
朝起きてカーテンを開けると、どうしようと思う。本当にありがたい。(87歳女性)
玄関の歩くところだけは毎日除雪していたけれど、それでも大変だった。若い人たちが来てくれて本当にありがたい。(84歳女性)
今年は雪が多いので本当に助かります。・同様意見ほか7人(除雪してもらった女性高齢者談、87歳女性、75歳女性、81歳女性、85歳女性、55歳障害者男性、61歳男性、68歳男性)
自分では少ししか除雪できなかったのが本当に助かる。・同様意見ほか2人(84歳女性、78歳女性、83歳男性)
学生たちの献身的な働きぶりに感謝。助かった、本当にありがとう。(91歳男性)
この冬はもう8回も雪下ろしをして、もう限界。本当に助かる。(73歳女性)
毎年来てもらって本当に助かります。(79歳女性)
施設長、校長、ブドウ農家の謝意 (6人)
毎年来てもらってありがたい。助かっている。(除雪してもらった施設長談)
困っているときにタイガーマスクが来てくれて、本当に助かった。(除雪してもらった施設長談)
今年は雪が多く、自分達だけでとても除雪できない。本当に助かっている。(除雪してもらった保育園長談)
人力や小型除雪機では、どうしようもなかった。何とか通常通り新学期を始められ、とてもありがたい。(除雪してもらった小学校長談)
ブドウ棚除雪は機械が使えず、家族3人では限界がある。大変ありがたい。(秋田県のブドウ農家談)
2ヘクタールのブドウ園を1月以降、計4回雪寄せした。学生たちに感謝している。積もった雪を寄せないと棚が倒れ、枝が折れてしまう。除雪が追いつかず多くのブドウ農家が苦勞している。(秋田県のブドウ農家談)
その他 (3人)
自分ではもう何ともできなかった。(74歳女性)
偶然通りかかった中学生に除雪の手伝いを依頼したがすぐに協力してくれた。お礼にお菓子をあげると言っても断った。二週間前にも手伝ってもらった。名前を聞く間もなく立ち去ってしまい誰だかわからないが、学校で善意をたたえて欲しい。(除雪してもらった女性高齢者談)

<p>農家Tさん、急に暖気になった。雪の重みで棚が壊れてしまう。ここ1、2日が勝負だ。Iさんも、朝から晩まで果樹園の除雪に明け暮れる毎日。体が悲鳴を上げ、もう限界だ。Tさんは、今冬は延べ30人に約50万円払って除雪や雪踏みなどを手伝ってもらったが、作業は追いつかない。雪解け後は相当な被害を覚悟しなければならない。死活問題だ。Tさんの妻は知人に依頼してインターネットで除雪ボランティアを募集し始めた。(秋田県のブドウ農家談)</p>
--

3. 支援機関職員等【12人】の感想や発紙上発言を分類整理した結果

表9.

<p>感謝の意味が込められているもの（7人）</p> <p>市も全力で除排雪を行っているが手が回らない部分もある。市民が自ら協力してもらえるのは有難い。市としても出来る限りの支援をしたい。(市役所担当課長)</p> <p>市民の安全、特に高齢者世帯が心配だ。市民ボランティアの皆さんの温かい心に感謝している。(市長の挨拶)</p> <p>「この辺りは道路が狭く、高齢者世帯は玄関前の除排雪もままならない。30年程空き家のままになっている家は、つぶれるのではないかと心配だった」とボランティアに感謝していた。(自治会長67歳男性)</p> <p>皆さんの活動は心強く、地域に大きな安心感を与えている。(市社協会長の挨拶)</p> <p>野球部の除雪ボランティア活動は、高齢者や障害のある人に、大きな安心を与えている。地域への貢献に感謝すると共に、甲子園での活躍を願って応援したい。(市社協会長の挨拶)</p> <p>普段お世話になっている地域の人たちに恩返しができる。生徒たちは一生懸命やった、と頑張りを称えた。(学校副校長)</p> <p>お年寄りには雪に慣れており、冷静に対応している。近所のみなさんも協力しているので助かっている。(社協職員、男性)</p>
<p>普及・啓発の意味が込められているもの（5人）</p> <p>子どもと大人が一緒に汗をかくことで、地域の絆を培うきっかけづくりになれば嬉しい。(社協事務次長(56歳)男性)</p> <p>地域に子どもたちの姿が見えるよう続けていきたい。(校長)</p> <p>日頃から声を掛け、困れば手を貸したりしている人たちが多い。他地域以上に雪が降るから冬への心構えもできているし、助け合う気持ちも強いのではないかと。(社協支所長)</p> <p>大雪は大変だが、作業を通じて、私達の地域を理解して欲しい。(自治会長67歳男性)</p> <p>「山沿いではお年寄りだけの世帯を地域の人が助ける仕組み(共助による除雪)があるが、市街地で積雪が増えているのを特に懸念する」と除雪ボランティアセンター設置について説明した。(市長)</p>

考 察

新聞社の取材・掲載方針にも影響されるところが大きいですが、表1のとおり、積雪の多い地域の新聞社が除雪ボランティアの記事にしても、活動者や利用者等の感想(紙上発言)を多く掲載する傾向にあることがわかった。

また、表2のとおり、新聞紙上に掲載された除雪ボランティアのうち、中学・高校・大学あるいは生徒とPTAのような混合型も含めて学校ボランティアが全体の4割強を占めることがわかった(163件中68件、41.7%)。そこで本稿では、活動者の感想・紙上発言を分析する上で、学校ボランティアと社会人を分けることで特徴が見出せないかと考え、中高生、大学生、社会人のように3区分で比較を試みた。その結果、中・高校生の場合は、表5に示されたとおり、達成感(25人、48%)、継続意欲(12人、23.1%)、地域に恩返ししたい(11人、21.2%)、率直な思い(4人、7.7%)の順で意見が分けられた。除雪ボランティアをしたことで役に立って良かったという達成感を味わう機会となっていることがうかがえ、これにより継続意欲も増しているものとも考えられ、「達成感」と「継続意欲」の意見群が37人(71.2%)を占めたのは、このためだと考えられる。また、もとより地域貢献意識が高い人は地域への恩返しのために行ったという主旨の発言をしているもの(11人、21.2%)と考えられる。いずれにして

も意欲的、前向きな意見で大多数が占められている特徴があり、福祉教育効果が指摘できる。一番ヶ瀬康子は、「福祉教育に関する個人の成長段階を『感性的認識』『理性的認識』『主体的認識』の3段階である」¹⁾²⁾と指摘している。この考えによれば、とくに中・高校生の場合は除雪の援助を必要とする世帯へのいたわりの気持ちと地域貢献にも繋がる社会性獲得について、ボランティア活動を通じて学習していくことが望ましいといえる。生活課題を抱えた大変な人との出会いという感性的認識から、地域の人たちで支え合うことの大切さという理性的認識へと成長を促すことにこのボランティアの機会が期待されるからである。今回の結果からも、除雪ボランティア活動での「達成感」のみならず、「継続意識」や「地域に恩返ししたい」という貢献意識の現われが示されていることから、一定の福祉教育効果が指摘できる。

なお、一番ヶ瀬は「多くの学校現場では、障害者への認識が、思春期、青年期の発達過程における人間的課題ときり結んだ認識とはなっていない。中略～理性的認識による裏づけが、小学校教育において系統化され、それが中学さらに高校また大学教育に繋がられないところに問題がある」³⁾とも指摘している。

この問題提起を踏まえながら、大学生参加者の感想をまとめた結果に注目したい。表6のとおり、達成感（7人、43.8%）や責任感・意欲（3人、18.8%）が感じられる発言が6割強を占めるが、除雪体験から雪国での暮らしの大変さを学んだ（勉強になった）という主旨の発言も4割近く（6人、37.5%）確認される。地元のために行った中高校生のボランティア体験後の感想は「達成感」、「継続意識」、「地域に恩返ししたい」という意見群の多さが特徴的なのに対して、大学生は除雪体験から雪国での暮らしの大変さを学んだ（勉強になった）という主旨の発言が占める割合が4割近くあり、趣が異なる。収集した大学生の意見が少数であるため単純に比較できないが、地域外から参加した大学生が入ることで発言内容も趣が異なると考えられる。仮に、大学生が地元で除雪ボランティアを行った後に述べた感想割合が高い状況で比較した場合に、中・高校生の意欲的、前向きな意見群が多かったという状況から更に「理性的認識」や「主体的認識」に立った発言が、大学生の間に増加するかどうかを分析する必要性を感じた。しかし、今回は限られた地域の紙上調査であったため追求できなかった。

活動者の中でも社会人の感想に注目すると、やはり担い手の中心的な存在の方が記者に話していることもあり、趣が異なっていた。たとえば、達成感を話しているもの（14人、26.4%）もあるものの、地域貢献意識、責任感（21人、39.6%）や除雪ボランティア活動の普及と啓発を狙っている発言（18人、34%）のようなものが多くなるからである。一番ヶ瀬の指摘する福祉教育の最終発展段階としての、「主体的認識」に立っての発言が多くなっていることがわかる（表7参照）。

このように活動者の感想に注目すると、中・高校生・大学生の場合は実体験で学んだことが指摘されている発言の多さから福祉教育効果が示唆され、社会人においては人の役に立つ充実感とともに地域の人たちに協力してほしい、注目するようになってほしいという訴えかけを行うこと、つまり社会へのアピールを通じて自己実現を図っている傾向が指摘できる。除雪ボランティアに携ることにより、それぞれの世代に応じて体験的に学んでいるということが示唆され、こうした面からも除雪ボランティアがもたらす効果を確認することができる。

続いて、視点を利用者側の感想に変えてみていきたい。表8において、感謝の声かけ（20人、25.3%）、不安が解消された（20人、25.3%）、心の支え、ボランティアとの交流を楽しみしている（18人、22.8%）、体が不自由で除雪できずに困っていたので助かった（12人、15.2%）と区分されたように、感謝だけでなく、ボランティアと接する喜びや信頼感を抱くようになり、生きがいを提供していることが示唆される。このようなところからも除雪ボランティアがもたらす効果を確認できる。

さらに、市町村社協等の支援機関のコメント掲載は少ないものの、謝意や励ます声掛け（7人、58.3%）と除雪ボランティアの普及・啓発を願う発言（5人、41.6%）で占められ、地域福祉推進の一翼を担って欲しいとの支援機関からの期待が感じられる（表9参照）。このようなところからも除雪ボランティアが地域にもたらす効果が確認でき、以上の多面的効果が見られたことを本稿の終わりに指摘したい。

ところで、今回このように積雪地域8道県の新聞紙上調査を行うことで、高齢者宅の除雪以外にも、児童の通学路を地域住民協力して除雪すること、施設の除雪、ブドウ棚の除雪、グリーンツーリズムの一環として除雪を楽しむ、伝道芸能発表会場や雪まつり会場の除雪等、活動領域の広さを改めて実感した。いずれの活動領域であっても住民の自主的除雪活動が地域の良好な人間関係づくりに一役買い、地域に活気を取り戻すきっかけとなるような相乗効果の可能性も含まれるかも知れない。今回は除雪ボランティアに関与する人たちの感想（紙上発言）だけに注目したが、次回は除雪ボランティア活動が地域づくり（コミュニティの絆形成）に影響をもたらしていると思われる事例を抽出していき、検証を試みたいと考える。

文献

- 1), 3) 一番ヶ瀬康子「子どもの発達と福祉教育」一番ヶ瀬康子・大橋謙策編『学校における福祉教育実践』光生館 1988年 p13
- 2) 原田正樹「地域福祉の主体と福祉教育」社会福祉士養成講座編集委員会『地域福祉の理論と方法』中央法規 2009年 p68
- 4) 笈川卓也「秋田県の除雪ボランティア活動の状況とこれから」雑誌「ゆき」第68巻 雪センター発行2007年7月 pp28-33
- 5) 高橋和幸「除雪ボランティアを通じた互助・共助コミュニティの構築に関する研究(その1)」ノースアジア大学総合研究センター教養文化論集第5巻2号 2010年3月 pp111-124
- 6) 高橋和幸「除雪ボランティアを通じた互助・共助コミュニティの構築に関する研究(その2)」ノースアジア大学総合研究センター教養文化論集第6巻1号 2011年2月 pp115-129

第二次世界大戦後の東西ドイツ鉄鋼業（２）

白川 欽哉

はじめに

著作の構成と分析目的

第二次世界大戦前のライヒの鉄鋼業

占領期の東西ドイツ鉄鋼業

建国後の東西ドイツ鉄鋼業（以下、本稿）

- (1) 原燃料の調達
- (2) 生産設備、工場立地、貿易の再編
- (3) 企業と労働力構成の再編

まとめ

建国後の東西ドイツ鉄鋼業

1949年の東西ドイツの建国は、戦勝四カ国による占領統治が終わるとともに、戦後の賠償支払いに関する政策が大きく変化する契機となった。

西ドイツでは、1949年9月に首相に就任したアデナウアー首相が、アメリカ高等弁務官を通じてデモンタージュ（工場解体・撤収）の中止・縮小を連合側側に訴えたが、アメリカ以外の占領国は否定的であった。しかし、10月7日に東ドイツが建国して以降、様相は一変し、西ドイツの西側世界への統合（経済、政治・外交、安全保障など）に向けて、アデナウアーと米英仏の高等弁務官との間で交渉がなされ、11月22日にはボン近郊のペータースベルクで協定が結ばれた。この協定以後、西ドイツの政治・外交上の西側統合や、戦後賠償の緩和が段階的に進展していくこととなった¹⁾。

他方、東ドイツでは、建国後も対ソ連賠償は続いた。当初の懲罰的な工場解体・移送はなくなったものの、賠償生産は放棄されることはなく、公式には1953年12月31日まで実施された²⁾。とはいえ、50年代前半に西側連合国との政治・外交上の駆け引きが激しくなるなかで、ソ連は東ドイツに要求する賠償生産の規模を大幅に削減した。

こうした占領政策の転換は、本研究ノートの「 」と「 」³⁾において確認してきた東西ドイツの鉄鋼

1) 詳しくは、金子新「西ドイツの建国とルール国際管理 アデナウアー外交の起源（1948-1949年）」、『敬愛大学国際研究』第14号、2004年12月、16-26頁を参照されたい。成瀬治・山田欣吾・木村靖二編著『世界歴史体系 ドイツ史3 1890年～現在』山川出版社、1997年、361-363頁。Dietrich Thränhardt, *Geschichte der Bundesrepublik Deutschland, erweiterte Neuausgabe*, Frankfurt am Main 1996, S.79.

2) 例外はヴィスマートウラン採掘会社で、54年以降もソビエト・ドイツ株式会社と名称をかえてソ連へのウラン供給を行っていた。Werner Matschke, *Die industrielle Entwicklung in der Sowjetischen Besatzungszone Deutschlands (SBZ) von 1945 bis 1948*, Berlin 1988, S.216-219.

3) 拙稿「第二次世界大戦後の東西ドイツ鉄鋼業（1）」、『教養・文化論集』第6巻第2号、2011年3月、171～182頁。

業にどのような影響を与えたのであろうか。以下では、その問いに応ずるべく、1950年代から70年代までの状況について、(1)原燃料の調達、(2)生産設備、(3)企業と労働力構成の再編に的を絞って検証することにしよう。

(1) 原燃料の調達

(a) 国内の状況

占領政策の転換により、東西ドイツの鉄鋼業は、再び国内産の鉄鉱石を利用することが可能になった。西ドイツでは、戦前から依存していたスウェーデン、フランス、スペインなどの鉄鉱石の輸入が再開・拡大した⁴⁾。東ドイツでは、ソ連産鉄鉱石への依存を強めながら、東西分断によって生じた供給不足の改善に努めた。

戦後の西ドイツ内の鉄鉱石埋蔵量は36億トンで、鉄含有量が平均32%と仮定すると約11.5億トンの原料が潜在的に供給可能であった。主要な産地は、ニーダーザクセン州ギフホルン郡（総産出高の39%）とザルツギッター（12%）で、そこでの採掘量は、1950年代から60年代初頭までは旺盛な復興需要に牽引されながら急速に拡大した。他方で、1950年代末から外国産の安価で鉄含有量の多い原料の輸入が増えはじめた結果（後述）、60年から68年までに国内30ヶ所の鉱山が操業停止に追い込まれた。82年にはさらに5ヶ所に減少し、国内産よりも海外鉄鉱石の利用が一般的となった⁵⁾。

他方、東ドイツについては、ハルツ山麓とテューリンゲンに小規模な鉄鉱床が存在するだけであったが、東西分裂を機にそこでの採掘が強化された。1950年代半ばまでは戦後賠償に対処するため、その後は戦後復興のために、カムスドルフにおける鉄分を含む石灰の露天掘りにも力が注がれた。ハルツ山脈のエルピングローデのプーヘンベルク鉱山、ヒュッテンローデ近郊のブラウナー・ズンプフ鉱山、ハルツ山麓北部のバーデレーベン露天採掘場とゾンマーエルシェンブルク露天採掘場でも、そうした石灰の採掘が行われた。また、前出の産地と並んでシュミーデフェルト、ヴィットマンズゲロイト、シュマルカルデンの鉱山においても、50年代末まで鉄鉱石の採掘が急ピッチで行われた。しかし、鉱山の埋蔵量の少なさ、採掘された鉄鉱石の鉄含有量の少なさ（約22%）がゆえに、東ドイツは復興需要を支えることができず、経済相互援助会議（以下、コメコン）加盟以後は、ソ連からの鉄鉱石輸入に大きく依存するようになった⁶⁾。

(b) 鉄鉱石の輸入

鉄鉱石の輸入は、戦前からドイツ鉄鋼業に不可欠のものであった。第二次世界戦後にドイツが分裂して以降も、とくにスウェーデン産の良質なラップラント鉱⁷⁾とフランスからのミネット鉱⁸⁾の輸入に依存する状況は変わらなかった。もちろん、東西に分かれたことで、それぞれの輸入国の構成は変化した。

4) 前掲拙稿、174頁。

5) Karl Eckart, Die Eisen-und Stahlindustrie in den beiden deutschen Staaten, Stuttgart 1988, S.54-59.

6) Autorenkollektiv, Ökonomische Geographie der Deutschen Demokratischen Republik Band 1, Gotha/Leipzig 1976, S.205. ソ連産鉄鋼石の輸入により、1980年代までに多くの鉱山が操業停止となり、80年代後半までに、エルピングローデの採掘場を残すのみとなった。Karl Eckart, a.a.O., S.59.

7) 鉄含有量が60%以上（良質なものでは68～69%）と高品位であったが、燐の含有量もまた3%以上であった。小林賢齊『西ドイツ鉄鋼業』有斐閣、1983年、110頁。

8) 周知の通り、ミネット鉱はロレーヌ（ドイツ語圏ではロートリンゲン）地方で採掘される燐含有率の高い鉄鉱石である。同地方で産出される「強大な鉄鉱石（Minerai de fer fort）」と呼ばれる鉄成分の多い粉鉄鉱は、中世から重要な製鉄原料となっていたが、同地方では、さらに品質の悪い有燐鉄鉱石＝「小さな鉱石」＝「ミネット（Minette）」の産出が多かった。ミネット鉱の利用が最も拡大したのは、19世紀の第4四半期に脱燐の技術を応用したトーマス転炉が登場して以

とりわけ、東ドイツは、西側諸国からの離脱と社会主義化により、ソ連からの輸入に強く依存するようになった。

鉄鉱石の輸入量については、両国の生産基盤、経済成長の規模などにより異なる推移を示した。西ドイツの場合、景気循環や資源危機の影響を受けつつも、1950年から74年までに、約400万トンから5700万トンへと急テンポで増加した。他方で、東ドイツでは、50年代前半に増えた形跡が見られたが、以後は400万トン程度で推移した⁹⁾。

輸入先について、いま少し詳しく見てみよう。西ドイツの場合、1952年には960万トンの鉄鉱石が輸入されたが、うち57.7%はスウェーデンから、またスペインからは7.0%、ノルウェーからは5.5%に相当する鉄鉱石が輸入されていた。シューマンプランとそれに続く欧州石炭鉄鋼共同体の成立にも後押しされ、ヨーロッパ諸国からの輸入が拡大した¹⁰⁾。東ドイツについては、東西分断により、鉄鉱石はもとより石炭の調達にも苦慮していた。そうしたなかで、とくにソ連（1952年：24万6000トン）からの輸入は、同国の鉄鋼生産の支柱となった。また、戦前から取引のあったスウェーデン（7万2000トン）からの輸入にも強く依存していた。

1960年代は、とくに西ドイツの鉄鉱石輸入の構造に大きな変化があった。背景には、西ドイツの経済復興と高成長の過程で設備投資が拡大し、旺盛な鉄鋼需要が生まれたことがあった¹¹⁾。50年代後半の復興期には、スウェーデンからの安定供給に加えてフランスからの輸入が増大し、西ドイツの鉄鉱石輸入は両国によって下支えされた。他方で、60年代初頭からは、ペルー、ヴェネズエラ、ブラジル、インドからの安価な鉄鉱石の輸入が始まった。

東ドイツに目を転じると、1960年代は一旦スウェーデンからの輸入が、部分的にインドに代替されたこと、60年代後半から前者からの輸入が復活したことが確認される。ソ連への輸入依存度は、スウェーデンの比率の大幅な後退により一層増すこととなった。また、西ドイツに類似した動きとして、ブラジルやインドといった途上国からの鉄鉱石輸入が60年代前半に増大したことがあげられる。

途上国からの輸入増という傾向は、1960年代全体を通じて強まり、西ドイツでは、とくにブラジル、リベリアからの輸入増が顕著であった。それを支えたのは、ドイツ企業の現地での資本参加や直接投資であった¹²⁾。70年代に入ると、それらにヴェネズエラ、オーストラリア、カナダからの輸入が加わり、それら五カ国で鉄鉱石輸入全体の80%を占めるまでになった。

東ドイツでは、1970年代からブラジルとインドの比重が以前よりも高まり、70年に約97%のシェアを有していたソ連産の鉄鉱石輸入は、77年に73%に低下した。途上国を中心とする鉄鉱石輸入は、80年代に一層拡大した¹³⁾。

西ドイツの鉄鉱石輸入にとって重要だったのは、港湾と河川・運河の利用と貨物船の規模の増大であった。大量輸入が運輸コストの増大を軽減するような規模の経済性が、不可欠だったのである。伝統的輸

後のことであった。トーマス転炉の普及は、ヴェストファーレンのルール地方の鉄鋼業の成長を牽引した。オットー・ヨハンゼン（三谷耕作訳）『鐵の歴史』慶應書房、1932年、131頁、325～328頁。ミネット鉱については、さらに小林賢齊、前掲書、109頁も参照されたい。興味深いのは、トーマス法が、生産技術・方法としては廃れていたものの、約70～80年後の西ドイツ（西ヨーロッパ全体）においても鉄鋼生産に利用されていたことである。北村喜義『旧東独の企業システムと鉄鋼業』御茶の水書房、2000年、142～143頁。

9) Karl Eckart, a.a.O., S.59.

10) 小林賢齊、前掲書、113頁。

11) 当時の西ドイツにおける循環型不況をも含む経済成長の推移については、出水光一『戦後ドイツ経済史』東洋経済新報社、1978年の第5章、第6章、第7章がコンパクトにまとめられている。

12) Karl Eckart, a.a.O., S.67.

13) エックルトによれば、1980年代の西ドイツの鉄鉱石輸入においては、スウェーデンのシェアを侵食しながら進んだブラジ

送路である「ロッテルダム…ベネルクス諸国…ルール工業地帯」の出発点となるロッテルダム港の整備については、1958年に始まったユーロポートの建設が大きな意味を持った。また、そこを航行する貨物船の大型化も追求された。60年には、ベネルクス諸国の河川・運河港を利用していた鉄鋼所のうち、約90%が3万6000dwt¹⁴⁾未満の船を用いていたのに対して、70年には3万6000dwt～10万dwtの船が占める比率が83.4%に増大した。さらに75年、80年の変化をみると、貨物船の大型化は顕著であった¹⁵⁾。その結果、遠隔地からの輸送にも拘わらず、輸送コストはむしろ低減したのである。

東ドイツの場合、先述の通り、鉄鉱石の輸入はコメコンの総合計画に依存していた。1959年にアルバニアのティラナで開催された第11回コメコン総会において、ソ連からの鉄鉱石供給量が180万トン（前述の通り52年は約25万トン）に決定されたことにより、東ドイツは、鉄鋼の安定的な生産と機械工業への素材提供の基盤を得ることができた。それは、スウェーデンからの輸入が大幅に縮小する背景となったし、また、増加傾向にあったブラジル産やインド産の鉄鉱石の輸入を削減する要因にもなった。ソ連中央ロシア高地のクルスクやウクライナのクリボイ・ログ等での増産に向けて、コメコン諸国間が共同開発のための条約を結んだことも、ソ連の供給独占が強まることにつながった。しかし、70年代半ばのオイルショックに象徴される第一次産品の価格上昇と、ソ連の追随政策はコメコン諸国内でも波紋を呼び、76年頃からはブラジルやインドからの輸入を再び増大させねばならなくなった。

(2) 生産設備、工場立地、貿易の再編

つぎに、1950年代から70年代にかけての東西ドイツ鉄鋼業の生産力的変化を概観することにしよう¹⁶⁾。変化を確認する際のポイントは、生産設備、工場立地、輸出の三点である。

(a) 銑鉄生産

鉄鋼業の生産能力を表す基本的指標の一つは、高炉数である。1950年代末まで、西ドイツにおいて、その数は120基から160基（ザールラントの高炉をも含む）に増加したが、60年代初頭から72年にかけて一気に減少し、78年には84基を数えるに過ぎなくなった。

1950年代は生産工程の一貫化がなされたり、設備稼働率が高められたりした時期であった。その代表例が、ブレーメン近郊ヴェザー川下流域で新設されたクロックナー社 (Klöckner & Co.) の銑鋼圧延一貫工場であった。10平方キロメートルの広大な敷地、北海に続くヴェザー川河口のブレーマーハーフェンにつながる自社の港を擁する鉄鋼所が、55年に建設を開始し、57年には粗鋼生産にこぎつけることとなった。同工場は、とくに60年代後半から70年代半ばの好況期に巨大な投資プロジェクトが実施され、一躍注目された。同社の成長要因としては、建築資材や造船用の平鋼¹⁷⁾の需要の増大、ミンデン、ハノーヴァー、ブラウンシュバイクなどのヴェザー川流域¹⁸⁾の諸都市との河川・運河を利用した結びつき、そ

ルの比重の急激な高まり、南アフリカの新規参入などが特徴的であった。東ドイツでは、ソ連の比重が70年代以上に低下したのに対して、インド (26.6%)、ブラジル (4.5%)、スウェーデン (3.8%) の三国の合計は、輸入全体の三割強に達するようになった。Karl Eckart, a.a.O., S.65.

14) 「dwt」(Dead weight tonnage) とは、載貨重量トン数のことを指す。自己の燃料等をも含めた貨物の最大積載量の重量である。

15) Karl Eckart, a.a.O., S.68.

16) 紙幅の都合から、この研究ノートでは、銑鉄部門に限定して検討し、粗鋼部門や圧延部門については、別稿にてまとめていきたい。

17) 鋼材倶楽部編『鉄鋼の実際知識』東洋経済新報社、1995年、47頁。

18) ヴェザー川の源流は、テューリンゲン州のフルダ近郊から流れるフルダ川と、ズールからアイゼナッハの西側をフルダ側に並行して流れるヴェラ川である。

うした水路網を通じた鉄鉱石、屑鉄、コークスの調達の様やすさなどがあつた。

1960年から67年は、老朽化した高炉を減らしつつ、比較的新しい設備の増設・増強がなされた時期であつた。さらに、68年から70年代初頭にかけては、既存の高炉の稼働率を引上げて好景気の需要に対処していた。70年代半ばから80年代初頭になると生産と資本の集中が進み、数多くの小規模な高炉の解体と、直径の長い大型高炉、したがって生産能力の高い高炉の設備稼働率の引上げがなされた。

大規模な企業集中の事例としては、1973年のティッセン (August-Thyssen-Hütte AG) によるライン鉄鋼所の買収があげられる。また、象徴的な高炉解体は、戦前・戦中・戦後の北ドイツにおける銑鉄供給の要となっていたリュウベック製鉄所 (Hochofenwerk Lübeck) が、欧州の鉄鋼不況を背景に75年にUS スティールに売却され、81年以降、倒産・解体されたことであつた。さらに、古くからの鉄の町パイネ・ザルツギッター鉄鋼所においては、74年時点で稼働していた9つの高炉のうち、イルセーデの3基が解体されたのを皮切りに、83年までに1基に減少した。クレックナー社でも、15基あつたものが84年に8基にまで減つた。マンネスマン鉄鋼所では5基が2基に、ティッセン鉄鋼では19基から11基に削減された。クルップ鉄鋼についても、74年時点でラインハウゼン、ジーゲン・ガイスワイトにあつた7基の高炉が、84年には4基に削減された¹⁹⁾。西ドイツの鉄鋼業は、一方において、競争力強化に向けた企業合併が行われるとともに、他方では企業淘汰の時代に入つたのである。

東ドイツについては、建国後から1953年まで、東西分断によって不足する鉄鋼材料の生産を増強するために、新しい高炉を擁する製鋼所の建設が行われた。51年に始まる第一次五カ年計画の柱の一つとなつたアイゼンヒュッテンコンビナート・オスト (Eisenhüttenkombinat Ost : EKO) とカルベ製鉄所 (Eisenhüttenwerke West in Calbe) の新設がそれである。

前者は、東ドイツ北東部の国境地帯オーデル川沿いのフルステンベルクに1950年8月から急ピッチで建設され、翌年の9月から操業を開始した。さらに52年末には4基、その後は合計2基の高炉が建設された。鉄鋼資材の消費地は、西部のベルリン・ポツダムや南部のザクセン地方の機械工業 (電機、精密機械、繊維機械、自動車など) であつた。華々しいスタートを切つたEKOではあつたが、その後の更新投資は緩慢であり、1980年代に入つても、EKOでは50年～54年に建設された設備をそのまま使用し続けていた。安価なソ連製銑鉄を輸入するほうが、新規投資で工場を建設・稼働するよりも経済性が高いという判断があつたからであろう。

他方で、ベルリン西方のマクデブルクからハレ・ライプチヒの機械工業や化学工業への鉄資材の供給を担うべく、1950年からはカルベ製鉄所の建設が始められた。東ドイツとポーランドの国境地帯に立地するEKOが、ポーランドからの石炭コークスやソ連からの鉄鉱石の調達を企図して建設されたのに対して、カルベ製鉄所は、国産の原・燃料を使用する工場として計画された。通常の高炉ではなく、低炉 (Niederschachtofen)²⁰⁾による製銑がこの製鉄所の最大の特徴であつた。52年末まで急ピッチで建設された10基の低炉を基礎に始められた銑鉄生産は順調に進められるかに見えたが、54年の「新コース」²¹⁾によって拡張計画が縮小され、新規の建設投資は行われなくなった。大幅な技術刷新をすることなく続けられたカルベ製鉄所での生産は、70年以降、ソ連からの銑鉄の輸入のほうが安価である、という理由

19) 高炉数の変化については、エックルトの著書の本文から抽出した。Karl Eckart, a.a.O., S.145-146.

20) 低炉とは、高さ10メートル以下の溶鉱炉のことを指す。カルベ製鉄所の低炉では、ザクセン・アンハルト地方の鉄含有量の少ない菱鉄鉱や赤鉄鉱 (ハルツ山地) と、同地方で精製された褐炭コークスを原料としていた。世界で最初に建設され稼働した低炉は、東ドイツ製のものであつた。

21) 1953年の労働者蜂起後、それまでの生産財優先の投資に変更が加えられ、「新コース」と呼ばれた消費財生産優先の政策により重化学工業部門での設備投資が減退し、それに伴って、高炉建設計画の縮小がなされた。Karl Eckart, a.a.O., S.128.

から完全停止されることになったのである。

EKOとカルベ製鉄所が、戦後に至るまでまったく鉄鋼業とは無縁の地に「新設」されたのに対して、ウンターヴェレンボルンのマックスヒュッテ (Maxhütte) では、戦前・戦中からの老朽設備を利用して生産が続けられていた。1950年代は、戦前・戦中からの関係を継承してスウェーデン産とソ連産の鉄鉱石、そしてテューリングンの鉄鉱石を使用していたが、徐々にソ連産への依存度を高めた。その後マックスヒュッテでは、旧式の高炉の修理・改修に力が注がれたものの、新規に積極的に設備投資が行われることはなかった。

以上でみてきたとおり、西ドイツの鉄鋼部門では、1950年代の復興期から高成長が続いた70年代半ばまでは、高炉数を増やしたり、生産能力の増強をはかったりして国内の需要に応えようとしてことがわかる。しかし、70年代半ばを境に鉄鋼不況が西ドイツを含む欧州全体を襲い、企業統合や閉鎖を伴う再編が進行したことも確認できた。他方で、数少ない東ドイツの鉄鋼部門への設備投資は、50年代半ばから70年代半ばまで停滞し続け、そのまま80年代に突入した。ソ連など諸外国からの輸入への依存度が高まったことにより、東ドイツの機械を中心とする金属加工業全体は外的要因に左右されやすくなったのである。

そうした要因の影響を確認すべく、つぎに東西ドイツ鉄鋼業の鉄鋼部門を輸出入の観点から追うことにしよう。

1952年の西ドイツからの鉄鋼輸出は約33万トンで、輸出先はベルギー (24.4%)、イギリス (18.2%)、スウェーデン (15.4%)、USA (7.6%)、イタリア (6.6%)、スイス (5.4%)、デンマーク (4.0%) が、その9割以上を占めていた。反対に、西ドイツの鉄鋼輸入は約14万7000トンで、オーストリア (88.4%) が排他的な地位に、スウェーデン (6.7%) が補完的な地位にあった。その後60年にかけて、西ドイツからの輸出は、イタリア (約30%)、オーストリア (13%)、日本 (8%) 向けが増加し、ベルギー、イギリス、スウェーデンといった50年代の主要輸出先の比重が低下した²²⁾。さらに、70年代に入ると、フランス、ベネルクス諸国、イタリア向けの輸出だけで6割を超えるようになり、さらにポーランドへの輸出も目立つようになった。

輸入については、独占的な地位にあったオーストリアからの調達に1960年には完全に途絶え、代わってフランス、ベネルクス諸国、フィンランド、スペイン、カナダ、南アフリカ共和国などからの輸入が全体の75%以上を占めるようになった。しかし、その状況も60年代半ばから70年代初頭にかけて変化した。とくにフランス、ベネルクス諸国、そしてノルウェー、カナダの比重の高まりが顕著であった。70年代半ばから80年代初頭には、それにブラジルが加わり、さらにソ連からの輸入が約10%以上を占めるようになったことも大きな変化の一つであった²³⁾。

以上の西ドイツの鉄鋼の輸出入の動向から、オイルショック前までは欧州統合との関連で、徐々に欧州内部での取引が増大していたこと、オイルショック後には、とくに輸入先として北米や南米の比重が高まったことを確認することができた。西ドイツをも含む欧州とは対照的に、アジア・アフリカ・ラテンアメリカの途上国・中進国の鉄鋼業が鉄鋼の分野において台頭してくる兆候が見え隠れするようになったのである。

つぎに東ドイツについて確認しよう。1950年代から60年代において東ドイツの鉄鋼輸出は、ソ連向け

22) Karl Eckart, a.a.O., S.153.

23) このソ連の動きが、同国の外貨獲得の目的と一致していたことは想像にかたくない。さらに、その結果としてソ連からのCOMECON諸国への原料供給が制約を受け、東ドイツもその煽りから輸入先を変更せざるを得なくなった。

が中心で量的にも大きな意味を持っていなかった。しかし、東ドイツが西ドイツとの国交を樹立し、国際社会の仲間入りを果たす動きが見られた60年代末から70年代初頭にかけて、量的には1万トンにも満たない小規模なものではあったが、非社会主義諸国への銑鉄輸出が増大した。外貨獲得、石油危機、対ソ外交の変化などが、東ドイツの政治・経済を揺り動かすなかで、70年代前半は日本、イタリア、ベネルクス諸国、スウェーデン、イギリスへの輸出の割合が増大した。70年代末になるとユーゴスラビア、オーストリア、スウェーデンの3国への輸出に集約されるようになった。

こうした輸出関連の動きに対して、東ドイツの銑鉄輸入は、長期にわたりソ連に依存していた。1952年には約70万トンの輸入銑鉄のうち93%はソ連から、残りはスウェーデンから調達していた。66年～70年までは合計約370万トンがソ連から、71年から75年までは合計460万トンの銑鉄がソ連から輸入されていた²⁴⁾。安定的なソ連からの銑鉄供給は、脆弱な半製品の調達基盤を有する東ドイツ鉄鋼業を長期的に下支えしていたのである。輸入依存という状況下でなされていた先述の銑鉄輸出は、国内に余剰が発生したから実現したのではなく、国内需要を犠牲にしてまでも外貨を獲得したい、という政策的な意図とつながっていたことが推察される。

(3) 企業と労働力構成の再編

ここまで確認してきた東西ドイツ鉄鋼業の生産力的変化は、それぞれの国の企業や労働力構成の再編を伴うものであった。

1947年に米英軍政府の共同管理下において発令された経済力過度集中排除令や、48年の「ドイツ石炭・鉄鋼業の新秩序」の形成に関する指令は、その後に建国する西ドイツの鉄鋼企業の再編を促すものであった。まずは、戦中の合同製鋼やヘッシュ (Hoesch)、クルップ (Krupp)、クレックナー、グーテホフヌング (Gutehoffnungshütte)、マンネスマン (Mannesmann) といった鉄鋼コンツェルンの再編が行われた。また、50年代初頭のシューマンプランと欧州石炭鉄鋼共同体の設立後には、西ドイツの復興と平和産業の育成に向けて生産制限が解除され、鉄鋼信託連合 (Stahltreuhändervereinigung)²⁵⁾を通じた企業再編が行われた²⁶⁾。

その再編ののちに西ドイツ鉄鋼業にできあがったグループは、ティッセン・フェニックス (Thyssen-Phönix)、クルップ、ヒュッテンユニオン (Hüttenunion)、クレックナー、マンネスマン、ヘッシュ、グーテホフヌング、ザルツギッター、ライン鉄鋼 (Rheinstahl)、レヒリンク (Röchling)、オットー・ヴォルフ (Otto Wolf)、フリック (Flick)、イルセーダー鉄鋼所 (Ilseeder Hütte) といった13の企業集団であった。グループ傘下の企業は、高度成長と欧州域内貿易の拡大が生む国内外の鉄鋼需要に牽引

24) さらに忘れてならないのは、「東西ドイツ間取引」と称する東西間の商品・サービスの取引に70年代から80年代初頭には、2万～3万トンの銑鉄が東ドイツに供給されていたことである。Karl Eckart, a.a.O., S.154.拙稿「ソ連占領下の東西ドイツ取引の成立」『経済学部紀要』(秋田経済法科大学)第41号、2005年3月、1-23頁(計23頁)では、この東西間取引の初期の状況を分析している。また、フリードリヒ・フォン・ハイル氏の著作では、東西ドイツ取引全体に占める鉄鋼の輸出入額の動向を確認できる。Friedrich von Heyl, Der innerdeutsche Handel mit Eisen und Stahl 1945-1972: deutsch-deutsche Beziehungen im kalten Krieg, Köln 1997, S.78 und 169.

25) イギリス占領地域では、軍政府の冶金部の下に North German Iron and Steel Control (NGISC) を設け、鉄鋼業の一元的管理に移行した。その後、NGISC の下に鉄鋼信託管理部を設置し、ドイツ人に鉄鋼業に関する行政的管理を委託した。英米共同管理体制に移行してからは、信託連合が同様の趣旨で西ドイツの鉄鋼業界の再編に努めた。小林賢齋、前掲書、119頁と127頁。

26) なお、この再編において解体と統合が大掛かりに進められたのは、ティッセン社、フェニックス社、ライン鉄鋼などの統合によって形成されていた合同製鋼であった。クルップやマンネスマン、フリック、ヘッシュなどの旧コンツェルンは、ほとんど解体されないまま、その後の企業合同運動のなかで再編されることになった。小林賢齋、前掲書、126頁～131頁。

されて設備稼働率が上昇した。生産は、基本的に労働集約的で、大きな技術革新がなされなかったのがこの時期の特徴であった。

労働力の確保という点では、戦後数年間の労働市場は、戦後の混乱もさることながら旧ドイツ領からの避難民の増加により失業率も高かった。しかし、鉄鋼業は、そうした労働力を吸収する受け皿となり、回復から成長へのプロセスでは、彼らのなかの高い技術と経験を持った者が活用されるようになった。さらに、いわゆる「ガストアルバイター」と呼ばれる南欧やトルコからの移民が流入し、労働集約的産業の最底辺を支えることとなった。

1960年代に入ると、生産・加工方法の改良により、原料の節約と軽い鉄鋼素材の供給が可能になったこと、また鉄鋼素材を代替する合成素材、軽金属、コンクリート等が生産されるようになったこと、さらには欧州の鉄鋼市場の過剰生産が顕在化してきたことにより、新たな企業再編の波が見られるようになった。なかでも、66年の圧延鋼材の販売機構の整理・再編がこの時代を象徴する出来事であった。西ドイツを東西南北の四つの地域に分けた地域共販会社の設立がそれであった²⁷⁾。目的は、戦後初の過剰生産恐慌とそれに伴う鉄鋼不況に対処する措置であった。このカルテル結成については、欧州石炭鉄鋼共同体も期限付きで承認した（67年3月22日～71年6月30日まで）。不況対策の基調は、輸送・販売・管理コストの削減、販売施設の削減、輸送路線の変更といった流通機構全体の再編にあった。また、この機構改革とともに、生産部門の統合、老朽設備の稼働停止、生産高の調整、価格調整を行い過剰生産に対処した。

その後、地域共販会社は、1971年に「合理化グループ」と呼ばれる企業集団に代替された。このグループ化も、価格や数量を管理するカルテルに相当するものであった。その際、原料の共同購入や、企業ごとの生産特化、企業間の分業の効率化などを図りコスト上昇を抑えると同時に、価格低下を押しとどめるための数量割り当てなどの政策も採られた²⁸⁾。

こうした寡占化が進むなか、西ドイツ鉄鋼業は中短期的ブームを記録した。所得と生活水準の上昇に伴って、住宅建築、機械工業、自動車、電力の需要が高まり、鉄鋼生産の分野では、生産性の高い溶鉱炉の建設や連続鋳造法のための設備投資が急ピッチで進められた。また、1971年からの対外需要の高まりが西ドイツの鉄鋼輸出を後押しし、鉄鋼生産高に占める輸出の割合は、70年の28.5%から74年の44.4%に急増した。その結果、西ドイツ鉄鋼業は、74年に戦後最大の5300万トンの生産高を記録した。それは、67年の粗鋼生産高を約45%上回るものであった。

このブームのなかで行われた企業再編の柱は、一国規模での企業集中と欧州の近隣諸国の企業間の合併であった。前者の代表的事例は、1968年11月に、ルール石炭株式会社（Ruhrkohle AG）が、西ドイツの石炭採掘会社の約80%を統括する巨大企業として設立され、69年には全国の高炉メーカーと鉄鋼生産に関する契約が結ばれたことである。71年には、ザルツギッターとイルセーダー鉄鋼所がパイネ・ザルツギッター製鋼所に合併されたり、ルクセンブルクのARBED鉄鋼（プアバハ・アイヒ・デュエリンゲン製鉄グループ）とレヒリンク鉄鋼が資本提携したり、ヘッシュとオランダの王立ホーゴベンス製鉄所（Hoogovens）が合併するなど、欧州内の鉄鋼企業の国境を越えた統合も進んだ²⁹⁾。

27) この圧延鋼に関する4つの地域共販会社は、ドイツの鉄鋼メーカー30社ごとに連合して形成された。詳しくは、小林賢齋、前掲書、163頁。Karl Eckart, a.a.O., S.254-256. エックルトの著書の256頁の表で四つの連合の構成会社を確認することができる。

28) Karl Eckart, a.a.O., S.255. さくら総合研究所・ifo 経済研究所『日本とドイツの経済・産業システムの比較研究』シュプリンガー・フェアラク東京、1997年、414頁。

29) さらに詳しくは、Karl Eckart, a.a.O., S.257を参照されたい。

上記の組織再編がなされた1960年代から70年代前半までの労働市場は労働力不足が問題となっていた。鉄鋼業でも、外国人労働者の採用をも含めた雇用が必要であった。他方で、企業再編によって生じた失業者の再雇用の問題があった。総じて、失業者数を求人数が上回っていたのがこの時期の特徴であった。

第一次オイルショック以降、事態は大きく様変わりした。1975年以降には欧州鉄鋼市場の崩壊とともに西ドイツにも鉄鋼危機が到来した。原料としての鉄鋼自体の品質改善、代替素材の多様化による需要減、鉄鋼生産国の増大による輸出減など、西ドイツ鉄鋼業を取り巻く状況はますます悪化した。70年代前半までに増強した生産設備は、過剰な生産能力となり、業界はその整理統合を進めなければならなくなった。第二次オイルショックを前後する短期の需要拡大を除けば、80年代に入っても合理化の圧力が強まり大規模な工場閉鎖による過剰生産設備の削減、さらには人員整理がそれに続いた。85年時点の西ドイツの鉄鋼企業は、ARBED・ザール鉄鋼、ヘッシュ、クレックナー、クルップ、マンネスマン、パイン・ザルツギッター、ティッセンの6大メーカーに再編、集約されたのである³⁰⁾。

こうした1950年代から80年代までの西ドイツの動向に並行して、東ドイツ鉄鋼業ではどのような企業再編が行われたのだろうか。

東ドイツの経済復興に向けて第一次五ヵ年計画が始動し、鉄鋼部門の重点化がなされた1951年末、それまで重機械製造省の管理下に置かれていた国有の鉄鋼企業は、冶金・鉱山省 (Ministerium für Hüttenwesen und Erzbergbau) の管轄となった。しかし、同省は、五ヵ年計画を頓挫させた53年の労働者蜂起ののちに廃止され、重工業省 (Ministerium für Schwerindustrie) に改組された。国家的管理機構の度重なる改組は、経済計画の策定・管理の範囲と権限に関する合理性を追求する試行錯誤の結果であったが、以後も組織改造を繰り返した。

完全情報の下で業界単位の独占体を作り出し、その運営を経営者ではなく、国家行政の経済官僚に委ねるといった計画経済のモデルは、「国家と経営体」のリジットで厳格な関係を前提とするものであった。その具体化の際に、国家と経営体の間に、経営体を束ねる中間管理機関が置かれ、それは「経済官僚機構」「経営連合」「連合傘下経営」という三層システムを形成するための基本骨子となった。

1950年代の東ドイツ鉄鋼業においては、上記の冶金・鉱山省 (のちの重工業省) の管理下に、2つの人民所有経営連合 (Vereinigung volkseigener Betriebe : 以下、VVB) が置かれた。その一つが、ベルリンに本部を持つVVB「製鉄業」であった。この連合は、東ドイツの全国各地に立地する鉄鋼の圧延・成型加工を行う主要な工場 (経営) を統括する組織であった³¹⁾。いま一つの連合は、ライプチヒに本部を置くVVB「鉄鉱石採掘」であり、ハルツ山麓の町の三つの鉱山、エルツ山地の北側のツヴィッカウ近郊の三つの白雲石採掘場が傘下に統合されていた。こうした経営連合の長所は、単一の部門・業種の生産を水平的に結合・管理し、大量生産を指向する組織になり得たという点にあった。他方で、「鉱山 製鉄 製鋼 圧延」といった生産工程の垂直的結合と生産性向上という観点からは、問題があることも指摘されていた。

その観点を重視すべく、1960年代末には、VVBの解体と傘下経営の再編により、コンビナートの設立がなされた。アイゼンヒュッテンシュタット帯鋼コンビナート“Hermann Matern”、ブランデンブルク高級鋼コンビナート、リーサ鋼管コンビナートがそれであった。このほか、非鉄金属の鉱山・冶金

30) Karl Eckart, a.a.O., S.257. Übersicht 5 参照。

31) Karl Eckart, a.a.O., S.259. Abb.163にベルリン、ポツダム、ブランデンブルク、フランクフルト・オーダー、マクデブルク、ハレ、ライプチヒ、ズール、カール・マルクス・シュタット、ドレスデン、コトブスに立地する圧延、鍛金加工、成型加工の工場と本部との関係が示されている。

コンビナート“Albert Funk”、マンスフェルト銅鉍精錬コンビナート“Wilhelm Pieck”、ハレ選鉍コンビナートが、VVBの再編によって設立され、先の重工業省を前身とする鉍山・冶金・カリ工業省(Ministerium für Erzbergbau, Metallurgie und Kali)の管理・指導下に置かれることになった。鉍山と冶金を垂直的に結びつける管理の再編が、経済官僚機構のなかでも進んだことを示している。

先の銑鉄生産に関する箇所でも述べてきたように、VVBからコンビナートへの組織再編が行われている間、東ドイツの鉄鋼業では大掛かりな設備投資も行われず、むしろソ連からの銑鉄供給に依存する状況が続いていた。1950年代初頭にザクセン・アンハルトの重化学工業地帯に、鳴り物入りで新設されたカルベ製鉄所は、早くも70年には操業停止され東ドイツの鉄鋼業は縮小傾向を強めた。しかし、70年代初頭に東西ドイツの国交回復が実現したのちには、一時的に設備の近代化と企業再編の時代が訪れた。第一次オイルショック前は外貨獲得に向けた政策がそれを規定し、それ以後はソ連の対コメコン諸国への原燃料輸出の削減が東ドイツのアウトルキー化と集約化路線を誘因した。とくに後者の路線は、新しいコンビナート化の動きと連動し、従来の企業再編の原理とならんで、前方統合や後方統合という考え方が注目されるようになった。その結果、鉄鋼企業がコングロマリット化する可能性があったが、コンビナートの生産部門に限っては、従来からの分業体制に変更が加えられることはほとんどなかった。

さて、視点を1950年代から70年代までの東ドイツ鉄鋼業における労働力の変化に移すことにしよう。東ドイツでは、建国当初から西側への専門労働力の流出の問題を抱えていた。それに対処するため、政府は、短期間の養成コース(3ヶ月~6ヶ月)で未熟練工の職業訓練を施したり、不足するエンジニアをソ連から招聘したりした。50年の東ドイツにおける鉄鋼業の就業者数は3万6650人であったが、西側への移動、他部門への移動などにより52年末にはやや減少ぎみとなり、全国の9つの製鉄所に2万9070人が従事していた。そのうちの8120人(27.9%)はリーザ製鋼・圧延工場で、7340人(25.2%)はターレ製鉄所の労働者・職員であった。

労働環境が他産業に比べて過酷であったこともあり、鉄鋼業では労働者の移動が多かった。5760人の従業員を抱える鉄鋼コンビナートでは毎月約400人規模で配置転換が行われていた。また、専門工の不足が問題となっていた。そうした、専門労働者の養成施設はウンターヴェレンボルンのマックスヒュッテにしか存在せず、EKOやカルベ製鉄所が新設されたあとには、この問題が一層深刻なものになった。その対策は、生産の機械化と自動化によって設備稼働率を上げることであったが、そのための投資不足が足枷となった。また、西ドイツのようなガストアルパイターによる問題解決ができなかったという東ドイツの特殊事情もあった。

以後、東ドイツの鉄鋼業は、1950年代末に始まる重化学工業化、60年代後半に本格化する加工組立型工業の成長を支えるために、雇用の確保に迫られることになった。教育システムに総合技術高等学校を組み込んだり、職業技術学校を充実させたり、比較的若い学年からの職業指導を徹底したりする形で、鉄鋼業を含むさまざまな部門に若者が職業選択できる環境が整えられた。また、配置転換にも柔軟に対応できる能力の養成にも重点が置かれた。摩擦的失業を発生させないという発想から、解体・再編に巻き込まれた従業員の再教育と再雇用が徹底して行われた。

そうした試みの結果として、東ドイツ鉄鋼業の就業者数は、70年代後半に約8万人となり、50年の二倍以上に増加した。その数字を見る限り、東ドイツ鉄鋼業では、西ドイツとは異なる展開があったかのように見えるであろう。しかし、この頃から、途上国や周辺国と呼ばれた国々が資源立地の優位性から生産を伸ばし、世界市場に登場してくるようになったために、欧州の鉄鋼業全体の地位は大きく低下し始めた。ソ連からの資源供給、そして経済システムの違いという「壁」に守られていた東ドイツも、鉄鋼業のみならず世界経済の変化に呑み込まれていくことになったのである。

ま と め

最後に、東西ドイツ鉄鋼業の戦後の展開過程の特色について順を追ってまとめ、本稿を終えることにしよう。

第一に、いずれの国の鉄鋼業も、第二次世界大戦後の東部ドイツ（＝オーデル・ナイセ川以東）の資源、生産拠点、市場の喪失、敗戦までの貿易関係の短期的中断、戦後賠償という特殊な状況を経験した。

第二に、そうした共通性はあったものの、建国後の西ドイツについては、その生産拠点をほとんど変えることはなかった（ザールラント問題を除く）。反対に、東ドイツ鉄鋼業は、西ドイツからの原料・半製品の供給を大幅に失うことになり、溶鉱炉の新設をも含めて独自の鉄鋼基盤（EKO とカルベ製鉄所）を築かねばならなかった。

第三に、東西分断が決定的となったのちの1950年代は、両国の鉄鋼業の復興と成長の時期となった。西ドイツにおいては、戦後の占領政策の転換や欧州経済統合の流れを受けて、旧鉄鋼コンツェルンの再編ののちに生産拡大の動きが本格化した。60年代に入ると国際競争力の強化に向けた業界再編が進み、また設備増強や生産性引き上げのための合理化も進められた。東ドイツにおいては、ソ連の占領統治の停止と社会主義経済統合（コメコン分業）への編入という事態が、国有企業の新設と計画経済化を惹起し、鉄鋼業もその動きに沿って構造転換を図る必要があった。とくに、西ドイツからの鉄鋼原料の供給関係から切り離された東ドイツ鉄鋼業は、独自の高炉を持つ銑鋼一貫型企業を新設し、50年代の復興需要を支えた。ただし、60年代から70年代前半にかけては、鉄鋼業の拡大や技術革新は停滞し、もっぱらソ連からの鉄鋼原料と資材の輸入に依存することになった。

第四に、両国の鉄鋼業の復興・成長期から停滞・不況期への転換は、1970年代半ば以降に訪れた。西ドイツではオイルショック直後に、東ドイツではソ連の資源戦略の変更（コメコン域内の供給削減と価格引き上げ）ののちに新しい局面を迎えた。80年代の西ドイツにおいて数多くの高炉が操業停止に追い込まれ、東ドイツでも製鉄部門の増強は停滞したままであった。その背景には、とくに原料を保有する途上国（リベリア、インド、ヴェネズエラ、ブラジル等）での鉱山業と鉄鋼業の成長があった。

第五に、両国の鉄鋼輸出についてみると、西ドイツの輸出先は欧州域内がメインで、50年代から80年代にかけての変化は域内での順位変更にとどまった。むしろ、先述のように、この時期は途上国からの輸入増が顕著であった。それは東ドイツでも見られる現象であった。東ドイツ単独では、70年代初頭から外貨獲得目的の輸出が増え、70年代後半からはソ連からの原料・半製品の輸入が縮小したが、この二点は80年代以降の東ドイツの対外関係や経済危機に連なる問題として表出してくることになった。

以上本稿では、第二次世界大戦後からオイルショック直後に至るまでの東西ドイツの鉄鋼業の展開について概観してきた。そこでは、スタート条件や経済体制が異なっても、輸出入への依存、企業集中による規模の経済性の創出という点で、両国に共通して作用する経済的論理があることを確認できた。また、いずれの国にも、生産拠点の途上国への移転という世界的な規模での業界再編の力が働いていたことを看取できた。

この認識を基礎に、今後はエッカルトの著書では論証されていない論点の整理や事実確認を行い、より具体的でダイナミックな東西ドイツ鉄鋼業の実像を描いていきたい。とくに本稿では触れることができなかった粗鋼部門、圧延部門の分析については生産技術の変化や、工場間分業や結合工場などに関する論点の検討が不可欠である。研究の積み重ねが東西ドイツ経済の「戦後」を理解する一助になることを願いつつ、他日を期することとしたい。

秋田の冬の気候特性

カ石 國 男

1. はじめに

横手のかまくらで代表されるように、秋田県は全国的に雪国として知られている。実際、2011年には横手の積雪記録が更新されて各種の雪害が発生し、2012年1月末には鷹巣で局地的なゲリラ豪雪が発生して列車の遅れ・運休が相次いだ。一方、能代や秋田、本荘などの沿岸部では降雪量が少ないが、風が非常に強い。また、全県的に冬季の日照時間が短いことも特徴のひとつである。このような地域的な差異には秋田県の山地・平野・盆地などの地理的環境が深く関わっている。本報では気象庁が公開している過去の気象データを利用して秋田の冬の気候特性を概観し、秋田の冬を特徴づける雪や強風、日照時間などの地域的な違いと自然地形との関わりについて考察する。

2. 秋田県の地形と冬の気候の特徴

秋田県は47都道府県のうち6番目に広い面積を有し、全県が裏日本気候区に属している。西は日本海に面し、北は白神山地、東は奥羽山脈、南は丁岳山地・^{ひのただけ}神室山地^{かむろ}によって囲まれ、県の中央部には太平山地・八幡平が東西に横たわっている。端的にいえば、山地がカタカナの“ヨ”の字のように鎮座し、その合間に能代平野・鷹巣盆地・大館盆地・花輪盆地・秋田平野・本荘平野・横手盆地などが分布している。これらの平野・盆地を縫うように、県の北部では米代川が、南部では雄物川が流れている。このような地形は秋田の冬の気候の形成に関わっている。

表1に、秋田県のアメダス観測点のうち降雪・積雪の観測データも得られる12観測点について、1月の代表的な気候値（1981～2010年の平均値）を示した。この表で、1月の積雪増加量は1月の最大積雪深（1月末の積雪深）と12月の最大積雪深（12月末の積雪深）の差、つまり1月中に増加した積雪の深さ（積雪深）を表している。この値と1月中に降ってきた雪の深さ（降雪量）との比は、降ってきた雪が積雪となって地面に残る割合を示している。表1を概観すると、気温と日照時間は地域的な差が少ないが、平均風速、最大積雪深、積雪増加量と降雪量の比には大きな地域差があることがわかる。大雑把にいった能代・秋田・本荘は風が強く雪が少ない沿岸型、阿仁合・角館・横手・矢島は風が弱く雪の多い内陸型、鷹巣・大正寺・五城目・湯沢は風も雪もほどほどの中間型に分類できる。日本海からかなり離れている鹿角は、白神山地によって北西の季節風から守られているため、風が弱く雪も少ない。やや孤立した気候区であるといえる。

このように秋田の冬の気候は沿岸部と内陸部で大きな違いがある。以下ではそれに対する地形の影響について考察する。

表1 秋田県の主なアメダス観測点における1月の代表的な気候値(1981~2010年の平均値)。
1月の積雪増加量は1月の最大積雪深と12月の最大積雪深の差。

	1月の平均 気温()	1月の 日照時間	1月の 降雪量(cm)	2月の最大 積雪深(cm)	1月の積雪 増加量(cm)	積雪増加量と 降雪量の比(%)	1月の平均 風速(m/s)
能代	-0.1	37.0	140	37	13	9.3	5.1
鷹巣	-1.7	51.1	185	73	29	15.7	2.1
鹿角	-3.0	57.6	166	64	22	13.3	1.9
阿仁合	-2.2	32.8	285	115	44	15.4	2.1
五城目	-0.9	40.8	173	48	22	12.7	1.8
秋田	0.1	39.9	138	32	14	10.1	5.1
大正寺	-1.1	33.0	221	97	29	13.1	2.4
角館	-1.8	52.1	237	69	43	18.1	0.9
本荘	0.7	34.2	135	35	14	10.4	3.3
横手	-1.6	39.5	286	106	48	16.8	1.7
矢島	-0.3	36.5	236	98	42	17.8	1.9
湯沢	-1.7	42.7	272	86	31	11.4	2.3

3. 沿岸部の強風

一般的に冬の日本海沿岸は風が強いが、その強さは場所によって違っている。表1で秋田県内の1月の平均風速を比較すると、能代と秋田で5 m/sを超えるが、本荘は3.3m/sでやや弱い。表に示さなかった八森(3.6m/s)、大潟(3.8m/s)、男鹿(2.2m/s)、象潟(3.9m/s)でも能代・秋田より風が弱い。一般に摩擦抵抗が少ない海上では風が強いが、陸上では森林や建造物などの抵抗で風は急激に減速する。それに加えて、冬は海上の空気が陸上の空気より暖かく軽いので、海上からの強い風は陸上の冷たい気団の上を吹いてゆく傾向がある。内陸部の大館(1.3m/s)、角館(0.9m/s)、岩見三内(1.4m/s)、東由利(1.4m/s)の風速が1.5m/s以下であるのはこのような理由による。

一方、森林や建造物の少ない平野では、海上から季節風が吹いてきても摩擦が小さいので風速は減速しにくい。実際、能代や秋田の風下には広大な能代平野・秋田平野が広がっており、強い風がそのまま内陸に向かって吹き渡っていると考えられる。逆に、山地に隣接する八森・大潟・男鹿・本荘・象潟では、強い摩擦を受けて風は減速している。

このような視点から他県の日本海沿岸の風速を調べてみると、酒田(5.8m/s)、江差(北海道檜山支庁、7.1m/s)、瀬棚(北海道檜山支庁、5.3m/s)などの強風地帯ではいずれも風下に平野が広がっている。山地に隣接している深浦(4.0m/s)、輪島(4.2m/s)ではいずれも平均風速が5 m/s以下である。平野のない地域ではさらに風速の弱い沿岸地域も少なくない。

以上から、風下に平野が広がっているか否かが日本海沿岸の風の強さを決める要因であると結論することができる。

4. 秋田の雪

2月の最大積雪深(表1)を見ると、秋田の冬は沿岸部の少雪と内陸部の多雪のコントラストが象徴

的である。秋田県で最も雪の深い阿仁合と横手の1年間の降雪の深さ（年降雪量）の気候値（1981～2010年の平均値）は、阿仁合で869cm、横手で798cmに達する。これらの値は平野部の気象官署の中で最も年降雪量の多い新庄（817cm）、岩見沢（753cm）、青森（669cm）より大きな数値である。秋田県が日本有数の雪国であることがこの事実からも裏付けられる。

大雪が降るメカニズムは秋田県北部の阿仁合と南部の横手で違いがある。図1は横手で3時間当たり降水量が3mm以上（降雪量雪に換算すると3～5cm以上）あった時の周辺地点の風速分布と降水量分布を示している（力石・登城、2004）。これによれば、横手の局地的な大雪は山岳によって囲まれた領域に季節風が吹き込んで上昇気流・雪雲が発達することにより発生している。言い換えれば、前述の“ヨ”の字の下側（南側）半分の袋小路に北西の季節風が吹いてくるとき、気流が上昇し雪雲が発達して大雪が降るのである。

阿仁合の大雪発生メカニズムについては、秋田県北部にある“ヨ”の字の北側半分の袋小路に北西の季節風が吹けば、そこで上昇気流・雪雲が発達して大雪が降ることが考えられる。しかし、実際には県境にある白神山地が北西の季節風を遮るため、鷹巣盆地・大館盆地・花輪盆地にはあまり北西風が吹かない。また吹いた場合でも山越えの気流になるため、雪雲があまり発達しない。北西風が進入しやすい横手盆地と大きく異なる点である。

2011年12月～2012年1月に阿仁合で大雪が降った事例を調べてみると、ほとんどの場合、秋田県の北西部は西～西北西の風である。このことは、西寄りの風が太平山・森吉山・八幡平に向かって吹いて、気流が山岳上昇するときに阿仁合周辺に大雪を降らせていることを意味している。このとき阿仁合では風向の定まらない弱い風が吹いている。これは、阿仁合が上昇気流の真下に入ったときに起こる現象であると考えられる。

表1において、1月中に降ってきた雪の深さ（降雪量）と1月中に増加した積雪の深さ（積雪増加量）が一致していない。その大きな理由は、新雪は柔らかいので降り積もっても自重によって沈降する（し

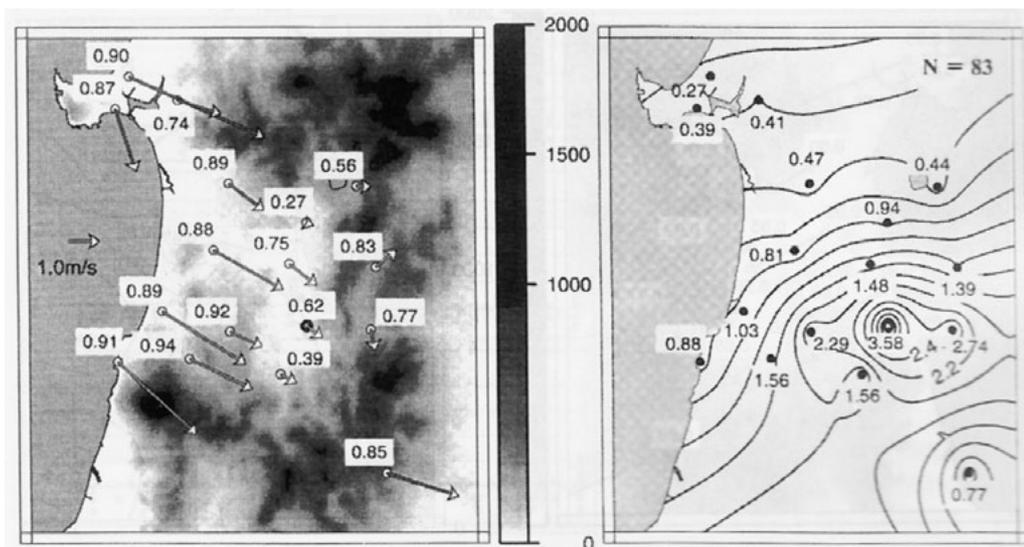


図1 横手の3時間当たり降水量が3mm以上の場合（83事例）の平均風系分布（左図）と平均降水量分布（右図）。北西よりの風が秋田平野・横手盆地から神室山地・奥羽山脈方面に向かうときに横手に局地的な大雪を降らせることがわかる。左図の矢印は風速ベクトルを表し、数値は風向の安定度（＝風速のベクトル平均の絶対値／風速のスカラー平均値）で定義される。力石・登城（2004）による。

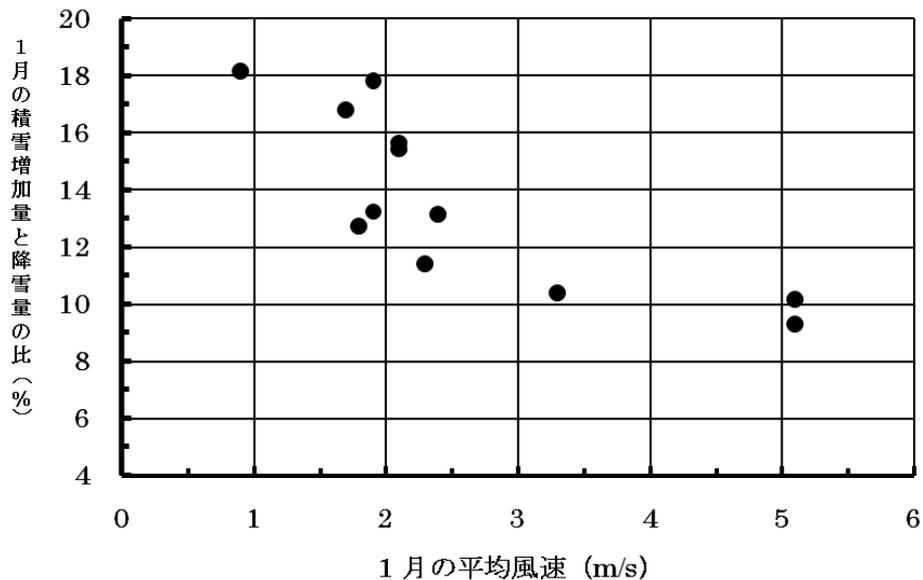


図2 1月の積雪増加量と降雪量の比と平均風速の関係。データは1981～2010年の平均値。
風が強い地域ほど雪が積もりにくいことがわかる (相関係数 = 0.86)。

まる) からである。いま密度 0.1 g/cm^3 の雪が 100 cm 降り積もり、1ヶ月間に自重(圧密)によって雪の密度が 0.4 g/cm^3 にまで増加したとすると、積雪の深さは 25 cm (= 25%) に沈降する。しかし表1によると積雪増加量は降雪量の10～20%であるので、自重による圧密沈降だけでは積雪深の減少を説明できない。また新雪の圧密沈降は雪の深い(降雪量の多い)内陸部ほど大きいことが予想されるが、表1では逆に沿岸部で大きくなっている。ほかに融雪による積雪深の減少も考えられるが、1月の平均気温がほとんどの地域で 0 以下であり、また日照時間も1日に1時間程度であるので、融雪による積雪減少は量的にあまり多くないであろう。

表1で積雪増加量と降雪量の比が風の強い沿岸部で小さいことが注目される。このことは風が積雪深を減少させていることを示唆している。それは、強い風は固体の雪片を気体の水蒸気に昇華させて積雪深を減少させたり、積もった雪を風下に吹き飛ばして積雪の深さの分布を変えたりするからである。雪片の昇華量は風の強い沿岸域で大きいことが予想される。一方、風が雪片を輸送する場合、日本海沿岸部では風上(海上)から運ばれてくる雪片がないので積雪深が減少し、内陸部では風が次第に弱まるので雪が吹きだまって積雪深が増加することが予想される。実際、表1では1月の降雪量と1月の積雪増加量の比が沿岸部の10%程度から内陸部の15～20%まで増加している。積雪増加量と降雪量の比と、平均風速との関係を見ると(図2)、風の強い観測点ほど降った雪が積もりにくいことが明らかである。その原因は、強風域では吹雪によって雪片が風下に輸送され、昇華による消雪効果も大きいためであると考えられる。

5. 短い日照時間

秋田の冬の気候の特徴として日照時間が短いことがあげられるが、これは日本海側の地方に共通してみられる。比較のために表2に日本海沿岸と太平洋沿岸の代表的な観測点での1月の合計日照時間(1981～2010年の平均値)を示した。日本海側では1月の合計日照時間はおよそ30～60時間(1日あたりに換

算すると1～2時間)であるのに対し、太平洋側では合計日照時間が150～180時間(1日換算で5～6時間)に達している。太平洋沿岸で日照時間が長いのは気流が奥羽山脈を越えるとき雲が晴れるためであるが、日本海沿岸で日照時間が短いのはなぜだろうか。

日照不足をもたらす冬の雲は、大きく分けて、全天が灰色に覆われる下層雲と、海上から季節風とともに進入する層積雲(雲の濃い領域、薄い領域、雲の切れ目の領域などが混在している)と、東進する低気圧が運んでくる乱層雲に分類することができる。このうち季節風や低気圧に伴う雲の広さや厚さには空間的なバラツキがあり、また季節風や低気圧の発生頻度も年々変動する。これに対し全天を覆う下層雲は空間的なバラツキが少ない。日本海沿岸の1月の合計日照時間を比較すると、北海道～東北地方で30～40時間、新潟・北陸地方で40～50時間、山陰地方で60時間前後である。また日照時間の年々の変動幅(標準偏差)は15～20時間程度であり、あまり大きな値ではない。

日本海上に見られる雲は海面から蒸発した水蒸気が寒気で冷やされて発生したものである。海面からの水蒸気の蒸発量は風が強いほど、また水温と気温の差が大きいほど大きいので、雲量や日照時間は風速および海面水温と気温の差に関係していることが予想される。しかし秋田の1940年以降の1月の平均風速と日照時間の関係を調べると、両者には相関が認められなかった。強い季節風は層積雲を伴っていることが多いが、短い日照時間をもたらす原因ではないことがわかる。

これに対し、海面水温と気温の差と日照時間の間には一定の関係がある。図3は秋田の月合計日照時間(印)と月平均の海面水温-気温(印)の季節変化(1995-2009年の平均値)を比較したものである。両者には強い負の相関(相関

表2 代表的な観測点における1月の合計日照時間(1981～2010年の平均値)。太平洋沿岸の方が日本海沿岸より日照時間が圧倒的に長い。

日本海沿岸		太平洋沿岸	
江差	32.4	根室	152.8
深浦	26.9	八戸	130.8
秋田	39.9	宮古	161.0
酒田	39.4	石巻	165.5
新潟	57.1	小名浜	189.8
輪島	43.3	銚子	173.5

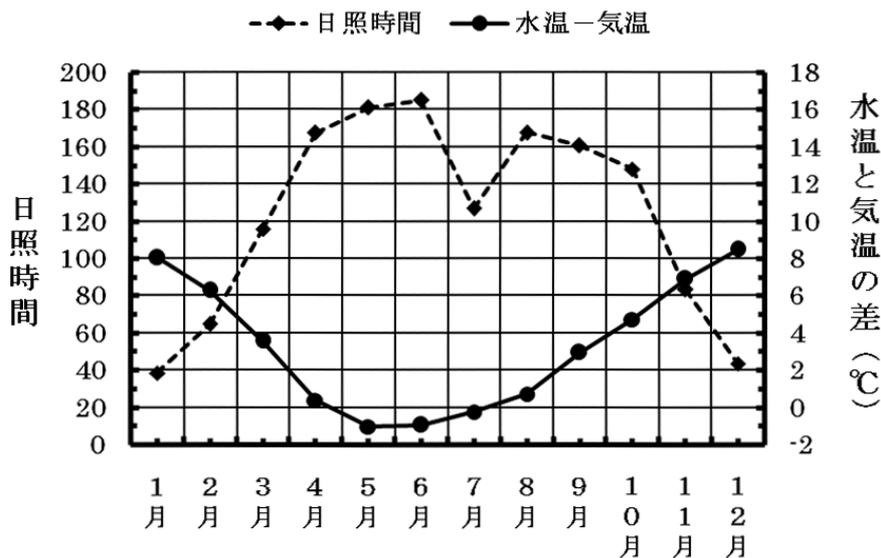


図3 1月の月合計日照時間と月平均の海面水温-気温の季節変化(1995～2009年の平均値)。海面水温は秋田港での観測値、気温と日照時間は秋田气象台での観測値。両者には強い負の相関(相関係数=0.86)があり、温度差が最大になる12月、1月に日照時間が最小になる。7月に日照時間が短いのは梅雨時の曇天を反映している。

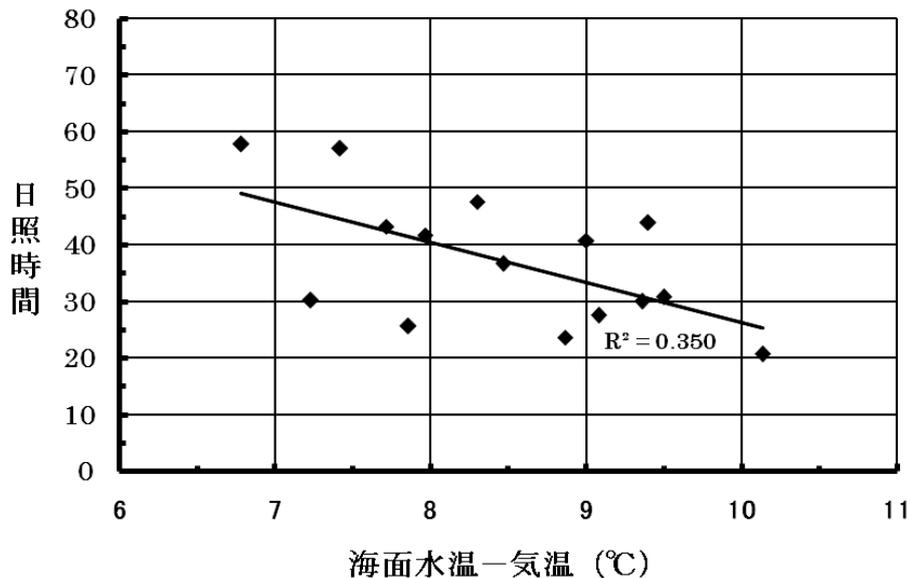


図4 海面気温と気温の差と日照時間の関係。観測データは1995～2009年の1月の月平均値で、海面水温は秋田港での観測値、気温と日照時間は秋田気象台での観測値。水温と気温の差が大きいほど日照時間が短いことがわかる (相関係数 = 0.59)。

係数 = 0.86) があり、水温と気温の差が最大になる1月に日照時間が最小になっている。また図4に、1995～2009年の1月の月平均データを用いて、海面気温と気温の差と日照時間の関係を示した。ここでも海面水温が気温より高い年ほど日照時間が短くなっていることがわかる (データ数は15と少ないが、相関係数は0.59で、両者の負の相関は95%の信頼度で有意である)。

これらの事実から、冬季の日本海側の日照不足は、海面水温が気温より高いことが主な原因であると結論することができる。

5. 結 び

以上、秋田の四季のなかで最も特色のある冬についてその気候特性と自然地形との関わりについて考察してきた。雪国の冬の自然環境は厳しい面があることは否めないが、毎年繰り返される雪景色は地球が丸いこと、地球の自転軸が傾いていることを実感させてくれる。厳しい冬があるからこそ、鮮やかな春も、眩しい夏も、美しい秋も引き立つのである。地球上にはほとんど冬だけの国、夏だけの国もあるが、幸い私たちは世界で最も多彩な四季の移ろいを楽しんでいる。また、秋田県は台風災害、豪雨災害、冷害、地震災害、津波災害などの自然災害も他の都道府県に比べると被害の規模が小さい。2011年3月に同時発生した東日本地震、巨大津波、原子力発電所の事故は、太平洋沿岸域のみを開発・発展させることが国家のセキュリティの面で危険であることを私たちに教えてくれた。国家の安心・安全のためには、秋田県のはじめ日本海沿岸域を開発して、その豊かな自然と共存する施策を推進することがわが国の喫緊の課題であると思われる。

引用文献

力石國男・登城ゆかり (2004) 秋田県横手盆地における降雪特性。日本雪氷学会誌「雪氷」66 : 567-580。

教養・文化研究所所員名簿

教養部

橋 元 志 保 (所 長)
花 田 富二夫 (副 所 長)
伊 藤 護 朗 (運営委員)
鎌 田 幸 男 (運営委員)
遠 藤 純 男
光 田 基 郎
力 石 國 男
熊 谷 朋 子
近 藤 和 裕 (運営委員)
佐 藤 伸 夫
村 中 孝 司 (編集委員)
木 村 博 子 (編集委員)

経済学部

白 川 欽 哉 (運営委員)
瀧 森 威

法学部

阿曾村 邦 昭
奥 正 孝
向谷地 博 信
佐 藤 寛 稔 (編集委員)
井 上 伸 良 (編集委員)
中 里 真

2012年 (平成24年) 3月30日現在

執筆 者 紹 介

講 演

岡 田 裕 介	ノースアジア大学 総合研究センター客員教授
橋 本 五 郎	ノースアジア大学 客員教授
内 館 牧 子	ノースアジア大学 総合研究センター客員教授
福 岡 政 行	ノースアジア大学 総合研究センター客員教授

論 文

花 田 富二夫	ノースアジア大学 教養部教授
伊 藤 護 朗	ノースアジア大学 教養部教授
橋 元 志 保	ノースアジア大学 教養部准教授
村 中 孝 司	ノースアジア大学 教養部講師
中 里 真	ノースアジア大学 法学部講師
高 橋 和 幸	秋田看護福祉大学 看護福祉学科准教授

研究ノート

白 川 欽 哉	ノースアジア大学 経済学部教授
力 石 國 男	ノースアジア大学 教養部教授

(掲載順)

教養・文化論集 第7巻 第1号 (通巻第12号)

2012年 (平成24年) 3月30日印刷・発行

編集・発行 ノースアジア大学総合研究センター 教養・文化研究所
編集協力 進藤新義 大島 剛 佐々木大樹
秋田市下北手桜守沢46-1
電 話 018-836-6592
FAX 018-836-6530
URL <http://www.nau.ac.jp/center/>

印 刷 秋田活版印刷株式会社
秋田市寺内字三千刈110-1
電 話 018-888-3500(代)

THE BULLETIN OF CULTURAL SCIENCES

Vol.7, No.1 (12) March, 2012

CONTENTS

Lectures	
The Future of 3-D Graphics	OKADA Yuusuke
Film and Revitalization of Local Communities	OKADA Yuusuke
The Great East Japan Earthquake and the Role of the Government	HASHIMOTO Goro
Now is the Time for Sumo History	UCHIDATE Makiko
How to Write an Essay My Invitation to the North Asia University Literary Award.	UCHIDATE Makiko
Let's Enjoy the Tale of Genji., I.	UCHIDATE Makiko
Japan in Crisis	FUKUOKA Masayuki
Where Do They Go from Here? The Japanese Politics and the Reconstruction of the Tohoku Region	FUKUOKA Masayuki
Perspective and Prospects of the Noda Administration at the Time of a Sky-High Yen and Hollowing-Out of Japan's Economy.	FUKUOKA Masayuki
Articles	
Reading and Studying "KANZENSYO" lead us to research of The thought of mixed Jyukyo, Buda, Sinto at the Edo early Period(2)	HANADA Fujio
A Study on Image Training for Sports Game	ITO Goro
A Reading of Soseki Natsume's "Garasudo no naka" From the Viewpoint of Life and Death	HASHIMOTO Shiho
The Significance of Floristic Conservation of Paddy Field by Land Reclamation of a Lake: Case of Itako City, Ibaraki Pref.	MURANAKA Takashi
Die Rechtserziehung ist von der Unterricht in der juristische Fakultat beeinflusst	NAKAZATO Makoto
Investigation concerning the Construction of Cooperative, Interdependent Communities through Volunteer Activities of Snow Removal (Part3) an analysis of those comments of both the voluntary workers for removing the snow and the receivers of the benefits from it which are reported in major local newspapers	TAKAHASHI Kazuyuki
Notes	
Iron and Steel Industry in the Former GDR and FRG after the World War (2)	SHIRAKAWA Kinya
Characteristic features of the winter climate of Akita Prefecture	RIKIISHI Kunio

The Institute of Cultural Sciences
North Asia University, Akita, Japan